

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama



アドミニストレーション ガイド

RoomOS を実行している Cisco Webex Devices 用10.3

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021


CISCO

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco 製品をお選びいただきありがとうございます。

お使いの Cisco 製品は、長年にわたり安全かつ信頼できる操作を行えるよう設計されています。

製品ドキュメンテーションのこの部分は、ビデオ会議デバイスのセットアップと設定を担当する管理者を対象としています。

このアドミニストレータ ガイドの主な目的は、ユーザの目標とニーズに対応することです。本書についてのご意見や感想があれば、ぜひお伝えください。

定期的に Cisco のウェブ サイトにアクセスし、このガイドの最新版を入手することを推奨します。

ユーザ ドキュメンテーションは次の URL から入手できます。

- ▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>

本ガイドの使用法

本書上部のメニュー バーと目次の各項目には、すべてハイパーリンクが設定されています。クリックすると、そのトピックに移動します。

目次

はじめに	5
ユーザマニュアルおよびソフトウェア	6
最新情報	7
製品機能の概要	9
Room シリーズの概要	10
Desk シリーズの概要	13
Webex Board の概要	14
ビデオ会議デバイスの管理方法	15
タッチコントローラ	20
設定	21
ユーザー管理	22
デバイスパスフレーズの変更	23
[設定 (Settings)] メニューへのアクセスの制限	24
デバイス設定	25
サインインバナーの追加	26
ウェルカムバナーの追加	27
デバイスのサービス証明書の管理	28
信頼できる認証局 (CA) のリストの管理	29
セキュア監査ロギングのセットアップ	33
CUCM 信頼リストの削除	34
永続モードの変更	35
SMTP 電子メールサーバのセットアップ	36
アドホックマルチポイント会議のセットアップ	37
コンテンツ共有用のインテリジェント プロキシミティのセットアップ	39
ビデオ品質対コールレート比の調整	43
マルチ画面の背景画像の選択	46
画面およびタッチコントローラへの企業ブランディングの追加	47
仮想背景の追加	50
カスタム壁紙の追加	51
着信音の選択と着信音量の設定	52
お気に入りリストの管理	53
アクセシビリティ機能のセットアップ	54
CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング	55
周辺機器	57
画面またはその他の出力デバイスの接続	58
入力ソースの接続	64
入力ソース数の拡大	71
ディスプレイについて	72
4K 解像度について	73
HDMI ケーブルについて	74

Board

スピーカートラック機能のセットアップ	75
ホワイトボードへのスナップ機能の設定	78
プレゼンタートラック機能のセットアップ	81
会議室のセットアップ	85
教室のセットアップ	92
スピーカー接続のテスト	100
補助スピーカーと音響補正の使用	103
Bluetooth® ヘッドセット	104
タッチコントローラの接続	105

Room Kit

メンテナンス	113
新しいソフトウェアのインストール	114
オプションキーの追加	116
デバイスのステータス	117
診断の実行	118
システムログファイルのダウンロード	119
テクニカルサポート画面へのアクセス	121
リモートサポートユーザーの作成	122
設定とカスタム要素のバックアップ/復元	123
カスタム要素の CUCM プロビジョニング	124
カスタム要素の TMS プロビジョニング	125
以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元	126
ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット	127
Cisco Webex Room Navigator の初期設定へのリセット	132
Touch 10 の初期設定へのリセット	133
ユーザインターフェイスのスクリーンショットのキャプチャ	134

デバイスの設定	135
デバイス設定の概要	136
オーディオ設定	143
Bluetooth 設定	157
予約設定	158
BYOD 設定	158
通話履歴設定	159
カメラ設定	159
会議設定	169
ファシリティサービス設定	175
GPIO 設定	176
H323 設定	176
HttpClient 設定	179
HTTP フィードバック設定	180

ロギングの設定	181
マクロ設定	183
ネットワーク設定	184
ネットワークサービス設定	194
周辺機器の設定	203
電話帳の設定	205
プロビジョニング設定	206
プロキシミティの設定	209
ルーム分析設定	211
ルームクリーンアップの設定	212
ルームリセットの設定	213
ルームスケジューラの設定	213
RTP 設定	214
セキュリティ設定	215
シリアルポート設定	218
SIP 設定	219
スタンバイ設定	223
システムユニット設定	226
時刻設定	227
ユーザインタラクション設定	229
ユーザインターフェイス設定	229
ユーザー管理設定	238
ビデオ設定	242
音声制御の設定	258
Web エンジン設定	258
Webex の設定	260
WebRTC の設定	261
試験的設定	262

物理インターフェイス	263
電源オン/オフ	264
コネクタパネル: Codec Plus	272
コネクタパネル: Codec Pro および Room Panorama	273
コネクタパネル: Room Kit	274
コネクタパネル: Room Kit Mini	275
コネクタパネル: Room 55	276
コネクタパネル: Room 55 Dual および Room 70	277
コネクタパネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama	278
コネクタパネル: Desk Pro および Desk Limited Edition	279
コネクタパネル: Board	280
コネクタパネル: Room Panorama アンブ	281

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021

Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商号は、それぞれの所有者のものであります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021



付録	282
Webex Board の使用方法	283
Desk Pro および Desk Limited Edition の使用方法	284
タッチコントローラの使用法	285
USB カメラとしてのデバイスの使用	286
パノラマ表示ビデオ	288
リモートモニタリングのセットアップ	289
Web インターフェイスを使用したコール情報へのアクセスとコール応答	290
Web インターフェイスを使用したコールの発信	291
Web インターフェイスを使用したコンテンツの共有	293
ローカルレイアウトの制御	294
ローカルカメラの制御	295
相手先カメラの制御	296
ルーム分析	297
ビデオ会議デバイスのユーザインターフェイスのカスタマイズ	298
マクロを使用したビデオ会議デバイスの動作のカスタマイズ	300
ユーザインターフェイスからのデフォルトボタンの削除	301
サードパーティ USB 入力デバイスの使用	302
HTTP(S) 要求の送信	303
デジタルサイネージ	304
Web アプリ	305
API 駆動型の Web ビュー	306
入力ソースの構成	307
プレゼンテーションソースの構成	309
デバイスの XML ファイルへのアクセス	311
Web インターフェイスからの API コマンドとコンフィギュレーションの実行	312
オーディオの高度なカスタマイズ	313
イーサネットポートについて	314
ミニ端子コネクタのピン配列方法	315
オーディオ入力と出力	316
GPIO および 3G-SDI コネクタ	318
COM ポートを使用した API アクセス	319
メンテナンス用のシリアルインターフェイス	320
TCP ポートの開放	324
TMS からの HTTPFeedback アドレス	325
オンプレミス登録デバイスの Cisco Webex Edge for Devices へのリンク	326
Cisco Webex Cloud サービスへのデバイスの登録	327
サポートされている RFC	328
最小帯域幅の計算	329
Cisco Web サイト内のユーザーマニュアル	330
Cisco 連絡先	331

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 1 章

はじめに

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザマニュアルおよびソフトウェア

このガイドの対象となる製品

このガイドでは、次のデバイスモデルについて説明します。

- Cisco Webex Board 55/55S、70/70S、および 85S
- Cisco Webex Codec Plus
- Cisco Webex Codec Pro
- Cisco Webex Desk Pro
- Cisco Webex Desk Limited Edition (Desk LE)
- Cisco Webex Room Kit
- Cisco Webex Room Kit Mini
- Cisco Webex Room 55
- Cisco Webex Room 55 Dual
- Cisco Webex Room 70 Single/Dual
- Cisco Webex Room 70 Single/Dual G2
- Cisco Webex Room 70 Panorama
- Cisco Webex Room Panorama

RoomOS 10 は Cisco TelePresence SX、DX、または MX シリーズデバイスをサポートしていないことに注意してください。

ユーザマニュアル

このガイドでは、ビデオ会議デバイスの管理に必要な情報を提供します。

主にオンプレミス登録のデバイス (CUCM、VCS) の機能と設定について説明していますが、多くの機能と設定は、クラウドサービス (Cisco Webex) に登録されたデバイスにも適用されます。

この製品のガイドの詳細については、▶ [Cisco Web サイト内のユーザマニュアル 330](#) の付録を参照してください。

シスコ Web サイト内のドキュメンテーション

次のシスコ Web サイトに定期的にアクセスして、ガイドの最新バージョンを確認してください。

- ▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>

クラウドに登録されたデバイスのドキュメンテーション

Cisco Webex Cloud サービスに登録されたデバイスの詳細については、以下のサイトを参照してください。

- ▶ <https://help.webex.com>

Cisco Project Workplace

オフィスやミーティング ルームをビデオ会議用に整備する際にインスピレーションを得たり、ガイドラインを確認したりするには、次の Cisco Project Workplace をご覧ください。

- ▶ <https://www.cisco.com/go/projectworkplace>

ソフトウェア

Cisco Webex RoomOS 10 は Collaboration Endpoint Software 9 (CE9) に基づいており、同ソフトウェアの継続です。つまり、RoomOS 10 の最初のリリースでは、2021 年 4 月時点の CE9.15.3 と同じ機能を継承します。ただし、いくつかの例外があります。

次のシスコ Web サイトからエンドポイント用のソフトウェアをダウンロードしてください。

- ▶ <https://software.cisco.com/download/home>

ソフトウェアリリースノート (RoomOS 10) を参照することを勧めます。これは、すべての製品を対象とした同一セットのリリースノートです。

- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/tsd-products-support-series-home.html>
- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/tsd-products-support-series-home.html>
- ▶ https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-board/tsd-products-support-series-home.html

RoomOS 10 ソフトウェアへの変換

CE ソフトウェア から RoomOS 10 ソフトウェアにアップグレードする前に、アップグレード要件を注意深く確認してください。この確認を行わないと、RoomOS 10 ソフトウェアにアップグレードした際に導入環境が機能せず、ダウングレードが必要になる可能性があります。詳細については、ソフトウェアリリースノートを参照してください。

(注) :

- RoomOS 10 では ISDN リンクをサポートしていません

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (2 ページ)

この章では、新しいデバイス設定および変更されたデバイス設定 (構成) の概要と、新機能と改善点をソフトウェアバージョン CE9.15.3 と比較して示します。

詳細については、ソフトウェアリリースノート (RoomOS 10) を読むことをお勧めします。

- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/tsd-products-support-series-home.html>
- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/tsd-products-support-series-home.html> [英語]
- ▶ https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-board/tsd-products-support-series-home.html

RoomOS 10.3 の新機能および改善点

新製品

- ・ Cisco Webex Desk Limited Edition

管理者ガイドの再構成 (すべての製品)

Cisco Webex デバイス管理者ガイドが、このリリースで新しい構造と外観で再編されました。デバイスまたはシリーズごとの個別のガイドではなく、RoomOS 10.3 を実行しているすべての Cisco Webex デバイス用の 1 つの統合されたアドミニストレーションガイドが用意されています。さらに、一部の情報は新しい「物理インターフェイス」の章に移動されました。

任意のページのコンテンツが適用されるデバイスを簡単に確認できます。ページの左側にある製品ラベルの列を確認してください。グレー表示されているラベルは、ページがそのデバイスに該当しないことを意味します。セクション内の一般コンテンツに例外が存在する場合は、セクションヘッダーに示されます。

ホワイトボードでのシェイプのサポート

(Desk Pro, Desk Limited Edition, Board)

ホワイトボード機能を持つデバイスで、描画を開始する前に [図形 (Shapes)] ボタンをタップすると、図形モードが有効になります。次に、ホワイトボードは正方形、円、三角形、四角形などの基本的な形状を認識し、描画時に輪郭を調整できます。

コール中の Web アプリの共有

(Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room USB, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Desk Pro, Desk Limited Edition, Board)

Web エンジンをサポートするデバイスで、コール中に Web ビューを共有できるようになりました。プレゼンターは、対話をサポートするデバイスで、コール中に共有 Web ビューを操作することができます。共有する前にコール中に Web ビューをプレビューすることはできません。

会議中の挙手

(Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Desk Pro, Desk Limited Edition, Board)

3 人以上での会議中に、デバイス画面の新しい [挙手 (Raise Hand)] ボタンをタップして、会議主催者と共同主催者に、自分が実際に手を挙げたことを通知できます。同じボタンをタップすると通知が削除されます。この機能には、CMS 3.2 以降が必要です。

会議室内での予約 (すべての製品)

ルームデバイスが Webex Edge for Devices でクラウドにリンクされ、カレンダーサービスを使用している場合は、会議室内での予約機能を使用して現在の会議を延長したり、自発的な会議のために部屋を予約したりすることができるようになりました。タッチコントローラ、Touch 10 または Room Navigator を使用して、利用可能な部屋を予約できます。Webex Assistant が有効になっている場合、ボイスコマンドを使用して部屋を予約できます。

イマーシブシェア (Desk Pro, Desk Limited Edition)

イマーシブシェアを使用すると、コンピュータ上の任意のコンテンツの上に自分自身を配置することによって、魅力的なプレゼンテーションを行うことができます。プレゼンテーションとビデオはコンテンツストリームで送信されます。そのため、共有を停止するまで集中力を保つことができます。

タッチインターフェイスからの PII ロギングの有効化 (すべての製品)

タッチインターフェイスから直接個人を特定できる情報 (PII) のロギングを有効にできるようになりました。「PII ロギングモード」は、[問題と診断 (Issues and Diagnostics)] の下の [設定 (Settings)] メニューで有効にします。

Web インターフェイス上のルーム分析

ダッシュボード (すべての製品)

Cisco Webex Device 上のルーム分析機能を有効にすると、デバイスの Web インターフェイスのホームページにルーム分析ダッシュボードが表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新機能 (2/2 ページ)

RoomOS 10.3 での設定の変更点

新しい構成

ネットワークサービス Wifi クラウド A_MPDU (すべての製品)

ネットワークサービス Wifi A_MPDU に名前変更

ルーム分析 残響時間 間隔 (すべての製品)

ルーム分析 残響時間 モード (すべての製品)

ユーザインターフェイス 名前およびサイトラベル モード (すべての製品)

ビデオ出力 Web カメラ USB モード (Room Kit Mini)

変更されたコンフィギュレーション

オーディオ キークリック検出 有効 (Desk Pro)

旧: デフォルト: True

新: デフォルト: False

オーディオ 出力 ライン [1] チャンネル (Room 70 G2, Room 70 Panorama)

旧: デフォルト: Left

新: デフォルト: Mono

オーディオ 出力 ライン [2] チャンネル (Room 70 G2, Room 70 Panorama)

旧: デフォルト: Right

新: デフォルト: Mono

カメラ 背景 有効 (Desk Pro)

旧: デフォルト: False

新: デフォルト: True

プロキシミティ サービス コンテンツ共有 クライアントへ (すべての製品)

旧: Disabled/Enabled

新: Disabled

ルームリセット 制御 (すべての製品)

旧: CameraPositionsOnly/Off/On

新: Off/On

ビデオ 出力 コネクタ [1..3] CEC モード (Room Panorama)

旧: Off/On

新: On

削除された設定

ネットワークサービス Wifi A_MPDU (すべての製品)

ネットワークサービス Wifi クラウド A_MPDU から名前変更

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

製品機能の概要

卓越したビデオおよび音声エクスペリエンスと洗練されたデザインを融合して、Cisco Webex Room、Desk、および Board ポートフォリオのすべてのデバイスは強力なコラボレーションソリューションを実現します。ハドルルームから役員室まですべての部屋に対応でき、個人用デスクトップにも対応できる Webex デバイスが用意されており、豊富な機能を備え、容易に拡張できます。

Cisco Webex デバイSPORTフォリオ全体で期待できる機能の一部は次のとおりです。

- スマートな会議：カメラのベストオーバービュー、自動フレーミングおよびスピーカートラッキング、ノイズリダクション、OBTP による簡単な会議への参加、Wi-Fi サポート、タッチコントローラまたは Webex アプリによる簡単な制御。
- スマートなプレゼンテーション：シングル、デュアル、またはトリプル画面、有線またはワイヤレス 4K コンテンツ共有、デュアルコンテンツソースのサポート。
- スマートな会議室：自動ウェイクアップ、人数カウント、環境および周辺機器の制御。
- 柔軟な登録：クラウド導入とオンプレミス導入の両方に対応して構築。また、*Webex Edge for Devices* を使用して、オンプレミスの登録済みデバイスを Webex クラウドサービスにリンクし、クラウド機能にアクセスして選択できます。

以下のページには、デバイスごとに異なる機能に関する情報を含む、各製品の詳細が記載されています。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Room シリーズの概要 (1/3 ページ)

Room Kit, Room kit mini

Cisco Webex Room Kit では、カメラ、コーデック、スピーカー、およびマイクが単一のデバイスに統合されています。簡単に設置でき、HDMI CEC によってフラットパネル画面との優れた統合が実現されます。Room Kit は、最大 7 席の会議室用に設計されています。

わずかに規模が小さい Cisco Webex Room Kit Mini は同じ機器を備え、120 度の視野のため、2 ~ 5 人までのハドルルームに最適です。コンピュータに接続されている場合、Room Kit Mini を USB カメラとして使用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip とのバンドルでも利用できます。そのため、Room Kit Mini のビデオ会議機能と Samsung Flip のホワイトボード機能およびコンテンツ機能を組み合わせることができます。



標準フラットパネル ディスプレイの上部に
設置された Room Kit

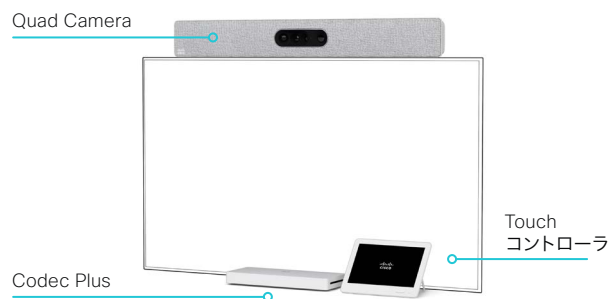
Codec Plus, Codec Pro

Cisco Webex Codec Plus は、HDMI CEC を使用してフラットパネル画面に簡単に統合できる強力なコラボレーションソリューションです。Codec Plus は最大 2 つの画面をサポートし、最大 14 人の大きな奥行きのある会議室に最適です。

Cisco Webex Codec Pro は、ウルトラ HD (UHD) ビデオコラボレーションを提供し、最大 3 つの画面をサポートします。Codec Pro は、役員室や講堂などの非常に広い部屋に最適です。

Cisco は、Cisco Quad Camera/Precision 60 Camera/PTZ-12" カメラ、および Cisco タッチコントローラユーザーインターフェイスをコーデックと組み合わせる Room Kit バンドルで Codec Plus および Codec Pro を提供しています。どちらのコーデックも SpeakerTrack 60 カメラをサポートしています。このカメラは個別に購入できます。

* Codec Plus のみ。



Room 55

Cisco Webex Room 55 には、カメラ、コーデック、画面、スピーカー、およびマイクがすべて 1 台のデバイスに統合されています。単一の 55" 画面をフロアスタンド、車輪付きベース、または壁に取り付けることができます。Room 55 は、小規模から中規模の会議室向けに完全に設計され、作業スペースをビデオコラボレーションハブに変換します。



フロアスタンドに取り付けられた Room 55

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Room シリーズの概要 (2/3 ページ)

Room 70 G2、Room 70、Room 55 Dual

第二世代の Cisco Webex Room 70 G2 は Codec Pro に基づいており、クアッドカメラ、および内蔵スピーカーとマイク*を搭載した 70 インチの LED シングル画面またはデュアル 4K 画面で構成されています。シングル画面設定により人中心のエクスペリエンスが実現しますが、デュアル画面では強力な人中心および人とコンテンツ中心のエクスペリエンスが生まれ出されます。

類似の機能を備えた Cisco Webex Room 70 (第 1 世代) デバイスは Codec Plus に基づいて構築されています。

容易に拡張でき、スピーカートラッキングおよび自動フレーミング機能を提供する Room 70/G2 Single または Dual は、最大 14 人を収容できる大きな会議室に適したオールインワンソリューションです。

小さな画面のみを備えた Room 70 Dual (第 1 世代) と同様、Cisco Webex Room 55 Dual は Codec Plus に基づいて構築されており、クアッドカメラ、および内蔵スピーカーとマイク**を搭載した 2 つの 55 インチの 4K 画面を備えています。Room 55 Dual は、最大 12 人までの中規模から大規模の会議室に最適です。

これらの各製品には、自立型フロアスタンド、壁面固定型フロアスタンド、および壁面取り付けキットの 3 つの取り付けキットのオプションがあります。

* スピーカートラッキング専用の内蔵マイク。



フロアスタンドに取り付けられた Room 70 Dual G2 /
Room 70 Dual



フロアスタンドに取り付けられた Room 70 Single G2 /
Room 70 Single

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Room シリーズの概要 (3/3 ページ)

Room Panorama、Room 70 Panorama

現代の経営幹部向けに作成された Cisco Webex Room Panorama は、大規模の会議室を変革し、世界中のチームを対面式で結び付けます。

Codec Pro および Quad Camera を中核とするオールインワンソリューションである Room Panorama は、2 つの 82 インチの 8K ビデオ画面、コンテンツプレゼンテーション用の 65 インチの 4K 画面を備えています。カメラは、パノラマビデオ、スピーカートラッキング、自動フレーミング機能を提供します。特別に作られた内蔵スピーカーシステムは、16 チャンネルのアンプで駆動される、12 個のメインスピーカーと 4 個の低音スピーカーで構成されています。正確なスピーカートラッキングが可能な内蔵マイクアレイ、および最大 8 個の外部マイクのサポートを備えているため、単語を見逃すことはありません。



Room Panorama



壁面取り付けされた Room 70
Panorama と 65 インチのコンテンツ画面 (上)



フロアスタンドの Room 70
Panorama と 55 インチのコンテンツ画面 (下)

Cisco Webex Room 70 Panorama はハイエンドのコラボレーションシステムで、中規模から大規模の会議室やスペースで容易に拡張できます。Cisco Webex Room 70 Dual G2 に基づいた Room 70 Panorama は、強力なコーデック、クアッドカメラ、2 つの 70 インチの LED 画面、コンテンツプレゼンテーション用の 55 インチまたは 65 インチの 4K 画面を備えています。内蔵されたスピーカーとマイクによって、正確なスピーカートラッキングが可能で、システムは最大 8 個の外部マイクをサポートします。カメラは、パノラマビデオ、スピーカートラッキング、自動フレーミング機能を提供します。取り付けキットのオプションには、自立型フロアスタンド、壁面固定型フロアスタンド、および壁面取り付けキットの 3 つの取り付けキットのオプションがあります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Desk シリーズの概要

Cisco Webex Desk Pro および Cisco Webex Desk Limited Edition は、1 人または 2 人を収容するオフィスまたはフォーカスルームでの個人用のデスクベースのコラボレーション用に設計されています。27 インチの 4K タッチスクリーン、広角ビューを備えた 12 メガピクセルカメラ、高度な音声システムを搭載した Desk シリーズは、Cisco の Room シリーズと同様に強力な優れたビデオエクスペリエンスを提供しますが、デスクトップ向けに設計されています。

USB-C 接続およびタッチリダイレクトを使用すると、Desk シリーズデバイスがオールインワンのプライマリモニタおよびコラボレーションデバイスになります。



Desk Pro: 正面、側面、背面から表示

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex Board の概要

Cisco Webex Boards には、4K カメラ、タッチインターフェイス、および内蔵されたマイクとスピーカーが含まれます。すべて高解像度の 4K タッチスクリーンと統合されています。強力なオーディオおよびビデオ会議デバイスである Webex Board は、ワイヤレスプレゼンテーション画面やデジタルホワイトボードとして使用することもできます。物理的な会議室で簡単にコラボレーションを行い、オンライン会議スペースに安全に接続して、ワークフローを簡単に継続できます。

Webex Board には、次の 3 つの画面サイズがあります。

- **Webex Board 55 および 55S** (55" LED 画面を搭載)。最大 5 人まで使用できるハドルルーム用に設計されています。
- **Webex Board 70 および 70S** (70" LED 画面を搭載)。最大 8 人の会議室用に設計されています。
- **Webex Board 85S** (85" LED 画面を搭載)。講堂、トレーニングスペース、教室など、大規模なコラボレーションスペース向けに設計されています。

第 2 世代の Webex Board は S シリーズと呼ばれ、ハードウェアプラットフォームにマイナーな最適化が施されています。

Webex Board には、フロアスタンド、壁面スタンド、または壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。



フロアスタンドに取り付けられた
Webex Board



壁面スタンドに取り付けられた
Webex Board



壁面に取り付けられた Webex Board

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの管理方法

一般的には、この管理者ガイドで説明するように、デバイスの管理とメンテナンスに Web インターフェイスを使用することを推奨します。

それ以外にも次の方法でデバイスの API にアクセスできます。

- HTTP/HTTPS (Web インターフェイスでも使用)
- WebSocket
- SSH
- シリアル接続

他のアクセス方法や API の使用方法の詳細については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

ヒント

設定またはステータスが API で使用可能な場合、ウェブ インターフェイスの設定またはステータスは次のような API の設定またはステータスに変換されます。

$X > Y > Z$ に **Value** を設定 (Web) することは次と同等です。
xConfiguration X Y Z: 値 (API)

$X > Y > Z$ ステータス (Web) にチェックマークを付けることは以下と同じです。
xStatus X Y Z (API)

次に例を示します。

[システムユニット (SystemUnit)] > [名前 (Name)] を [MySystem] と設定することは、次と同等です。
xConfiguration SystemUnit Name: MySystem

[システムユニット (SystemUnit)] > [ソフトウェア (Software)] > [バージョン (Version)] ステータスにチェックマークを付けることは以下と同じです。
xStatus SystemUnit Software Version

Web インターフェイスでは、API の場合よりも多くの設定とステータスを使用できます。

アクセス方式	注	方式の有効化/無効化方法
HTTP/HTTPS	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスの Web インターフェイスで使用されます。 • 非セキュア (HTTP) 通信またはセキュア (HTTPS) 通信 • HTTPS: デフォルトで [有効 (Enabled)] • HTTP: デバイスを以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 以降にアップグレードし、アップグレード後に初期設定にリセットしていない場合のみ、デフォルトで有効 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>
WebSocket	<ul style="list-style-type: none"> • HTTP に関連付けられるため、WebSocket を使用するには HTTP または HTTPS も有効化する必要があります • 暗号化 (wss) または非暗号化 (ws) の通信 • デフォルトで [無効 (Disabled)] 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)]</p> <p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [WebSocket]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>
SSH	<ul style="list-style-type: none"> • セキュアな TCP/IP 接続 • デフォルトでイネーブルになっている。 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [SSH] > [モード (Mode)]</p> <p>デバイスを再起動する必要はありません。変更が有効になるまでに少し時間がかかる場合があります。</p>
シリアル接続	<ul style="list-style-type: none"> • ケーブルを使用してデバイスに接続します。IP アドレス、DNS、ネットワークは不要。 • デフォルトでイネーブルになっている。 • デバイスは大量のフィードバックを返す可能性があるため、デフォルトのボーレートを使用することを推奨します ([シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)])。 • セキュリティ上の理由から、デフォルトではサインインを求められます ([シリアルポート (SerialPort)] > [ログイン必須 (LoginRequired)]) * 	<p>[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>

* Board の場合: [シリアルポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)] 設定は、Board 55S、70S、および 85S でのみ使用できます。Board 55 および 70 では常にサインインが必要です。



すべてのアクセス方式を無効にする ([オフ (Off)] に設定する) と、デバイスを設定できなくなります。再び有効にする ([オン (On)] に設定する) ことはできないため、復元するにはデバイスを初期設定にリセットする必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの管理方法 (2/5 ページ)

デバイスの Web インターフェイス

Web インターフェイスは、デバイスの管理ポータルです。コンピュータから接続して、デバイスをリモートで管理できます。フル設定アクセスが提供され、メンテナンス用のツールやメカニズムを利用できます。

注: Web インターフェイスを使用するには HTTP または HTTPS が有効になっている必要があります ([\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\] > \[HTTP\] > \[モード \(Mode\)\]](#) 設定を参照)。

Web ブラウザは最新版を使用することを推奨します。*

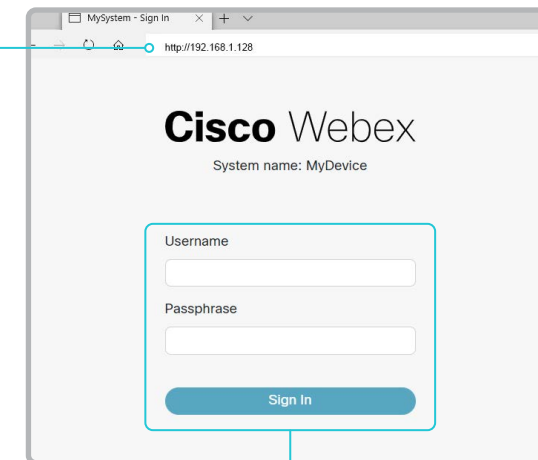
デバイスへの接続

Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスをアドレスバーに入力します。



IP アドレスの確認方法

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [\[このデバイスについて \(About this device\)\]](#) に続き、[\[設定 \(Settings\)\]](#) を選択します。



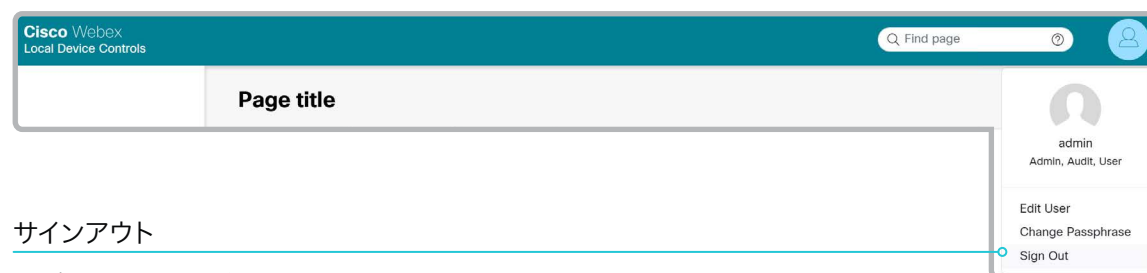
サインイン

デバイスのユーザ名とパスフレーズを入力して、[\[サインイン \(Sign In\)\]](#) をクリックします。



デバイスには、*admin* というデフォルト ユーザがパスフレーズなしで用意されています。初めてサインインするときは、[\[パスフレーズ \(Passphrase\)\]](#) フィールドを空白のままにします。

admin ユーザのパスワードを設定する必要があります。



サインアウト

1. 上部のバーでユーザの記号をクリックして、メニューを開きます。
2. [\[サインアウト \(Sign Out\)\]](#) をクリックします。

* Internet Explorer はサポートされていません。

ビデオ会議デバイスの管理方法 (3/5 ページ)

Web インターフェイスの構成

左側のメニューからページまたはトピックを選択します。検索するページを検索するための検索フィールドが上部のバーにあります。

存在するページは、次の条件に依存します。

- デバイスの種類とサービスの登録 (Webex, Cisco UCM, VCS, Webex Edge for Devices)
- 接続された周辺機器と設定
- サインインしているユーザのロールとアクセス権

つまり、下の図に示すメニュー項目の一部がデバイスに存在しない可能性があります。

ユーザ管理、ユーザロール、およびアクセス権の詳細については、▶ [「ユーザ管理」](#)の章を参照してください。

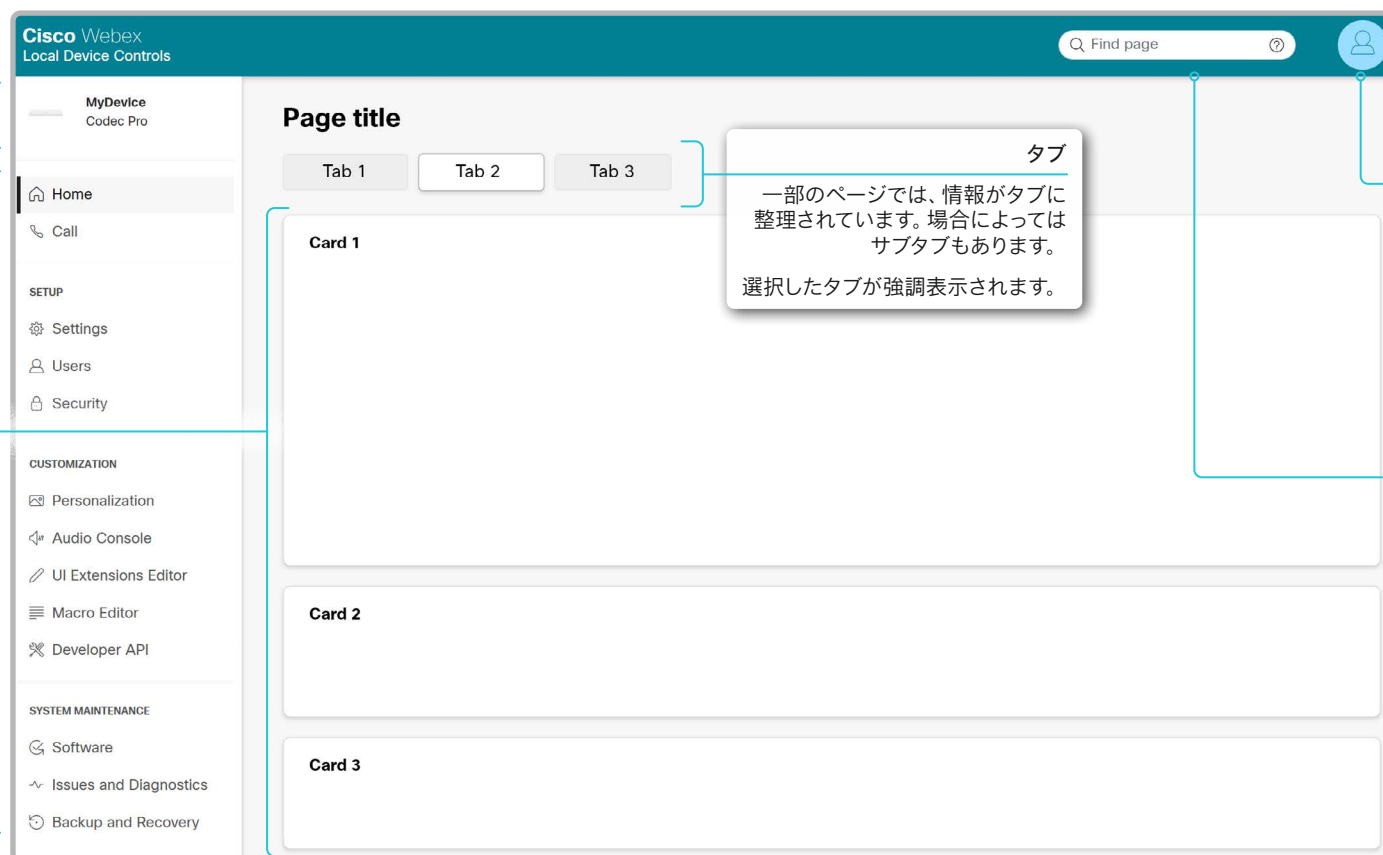
デバイスの名前とタイプ

メイン メニュー

項目をクリックすると、ページが開きます。

カード

ページ、タブ、またはサブタブに関する情報は、さらにカードにグループ化されることがあります。



ユーザメニュー

記号をクリックすると、サインインしているユーザが表示されます。ユーザ設定を編集し、パスワードを変更し、サインアウトすることもできます。

[検索]
フィールド

ページを検索するには、このフィールドを使用します。関連ページの候補は、入力を開始すると表示されます。それらのいずれかをクリックすると、対応するページが開きます。

タブ

一部のページでは、情報がタブに整理されています。場合によってはサブタブもあります。選択したタブが強調表示されます。

ビデオ会議デバイスの管理方法 (4/5 ページ)

Web インターフェイスのメインメニュー

ページを開き、デバイスからコールを設定できます。カメラの位置を変更したり、マイクをミュートしたり、音量を調整したり、レイアウトを変更したり、コールの詳細を確認することができます。

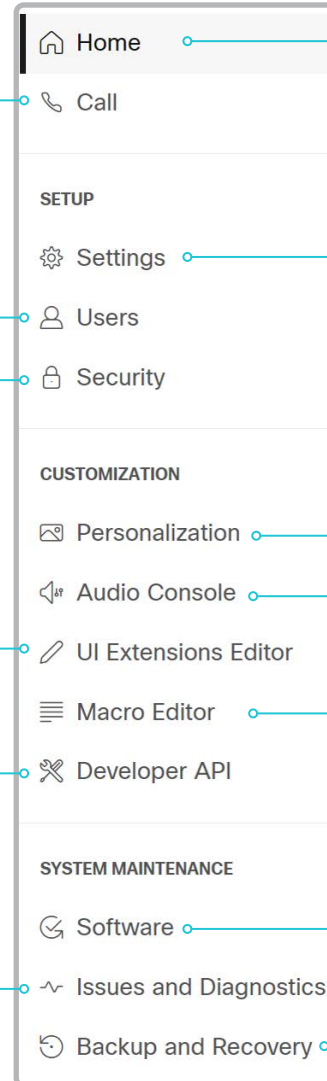
ページを開くと、ユーザの追加、編集、削除、またはユーザのパスフレーズの変更を行うことができます。このページからリモートサポートユーザを作成することもできます。

異なるサービスおよびバックエンドとの通信に必要な証明書をアップロードおよび表示できるページを開きます。サインインバナーを作成して、デバイスの再起動時に自動的にリセットするシステムコンポーネントを選択することもできます。

カスタム UI パネルとアクションボタンを作成できる、UI 拡張エディタを開きます。

デバイスの XML ファイルを表示し、コマンドと構成を実行できるページを開きます。スタートアップスクリプト (廃止) を作成することもできます^{1, 2}。

アクティブな診断メッセージを確認し、ログをダウンロードし、ユーザインターフェイスと画面に表示されるメッセージとインジケータのスクリーンショットを作成できるページを開きます。



IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブネットワークインターフェイス、ソフトウェアバージョン、問題、登録ステータス、使用率、環境データなどの一般情報を一覧表示します。

以下にアクセスできるページが開きます。

- ・ デバイスの設定およびステータス。
- ・ 定義済みのルームタイプテンプレート。 (*Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, および Room 70 G2 のみ*)
- ・ カメラ、画面、マイク、その他の入力、出力、および周辺機器に関する詳細情報。
- ・ この機能をサポートするカメラがある場合、プレゼンタートラッキングのセットアップと有効化。 (*Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, および Room 70 G2 のみ*)
- ・ 電子メールでホワイトボードと注釈を共有できるようにするための SMTP サーバの設定。 (*Desk Pro, Desk Limited Edition, および Board のみ*)

ブランディング要素またはその他の背景画像の追加、着信音の選択、ローカル連絡先リスト (お気に入り) の作成などを行ってデバイスを個人用に設定できるページが開きます。

オーディオ機能の高度なカスタマイズが可能なグラフィカルインターフェイスを提供するオーディオコンソールが開きます。

デバイスの動作を自動化またはカスタマイズするコード (マクロ) のスニペットを作成できるマクロエディタを開きます。

新しいソフトウェア¹とオプションキーをインストールできるページを開きます。プロダクトキーも変更できます。プロダクトキーは、シスコのテクニカルサポートの担当者から指示があった場合にのみ変更します。

ブランディング要素、お気に入りリスト、UI 拡張、マクロ、サインインバナー、および設定など、デバイス上の情報をバックアップおよび復元できるページを開きます。以前のソフトウェアイメージへの切り替え、工場出荷時設定へのリセット、デバイスの再起動またはシャットダウンを行うこともできます。

¹ クラウドに登録されたデバイスでは使用できません。

² スタートアップスクリプト機能は廃止され、今後のリリースで削除されます。代わりにマクロを使用することをお勧めします。

³ オーディオコンソールは、Codec Pro、Room 70 G2、Room Panorama、および Room 70 Panorama でのみ使用可能です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの管理方法 (5/5 ページ)

ユーザ インターフェイス上の設定とデバイス情報


デバイス情報および一部の基本設定とデバイス テストには、デバイスのユーザ インターフェイスからアクセスできます。

デバイスの重要な設定と機能 (ネットワーク設定、サービスの有効化、初期設定へのリセットなど) は、パズルで保護できます。▶ [「\[設定 \(Settings\) \] メニューへのアクセスの制限」](#)の章を参照してください。

一部の設定とテストは、デバイスの電源を初めてオンにしたときに起動するセットアップ アシスタントでも表示されます。セットアップアシスタントについては、RoomOS ソフトウェアを実行しているデバイスのスタートアップガイドをご覧ください。

設定へのアクセス

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [\[設定 \(Settings\) \]](#) を選択します。

南京錠の記号  は、設定が保護されている (ロックされている) ことを示しています。

3. 変更する設定または実行するテストを選択します。

設定がロックされている場合は認証ウィンドウが表示され、続行するには ADMIN ログイン情報でサインインする必要があります。

Board の場合

タッチコントローラをボードに接続している場合、このコンテキストで 2 つのデバイスが別々に動作します。どちらかにサインインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラ

外部インターフェイスユニットによる デバイスの制御

このガイドを通じて、「タッチコントローラ」を参照します。タッチコントローラは、タッチでデバイスを簡単に制御するために、物理的に接続したり、ビデオ会議デバイスにリモートでペアリングしたりする外部インターフェイスユニットです。タッチコントローラでは、会議やコンテンツから、連絡先やディレクトリまで、あらゆるものに瞬時にアクセスできます。

現在、3 つの外部インターフェイスユニットが使用可能です。すべて区別せずに「タッチコントローラ」と呼ばれます。

- ・ Cisco Webex Room Navigator
- ・ Cisco Touch 10
- ・ Cisco TelePresence Touch 10

ビデオ会議デバイスで会議のエクスペリエンスを制御するだけでなく、タッチコントローラを使用して、照明、間仕切り、カーテンなどの部屋の周辺機器を制御することも可能です。Room Navigator は、電波品質や温度などを監視するための環境センサーも備えています。

タッチコントローラは、(PoE) ネットワークに接続した場合、デバイスに直接接続するか、リモートでペアリングできます。ユニットへの電源供給とネットワークアクセスのために必要なケーブルは 1 本だけです。

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する方法については、▶ [「タッチコントローラの接続」](#) の章を参照してください。

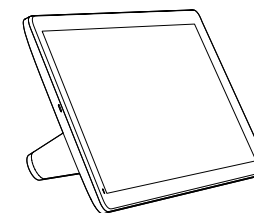
ビデオ会議デバイスとの互換性

Room Navigator は以下をサポートしています。

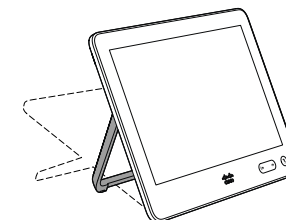
- ・ Room シリーズ
- ・ Board 55S、70S、および 85S

Touch 10 および TelePresence Touch 10 は以下をサポートしています。

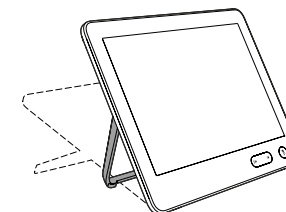
- ・ Room シリーズ
- ・ Board



Cisco Webex Room Navigator
(2021 年初めに発売)



Cisco Touch 10
(2 つ目のバージョン、2017 年後半に発売)



Cisco TelePresence Touch 10
(最初のバージョン)

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 2 章

設定

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザ管理

Web とコマンドライン インターフェイスにアクセスするには、サインインする必要があります。ユーザには、アクセス権を持つ対象を決める、異なるロールを割り当てることができます。

デフォルトのユーザ アカウント

デバイスには、初期状態でデフォルトの管理者ユーザ アカウントにフルアクセス権が付与されています。ユーザ名は `admin` で、パスワードは初期状態では設定されていません。



必ず `admin` ユーザのパスワードを設定する必要があります。

パスワードの設定方法については、▶「[デバイス パスフレーズの変更](#)」の章を参照してください。

新しいユーザ アカウントの作成

- Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザ \(Users\)\] に移動します](#)。
- [\[ユーザの作成 \(Create User\)\]](#) をクリックします。
- [\[ユーザ名 \(Username\)\]](#)、[\[パスワード \(Passphrase\)\]](#)、[\[パスワードの確認 \(Repeat passphrase\)\]](#) の各入力フィールドに入力します。
デフォルトでは、ユーザが初めてサインインしたときにパスワードを変更する必要があります。
認証にクライアント証明書を使用する場合にのみ、[\[クライアント証明書 DN \(識別名\) \(Client Certificate DN\)\]](#) フィールドに値を入力してください。
- 適切な [\[ロール \(Roles\)\]](#) チェックボックスをオンにします。
`admin` ロールをユーザに割り当てた場合は、[\[自分のパスワード \(Your passphrase\)\]](#) 入力フィールドに自分自身のパスワードを確認のために入力します。
- ユーザをアクティブにするには、[\[ステータス \(Status\)\]](#) を [\[アクティブ \(Active\)\]](#) に設定します。
- [\[作成 \(Create\)\]](#) をクリックします。

変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

既存のユーザ アカウントの編集

ADMIN ロールが割り当てられているユーザを変更する場合は 常に、[\[パスワード \(Your passphrase\)\]](#) 入力フィールドに確認のため各自のパスワードを入力する必要があります。

ユーザ特権を変更する

- Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザ \(Users\)\]](#) に移動します。
- リスト内の該当ユーザをクリックします。
- ユーザ ロールを選択し、ステータスを [\[アクティブ \(Active\)\]](#) または [\[非アクティブ \(Inactive\)\]](#) に設定してから、そのユーザが次回ログインしたときにパスワードを変更する必要があるかどうかを決定します。
HTTPS で証明書ログインを使用する場合にのみ、[\[クライアント証明書 DN \(識別名\) \(Client Certificate DN\)\]](#) フィールドに値を入力してください。
- [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

パスワードを変更する

- Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザ \(Users\)\]](#) に移動します。
- リスト内の該当ユーザをクリックします。
- [\[パスワード \(Passphrase\)\]](#) カードを見つけて、適切な入力フィールドに新しいパスワードを入力します。
- [\[パスワードの変更 \(Change Passphrase\)\]](#) をクリックして、変更を保存します。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

ユーザ アカウントを削除する

- Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザ \(Users\)\]](#) に移動します。
- リスト内の該当ユーザをクリックします。
- [\[削除 \(Delete\)\]](#) カードを見つけて、[\[ユーザの削除 \(Delete User\)\]](#) をクリックし、プロンプトが表示されたら確定します。

ユーザ ロール

1 つのユーザ アカウントは、1 つのユーザ ロールまたは複数の組み合わせを保持できます。デフォルトの `admin` ユーザなどの、フル アクセス権を持つユーザ アカウントは、`admin`、`user`、`audit` の各役割も持つ必要があります。

ユーザ ロールは次の通りです。

ADMIN: このロールを持つユーザは、新規ユーザの作成、ほとんどの設定の変更、通話、および連絡先リストの検索ができます。このユーザは監査証明書のアップロードもセキュリティ監査設定の変更も行えません。

USER: このロールを持つユーザはコールの発信と連絡先リストの検索が可能です。このユーザは呼び出し音量の調整や時刻と日付の表示形式の変更など、いくつかの設定を変更できます。

AUDIT: このロールを持つユーザは、セキュリティ監査の設定の変更および監査証明書のアップロードが可能です。

ROOMCONTROL: このロールを持つユーザは、カスタマイズされた UI パネル (室内制御など) を作成できます。このユーザは、UI 拡張エディタおよび対応する開発ツールにアクセスできます。

INTEGRATOR: このロールを持つユーザは、高度な AV シナリオを設定したり、デバイスをサードパーティの機器と統合したりするために必要な設定、コマンド、およびステータスにアクセスできます。このユーザは、カスタマイズした UI パネルを作成することもできます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイス パスフレーズの変更

次の操作を行うには、デバイスのパスフレーズを知っている必要があります。

- Web インターフェイスへのログイン
- コマンドライン インターフェイスへのログインと、その使用

デフォルトのユーザ アカウント

デバイスは、デフォルトのユーザ アカウントにフル アクセス権が付与された状態で提供されます。ユーザ名は *admin* で、初期状態ではパスフレーズは設定されていません。



デバイス設定へのアクセスを制限するには、デフォルトの *admin* ユーザにパスフレーズを設定する必要があります。さらに、管理者権限を持つ他のすべてのユーザにもパスフレーズを設定する必要があります。

admin ユーザのパスフレーズが設定されるまでは、デバイス パスフレーズが設定されていないことを示す警告が画面に表示されます。

他のユーザ アカウント

デバイスのユーザ アカウントは複数作成できます。

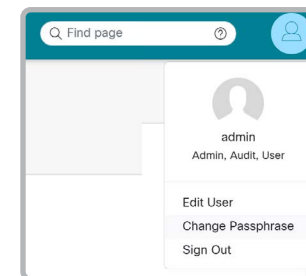
ユーザアカウントの作成と管理の方法の詳細については、▶「[ユーザ管理](#)」の章を参照してください。

パスフレーズを変更する

- Web インターフェイスにサインインして、上部のバーにあるユーザの記号をクリックしてメニューを開きます。
- [パスフレーズの変更 \(Change Passphrase\)](#) をクリックします。
- 入力フィールドに現在のパスフレーズと新しいパスフレーズを入力して、[パスフレーズの変更 \(Change Passphrase\)](#) をクリックします。



現在パスフレーズが設定されていない場合は、[現在のパスフレーズ \(Current passphrase\)](#) フィールドを空白のままにします。



別のユーザのパスフレーズの変更

管理者アクセス権がある場合は、すべてのユーザのパスフレーズを変更できます。

- Web インターフェイスにサインインし、[セキュリティ \(Security\)](#) > [ユーザ \(Users\)](#) に移動します。
- リスト内の該当ユーザをクリックします。
- 新しいパスフレーズを、[パスフレーズ \(Passphrase\)](#) および [パスフレーズの確認 \(Repeat passphrase\)](#) 入力フィールドに入力します。
該当ユーザが *admin* ロールを持っている場合は、[自分のパスフレーズ \(Your passphrase\)](#) 入力フィールドに自分自身のパスフレーズを確認のために入力する必要があります。
- [パスフレーズの変更 \(Change Passphrase\)](#) をクリックして、変更を保存します。
変更を加えないで終了するには、[戻る \(Back\)](#) ボタンを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

[設定 (Settings)] メニューへのアクセスの制限

デフォルトでは、任意のユーザが、ユーザ インターフェイスの [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。

権限のないユーザがデバイスの設定を変更できないようにするために、このアクセスを制限することを推奨します。

Board の場合: Board でタッチパネルを使用している場合は、ボード自体およびタッチパネルの両方で [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。この場合、ボードとタッチパネルは別々に動作します。どちらかにサインインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

[設定 (Settings)] メニューのロック

1. Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。
2. [ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [設定メニュー (SettingsMenu)] > [モード (Mode)] に移動して、[ロック (Locked)] を選択します。
3. [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

これで、ユーザは、ADMIN クレデンシャルでサインインしないとユーザ インターフェイスでデバイスの重要な設定にアクセスできなくなります。

[設定 (Settings)] メニューのロック解除

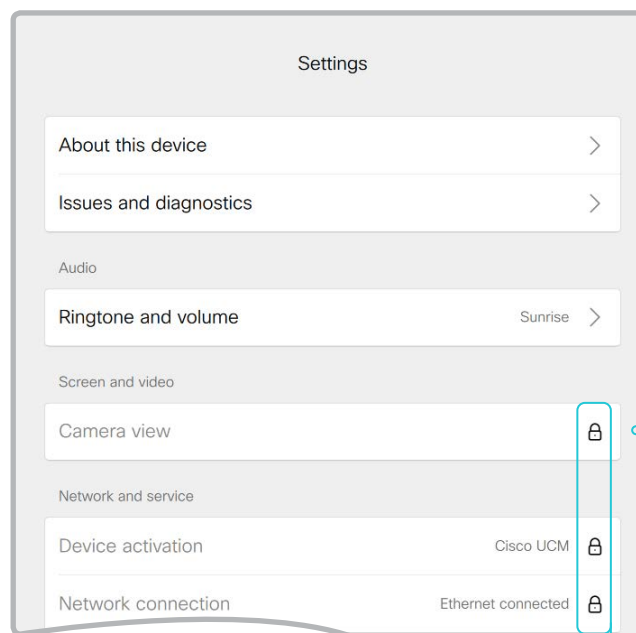
1. Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。
2. [ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [設定メニュー (SettingsMenu)] > [モード (Mode)] に移動して、[ロックなし (Unlocked)] を選択します。
3. [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

これで、すべてのユーザがユーザインターフェイスの [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。

ユーザインターフェイスの [設定 (Settings)] メニュー

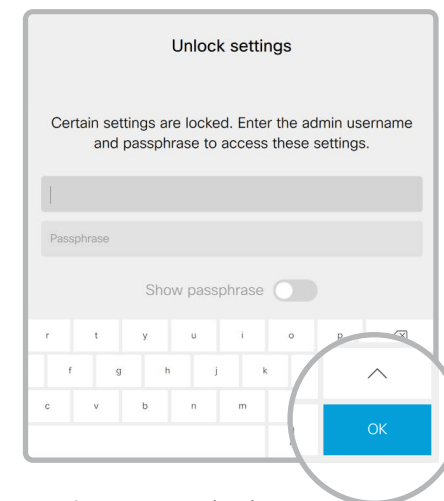
このメニューがロックされている場合は、サインインしないと、デバイスの重要な設定にアクセスできません。

[設定 (Settings)] メニューを開くには、ユーザインターフェイスの上部にあるデバイス名またはアドレスを選択し、[設定 (Settings)] を選択します。



ロックされた設定

ロックされた設定には南京錠のマークが付いています。



設定のロックを解除

南京錠をクリックすると、ADMIN ユーザでサインインするように求められます。

サインインすると、[設定 (Settings)] メニューを閉じるまで、すべての設定にアクセスできます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

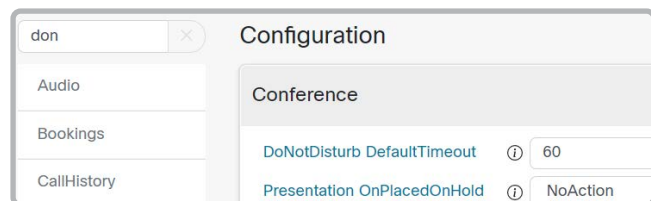
デバイス設定

Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。

デバイス設定の検索

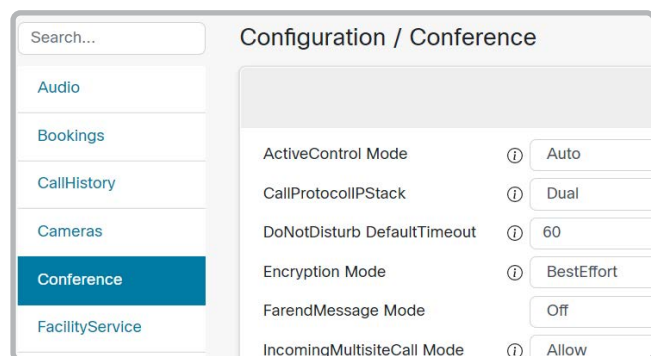
設定を検索する

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字が含まれているすべての設定が右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれている設定も表示されます。



カテゴリを選択して設定に移動する

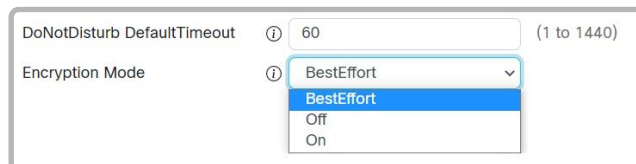
デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。左側のペインのカテゴリを 1 つ選択して、関連付けられている設定を表示します。




デバイス設定の変更

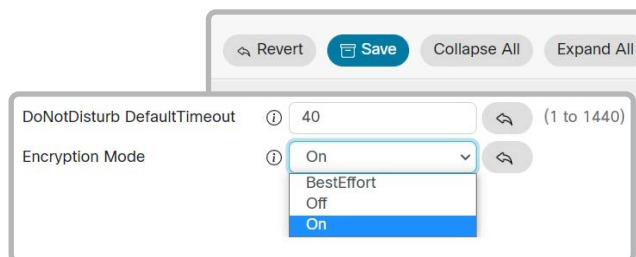
値スペースを確認する


設定の値スペースは、入力フィールドに続くテキストか、矢印をクリックすると開くドロップダウン リストで指定します。



値の変更

- ドロップダウン リストから望ましい値を選択するか、入力フィールドに新しいテキストを入力します。
- [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。
変更しない場合は、[元に戻す (Revert)] ボタン  を使用します。



変更が保存されていないカテゴリには、編集記号 () のマークが付きます。

デバイスの設定について

すべてのデバイス設定を Web インターフェイスから変更できます。

個別のデバイス設定については、
▶ 「[デバイス設定](#)」の章で説明しています。

異なる設定には、異なるユーザ ログイン情報が必要である場合があります。管理者がすべてのデバイス設定を変更できるように、管理者にはすべてのユーザ ロールを割り当てる必要があります。

ユーザ管理およびユーザロールに関する詳細情報は、▶ 「[ユーザ管理](#)」の章で確認できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

サインイン バナーの追加

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] に移動し、[サインインバナー (Sign-in Banner)] を選択します。

サインイン バナーの追加

1. サインインしたユーザに表示するメッセージを入力します。
2. [保存 (Save)] をクリックしてバナーをアクティブにします。

サインインバナーの削除

- ・ サインインバナーを削除するには、[クリア (Clear)] をクリックします。

Sign In Banner

The Sign In Banner will be displayed when a user signs in to the video system, both when using the web interface and when using SSH.

The information you type here will be shown to all users when they sign in.

Save Clear

```
login as: admin
The information you type here will be shown to all users when they sign in.
Using keyboard-interactive authentication
Password: ***
```

MySystem - Sign In

http://192.168.1.128

The information you type here will be shown to all users when they sign in.

Cisco Webex

System name: MyDevice

Username

Passphrase

Sign In

サインイン バナーについて

デバイス管理者がすべてのユーザに初期情報を提供する場合に、サインイン バナーを作成できます。メッセージは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインすると表示されます。

最大サイズは 4 kByte です。

ウェルカムバナーとサインインバナーの比較

サインインバナー

- ・ サインインバナーは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドラインインターフェイスにサインインする前に表示されます。

ウェルカムバナー

- ・ ウェルカムバナーは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドラインインターフェイスにサインインした後に表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ウェルカムバナーの追加

ウェルカムバナーの追加は API コマンドを使用してのみ利用可能です。専用のユーザインターフェイスは提供されません。

API コマンド

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

これはマルチライン コマンドです。このコマンド実行後に入力した文字が、コマンドに対する入力となります（改行を含む）。ピリオドを含み改行で終わる別の行を用いて、入力を終了します。

他にもいくつかウェルカムバナーのコマンドが存在します。API ガイドにて詳細をご確認ください。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear
```

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get
```

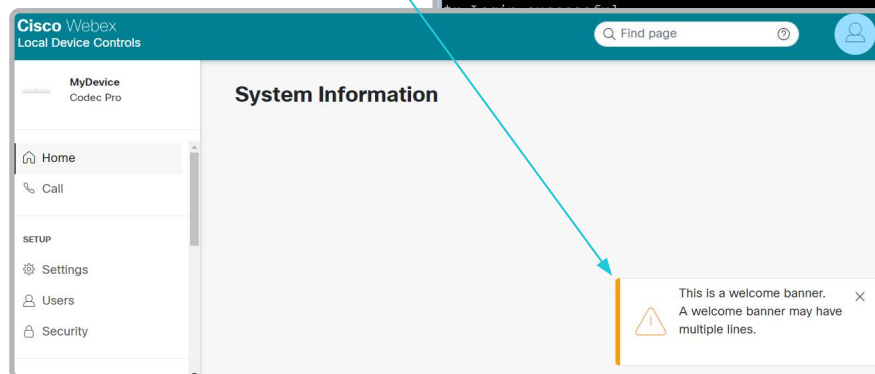
例

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set <enter>
```

これはウェルカムバナーです。<enter>

ウェルカムバナーには複数の行を表示することができます。<enter>

```
. <enter>
```



これはサインイン
バナーです

[X] をクリックして
バナーを閉じます。

ウェルカムバナーについて

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドラインインターフェイスへのサインイン後にユーザに表示される、ウェルカムバナーを設定できます。バナーには、複数の行を表示することができます。

バナーには、使い始めるうえで必要な情報や、デバイスのセットアップ時に知っておく必要があることなどを記載できます。

最大サイズは 4 kByte です。

ウェルカムバナーとサインインバナーの比較

サインインバナー

- サインインバナーは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドラインインターフェイスにサインインする前に表示されます。

ウェルカムバナー

- ウェルカムバナーは、ユーザが Web インターフェイスまたはコマンドラインインターフェイスにサインインした後に表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスのサービス証明書の管理

Web インターフェイスにサインインして、[セキュリティ (Security)] に移動します。[証明書 (Certificates)] を選択し、[サービス (Services)] サブタブを開きます。

証明書の追加

- [参照 (Browse)] ボタンを押して、コンピュータ上の証明書ファイルと秘密キーファイル (オプション) を見つけます。
- 必要な場合には [パスワード (Passphrase)] に入力します。
- [アップロード (Upload)] をクリックして、デバイスに証明書を保存します。
有効期間が 10 年以内の証明書のみが受け付けられます。

証明書を有効/無効にし、表示、または削除する

各サービスの証明書を有効または無効にするには、トグルボタンを使用します。

証明書を表示または削除するには、それぞれ対応するボタンを使用します。

次のファイルが必要です。

- 証明書 (ファイル形式: .PEM)
- 個別のファイルとして、または証明書と同じファイルに含まれる秘密キー (ファイル形式: .PEM 形式)
- パスワード (秘密キーが暗号化されている場合にのみ必要)

証明書と秘密キーは、デバイス上の同じファイル内に保存されます。

Add Certificate Use the form below to add new certificates.

This system supports PEM formatted certificate files (.pem). The certificate file may contain the certificate and a RSA or DSA encrypted private key with or without a passphrase. Optionally the private key file may be supplied separately.

Certificate No file chosen

Private key (optional) No file chosen

Passphrase (optional)

Existing Certificates

Certificate	Issuer	802.1X	Audit	HTTPS	HttpClient	SIP	Pairing	WebexIdentity	Actions
Certificate_A	Certificatelssuer_A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Delete View Certificate
Certificate_B	Certificatelssuer_B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Delete View Certificate

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

デバイスのサービス証明書について

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信が確立される前に、有効な証明書をデバイスから提供するようにサーバまたはクライアントから要求されることがあります。

デバイスの証明書は、デバイスの信頼性を確認するテキスト ファイルです。これらの証明書は、認証局 (CA) によって発行されます。

証明書は、HTTPS サーバ、HTTP クライアント、SIP、IEEE 802.1X、および監査ロギングの各サービスで使用されます。

複数の証明書をデバイスに保存できますが、サービスごとに有効化できる証明書は一度に 1 つだけです。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (1/4 ページ)

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信が確立される前にサーバまたはクライアントに証明書の提供を要求するように、デバイスを設定できます。デバイスは、証明書を使用して、サーバまたはクライアントの信頼性を検証します。認証が失敗した場合、接続は確立されません。

証明書 (テキスト ファイル) は、信頼できる認証局 (CA) によって署名されている必要があります。信頼できる CA からの証明書のリストはデバイス上に保存されています。

CA 証明書リスト

信頼できる CA のリストの確認とメンテナンスは、デバイスの Web インターフェイスから実行できます。

- Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動し、[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択します。CA リストごとにタブが 1 つ存在します。

CA リストは次のとおりです。

- プレインストール (Preinstalled)** : デバイスと通信する外部サーバー (HTTPS、SMTP (*Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition のみ*)、および syslog) の証明書を検証するために使用される、プレインストールされた CA 証明書。
- コラボレーションエッジ (Collaboration Edge)** : デバイスが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によって Expressway を介してプロビジョニングされている場合に (MRA と呼ばれます)、インターネット経由で通信するサーバーの証明書を検証するために使用される、プレインストールされた CA 証明書。
- カスタム** : 自分でデバイスにアップロードした CA 証明書。ログとその他の接続の証明書を検証するために必要な証明書がプレインストールリストに含まれていない場合は、それらの CA をすべてこのリストに含める必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (2/4 ページ)

外部サーバ用にプレインストールされた CA 証明書の管理

Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[プレインストール \(Preinstalled\)\]](#) サブタブを開きます。

Preinstalled Certificates The Certificate Authorities listed below are used to validate the certificates of external servers that the video system communicates with:

- HTTP servers hosting content used by the web views, the `HttpClient` xAPI, Macros, etc.
- SMTP mail servers (on video systems with touch screens)

Certificate Details

Certificate	Issuer	Details	Enabled
Certificate_01	Issuer_1	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_02	Issuer_2	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_03	Issuer_3	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_04	Issuer_4	View	<input checked="" type="checkbox"/>

[\[表示 \(View\)\]](#)、[証明書の有効化](#) または [無効化](#)

証明書の詳細を表示するには、[\[表示 \(View\)\]](#) ボタンを使用します。

トグルボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。



プレインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書を手動でカスタム証明書リストに追加することもできます。

信頼できる CA 証明書のリストを更新する方法については、[▶ 「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#) の章を参照してください。

プレインストールされた CA 証明書

デバイスには、よく使用される CA 証明書のリストがプレインストールされています。デバイスは、通信している外部サーバからの証明書を検証するときに、このリストを使用します。

- HttpClient API またはマクロによって使用されるコンテンツをホストしている HTTP サーバー
- プロビジョニング サーバ
- 電話帳サーバ
- syslog サーバ (外部ロギング用)
- SMTP メールサーバ ([Board および Desk Pro のみ](#))
- Cisco Webex クラウドによって使用されるサーバーおよびサービス

デバイスを初期設定にリセットしても、プレインストールされた証明書のリストは削除されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (3/4 ページ)

Expressway プロビジョニングを使用する CUCM 用のプレインストール済み CA 証明書の管理

Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[コラボレーションエッジ \(Collaboration Edge\)\]](#) サブタブを開きます。

Collaboration Edge Certificates This CA list is used for Cisco UCM via Expressway (Edge) provisioning only.

[Configure provisioning now.](#)

These certificates are used to validate the servers contacted over the Internet when the endpoint uses Cisco UCM via Expressway provisioning.

You can either enable or disable all Edge certificates on the device by clicking the "Enable All"/"Disable All" button below, or toggle individual certificates on and off in the table.

[Disable All](#)

Certificate Details

Certificate	Issuer	Details	Enabled
Certificate_01	Issuer_1	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_02	Issuer_2	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_03	Issuer_3	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_04	Issuer_4	View	<input checked="" type="checkbox"/>

[表示 (View)]、
証明書の有効化
または無効化

証明書の詳細を表
示するには、[\[表示
\(View\)\]](#) ボタンを使
用します。

トグルボタンを使用し
て、証明書を有効また
は無効にします。

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。



プレインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書を手動でカスタム証明書リストに追加することもできます。

信頼できる CA 証明書のリストを更新する方法については、
▶ [「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#) の章を参照してください。

Expressway を使用する
CUCM 用のプレインストール済
み CA 証明書

このリストにあるプレインストール CA 証明書は、デバイスを Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によって Expressway 経由でプロビジョニングする場合にのみ使用されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書のみがこのリストと照合されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書の検証に失敗した場合は、デバイスのプロビジョニングと登録が行われません。

デバイスを初期設定にリセットしても、プレインストールされた証明書のリストは削除されません。

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (4/4 ページ)

デバイスへの CA 証明書のアップロード

Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[カスタム \(Custom\)\]](#) サブタブを開きます。

次のファイルが必要です。

- CA 証明書のリスト (ファイル形式: .PEM)。

CA 証明書のリストのアップロード

- [参照 (Browse)] ボタンをクリックして、コンピュータから CA 証明書のリストを含むファイル (ファイル形式: .PEM) を見つけます。
- [アップロード (Upload)] をクリックして、デバイスに新しい CA 証明書を保存します。
ファイルを選択すると、ボタンが表示されます。

Add Certificate Authority

Use the form below to add new certificate authorities.

This system supports PEM formatted files (.pem) with one or more CA certificates within the file.

No file chosen

Existing Certificate Authorities

Certificate	Issuer	Details	Enabled
Certificate_A	CertificateIssuer_A	<input type="button" value="View"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

[表示 (View)]、証明書の有効化または無効化

証明書の詳細を表示するには、[\[表示 \(View\)\]](#) ボタンを使用します。

トグルボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。



以前に保存した証明書は自動的に削除されません。

CA 証明書を含む新しいファイル内のエントリが既存のリストに付加されます。

信頼できる CA 証明書のカスタム リストについて

このリストには、自分でデバイスにアップロードした CA 証明書が含まれます。これらの証明書は、クライアント証明書とサーバ証明書の両方について、ロギングおよびその他の接続を検証するために使用できます。

次のものに使用できます。

- HttpClient API またはマクロによって使用されるコンテンツをホストしている HTTP サーバー
- プロビジョニング サーバ
- 電話帳サーバ
- SIP サーバ
- syslog サーバ (外部ロギング用)
- SMTP メール サーバ ([Board および Desk Pro のみ](#))
- Cisco Expressway インフラストラクチャ
- Cisco Webex クラウドによって使用されるサーバおよびサービス

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

セキュア監査ロギングのセットアップ

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。

1. [\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[監査 \(Audit\)\]](#) > [\[サーバ \(Server\)\]](#) 設定を探して、監査サーバの[\[アドレス \(Address\)\]](#)を入力します。
[\[ポート割り当て \(PortAssignment\)\]](#) を **[手動 (Manual)]** に設定した場合は、監査サーバの[\[ポート \(Port\)\]](#) 番号も入力する必要があります。
2. [\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[監査 \(Audit\)\]](#) > [\[ロギング \(Logging\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を **[外部セキュア (ExternalSecure)]** に設定します。
3. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。



監査サーバの証明書を検証する認証局 (CA) が、デバイスの信頼できる認証局のリストに含まれている必要があります。含まれていない場合は、外部サーバにログが送信されません。

リストの更新方法については、▶ [「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#) の章を参照してください。

The screenshot shows the 'Configuration / Security' page. Under the 'Audit' section, 'Logging Mode' is set to 'ExternalSecure' and 'OnError Action' is also set to 'ExternalSecure'. Below this, the 'Server' section has three fields: 'Address' (empty), 'Port' (514), and 'PortAssignment' (Auto). A dropdown menu is open for 'Logging Mode', showing options: ExternalSecure, External, Internal, and Off. The 'ExternalSecure' option is selected.

安全な監査ロギングについて

監査ロギングを有効にすると、そのデバイスでのすべてのサインイン アクティビティと設定変更が記録されます。

[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[監査 \(Audit\)\]](#) > [\[ロギング モード \(Logging Mode\)\]](#) 設定を使用して、監査ロギングを有効にします。監査ロギングは、デフォルトでは無効になっています。

ExternalSecure 監査ログ モードでは、デバイスは、暗号化された監査ログを外部監査サーバ (syslog サーバ) に送信します。そのサーバの ID は、署名された証明書によって検証される必要があります。

監査サーバの署名は、プレインストールされている CA 証明書またはカスタム CA リストを使用して検証されます。

監査サーバ認証に失敗した場合は、監査ログが外部サーバに送信されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama


CUCM 信頼リストの削除

この章は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されているデバイスにのみ関連します。

Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[Unified CM\]](#) サブタブを開きます。

CUCM 信頼リストを削除する

信頼リストを削除するには、[\[CTL/ITL の削除 \(Delete CTL/ITL\)\]](#) をクリックします。

 一般的に、以前の CTL (証明信頼リスト) ファイルと ITL (初期信頼リスト) ファイルは削除しません。

次のようなケースでは、これらのファイルを削除する必要があります。

- ・ CUCM の IP アドレスを変更する場合。
- ・ CUCM クラスタ間でエンドポイントを移動する場合。
- ・ CUCM 証明書を再生成または変更する必要がある場合。

信頼リスト フィンガープリントと証明書の概要

信頼リストのフィンガープリントとリストの証明書の概要は、Web ページに表示されます。

この情報は、トラブルシューティングに役立ちます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

永続モードの変更

Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動し、[\[永続設定 \(Persistence Settings\)\]](#) を選択します。

永続性ステータスの確認

アクティブなラジオ ボタンは、デバイスの現在の永続性ステータスを示しています。

または、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ステータス \(Statuses\)\]](#) を選択し、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[永続性 \(Persistence\)\]](#) ステータスを確認することもできます。

永続設定を変更する

すべての永続設定がデフォルトで [\[永続 \(Persistent\)\]](#) に設定されません。これらの設定は、[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) にする場合にのみ変更する必要があります。

1. 設定、通話履歴、内部ログイン、ローカル電話帳（ローカル ディレクトリとお気に入り）、および IP 接続（DHCP）情報の永続性を設定するには、ラジオ ボタンをクリックします。
2. [\[適用 \(Apply\)\]](#) をクリックします。

デバイスが自動的に再起動します。再起動後、新しい永続設定に従って動作が変化します。



非永続モードに切り替える前に保存されたログ、設定および他のデータは、消去されたり削除されたりすることはありません。

永続モード

デフォルトでは、設定、通話履歴、内部ログ、ローカル電話帳（ローカル ディレクトリとお気に入りリスト）、および IP 接続情報が保存されます。すべての永続設定は [\[永続 \(Persistent\)\]](#) に設定されているので、デバイスを再起動してもこの情報は削除されません。

通常は、永続設定は変更しないことをお勧めします。[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) モードへの変更は、前のセッションでログに記録された情報をユーザが参照したりトレースバックしたりしないようにする必要がある場合にのみ行ってください。

非永続モードでは、デバイスが再起動されるたびに次の情報が削除または消去されます。

- デバイス設定の変更
- 通話の発信および受信に関する情報（通話履歴）
- 内部ログ ファイル
- ローカル連絡先またはお気に入りリストの変更
- 前回のセッション以降のすべての IP 関連情報（DHCP）



[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) モードに変更する前に保存された情報は、自動的にクリアまたは削除されることはありません。そのような情報を削除するには、デバイスを初期設定にリセットする必要があります。

初期設定にリセットする方法の詳細については、▶ [「ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット」](#)の章を参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SMTP 電子メールサーバーのセットアップ

SMTP サーバー接続を設定すると、ビデオ会議デバイスのユーザーが、組織内外の人と電子メールでホワイトボードやコメントを共有できるようになります。

サーバーのセットアップは手動で行うこともできますが、セットアップウィザードを使用することを強くお勧めします。ウィザードを使用すれば、セットアップ中に接続をテストすることや、サーバー証明書のアップロードが必要な場合に、その方法についてガイダンスを得ることができます。

電子メールによる共有の有効化

- Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
- [\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) に移動します。電子メールによる共有は、[\[モード \(Mode\)\]](#) が [\[オン \(On\)\]](#) の場合にのみ可能になります。

ウィザードを使用したサーバーのセットアップ 推奨

- Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ホワイトボードを電子メールに送信 \(Send Whiteboard to Email\)\]](#) を選択します。
- [\[ウィザードを開始 \(Start Wizard\)\]](#) をクリックし、サーバーのアドレス、暗号化方式、およびポート番号を入力します。
- [\[接続のテスト... \(Test Connection...\)\]](#) をクリックします。問題がなければ、[\[OK\]](#) をクリックしてウィザードを続行します。証明書が見つからない場合は、[\[再設定 \(Reconfigure\)\]](#) をクリックし、ウィザードの指示に従って必要な証明書をデバイスにアップロードします。
- ホワイトボードや注釈の送信元となる電子メールアドレスを入力します。
- SMTP サーバーが認証を要求し、暗号化方式が TLS または STARTTLS の場合は、ユーザー名とパスワードのフィールドに入力します。
- [\[確認して保存 \(Verify and Save\)\]](#) を選択して、サーバーのセットアップウィザードを完了します。

これで、[\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) が [\[オン \(On\)\]](#) になっていれば、デバイスから電子メールでホワイトボードや注釈を送信することができます。

ウィザードを開始するのではなく、[\[手動設定 \(Manual Configuration\)\]](#) を選択した場合は、上記で説明したのと同じフィールドに入力し、[\[確認して保存 \(Verify and Save\)\]](#) を選択します。

設定ページからのサーバの設定

- Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
- [\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) に移動し、[\[サーバー \(Server\)\]](#)、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) (暗号化方式)、[\[ポート \(Port\)\]](#)、[\[送信元 \(From\)\]](#)、[\[ユーザー名 \(Username\)\]](#)、および [\[パスワード \(Password\)\]](#) を設定します。
- 必要に応じて、▶ [「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#) の章の説明に従って、CA 証明書をデバイスにアップロードします。

暗号化方式と証明書

暗号化方式は、電子メールサーバーでサポートされているものを選択する必要があります。

TLS および STARTTLS 暗号化方式には、サーバー証明書が必要です。SMTP サーバーの証明書を検証できない場合、デバイスは接続を許可しません。証明書チェックを無視することはできません。

ほとんどの場合、サーバー証明書はデバイスにプレインストールされている CA リストを使用して検証できます。そうでない場合は、必要な証明書を自分でデバイスにアップロードする必要があります。自分でアップロードした証明書は、カスタム証明書のリストに追加されます。

CA のリストの詳細については、▶ [「信頼できる認証局 \(CA\) のリストの管理」](#) の章を参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

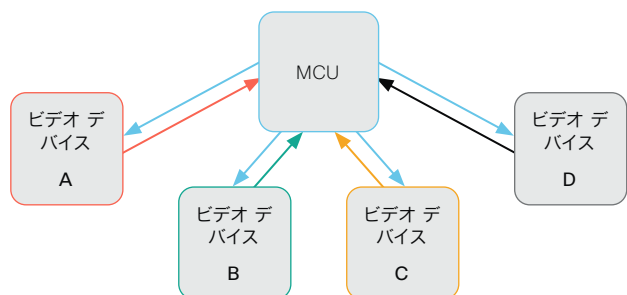
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

アドホック マルチポイント会議のセットアップ (1/2 ページ)

ポイントツーポイントのビデオ コール (2 者間のみのコール) を、より多くの参加者とのマルチポイント会議に拡大する方法はいくつかあります。

集中型会議インフラストラクチャ

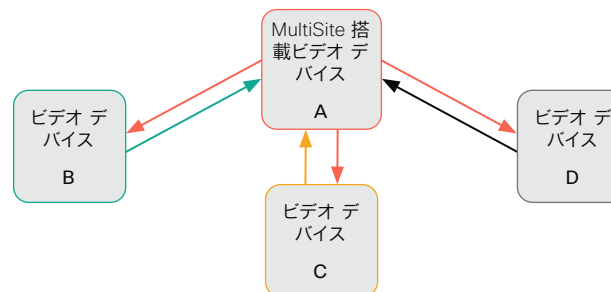
ほとんどのソリューションは、一元化された会議インフラストラクチャである MCU (マルチポイントコントロールユニット)¹を基盤としています。



このセットアップでは、ビデオ デバイス A、B、C および D は、4 者会議に参加しています。MCU がすべてのデバイスからのメディア ストリームを受信し、ストリームを処理して、すべてのメディアを他の参加者に送信します。

ローカル会議リソース - マルチサイト

MultiSite のシナリオでは、ビデオ デバイスのうち 1 台に MCU 機能を担当させます。



このセットアップでは、ビデオ デバイス A、B、C および D は、4 者会議に参加しています。ここではデバイス A で MultiSite 機能を使用し、MCU として機能させます。このデバイスがすべてのデバイスからのメディア ストリームを受信し、ストリームを処理して、すべてのメディアを他の参加者に送信します。

マルチサイトは標準の製品デリバリーには含まれていません。デバイスにマルチサイトオプションキーをインストールするには、アップグレードオプションの購入が必要です。

MultiSite でサポートされる参加者の最大数は次のとおりです。

- Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama, Desk Pro, Desk Limited Edition : 参加者 5 人 (自身を含む)
- その他の製品 : 参加者 4 人 (自身を含む)

マルチポイント設定

マルチポイント会議の処理方法を決定するには、`[会議 (Conference)] > [マルチポイント (Multipoint)] > [モード (Mode)]` 設定を使用します。この設定で使用できる値は次のとおりです。

- Auto
- CUCMMediaResourceGroupList
- マルチサイト
- オフ (Off)

次のページの表で、さまざまな会議オプションについて説明しています。

¹ MCU: マルチポイント コントロール ユニットは、ビデオ会議ゲートウェイまたはビデオ会議ブリッジとも呼ばれます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

アドホック マルチポイント会議のセットアップ (2/2 ページ)

会議マルチポイント モード設定	MultiSite オプション キー	リモートデバイス タイプ ²	参加者を追加する操作	
オフ (Off)	該当なし	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	1 オーディオ追加	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。
CUCM メディア リソースグループ リスト (CUCM-MediaResource-GroupList)	該当なし	ビデオ デバイス	協議追加	<ul style="list-style-type: none"> CUCM に登録されたデバイスでのみ使用でき、[SIP] > [タイプ (Type)] 設定は [シスコ (Cisco)] にする必要があります。 新しい参加者をコールする間、会議は保留されます。新しい参加者がコールを受け入れると、その新しいコールを会議にマージできます。 会議に新しい参加者を最初に追加した参加者だけが、さらに参加者を追加できます。
マルチサイト (MultiSite) ³	はい	該当なし	ローカルマルチサイト ⁴	<ul style="list-style-type: none"> UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接呼び出すことができます。 デバイスの上限に達するまで参加者の追加を続けることができます。
	いいえ	該当なし	1 オーディオ追加	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。
自動 (Auto)	はい	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	カスケードなしのローカルマルチサイト ⁵	<ul style="list-style-type: none"> UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接呼び出すことができます。 デバイスの上限に達するまで参加者の追加を続けることができます。 MultiSite ホスト (MCU として機能しているデバイス) のみが参加者を追加できます。これにより、会議のカスケードを防ぎます。
	いいえ	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	1 オーディオ追加	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021

² リモートデバイスタイプは、[コール [n] (Call [n])] > [デバイスタイプ (DeviceType)] ステータスに表示されます。³ マルチストリームを使用している会議では、マルチサイトは自動的に無効になります。つまり、UI の [追加 (Add)] ボタンを使用して、会議に新しい参加者を追加することはできません (ビデオ参加者も音声のみの参加者も追加できません)。⁴ 会議のカスケードを避けるために、[会議 (Conference)] > [マルチポイント (Multipoint)] > [モード (Mode)] を [マルチサイト (MultiSite)] ではなく [自動 (Auto)] に設定することを推奨します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コンテンツ共有用のインテリジェントプロキシミティのセットアップ (1/4 ページ)

Cisco Proximity では、ユーザはラップトップからコンテンツを共有し、ビデオ会議デバイスの近くにいるときにモバイルデバイスからビデオ会議デバイスを制御できます。

モバイル デバイスがビデオ会議デバイスから送信される超音波の範囲内に入ると、自動的にビデオ会議デバイスとペアリングできます。



プロキシミティ接続の数

プロキシミティの最大同時接続数は次のとおりです。

- ・ 30

この最大接続数に達すると、新しいユーザはクライアントから警告されます。

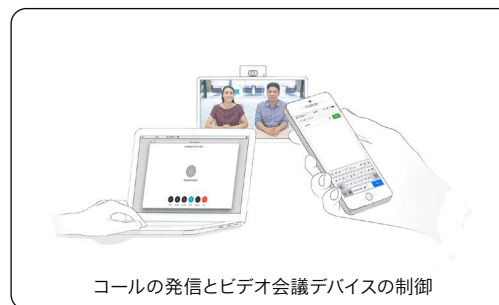
プロキシミティ サービス

コールの発信とビデオ会議デバイスの制御:

- ・ ダイヤル、ミュート、音量調節、切断
- ・ ラップトップ (OS X と Windows)、スマートフォンとタブレット (iOS と Android) で使用可能

ラップトップからワイヤレスで共有:

- ・ プレゼンテーション ケーブルを接続しないコンテンツの共有
- ・ ラップトップ (OS X と Windows) で使用可能



コールの発信とビデオ会議デバイスの制御



モバイル デバイスからのワイヤレス共有

Cisco Proximity クライアントをインストールする

クライアントの入手場所

スマートフォンとタブレット (Android および iOS)、およびラップトップ (Windows および OS X) 向けの Cisco Proximity クライアントは、▶ <https://proximity.cisco.com> から無償でダウンロードできます

また、Google Play (Android) や Apple App Store (iOS) でスマートフォン/タブレット用のクライアントを直接入手することもできます。

エンド ユーザ ライセンス契約書

エンドユーザライセンス契約書をよく確認してください。▶ https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html

サポートされるオペレーティング システム

- ・ iOS 7 以降
- ・ Android 4.0 以降
- ・ Mac OS X 10.9 以降
- ・ Windows 7 以降

Windows 8 で導入されたタイル ベースのインターフェイスはサポートされていません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コンテンツ共有用のインテリジェントプロキシミティのセットアップ (2/4 ページ)

超音波の放出

シスコのビデオ会議デバイスは、プロキシミティ機能の一部として超音波のペアリングメッセージを発します。

[[プロキシミティ \(Proximity\)](#)] > [[モード \(Mode\)](#)] 設定を使用して、プロキシミティ機能 (および超音波ペアリングメッセージの出力) の [オン (On)] と [オフ (Off)] を切り替えます。

業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満のレベルで影響が生じることはほとんどありません。

Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama, Room 55, Room 55 Dual, Room Kit, Room Kit Mini, および Room Kit Plus :

- ・ スピーカーから 50cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Desk Pro および Desk Limited Edition :

- ・ スピーカーから 20cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Board :

- ・ 画面から 20cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Board 55 および 70 (S シリーズ以外) の場合、スピーカーが下向きのため、画面の真下ではレベルが若干高くなる場合があります。

Codec Plus および Codec Pro :

- ・ これらのビデオ会議デバイスでは、サードパーティのスピーカーで超音波が放出されるため、超音波の音圧レベルを予測できません。スピーカー自体の音量コントロール、および [[音声 \(Audio\)](#)] > [[超音波 \(Ultrasound\)](#)] > [[最大音量 \(MaxVolume\)](#)] での設定は、超音波の音圧レベルに影響を与えません。リモートコントロールまたはタッチコントローラでの音量コントロールは効果がありません。

ヘッドセット

Desk Pro および Desk Limited Edition :

これらのデバイスでは、次の理由からヘッドセットを常に使用できません。

- ・ Desk Pro と Desk Limited Edition には、超音波を出さない専用ヘッドセット出力があります。

Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama, Room 55 Dual, Room Kit Plus, Codec Plus, Codec Pro, および Board :

- ・ これらのデバイスは、ヘッドセットを使用するように設計されていません。
- ・ これらのビデオ会議デバイスでヘッドセットを使用する場合は、超音波の送出手をオフにしておくことを強くお勧めします ([[プロキシミティ \(Proximity\)](#)] > [[モード \(Mode\)](#)] を [オフ (Off)] に設定します)。この場合、[[プロキシミティ \(Proximity\)](#)] 機能を使用することはできません。
- ・ これらのデバイスは専用のヘッドセット出力を備えていないため、接続されたヘッドセットから音圧レベルを制御することはできません。

Room 55, Room Kit, および Room Kit Mini :

- ・ これらのデバイスでは、USB 出力にいつでもヘッドセットを接続できます。この出力から超音波が送出されることはありません。
- ・ Room 55 および Room Kit のオーディオライン出力 (ミニジャック) は、ヘッドセット向けには設計されていません。これらの出力のいずれかに接続されているヘッドセットから音圧レベルを制御することはできません。

ヘッドセットをオーディオライン出力に接続する場合は、超音波の送出手をオフにしておくことを強くお勧めします ([[プロキシミティ \(Proximity\)](#)] > [[モード \(Mode\)](#)] を [オフ (Off)] に設定します)。この場合、[[プロキシミティ \(Proximity\)](#)] 機能を使用することはできません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コンテンツ共有用のインテリジェントプロキシミティのセットアップ (3/4 ページ)

プロキシミティ サービスを有効にする

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) に移動して、Proximity を **[オン (On)]** にします。

Proximity は、Codec Plus、Codec Pro、Desk Pro、および Desk Limited Edition の製品で、デフォルトでオフになっています。他の製品では、Proximity はデフォルトでオンになっています。

Proximity がオンの場合、ビデオ会議デバイスは超音波ペアリングメッセージを送信します。

3. 許可するサービスを有効にします。[\[デスクトップクライアントからのワイヤレス共有 \(Wireless share from a desktop client\)\]](#) はデフォルトでは有効になっています。

プロキシミティ機能を最大限に活用するために、両方のサービスを有効にすることをお勧めします。

コールの発信とビデオ会議デバイスの制御:

- [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[通話制御 \(CallControl\)\]](#) に移動して、**[有効 (Enabled)]** を選択します。

デスクトップ クライアントからのワイヤレス共有:

- [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[コンテンツ共有 \(ContentShare\)\]](#) > [\[クライアントから \(FromClients\)\]](#) に移動して、**[有効 (Enabled)]** を選択します。

プロキシミティ インジケータ



1 つ以上の Proximity クライアントがデバイスとペアリングされていると、画面にプロキシミティ インジケータが表示されます。

最後のクライアントのペアリングが解除されても、インジケータはすぐには消えません。消えるまで数分かかることがあります。

プロキシミティについて

デフォルトの動作

Codec Plus および *Codec Pro*: サードパーティ製スピーカーの使用時にプロキシミティが期待どおりに動作するように追加テストが必要な可能性があるため、プロキシミティ機能はデフォルトで **[オフ (Off)]** になっています。超音波によってまれにオーディオ アーチファクトが生じることがあります。このアーチファクトが生じた場合、[\[音声 \(Audio\)\]](#) > [\[超音波 \(Ultrasound\)\]](#) > [\[最大音量 \(MaxVolume\)\]](#) の設定を使用して超音波の最大音量を下げることを検討してください。

Desk Pro および *Desk Limited Edition*: Desk 製品は複数のデバイスが互いに近くにある、間仕切りのない広々としたオフィスに配置されることが多いため、プロキシミティ機能はデフォルトで **[オフ (Off)]** になっています。このような環境では、ペアリングが不安定になる可能性があります。プロキシミティは、通常 1 部屋につき 1 つのデバイス上でだけ **[オン (On)]** にしてください。

その他の製品: プロキシミティ機能はデフォルトで **[オン (On)]** になっています。

超音波

[\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) を **[オン (On)]** にすると、ビデオ会議デバイスから超音波のペアリング メッセージが発信されます。

超音波のペアリング メッセージは、Proximity クライアントがインストールされた近くにあるデバイスによって受信され、デバイスの認証および許可をトリガーします。

推奨

一般に、Cisco では、最適なユーザエクスペリエンスのため、Proximity は常に **[オン (On)]** に設定することをお勧めしています。

ただし、Codec Plus、Codec Pro、Desk Pro、および Desk Limited Edition では、Proximity をオンにする前に、ご使用の環境と設定に適していることを確認することが重要です。

プロキシミティに対する完全なアクセス権限を得るためには、プロキシミティ サービス ([\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[...\]](#)) も **[有効 (Enabled)]** にする必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コンテンツ共有用のインテリジェントプロキシミティのセットアップ (4/4 ページ)

部屋の考慮事項

部屋の音響

- 壁/床/天井の表面が硬い部屋では、音の反響が大きいことが問題になる場合があります。最良の会議環境とインテリジェント プロキシミティのパフォーマンスを確保するために、会議室の音響処理を常に強く推奨します。
- 1 つの部屋の中で Intelligent Proximity を有効にするビデオ会議デバイスは 1 つだけにすることを推奨します。複数あると、干渉が発生する可能性があり、デバイス検出とセッション メンテナンスの問題の原因となることがあります。

プライバシーについて

シスコのプライバシーポリシーと Cisco Proximity 付録には、クライアントにおけるデータ収集とプライバシーの懸念事項が記載されており、この機能を組織に導入する際にはこれを考慮する必要があります。次のページを参照してください。

▶ <https://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy.html>

Desk Pro および Desk Limited Edition では、室内のモバイルデバイスは、Desk デバイスがコール中の場合にのみコンテンツを受信および表示することに注意してください。

基本的なトラブルシューティング

プロキシミティ クライアントを使用するデバイスを検出できない

- ビデオ会議デバイスがスタンバイ モードかどうかを確認します。スピーカーがオフになっている (たとえば、スタンバイ モードの TV) 場合、超音波は送信されません。 *(Codec Plus および Codec Pro のみ)*
- スピーカーの音量を確認します。超音波の音量を制御するのは、スピーカー自体の音量コントロールです (リモートコントロールまたはタッチコントローラを使用してコントロールされる音量ではありません)。音量が低すぎると、受信デバイスで超音波のペアリング メッセージを検出できません。 *(Codec Plus および Codec Pro のみ)*
- 一部の Windows ラップトップでは、超音波の周波数範囲 (20kHz ~ 22kHz) の音を記録できません。これは、特定のデバイスのサウンドカード、サウンド ドライバ、または内蔵マイクに関する周波数の制限が原因である可能性があります。詳細については、サポート フォーラムを参照してください。
- ユーザ インターフェイスで **[設定 (Settings)] > [問題と診断 (Issues and diagnostics)]** を確認するか、ビデオ会議デバイスの Web インターフェイスで **[メンテナンス (Maintenance)] > [診断 (Diagnostics)]** を確認します。超音波に関する問題がリストに記載されていない場合 ([超音波信号を確認できません (Unable to verify the ultrasound signal)])、超音波のペアリング メッセージがビデオ会議デバイスから発信されます。クライアントで検出される問題のサポートには、プロキシミティのサポート掲示板を参照してください。

オーディオ アーチファクト

- ハムノイズやクリッピングノイズなどが聞こえる場合は、最大超音波音量を下げてください (**[オーディオ (Audio)] > [超音波 (Ultrasound)] > [最大音量 (MaxVolume)]**)。

ラップトップから内容を共有できない

- コンテンツ シェアリングを機能させるには、ビデオ会議デバイスとラップトップを同じネットワーク上に配置する必要があります。この理由から、ビデオ会議デバイスが Expressway 経由で企業ネットワークに接続されており、ラップトップが VPN 経由 (VPN クライアント依存) で接続されている場合には、プロキシミティ シェアリングが失敗する可能性があります。

その他のリソース

Cisco Proximity のサイト:

▶ <https://proximity.cisco.com>

サポートフォーラム:

▶ <https://www.cisco.com/go/proximity-support>

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ品質対コールレート比の調整 (1/3 ページ)

ビデオ入力品質の設定

ビデオをエンコードして送信する場合は、高解像度（シャープさ）と高フレーム レート（動き）との間でトレード オフが生じます。

最適鮮明度設定を有効にするには、`[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [画質 (Quality)]` 設定を **[モーション (Motion)]** に設定する必要があります。ビデオ入力の品質を **[シャープネス (Sharpness)]** に設定すると、エンドポイントはフレーム レートに関係なく、可能な限り高解像度で送信します。

最適鮮明度プロファイル

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の光（照明）の条件およびカメラ（ビデオ入力ソース）の品質を反映している必要があります。光の条件およびカメラの品質が良いほど、高い最適鮮明度プロファイルを使用する必要があります。

通常、**[中 (Medium)]** プロファイルが推奨されます。ただし照明条件が非常に良好な場合は、プロファイルを決定する前に、さまざまな最適鮮明度プロファイル設定でエンドポイントをテストすることをお勧めします。特定の帯域の解像度を上げるために、**[高 (High)]** プロファイルを設定できます。

異なる最適鮮明度プロファイルに使用する一般的な解像度、コールレートおよび送信フレームレートの一部を次のページの表に示します。解像度とフレーム レートは、発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

60 fps でのビデオ送信のしきい値

60 fps でのビデオ送信を許可する条件を決定するには、`[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [60fps のしきい値 (Threshold60fps)]` 設定を使用します。

このしきい値より低い解像度では、最大転送フレームレートが 30 fps になります。このしきい値より高い解像度については、使用可能な帯域幅が十分であれば 60 fps になる可能性があります。

60 fps のビデオの許可

(適用対象: Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55)

デフォルトとして、カメラは 1 秒あたり 30 フレーム (30 fps) を出力します。これにより、通常の帯域と照明条件であってもクローズアップと広い視野両方の画像の品質が良くなります。条件がさらに良い場合、カメラからの出力が 60 fps となり、全般的に良い品質となる可能性があります。

カメラの出力フレームレートを設定するには、`[カメラ (Cameras)] > [カメラ (Camera)] > [フレームレート (Framerate)]` 設定を使用します。

Web インターフェイスにサインインして、**[設定 (Settings)]** に移動し、**[設定 (Configurations)]** を選択します。

1. *Board の Connector 1 (内蔵カメラ)、Desk Pro, Desk Limited Edition, Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 を除くすべての製品とコネクタに適用されます。*

`[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [品質 (Quality)]` に移動して、ビデオ品質パラメータを **[モーション (Motion)]** に設定します。

2. `[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [プロファイル (Profile)]` に移動して、適切な最適鮮明度プロファイルを選択します。
3. `[ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [60fps のしきい値 (Threshold60fps)]` に移動して、その解像度よりも低い場合に最大転送フレームレートを 30 fps にするしきい値を設定します。
4. *Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 に適用されます。*
`[カメラ (Cameras)] > [カメラ (Camera)] > [フレームレート (Framerate)]` に進み、60fps のビデオを許可するかどうかを選択します。

ビデオ品質対コールレート比の調整 (2/3 ページ)

Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama (非パノラマモード)、および Room Panorama (非パノラマモード)

解像度とフレーム レート [w×h@fps] は、異なる最適な定義プロファイルとコール レートから取得します。

コール レート (kbps)	H.264, 最大 30fps			H.264, 最大 60fps		
	標準	中	高	標準	中	高
128	320×180@30	320×180@30	512×288@30	320×180@30	512×288@20	512×288@30
256	512×288@30	640×360@30	768×448@30	512×288@30	640×360@30	768×448@30
384	640×360@30	768×448@30	768×448@30	640×360@30	768×448@30	768×448@30
512	768×448@30	1024×576@30	1024×576@30	768×448@30	1024×576@30	1024×576@30
768	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30
1152	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@60
1472	1280×720@30	1280×720@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@60
1920	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@60	1280×720@60
2560	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1920×1080@60
3072	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1920×1080@60
4000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1920×1080@60	1920×1080@60
6000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60

Codec Pro, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama (非パノラマモード)、および Room Panorama (非パノラマモード)

解像度とフレーム レート [w×h@fps] は、異なる最適な定義プロファイルとコール レートから取得します。

コール レート (kbps)	H.265, 最大 30fps			H.265, 最大 60fps		
	標準	中	高	標準	中	高
128	512×288@30	512×288@30	640×360@30	512×288@30	512×288@30	640×360@30
256	640×360@30	768×448@30	768×448@30	640×360@30	768×448@30	768×448@30
384	768×448@30	1024×576@30	1280×720@30	768×448@30	1024×576@30	1280×720@30
512	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30
768	1280×720@30	1280×720@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@60
1152	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@60	1280×720@60
1472	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1280×720@60
1920	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1920×1080@60
2560	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1920×1080@60	1920×1080@60
3072	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60
4000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60
6000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15473.01

RoomOS

10.3

04-2021



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

ビデオ品質対コールレート比の調整 (3/3 ページ)

Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition						
解像度とフレーム レート [w×h@fps] は、異なる最適な定義プロファイルとコール レートから取得します。						
コール レート (kbps)	H.264, 最大 30fps			H.264, 最大 60fps		
	標準	中	高	標準	中	高
128	320×180@30	320×180@30	512×288@30	320×180@30	512×288@20	512×288@30
256	512×288@30	640×360@30	768×448@30	512×288@30	640×360@30	768×448@30
384	640×360@30	768×448@30	768×448@30	640×360@30	768×448@30	768×448@30
512	768×448@30	1024×576@30	1024×576@30	768×448@30	1024×576@30	1024×576@30
768	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30	1024×576@30	1280×720@30	1280×720@30
1152	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@60
1472	1280×720@30	1280×720@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@30	1280×720@60
1920	1280×720@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@30	1280×720@60	1280×720@60
2560	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1920×1080@60
3072	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1280×720@60	1920×1080@60
4000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1280×720@60	1920×1080@60	1920×1080@60
6000	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@30	1920×1080@60	1920×1080@60	1920×1080@60

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

マルチ画面の背景画像の選択

Room Panorama および Room 70 Panorama の両方のデフォルトの動作は、3 画面の背景画像を使用することです。この画像は、システムがアウェイク状態のときに表示されます。

Room 70 Panorama では、コンテンツ画面をメイン画面の上または下に配置できます。

マルチ画面の背景画像を使用している場合は、ブランド機能を使用しないことをお勧めします。

3 画面の背景画像機能をオフにする場合や、別の背景画像に変更する場合は、*UserInterface WallpaperBundle* API コマンドを使用する必要があります。タッチユーザインターフェイスまたは Web インターフェイスからこの操作を実行することはできません。

選択できるマルチ画面の背景画像を確認します。

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle List
```

別の背景画像に変更します。

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Set Name:  
"Name"
```

マルチ画面の背景画像機能をオフにします。

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear
```



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面およびタッチコントローラへの企業ブランディングの追加 (1/3 ページ)

Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[ブランディング \(Branding\)\]](#) を選択します。

このページから、ビデオ会議デバイスに独自のブランディング要素を追加できます。

- ・ 背景ブランド イメージ
- ・ ロゴ
- ・ カスタムメッセージ (*Board では使用できません*)

要素は、デバイスがハーフウェイク状態またはアウェイク状態の場合に表示されます

この章で説明するブランディング機能では、シスコの全体的なユーザーエクスペリエンスを損なうことなく、画面とタッチコントローラの表示をカスタマイズできます。

従来のカスタム壁紙機能ではなく、この機能を使用することをお勧めします。カスタム壁紙機能を使用すると、ワンボタン機能などの機能を使用できなくなります。

ブランディングとカスタム壁紙

ブランド機能とカスタム壁紙は、同時に使用できません。

デバイスでカスタム壁紙がセットアップされている場合は、ブランディング要素を追加する前に [\[カスタム壁紙を無効にする \(Disable the custom wallpaper\)\]](#) をクリックする必要があります。

ブランディングとマルチ画面の背景画像

(Room 70 Panorama および Room Panorama)

マルチ画面の背景画像を使用している場合は、ブランド機能を使用しないことをお勧めします。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

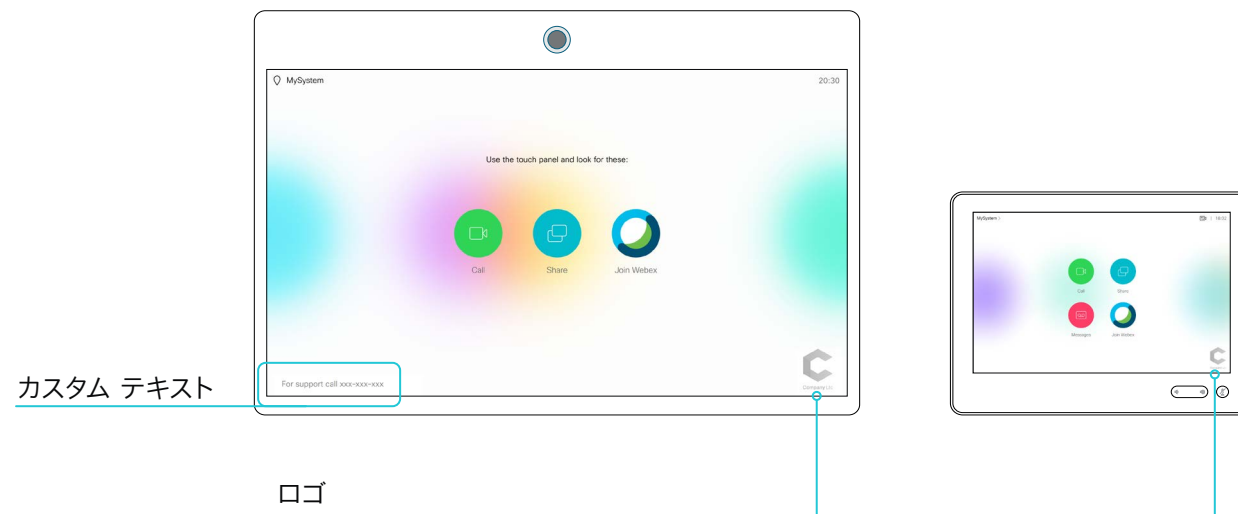
Room Panorama

画面およびタッチコントローラへの企業ブランディングの追加 (2/3 ページ)

アウェイク状態のブランディング

アウェイク状態では、次のことができます。

- ・ 右下隅にロゴを追加する (画面およびタッチコントローラ)
- ・ 左下隅にカスタムテキストを追加する (*Board* では使用できません)
カスタムテキストは画面にのみ表示されます。タッチコントローラには表示されません



カスタム テキスト

ロゴ

推奨事項:

- ・ 黒色のロゴ (デバイスでは不透明度が 40 % の白色のオーバーレイが追加されるため、ロゴおよびその他のユーザ インターフェイス要素が映えます)
- ・ 背景が透明な PNG 形式
- ・ 最小 272 × 272 ピクセル (自動的にスケーリングされます)

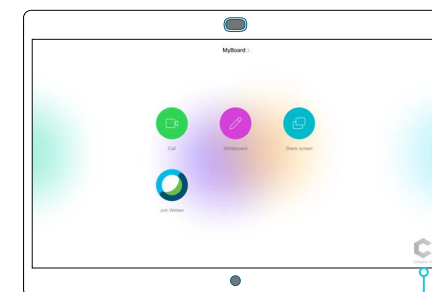
Desk Pro および Desk Limited Edition

カスタム
テキスト



ロゴ

Board



ロゴ

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

画面およびタッチコントローラへの企業ブランディングの追加 (3/3 ページ)

ハーフウェイク状態のブランディング

ハーフウェイク状態では、次のことができます。

- ・ カスタム背景を追加する (画面およびタッチコントローラ)
- ・ 右下隅にロゴを追加する (画面およびタッチコントローラ)

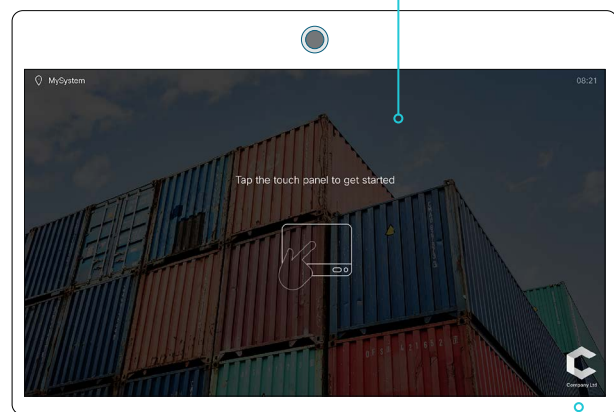
デバイスの使用を開始する手順

画面中央のメッセージ (タッチコントローラではなく、画面のみ) をカスタマイズまたは削除する場合は、[\[ユーザインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[ハーフウェイクメッセージ \(HalfwakeMessage\)\]](#) 設定を使用します。これは、デバイスの使用開始方法をユーザに示すメッセージです。

通常は標準メッセージのままにすることをお勧めします。サードパーティのユーザ インターフェイスがある場合など、別のシナリオに合わせる必要がある場合にのみ、メッセージを変更してください。

カスタム背景

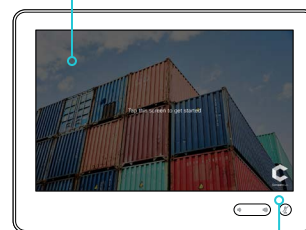
- ・ デバイスが復帰するときに、画像がフルカラーで表示され、数秒後に自動的に淡色表示になります (透明な黒色のオーバーレイ)
- ・ イメージの形式: PNG または JPEG
- ・ 推奨サイズ: 3840 × 2160 ピクセル



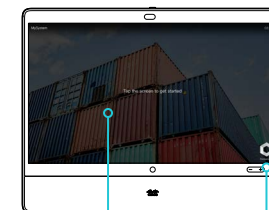
ロゴ

推奨事項:

- ・ 白色のロゴ (暗い背景画像に適合する)
- ・ 背景が透明な PNG 形式
- ・ 最小 272 × 272 ピクセル



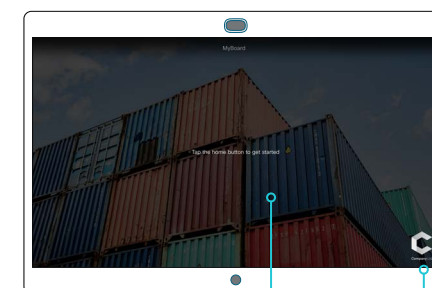
Desk Pro および Desk Limited Edition



カスタム背景

ロゴ

Board



カスタム背景

ロゴ

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

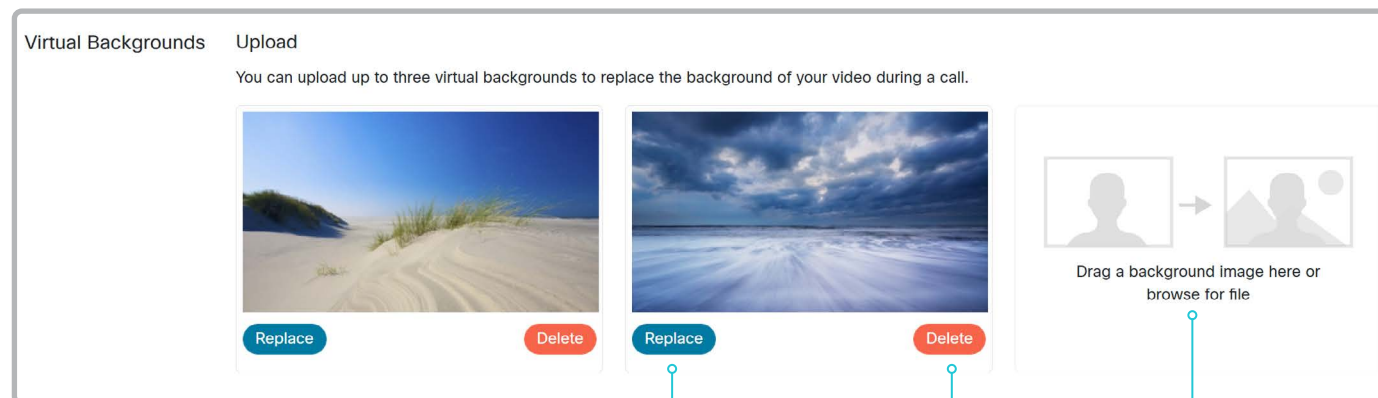
Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

仮想背景の追加

Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[仮想背景 \(Virtual Backgrounds\)\]](#) を選択します。



背景画像の交換

[\[置き換え \(Replace\)\]](#) を使用すると、仮想背景を新しいファイルに置き換えることができます。

背景画像の削除

[\[削除 \(Delete\)\]](#) では、デバイスから仮想背景を完全に削除します。

削除した仮想背景を再度使用する場合は、その仮想背景を再度アップロードする必要があります。

背景画像のアップロード

新しい仮想背景を参照して選択するか、ファイルシステムからファイルを選択して Web インターフェイスにドラッグします。

サポートされるファイル形式: BMP、GIF (アニメーションなし)、JPEG、PNG

ファイルの最大サイズ: 4 MB

仮想背景について

コール中にカスタム画像を背景として使用する場合、最大 3 つの仮想背景をアップロードして使用できます。

コンピュータを接続し、背景としてコンピュータディスプレイを使用することもできます。

ビデオ背景とも呼ばれる仮想背景は、ユーザーインターフェイスから選択できます。[\[自画面 \(Selfview\)\]](#) アイコンをタップして背景オプションを開きます。詳細については [ユーザ ガイド](#) を参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

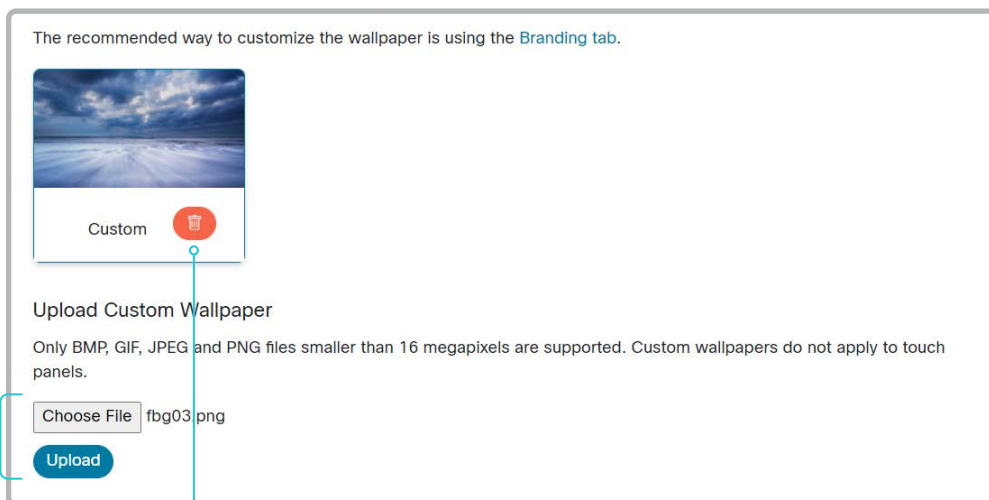
Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタム壁紙の追加

Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[カスタム壁紙 \(Custom Wallpaper\)\]](#) を選択します。



カスタムの壁紙のアップロード

古いカスタム壁紙を上書きします。

1. [\[参照 \(Browse\)\]](#) ボタンを押して、カスタム壁紙のイメージ ファイルを見つけます。
2. [\[アップロード \(Upload\)\]](#) をクリックして、ファイルをデバイスに保存します。
サポートされるファイル形式：
BMP、GIF (アニメーションなし)、
JPEG、PNG

最大ファイル サイズ: 16 メガピクセル

カスタム壁紙をアップロードすると、自動的にアクティブになります。

カスタムの壁紙の削除

[\[削除 \(Delete\)\]](#) をクリックすると、カスタム壁紙がデバイスから完全に削除されます。
削除したカスタムの壁紙を再度使用する場合は、その壁紙を再度アップロードする必要があります。

カスタム壁紙について

カスタム画像を画面の背景にする場合は、カスタム壁紙をアップロードして使用することができます。カスタム壁紙はタッチコントローラには表示されません。

デバイスには一度に 1 枚のカスタム壁紙しか保存できません。以前のカスタム壁紙は新しいカスタム壁紙で上書きされます。

この従来のカスタム壁紙機能ではなく、新しいブランディング機能を使用することをお勧めします。それにより、シスコの全体的なユーザ エクスペリエンスが向上し、ワンボタン機能や会議情報などの機能が使用できなくなることを回避できます。▶ [「画面およびタッチコントローラへの企業ブランディングの追加」](#) の章を参照してください。

ブランディングとカスタム壁紙

ブランド機能とカスタム壁紙は、同時に使用できません。

お使いのデバイスにブランディング要素が設定されている場合は、カスタム壁紙を追加する前に [\[有効 \(Enable\)\]](#) をクリックする必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

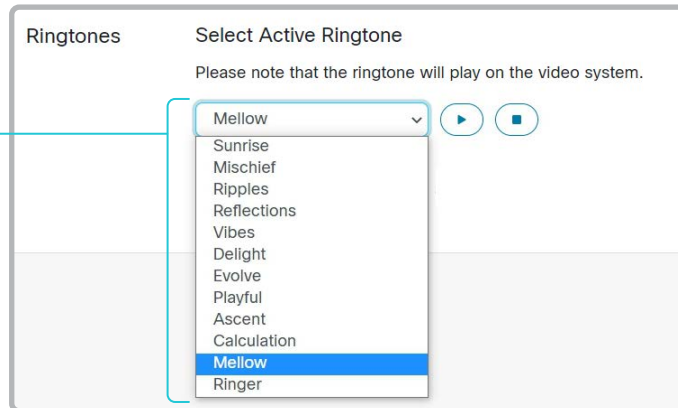
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

着信音の選択と着信音量の設定

Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[着信音 \(Ringtones\)\]](#) を選択します。

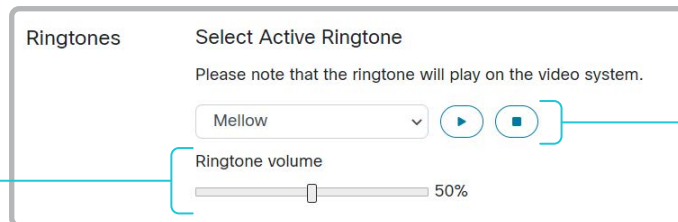
呼び出し音の変更

1. ドロップダウン リストから呼び出し音を選択します。
2. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックすると、それがアクティブな呼び出し音になります。



呼び出し音の音量の設定

呼び出し音の音量を調節するにはスライド バーを使用します。



呼び出し音の再生

呼び出し音を再生するには、再生ボタン (▶) をクリックします。

再生を終了するには、停止ボタン (■) を使用します。

着信音について

デバイスには着信音一式がインストールされています。着信音を選択して音量を設定するには、Web インターフェイスを使用します。

Web インターフェイスから、選択した呼び出し音を再生できます。呼び出し音が再生されるのはデバイス上であり、Web インターフェイスが実行されているコンピュータ上ではないことに注意してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

お気に入りリストの管理

Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[連絡先 \(Contacts\)\]](#) を選択します。

ファイルからの連絡先のインポート

またはエクスポート

ローカルの連絡先をファイルに保存するには [\[エクスポート \(Export\)\]](#) をクリックし、ファイルから連絡先を取得するには [\[インポート \(Import\)\]](#) をクリックします。

ファイルから新しい連絡先をインポートすると、現在のすべてのローカル連絡先は破棄されます。

連絡先を追加または編集する

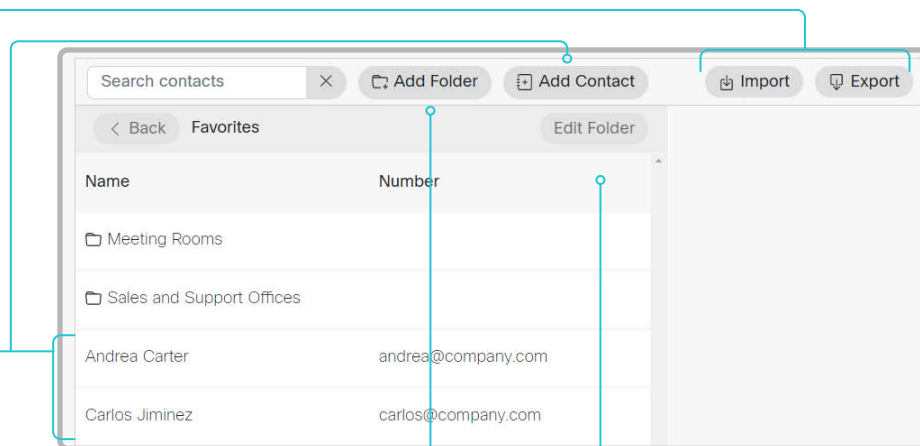
- [\[連絡先を追加 \(Add Contact\)\]](#) をクリックして新しいローカル連絡先を作成するか、連絡先の名前をクリックしてから [\[連絡先を編集 \(Edit Contact\)\]](#) をクリックします。
- ポップアップ表示されたフォームに値を入力するか、そのフォームを更新します。連絡先をサブフォルダに保存するために、フォルダ ドロップダウン リストでフォルダを選択します。

連絡先に関する複数の連絡方法 (ビデオアドレス、電話番号、携帯番号など) を保存する場合は、[\[連絡方法の追加 \(Add Contact Method\)\]](#) をクリックして、新しい入力フィールドに値を入力します。

- [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックしてローカル連絡先を保存します。

コンタクトを削除する

- [\[連絡先を編集 \(Edit Contact\)\]](#) に続いて連絡先の名前をクリックします。
- [\[削除 \(Delete\)\]](#) をクリックしてローカル連絡先を削除します。



サブフォルダを追加または編集する

- [\[フォルダの追加 \(Add Folder\)\]](#) をクリックして新しいサブフォルダを作成するか、一覧表示されたサブフォルダの 1 つをクリックしてから [\[フォルダの編集 \(Edit Folder\)\]](#) をクリックして既存のサブフォルダを変更します。
- ポップアップ表示されたフォームに値を入力するか、そのフォームを更新します。
- [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックしてフォルダを作成または更新します。

サブフォルダを削除する

- フォルダの名前をクリックし、[\[フォルダの編集 \(Edit Folder\)\]](#) をクリックします。
- フォルダとそのすべてのコンテンツおよびサブフォルダを削除するには、[\[削除 \(Delete\)\]](#) をクリックします。ポップアップするダイアログで選択内容を確認します。

デバイスのユーザ インターフェイスによるお気に入りの管理

Board では、これはボード自体ではなくベアリングされたタッチコントローラにのみ適用されます。

お気に入りリストへの連絡先の追加

- ホーム画面の [\[発信 \(Call\)\]](#) を選択します。
- 追加する連絡先を選択します。
- Desk Pro および Desk Limited Edition のみ。
連絡先カードの [\[発信 \(Call\)\]](#) ボタンの下に表示されている 3 つの点を選択します。
- [\[お気に入りに設定 \(Mark as favorite\)\]](#) (Desk Pro および Desk Limited Edition) または [\[お気に入りへの追加 \(Add to favorites\)\]](#) (その他の製品) を選択します。

追加した連絡先は、最上位のフォルダに格納されます。サブフォルダを選択または作成することはできません。

お気に入りリストからの連絡先の削除

- ホーム画面の [\[発信 \(Call\)\]](#) を選択します。
- [\[お気に入り \(Favorites\)\]](#) タブを選択します。
- 削除する連絡先を選択します。
- Desk Pro および Desk Limited Edition のみ。
連絡先カードの [\[発信 \(Call\)\]](#) ボタンの下に表示されている 3 つの点を選択します。
- [\[お気に入り設定を解除 \(Unmark as favorite\)\]](#) (Desk Pro and Desk Limited Edition) または [\[お気に入りの削除 \(Remove favorite\)\]](#) (その他の製品) を選択します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

アクセシビリティ機能のセットアップ

着信時のスクリーンの点滅

聴覚に障がいのあるユーザが着信に気づきやすくするために、着信時にスクリーンが赤色と灰色で点滅するように設定できます。

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[ユーザインターフェイス \(UserInterface\)\]](#) > [\[アクセシビリティ \(Accessibility\)\]](#) > [\[着信コール通知 \(IncomingCallNotification\)\]](#) に移動して、[\[画面表示の強調 \(AmplifiedVisuals\)\]](#) を選択します。
3. [\[Save \(保存\)\]](#) をクリックします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング^(1/2 ページ)

この章では、Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 で導入された手法を使用して、設定やパラメータをデバイス (エンドポイント) にプロビジョニングする方法について説明します。

Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 より前のリリースでは、UCM からデバイスにプッシュできるのは製品固有の設定の一部だけに限定されていました。それ以外のすべての設定については、管理者が Cisco TMS またはデバイスの Web インターフェイスを使用する必要がありました。

CUCM リリース 12.5(1)SU1 以降では、CUCM からプロビジョニングできる設定またはパラメータが増えました。設定のリストは、デバイス上でユーザに表示される内容 (パブリック xConfiguration) と一致しますが、ネットワーク、プロビジョニング、SIP、および H.323 の設定は例外です。

CUCM の詳細については、▶ 『Cisco Unified Communications Manager リリース 12.5(1)SU1機能設定ガイド』の「ビデオエンドポイント管理」の章を参照してください。

設定制御モード

管理者は、導入のニーズに基づいて、CUCM 管理インターフェイスでさまざまな設定制御モードを構成できます。設定を CUCM とデバイスのどちらから制御するか、または両方を使用して制御するかを決定できます。

次のように、さまざまな設定制御モードがあります。

- ・ **Unified CM とエンドポイント (Unified CM and Endpoint)** (デフォルト) : CUCM とデバイスを、デバイス データをプロビジョニングするためのマルチマスター ソースとして動作させる場合は、このモードを使用します。CUCM はデバイスから自動的に xConfiguration データを読み取ります。デバイスでローカルに行われた更新は、即座に CUCM サーバに同期されます。
- ・ **Unified CM** : CUCM が、デバイス データをプロビジョニングするための集中管理型マスター ソースとして動作します。CUCM は、デバイスでローカルに行われた変更をすべて無視します。このような変更は、次回 CUCM が新しい設定をデバイスに適用するときに上書きされます。
- ・ **エンドポイント (Endpoint)** : エンドポイントが設定データのマスター ソースとして動作します。このモードでは、エンドポイントは CUCM からの設定データを無視します。ローカルに行われた変更は同期されません。

このモードは通常、インテグレータがデバイスをインストールし、デバイスからローカルに設定を制御する場合に使用されます。

オンデマンドによるデバイスからの設定の読み込み

管理者は、CUCM で *[デバイスからxConfigを読み込む (Pull xConfig from Device)]* オプションを使用して、デバイスから設定の変更内容をいつでもオンデマンドで読み込むことができます。

このオプションは、デバイスが登録されている場合にのみ有効になります。

サポートされる CE ソフトウェアのバージョン

CE9.8 以降をサポートするすべてのデバイスで、CUCM のこの新しいプロビジョニングレイアウトを使用できます。

デバイスのソフトウェア バージョンが CE9.8 より前の場合は、CUCM のユーザ インターフェイスですべてのパラメータを表示できますが、設定できるのは "# " でマークされているサブセットのみです。"# " は各パラメータ値の右側に表示されます。

パラメータの完全なセットは、デバイスを CE9.8 以降にアップグレードした場合にのみ機能します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング (2/2 ページ)

CUCM からのプロビジョニングのセットアップ

1. CUCM にサインインし、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] に移動して、目的のデバイスを見つけます。
2. [製品固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションを見つけます (図を参照)。
3. [その他 (Miscellaneous)] カテゴリをクリックし、[設定制御モード (Configuration Control Mode)] 設定を見つけます。
使用するモードを、[Unified CM]、[エンドポイント (Endpoint)]、または [Unified CM とエンドポイント (Unified CM and Endpoint)] から選択します (前のページの説明を参照)。
4. デバイスから現在の設定を読み込む場合は、[デバイスから xConfig を読み込む (Pull xConfig from Device)] ボタンをクリックします。
5. カテゴリを選択し、変更する設定の値を指定します。
6. 最後に、以前のバージョンの CUCM での手順と同様に、[保存 (Save)] と [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

オンデマンドによるデバイスからの設定の読み込み

このボタンをクリックすると、デバイスからすべての構成がオンデマンドで読み込まれます。

ハッシュ (#) の付いた設定

Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 以前でも使用できていた設定です。

設定またはパラメータ

選択中のカテゴリに属している設定です。

カテゴリ

デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。これらは、デバイスの Web インターフェイスで表示されるカテゴリと同じです。API コマンド パスにも対応しています。

ただし、[その他 (Miscellaneous)] は例外です。このカテゴリには、CUCM でのみ設定可能な設定が表示されます。これらはデバイスのローカル設定に対応していません。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 3 章

周辺機器

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (1/6 ページ)

ビデオ出力の数は、製品によって異なります。通常、出力は画面または他のタイプのディスプレイに使用されます。Codec Pro および Room 70 G2 でもレコーダの接続がサポートされています。

統合デバイスには、外部画面で使用可能なコネクタに加えて、1つ以上の内蔵画面があります。キットとコーデックには、外部画面専用のコネクタがあります。

デバイスが、利用可能なすべてのモニタにレイアウト（人およびビデオ）を配信します。

論理コネクタ

論理出力は、各出力コネクタに割り当てられます。また、デバイスのコネクタパネルの物理コネクタに接続されていない内蔵画面にも割り当てられます。

論理出力は、次の表のカッコ内に追加されています（コネクタ 1、コネクタ 2 など）

これらは、設定およびステータスパス、および API コマンドで使用される名前です。

最大解像度

高解像度とフレームレートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。

音声サポート

音声は一部の出力でサポートされていない点に注意してください。

製品	ビデオ出力数	内蔵画面で使用	外部画面および他の出力デバイスで使用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Board	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Codec Plus	2	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。それ以外の場合は、HDMI 1 で音声は出力されます。
Codec Pro	3	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 (60 fps)	接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。すべてのコネクタが [自動 (Auto)] に設定されていて、Quad Camera が接続されていない場合、デバイスは HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 の順に再生を試し、最初に成功した画面でオーディオを再生します。Audio Output HDMI [n] Mode については、「デバイス設定」の項を参照してください。
Desk Pro	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Desk Limited Edition	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Room Kit	2	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room Kit Mini	1	なし	HDMI (コネクタ 1)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room 55	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room 55 Dual / Room 70 Dual	2	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	なし		内蔵画面では音声のみ。
Room 70 Single	2	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)		内蔵画面では音声のみ。必要に応じて、外部スピーカーを音声ライン出力コネクタに接続することができます。
Room 70 Dual G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3)		デフォルトでは、統合された画面でのみ音声は再生されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (2/6 ページ)

製品	ビデオ出力数	内蔵画面で使用	外部画面および他の出力デバイスで使用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Room 70 Single G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		デフォルトでは、統合された画面でのみ音声再生されます。
Room 70 Panorama	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	なし		
Room Panorama	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	なし		

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (3/6 ページ)

自動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つのみのデバイスには該当しません。また、すべての画面で動作が事前に定義されている Room 70 Panorama および Room Panorama には関連しません)

デフォルトで画面の数が自動検出され、物理接続に従って、各画面のロール (第 1、第 2、または第 3 画面のいずれを目的としているか) が自動的に設定されます。

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択すると、以下に示す設定が見つかります。

例

画面の総数が 3 台で、[\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合は、次の設定が想定されます。

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニタ \(Monitors\)\]](#): [\[トリプル \(Triple\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 1 \(Connector 1\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[第 1 \(First\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 2 \(Connector 2\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[第 2 \(Second\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ3 \(Connector 3\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[第3 \(Third\)\]](#)

画面の総数が 2 台で [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合は、次の設定が想定されます。

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニタ \(Monitors\)\]](#): [\[二画面表示 \(Dual\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 1 \(Connector 1\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[第 1 \(First\)\]](#)¹
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 2 \(Connector 2\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[第 2 \(Second\)\]](#)¹

手動設定が必要なとき

1 つ以上の設定を手動で行ってデフォルト動作を上書きできません。次のことを行いたい場合に、手動設定が必要になります。

- 画面をプレゼンテーションの表示専用を使用する場合
- レコーダ用の出力の 1 つを使用する場合 ([Codec Pro](#) および [Room 70 G2](#) で使用可能)
- 複数の画面で同じレイアウトを複製する場合
- 最も低い番号のビデオ出力とは別の画面に画面表示メッセージとインジケータ (OSD) を表示する場合 ([Room 55](#) では使用できません)
- 解像度を手動で設定する (デバイスで画面のネイティブ解像度やリフレッシュレートの検出に失敗した場合など)

¹ Room 55 には、明示的な MonitorRole 設定がありません。内蔵画面 (コネクタ 1) は、常にモニタロール [\[第 1 \(First\)\]](#) を想定し、HDMI 出力 (コネクタ 2) に接続されている外部画面は、常にモニタロール [\[第 2 \(Second\)\]](#) を想定します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (4/6 ページ)

手動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つのみのデバイスには該当しません。また、すべての画面で動作が事前に定義されている Room 70 Panorama および Room Panorama には関連しません)

自動設定は、1 つ以上の画面を使用した一般的なシナリオで十分に対応できます。より複雑なシナリオでは、手動セットアップが必要になることがあります。

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択すると、以下に示す設定が見つかります。

各画面のロールの設定

各画面のロールは、[\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#) 設定を使用して定義します。¹

モニターロールは、この出力に接続されている画面に表示されるレイアウト (人およびコンテンツ) を決定します。

同じモニターロールの画面は同じレイアウトになり、別のモニターロールの画面は異なるレイアウトになります。

画面の設定に一致するモニターロールを選択する必要があります。

画面数の設定

[\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#) 設定で、セットアップで使用するレイアウトの異なる画面数を設定します。

多くの場合、異なるレイアウトの数は物理画面の数と同じですが、そうではない場合もあります。まったく同じレイアウトが繰り返して 2 台以上の画面で使用される場合、異なるレイアウトの数は少なくなります。

[自動 (Auto)] に設定した場合、デバイスは、画面がコネクタに接続されているかどうかを自動的に検出します。このため、設置されている画面の数も特定されます。

その他のオプションでは、シングル、デュアル、またはトリプル画面の設定を修正し、1 つの画面をコンテンツ用に予約することができます。

メッセージおよびインジケータを表示する画面の選択

[\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#) 設定を使用して、画面表示のメッセージおよびインジケータを表示する画面を定義します。²

[自動 (Auto)] に設定した場合、使用する画面は、コネクタの数に基づいて自動的に決定されます。

画面の解像度とリフレッシュレートの設定

デバイスは、画面のネイティブの解像度を識別し、可能であればその解像度で出力します。通常は、これにより画面の最適な画像が提供されます。

解像度や更新間隔の自動検出に失敗した場合、[\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[解像度 \(Resolution\)\]](#) 設定を使用して手動で解像度を設定する必要があります。

例

合計 2 台の画面で、2 番目の画面がプレゼンテーションの表示専用になっています。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#):**[デュアルプレゼンテーションのみ (DualPresentationOnly)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**¹
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#):**[1]または [自動 (Auto)]**^{2,3}

合計 3 台の画面があり⁴、第 3 画面をプレゼンテーションの表示専用を設定します。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#):**[トリプルプレゼンテーション専用 (TriplePresentationOnly)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 3 \(Connector 3\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#):**1**

合計 2 台の画面があり、録音デバイス⁴がコネクタ 3 (HDMI) に接続されています。OSD はコネクタ 2 の画面に表示します。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[自動 (Auto)]**
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ3 \(Connector 3\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#):**[レコーダ (Recorder)]**
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#):**2**

¹ Room 55 には、明示的な MonitorRole 設定がありません。内蔵画面 (コネクタ 1) は、常にモニターロール **[第 1 (First)]** を想定し、HDMI 出力 (コネクタ 2) に接続されている外部画面は、常にモニターロール **[第 2 (Second)]** を想定します。

² Room 55 には、OSD 出力設定がありません。OSD は常に内蔵画面に表示されます。

³ Codec Pro および Room 70 G2 の場合は **[1]** に設定し、その他のデバイスの場合は **[自動 (Auto)]** に設定します。

⁴ Codec Pro および Room 70 G2 のみ 3 つの出力をサポートします。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70


Room 70 G2

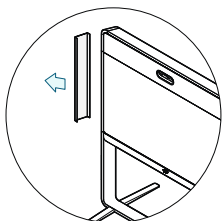
Room 70 Panorama

Room Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (5/6 ページ)

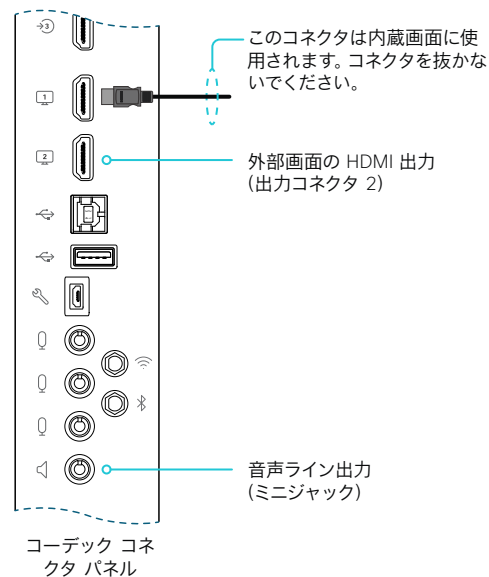
出力コネクタ

 画面および周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。




これらのデバイスのコネクタパネルおよび電源スイッチを扱うには、左側のカバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されています。

Room 70 Single



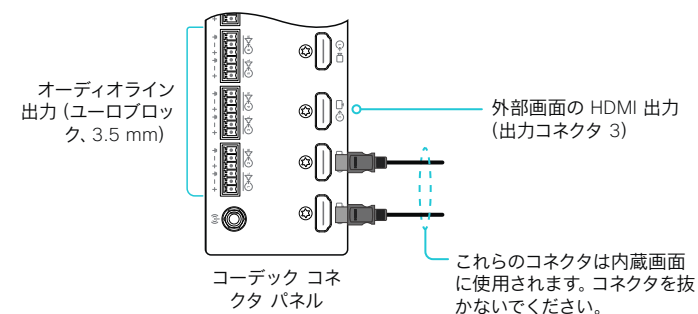
Room 55 Dual および Room 70 Dual

HDMI 出力 (出力コネクタ 1 および 2) はどちらも、内蔵画面で使用されます。コネクタを抜かないでください。

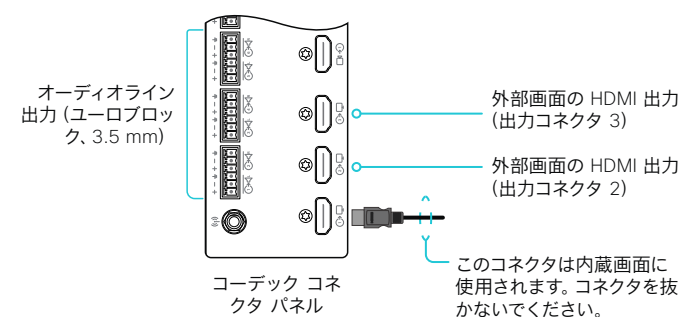
 Room 55 Dual、Room 70、および Room 70 G2 の内蔵画面を切断しないでください。

内蔵画面の接続ではマルチチャネルオーディオを使用し、それによってデバイスのスピーカーシステムが駆動されます。サードパーティ製機器を挿入すると、オーディオ チェーンが壊れて、デバイスに音声に関連する障害が生じる可能性があります。

Room 70 Dual G2



Room 70 Single G2



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70


Room 70 G2

Room 70 Panorama

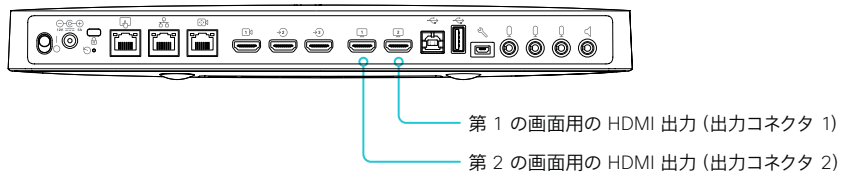
Room Panorama

画面またはその他の出力デバイスの接続 (6/6 ページ)

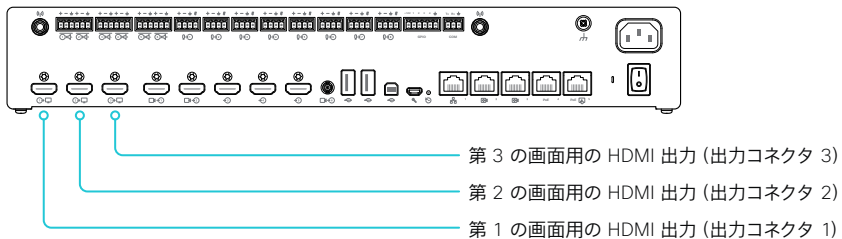
出力コネクタ

 画面および周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

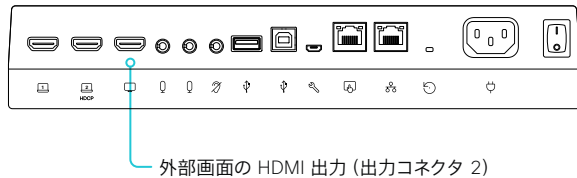
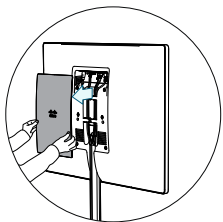
Codec Plus



Codec Pro



Room 55

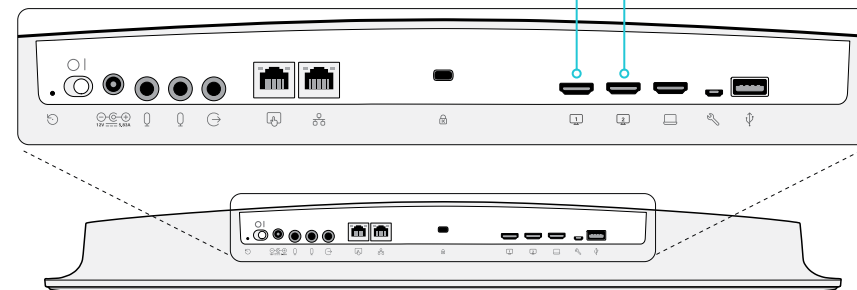


コネクタ パネルおよび電源スイッチを使用するには、背面のカバーを取り外します。

Room Kit

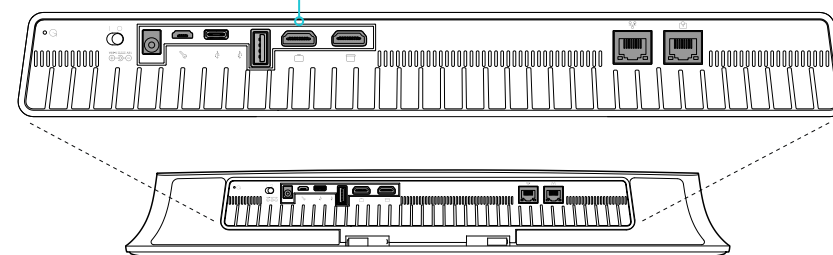
第 2 の画面用の HDMI 出力 (出力コネクタ 2)

第 1 の画面用の HDMI 出力 (出力コネクタ 1)



Room Kit Mini

画面の HDMI 出力 (出力コネクタ 1)



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの接続

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択すると、この章に示す設定が見つかります。

ビデオ入力の数、製品によって異なります。通常、ビデオ入力はカメラとコンピュータ、またその他のコンテンツソースに使用されますが、他の種類のビデオおよびコンテンツソースも接続できます。

入力にコンピュータまたはコンテンツソースを接続している場合は、コンテンツをローカルまたは会議参加者で共有することができます。

統合デバイスには、外部のコンテンツソースに使用できるコネクタに加えて、**内臓カメラ**があります。キットとコーデックには、外部カメラおよびその他のコンテンツソース専用のコネクタがあります。

論理コネクタ

論理入力は、各入力コネクタ、およびデバイスのコネクタパネルの物理コネクタに接続されていない内臓カメラにも割り当てられます。

論理入力は、次のページの表のカッコ内に追加されています (コネクタ 1、コネクタ 2 など)

これらは、設定およびステータスパス、および API コマンドで使用される名前です。

サポートされる解像度

高解像度とフレームレートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。

HDCP を有効にするには、次の設定を使用します。

- [\[Video \(ビデオ\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[HDCP\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)

この設定がオンの場合、指定されたコネクタに接続されているソースからのコンテンツはローカルでのみ再生できます。コール中は他の会議参加者と共有することはできません。これは、コンテンツが HDCP 保護されているかどうかによって適用されます。

ビデオとコンテンツの品質について

ビデオのエンコーディングと送信のときには、高解像度と高フレームレートとの間にトレードオフが存在します。一部のビデオソースでは、高フレームレートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。

モーション (高フレームレート) または鮮明度 (高解像度) に関する品質を最適化するには、[\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[画質 \(Quality\)\]](#) 設定を使用します。

通常、通常のビデオ入力用、および画像の動きが激しい場合には [\[モーション \(Motion\)\]](#) を選択する必要があります。高品質で詳細な画像とグラフィックが必要なときは、[\[シャープネス \(Sharpness\)\]](#) を選択します。



デバイスにより、Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 が検出されると、この設定は自動的に [\[モーション \(Motion\)\]](#) に設定されます。ユーザが手動でこの設定を変更すると、再起動またはカメラの再接続後に [\[モーション \(Motion\)\]](#) に戻ります。

デフォルト値は、カメラで最も頻繁に使用されるコネクタの場合は [\[モーション \(Motion\)\]](#)、プレゼンテーションソースで最も頻繁に使用されるコネクタの場合は [\[シャープネス \(Sharpness\)\]](#) です。表を参照してください

製品	品質のデフォルト設定
Board	コネクタ 2: シャープネス (Sharpness)
Codec Plus	コネクタ 1: モーション (Motion) コネクタ 2: シャープネス (Sharpness) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness)
Codec Pro	コネクタ 1: モーション (Motion) コネクタ 2: モーション (Motion) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness) コネクタ 4: シャープネス (Sharpness) コネクタ 5: シャープネス (Sharpness) コネクタ 6: モーション (Motion)
Desk Pro / Desk Limited Edition	コネクタ 2: シャープネス (Sharpness) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness)
Room Kit	コネクタ 2: シャープネス (Sharpness)
Room Kit Mini	コネクタ 2: シャープネス (Sharpness)
Room 55	コネクタ 2: シャープネス (Sharpness) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness)
Room 55 Dual / Room 70	コネクタ 1: モーション (Motion) コネクタ 2: シャープネス (Sharpness) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness)
Room 70 G2	コネクタ 1: モーション (Motion) コネクタ 2: モーション (Motion) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness) コネクタ 4: シャープネス (Sharpness) コネクタ 5: シャープネス (Sharpness) コネクタ 6: モーション (Motion)
Room Panorama / Room 70 Panorama	コネクタ 1: モーション (Motion) コネクタ 2: モーション (Motion) コネクタ 3: シャープネス (Sharpness) コネクタ 4: シャープネス (Sharpness) コネクタ 5: シャープネス (Sharpness) コネクタ 6: モーション (Motion)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの接続 (2/7 ページ)

入力ソースのタイプと名前の設定

入力ソースのタイプと名前を設定することをお勧めします。

- ・ [\[ビデオ \(Video\)\] > \[入力 \(Input\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[入力ソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#)
- ・ [\[ビデオ \(Video\)\] > \[入力 \(Input\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[名前 \(Name\)\]](#)

これらの設定によって、ユーザ インターフェイスに表示される名前とアイコンが決まります。分かりやすい名前とアイコンを設定すると、ソースを簡単に選択できるようになります。

HDCP サポート

(適用対象: Codec Plus, Codec Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, および Room Panorama)

HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) をサポートするように入力コネクタの 1 つを設定できます。つまり、デバイスで HDCP 保護コンテンツを表示することが許可されます。



これは特定のコネクタにのみ適用されます。以下の表を参照してください。

外部マイクの接続

(適用対象: Room Kit および Room 55)

これらのデバイスは、内蔵マイクに加えて、1 または 2 つの外部マイクをサポートします。Cisco Table Microphone または Cisco TelePresence Ceiling Microphone をお勧めします。

マイク 1 はビデオ システムの内蔵マイクですので注意してください。

カメラの接続

(適用対象: Codec Plus, Codec Pro)

Quad Camera をデバイスに接続する場合は、常にコネクタ 1 を使用します。これは、カメラのスピーカーを通して音声を正しく再生するために必要です。

カメラの接続の詳細については、Room シリーズ製品の設置ガイドをオンラインで参照してください。

入力コネクタの概要

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Board	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) または 1080p (60 fps)	使用不可	
Codec Plus	3	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	Quad Camera: 常にコネクタ 1 を使用 SpeakerTrack 60: コネクタ 1 およびコネクタ 2 を使用 カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 1 つ以上のカメラを接続する場合は、すべてのカメラを制御できるようにするため、イーサネットスイッチが必要です。
Codec Pro	6	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	Quad Camera: 常にコネクタ 1 を使用 SpeakerTrack 60: コネクタ 1 および コネクタ 2 を使用 カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 使用可能な補助イーサネットポートよりも多くのカメラがある場合は、すべてのカメラを制御できるようにするためにイーサネットスイッチが必要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの接続 (3/7 ページ)

製品	ビデオ 入力の数	内蔵カメラ用に 予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Desk Pro	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (60 fps)	使用不可	USB-C: サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張、コンテンツ共有、およびタッチ転送機能用。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモード) でカメラ、マイク、およびスピーカーも使用できるほか、ラップトップの充電 (最大 60 W) も提供します。 HDMI: 画面拡張およびコンテンツ共有用。
Desk Limited Edition	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 3: 1920 × 1080 (60 fps)	使用不可	USB-C: サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張、コンテンツ共有、およびタッチ転送機能用。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモード) でカメラ、マイク、およびスピーカーを使用することもできます。 HDMI: 画面拡張およびコンテンツ共有用。
Room Kit	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps)	使用不可	
Room Kit Mini	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps)	使用不可	
Room 55	3	内部 (コネクタ 1)	HDMI 1 (コネクタ 2) HDMI 2 (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps)	HDMI 2 (コネクタ 3)	
Room 55 Dual / Room 70	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 追加のカメラを接続する場合は、すべてのカメラを制御できるようにするため、イーサネット スイッチが必要です。
Room 70 G2	6	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 使用可能な補助イーサネットポートよりも多くのカメラがある場合は、すべてのカメラを制御できるようにするためにイーサネットスイッチが必要です。
Room 70 Panorama	6	HDMI 1 (コネク タ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラはイーサネットポート 2 経由で制御されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

入力ソースの接続 (4/7 ページ)

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Room Panorama	6	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラはイーサネットポート 2 経由で制御されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70


Room 70 G2

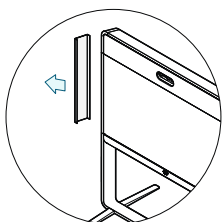
Room 70 Panorama

Room Panorama

入力ソースの接続 (5/7 ページ)

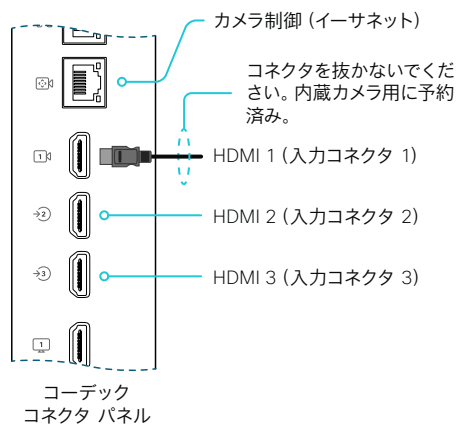
入力コネクタ

 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

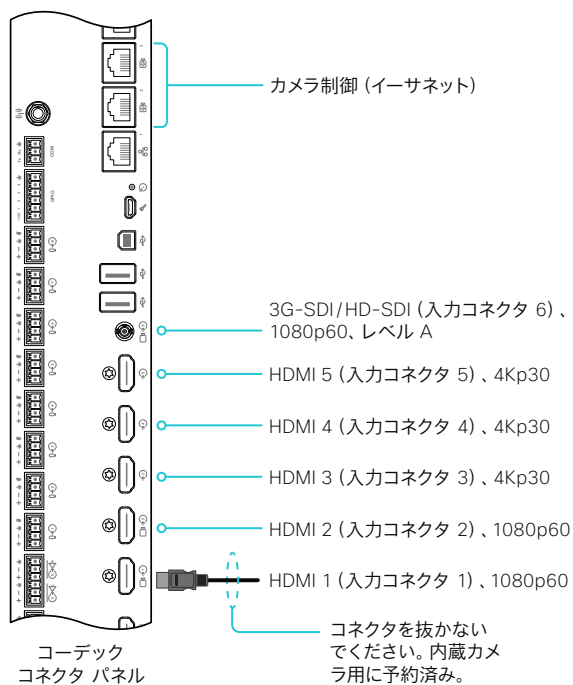


これらのデバイスのコネクタパネルおよび電源スイッチを扱うには、左側のカバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されています。

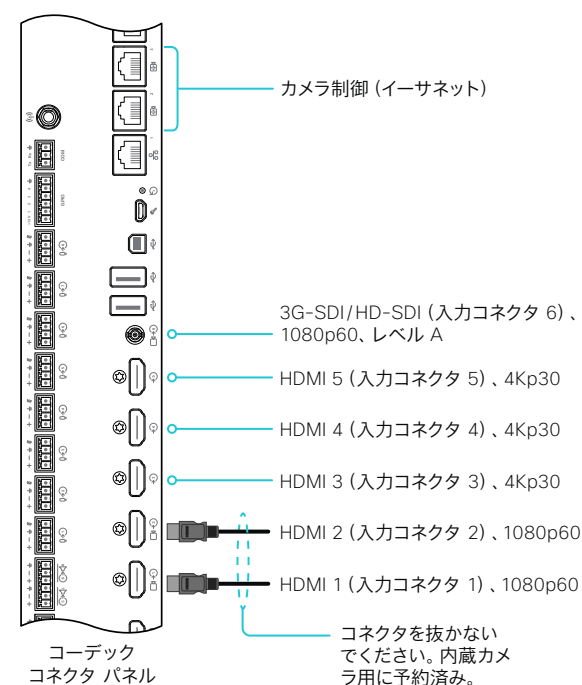
Room 55 Dual および Room 70



Room 70 G2



Room 70 Panorama



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

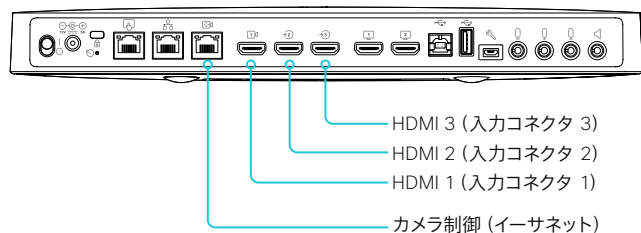
Room Panorama

入力ソースの接続 (6/7 ページ)

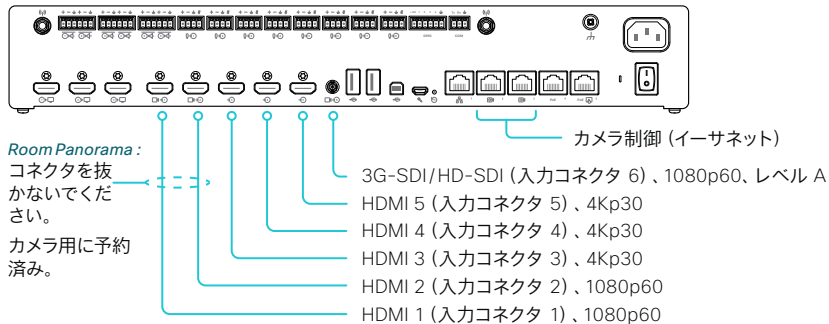
入力コネクタ

⚠ 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

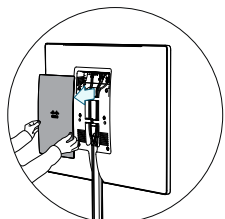
Codec Plus



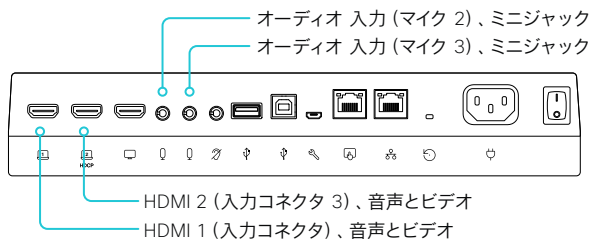
Codec Pro および Room Panorama



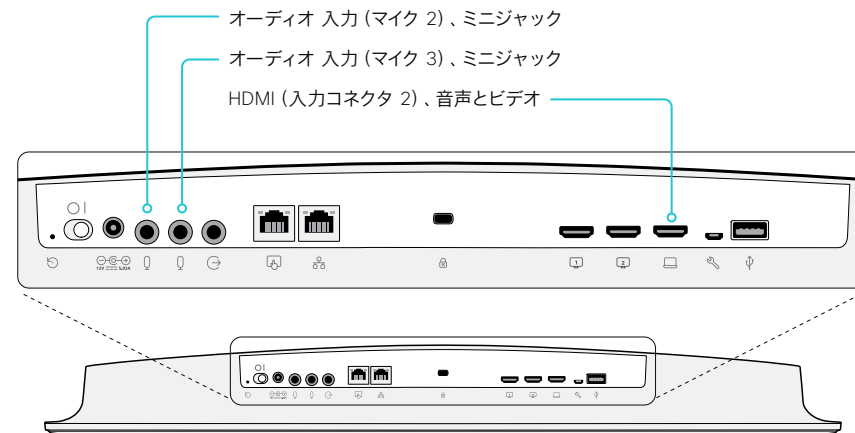
Room 55



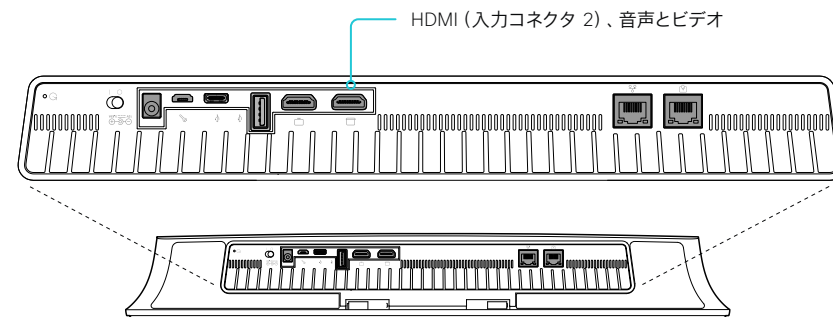
コネクタ パネルおよび電源スイッチを使用するには、背面のカバーを取り外します。



Room Kit



Room Kit Mini



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

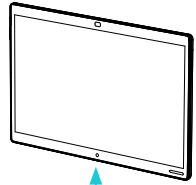
Room Panorama

入力ソースの接続 (7/7 ページ)

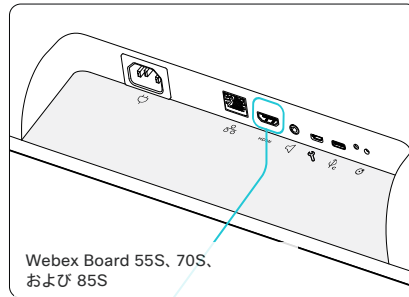
入力コネクタ

⚠ 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

Webex Board

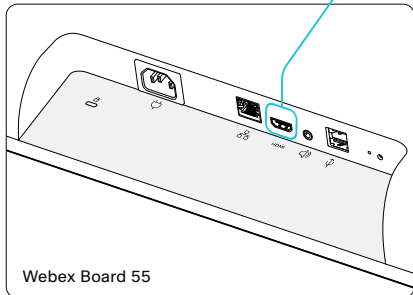


コネクタパネルは下部背面にあります。

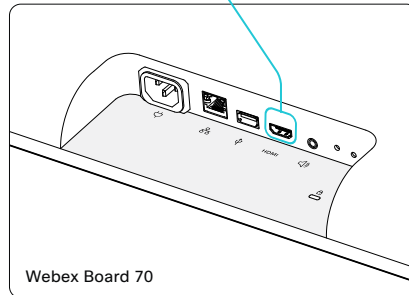


Webex Board 55S, 70S,
および 85S

HDMI (入力コネクタ 2)、音声とビデオ

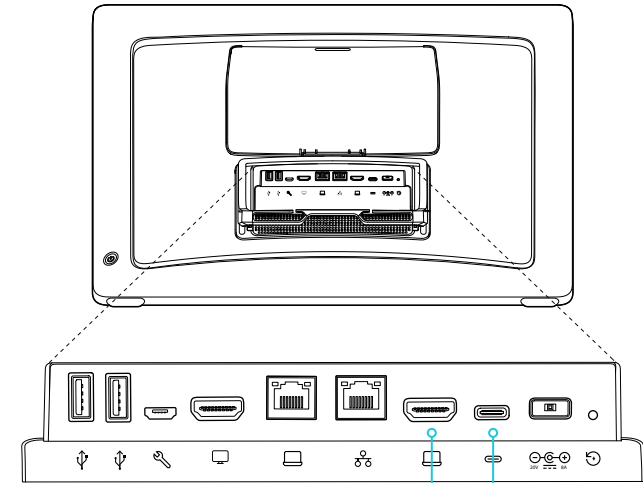


Webex Board 55



Webex Board 70

Desk Pro および Desk Limited Edition



HDMI (入力コネクタ 3)

USB-C (入力コネクタ 2)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

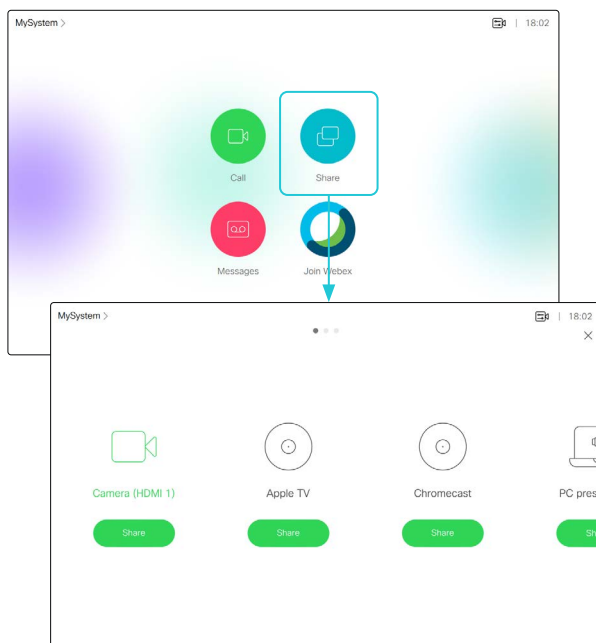
Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソース数の拡大

Cisco のタッチ ユーザ インターフェイスは、サードパーティ製の外部ビデオ スイッチに接続された入力ソースが含まれるようにカスタマイズできます。

ソースは、ビデオ会議デバイスに直接接続されている他のビデオと同じように表示されて動作します。



複数の外部入力ソースがあるユーザ インターフェイス (例)

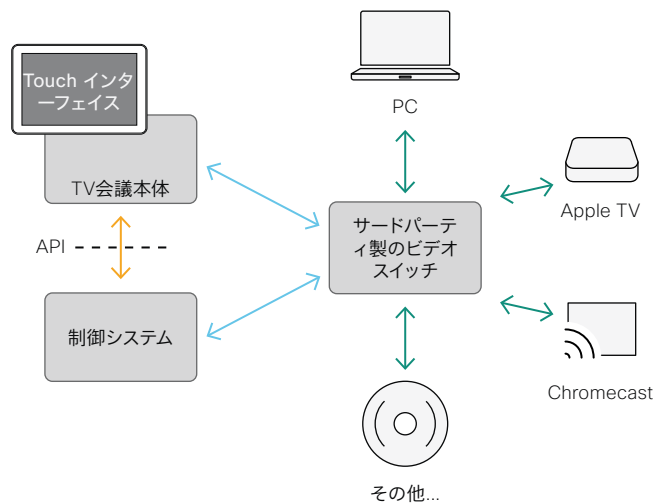
ユーザ インターフェイスを拡張する方法と、それをデバイスの API を使用してセットアップする方法の詳細については、カスタマイズ ガイドをご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

アーキテクチャ

Touch インターフェイスを搭載したシスコのビデオ会議デバイス、サードパーティ製の制御システム (Crestron または AMX など)、およびサードパーティ製ビデオ スイッチが必要です。ビデオ スイッチを制御するのは、ビデオ会議デバイスではなく、制御システムです。

制御システムをプログラミングするとき、ビデオ スイッチや Touch インターフェイスのコントロールに接続するには、ビデオ会議デバイスの API (イベントとコマンド) を使用する必要があります。このようにして、ユーザ インターフェイス上に表示されて実行される事柄と、入力ソースの実際の状態とを同期できます。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ディスプレイについて

ディスプレイの推奨事項

ビデオ会議のテクノロジーリーダーとして、Webex は、サードパーティ製ディスプレイによる高品質な会議エクスペリエンスをさらに確保するために認定プログラムを作成しています。

Webex の認定は、厳密な分析およびテスト仕様を使用して行われます。これらは、エンジニアの意図を正確に再現するパフォーマンスの標準的な評価基準を定義します。

Webex Rooms デバイスは、画質を最適化し、カメラと画面間の遅延を最小化し、強力なスタンバイ処理を実装し、最適なエクスペリエンスを実現するためのその他の手段を実装するように設計されています。

Webex Rooms 認定ディスプレイ

最大限のエクスペリエンスと検証済みの互換性のため、次のディスプレイを使用することをお勧めします。これらのディスプレイは、Webex Room デバイスに接続されている場合に、自動的にこの最適なパフォーマンスを達成することが認定されています。

ベンダー	シリーズ	テスト済みバージョン
Samsung	QMR	2123.0, 2151.0
Samsung	QBR	2123.0, 2151.0
Samsung	Flip 2.0	1080.7

Webex Rooms 対応ディスプレイ

シスコでは、エクスペリエンスと検証済みの互換性のため、次のディスプレイを確認済みです。これらは、エクスペリエンスと互換性に関する基本的な要件を満たしています。

ベンダー	シリーズ	テスト済みバージョン
パナソニック	EQ1	1.50 Cu
LG	UH5F-H	03.02.00
LG	UL3G	03.12.80

その他のディスプレイ

認定ディスプレイを使用しない場合は、最適なエクスペリエンスを提供するためにディスプレイを設定することが重要です。

デフォルトのディスプレイ設定では、ほとんどのディスプレイによる遅延は非常に高い (>100 ms) ことが多いです。これは、リアルタイムの通信品質に悪影響を及ぼす可能性があります。

次のディスプレイの設定によって、この遅延が低下する可能性があります。

- ・ [ゲーム (Game)] モード、[PC] モード、または応答時間 (および通常であれば遅延) を低下させるように設計された同様のモードをアクティブにします。
- ・ 遅延を発生させる、動きを円滑化する機能 (たとえば、「モーションフロー」や「ナチュラルモーション」などのビデオ処理) を非アクティブにする。
- ・ 音響エコーキャンセレーションの誤動作を発生させる [仮想サラウンド (Virtual Surround)] 効果や [ダイナミックコンプレッション (Dynamic Compression)] などの高度な音声処理を非アクティブにします。
- ・ 別の HDMI 入力に変更します。

自動入力切り替えとスタンバイ制御を実現するために、ディスプレイの Consumer Electronics Control (CEC) 機能を手動で有効にする必要がある場合があります。

この機能は次のように利用されます。

- ・ ディスプレイ上のアクティブなビデオ入力は、メーカーのユーザーインターフェイスでユーザが変更できます。したがって、コールが発信されると、ビデオ会議デバイスはアクティブなビデオ入力ソースに照会し、必要に応じてこのソースをそれ自体に戻します。
- ・ ビデオ会議デバイスがアクティブな入力ソースにならずにスタンバイ状態になった場合、ディスプレイはスタンバイ状態に移行しません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

4K 解像度について

コンピュータの接続

コンピュータの接続時にエラーが発生すると、画面とタッチコントローラにメッセージが表示されます。

ビデオ入力コネクタのデフォルトの推奨解像度は 1080p60 (1920_1080_60) です。コンピュータで 4K 解像度を使用する場合は、Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[推奨解像度 \(PreferredResolution\)\]](#) に移動して、値を調整します。

また、接続しているコンピュータのオペレーティング システムが提供するディスプレイ/モニタ設定から解像度を上書きすることもできます。

外部 ディスプレイを接続する

(適用対象: Board, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 70 Panorama, および Room Panorama を除くすべての製品)

デバイスを初めて起動すると、セットアップ アシスタントが自動的に起動します。ここで、外部 ディスプレイの調節や設定のテストができます。画面の指示に従います。

後で外部ディスプレイの設定の調整が必要になった場合は、Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[解像度 \(Resolution\)\]](#) に移動し、画面の解像度を調整します。ディスプレイのサポート内容に応じて解像度を設定してください。

スクリーンが黒くなったりちらつく場合は、解像度を低く設定できます。それでも問題が解決しない場合は、Ultra HD をサポートするディスプレイの HDMI ポートに HDMI ケーブルが接続されていることを確認してください。ディスプレイで HDMI Ultra HD の設定がオンになっていることも確認してください。

シスコでは、Webex Room の認定ディスプレイおよび互換性のあるディスプレイのリストを提供しています。▶ [「ディスプレイについて」](#) の章を参照してください。

チェックリスト

確実な動作のために、シスコに HDMI ケーブルを注文するか、認定 HDMI ケーブルを使用してください。▶ [「HDMI ケーブルについて」](#) の章を参照してください。

ビデオ会議デバイスのコネクタ (入力/出力) が正しく設定されていることを確認してください。

接続されている外部デバイスで 4K がサポートされ、正常に設定されていることを確認します。

4K の使用では高品質ケーブルの必要性が増します。

- 4kp30 は 1080p60 の約 2 倍のデータレートを使用します。
- 4kp60 は 1080p60 の約 4 倍のデータレートを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HDMI ケーブルについて

以下を使用する場合は HDMI ケーブルが必要です。

- ・ プレゼンテーションソース
- ・ 外部カメラ (Board、Desk Pro、および Desk Limited Edition ではサポートされません)
- ・ 外部ディスプレイ (Board、Desk Pro、および Desk Limited Edition ではサポートされません)



確実な動作のために、Cisco に HDMI ケーブルを注文するか、認定 HDMI ケーブルを使用することをお勧めします。

プレゼンテーション ソース用の HDMI ケーブル

プレゼンテーション ソースには、PC/ラップトップ、ドキュメント カメラ、メディア プレーヤー、ホワイトボード、またはその他のデバイスを使用できます。

1920X1080@60fps を超える解像度フォーマットには、必ずハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。確実な動作のために、シスコが提供している HDMI ケーブルを使用するか、高速 HDMI 1.4b カテゴリ 2 仕様準拠のケーブルを使用してください。

HDMI プレゼンテーション ケーブルはシスコに注文 (HDMI 1.4b カテゴリ 2) することをお勧めします。

外部カメラおよびディスプレイ用の HDMI ケーブル

(適用対象: Board、Desk Pro、および Desk Limited Edition を除くすべての製品)

1920X1200@60fps を超える解像度フォーマットには、必ずハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。動作が保証されている範囲については、3840×2160 (60fps) でシスコが事前に選定した HDMI ケーブルを使用するか、またはプレミアム HDMI ケーブル認証プログラムに合格したケーブルを使用します。

HDMI ケーブルの詳細については、▶ <http://www.hdmi.org> を参照してください

* シスコの 4K マルチヘッドケーブル (CAB-HDMI-MUL4K-9M および CAB-HDMI-MUL4K-2M) は、Board、Desk、および Room シリーズのデバイスと互換性があります。これらのケーブルには、HDMI タイプ A ↔ USB-C、Mini ディスプレイポート、および HDMI タイプ A のコネクタが搭載されています。

当社の 1080p マルチヘッドケーブル (CAB-HDMI-MULT-9M) は、これらのデバイスには対応していません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカートラック機能のセットアップ (1/3 ページ)

スピーカートラッキング機能

スピーカートラッキング機能は、デバイスのカメラによって異なります。

最適な全体表示

デジタル顔検出および自動カメラフレーミングは、状況を評価し、室内のすべての人を含むベストオーバービューを構成するために使用されます。このシステムは、室内で参加者が移動したり、新たな参加者が入室した場合に、フレームにすべての人が含まれるように自動的に調整します。

Desk Pro、Desk Limited Edition、および Room Kit Mini はベストオーバービューに制限されています。ただし、このページで説明されているその他のデバイスはオーディオトラッキングも使用しています。これは、クローズアップとグループフレーミングの作成をサポートするために、室内で通話中のスピーカートの位置を特定するために使用されます。

クローズアップ

Desk Pro、Desk Limited Edition、または Room Kit Mini ではサポートされません。

クローズアップが有効になっている場合は、他の参加者を除外して通話中のスピーカートラッキングを見つけてズームインするためにオーディオトラッキングが使用されます。室内のすべての人がカメラフレーム内に常に含まれるようにする場合は、クローズアップ機能をオフにします。

スピーカートのみに焦点を合いたい場合は、いくつかの制限があることに注意してください。カメラの最大ズーム係数と、カメラからのスピーカートの距離によっては、スピーカートのフレーミングを単独で作成できない場合があります。

グループフレーミング

SpeakerTrack 60 カメラ、Desk Pro、Desk Limited Edition、または Room Kit Mini ではサポートされません。

ここでは、通話中のスピーカートラッキングだけでなく、通話中のスピーカートのすぐ近くにいる参加者も含むフレームを作成することで、より自然なユーザエクスペリエンスをシステムで作成することを目指しています。

これには、切り替えの総数を減らすという効果的な影響があります。たとえば、フレーム内の別の人が話し始めた場合に、おそらくカメラは再フレームする必要がありません。

表示の制限

SpeakerTrack 60 カメラ、Desk Pro、Desk Limited Edition、Room Kit Mini、またはパノラマ表示ビデオシナリオでの Room Panorama / Room 70 Panorama ではサポートされません。

表示の制限機能を使用すると、ユーザインターフェイスによって視野角を制限し、部屋の一部を除外することができます。

カメラの仕様

スピーカートラッキングをサポートする内蔵カメラ

(Room Kit、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board)

- カメラはベストオーバービューとクローズアップをサポートしていません。
- グループフレーミングは、すべての内蔵カメラでサポートされています。

Cisco Quad Camera

(Codec Plus および Codec Pro のオプション)

- カメラは、ベストオーバービュー、クローズアップ、グループフレーミングをサポートします。
- 適切なグループフレーミングを見つけることが、通話中のスピーカートのみのクローズアップを作成することよりも優先されます。
- カメラの最大ズーム係数は SpeakerTrack 60 カメラよりも小さいため、カメラから離れているスピーカートラッキングに接近してズームインすることはできません。

Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ

(Codec Plus および Codec Pro のオプション)

- デュアルカメラアセンブリは、ベストオーバービューとクローズアップをサポートする 2 つのカメラで構成されています。
- グループフレーミングはサポートされていません。スピーカートラッキングの変更が検出された場合、ビデオ会議デバイスでは、最適なカメラフレームが常に表示されるように、2 つのカメラを自動的に切り替えます。

ベストオーバービューに制限されたカメラ

(Room Kit Mini、Desk Pro、および Desk Limited Edition)

- ベストオーバービューはサポートされています。
- グループフレーミングとクローズアップはサポートされていません。

スピーカートラッキングをサポートしている製品

次の Cisco 製品がスピーカートラッキングをサポートしています。

- Room Kit
- Room Kit Mini ¹
- Quad Camera 搭載 Codec Plus (Room Kit Plus) または SpeakerTrack 60 カメラ
- Quad Camera 搭載 Codec Pro (Room Kit Pro) または SpeakerTrack 60 カメラ
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room Panorama ²
- Room 70 Panorama ²
- Board
- Desk Pro ¹
- Desk Limited Edition ¹

¹ 完全なスピーカートラッキング機能はサポートされていません。ベストオーバービューのみです。これらの製品については、[\[カメラ \(Cameras\)\] > \[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\] > \[モード \(Mode\)\]](#) 設定がベストオーバービューのオン/オフの切り替えに該当します。

² パノラマ表示ビデオシナリオでは、2 つのカメラのパノラマ表示をオフにすることはできません。この場合、スピーカートラッキングは有効になりません。他のすべてのシナリオでは、スピーカートラッキングは動作し、この章で説明するように設定できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカートラック機能のセットアップ (2/3 ページ)

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択すると、ここに示す設定が見つかります。

スピーカー トラッキングの設定

発言者追跡機能

[\[カメラ \(Camera\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)

この設定は、スピーカートラッキングのオン/オフを切り替えるためのものです。³

自動 (Auto) : スピーカートラッキングはデフォルトでは有効になっています。ユーザは、ユーザインターフェイスのカメラ制御パネルから、モードのオンとオフをすくりに切り替えることができます。または Board では、Board 自体の [\[設定 \(Settings\)\]](#) > [\[詳細設定 \(Advanced Settings\)\]](#) パネルから切り替えることができます。

オフ (Off) : スピーカートラッキングはオフになります。ユーザインターフェイスからオンに切り替えることはできません。

クローズアップ

[\[カメラ \(Camera\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[クローズアップ \(Closeup\)\]](#)

この設定は、[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) が [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合にのみ適用されます。

クローズアップ機能をオンまたはオフにします。

自動 (Auto) : 動作はデバイスのタイプによって異なります。Board では、室内のすべての人を常にカメラフレーム内に含めることを目指します。その他のデバイスは、話している人にズームインします。

オフ (Off) : デバイスは室内のすべての人を常にカメラフレーム内に含めます。

オン (On) : デバイスは通話中のスピーカーにズームインします。

ホワイトボードモード

Room Kit, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, および Room 70 G2 でサポートされています。

[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[ホワイトボード \(Whiteboard\)\]](#) モード

詳細については、▶ [「ホワイトボードへのスナップ機能の設定」](#) の章を参照してください。

³ Desk Pro, Desk Limited Edition, または Room Kit Mini の場合、この設定はベストオーバービューのオン/オフの切り替えに該当します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカートラック機能のセットアップ (3/3 ページ)

トラッキング モード

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

トラッキングモードでは、トラッキングアルゴリズムによって変更が検出されたときに、カメラビューが新しいスピーカーに切り替わる速度を定義します。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [トラッキングモード (TrackingMode)]

自動 (Auto) : これがデフォルト設定です。

低速 (Conservative) : 検出された変更に対するデバイスの反応がより低速になり、カメラビューは遅れて切り替わります。

スピーカートラッキングコネクタの検出

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

ほとんどの場合、デバイスは、*Speaker Track 60* の左右のカメラが接続されている入力を自動的に検出します。自動的に検出されない場合のみ、コネクタ検出モードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [モード (Mode)]

自動 (Auto) : デバイスはビデオ入力を自動的に検出します。

手動 (Manual) : 個々のカメラのビデオ入力を手動で設定します。ビデオ会議デバイスがカメラから Extended Display Identification Data (EDID) 情報を受信しない状況では、手動設定を選択する必要があります。

コネクタ検出モードを [手動 (Manual)] に設定した場合は、左右のカメラが接続されているビデオ入力コネクタを指定する必要があります。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [右カメラ (CameraRight)]

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [左カメラ (CameraLeft)]

SpeakerTrack 60 の左右のカメラが接続されているビデオ入力コネクタの数を設定します。

スピーカートラック機能によってオーバーライドされる設定

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

スピーカートラッキングをオンにすると、次の設定が自動的に変更されます。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ *n* (Connector *n*)] > [画質 (Quality)]

デュアルカメラが接続されているコネクタでは、この設定は常に [モーション (Motion)] に変更されます。両方のコネクタがすでに [モーション (Motion)] に設定されている場合は変更はありません。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ *n* (Connector *n*)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [60fpsのしきい値 (Threshold60fps)]

デュアルカメラが接続されているコネクタ間ですでにこの設定が一致している場合、設定は変更されません。一致していない場合は、2 つのうち、低い方のしきい値が優先されます。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ *n* (Connector *n*)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [プロファイル (Profile)]

デュアルカメラが接続されているコネクタ間ですでにこの設定が一致している場合、設定は変更されません。一致していない場合は、2 つの設定のどちらかの値が、[標準 (Normal)]、[中 (Medium)]、[高 (High)] の順に優先されます。

スピーカートラッキングがオフになっている場合、上記の設定は以前の値に戻されます。これは、ユーザインターフェイスを使用してスピーカートラッキングをオフにした場合でも、[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [モード (Mode)] 設定を使用した場合でも同様です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

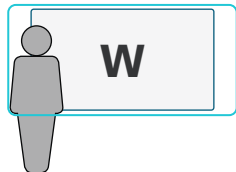
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ホワイトボードへのスナップ機能の設定 (1/3 ページ)

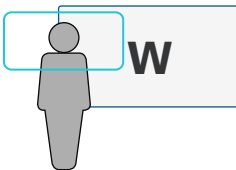
ホワイトボードへのスナップ機能はスピーカー トラッキング機能の拡張です。そのため、SpeakerTrack をサポートするカメラが必要になります。

- Room Kit
- Quad Camera 搭載 Codec Plus (Room Kit Plus) または SpeakerTrack 60 カメラ
- Quad Camera 搭載 Codec Pro (Room Kit Pro) または SpeakerTrack 60 カメラ
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2

ホワイトボードへのスナップ拡張機能を使用すると、ホワイトボードの横にいる人物が話しているときに、カメラがその人物とホワイトボードの両方をキャプチャできます。

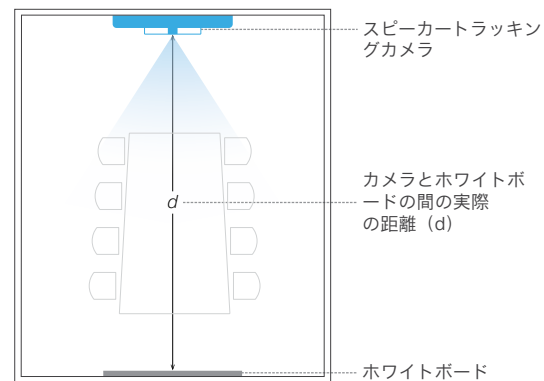


ホワイトボードへのスナップ拡張機能を使用しない場合、カメラは人のみをキャプチャします。



準備

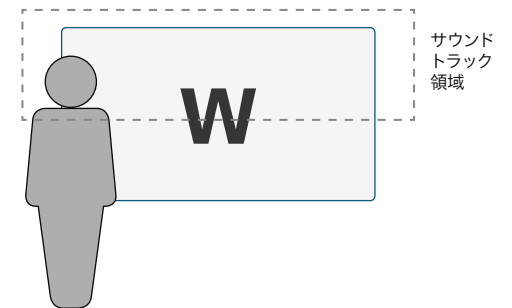
ホワイトボードの位置



図に示すように、ホワイトボードはカメラから部屋の反対側に配置する必要があります。

機能を設定する場合は、カメラとホワイトボード間の正確な距離を知る必要があります。

スピーカーの位置



サウンドトラック領域はホワイトボードの上半分です。

したがって、ホワイトボードでプレゼンテーションを行う人物はホワイトボードの横に直立する必要があります。ユーザは室内を移動できません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ホワイトボードへのスナップ機能の設定 (2/3 ページ)

ホワイトボードへのスナップのウィザードは、次の場合にのみ使用できます。

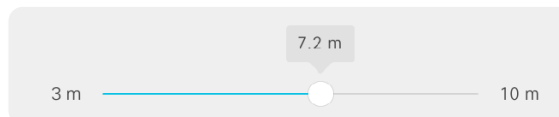
- ・ [カメラ (Camera)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [モード (Mode)] が [自動 (Auto)]

ホワイトボード領域の定義

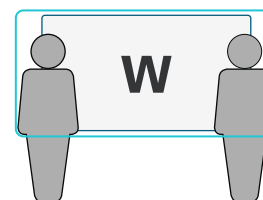
タッチコントローラ上のウィザードを使用して、ホワイトボード領域を定義します。

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスをタップし、[設定 (Settings)] メニューを開きます。
2. [ホワイトボードにスナップする (Snap to Whiteboard)] をタップします。
デバイスで [設定 (Settings)] メニューがパスフレーズによって保護されている場合は、ADMIN ログイン情報でサインインします。
3. ウィザードを開始するには、[設定 (Configure)] または [再設定 (Reconfigure)] をタップします (この機能の設定が初回かどうかによって異なります)。

4. ウィザードの指示に従います。手順をやり直す場合は戻るボタン ← を使用し、次の手順に移動するには次に進むボタン → を使用します。
 - ・ スライダを動かして、カメラとホワイトボードの距離を設定します。距離を正確に測定することが重要です。



- ・ カメラの表示 (パン、チルト、ズーム) を調整してホワイトボードがフレームに入るようにします。両側に話し手のためのスペースを残します。



- ・ SpeakerTrack 60 カメラを搭載した Codec Plus または Codec Pro を使用している場合: 両方のカメラを微調整して (パン、チルト、ズーム)、同じビューが表示されるようにします。
- ・ ホワイトボードの横に立って、話し始めます。
カメラがホワイトボード用に選択したビューにズームする場合は、機能が正しくセットアップされており、使用できる状態になっています。そうでない場合は、右のトラブルシューティングに関する注意事項を参照してください。
- ・ ✓ をタップしてウィザードを閉じ、次に ✕ をタップして設定パネルを閉じます。

トラブルシューティング

ホワイトボードの横に話し手がいるときにカメラがホワイトボードの位置に移動しない場合は、次のことを確認してウィザードで必要な手順をやり直してください。

- ・ ホワイトボードがカメラから部屋の反対側に配置されていることを確認します。
- ・ カメラとホワイトボードの距離が正確に測定されていることを確認します。
- ・ 話し手はホワイトボードの近くにいる必要があります。さらに、音声はホワイトボード領域の上半分から発せられるようにまっすぐに立つ必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

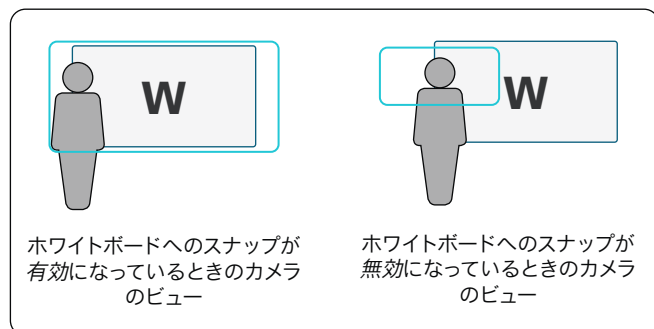
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ホワイトボードへのスナップ機能の設定 (3/3 ページ)

ホワイトボードへのスナップ機能の有効化および無効化

ホワイトボードへのスナップ機能は、タッチコントローラの [設定 (Settings)] メニューまたは Web インターフェイスから有効/無効にできます。

i タッチコントローラで [設定 (Settings)] メニューが開いている (ADMIN パスフレーズで保護されていない) 場合は、会議中または会議と会議の間に任意のユーザがこの機能のオン/オフを切り替えることができます。さらに、任意のユーザが機能を再設定できます。



タッチコントローラから

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスをタップし、[設定 (Settings)] メニューを開きます。
2. [ホワイトボードにスナップする (Snap to Whiteboard)] をタップします。
デバイスで [設定 (Settings)] メニューがパスフレーズによって保護されている場合は、ADMIN ログイン情報でサインインします。
3. トグル スイッチを次のように設定します。

[有効 (Enabled)]: ホワイトボードへのスナップが有効になり、カメラが話し手とその隣りにあるホワイトボードの両方をキャプチャします。

[無効 (Disabled)]: ホワイトボードへのスナップが無効になり、カメラは話し手のみをキャプチャします。

Web インターフェイスから

1. Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。
2. [カメラ (Camera)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [ホワイトボード (Whiteboard)] > [モード (Mode)] 設定を見つけます。

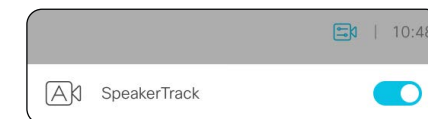
On: ホワイトボードへのスナップが有効になり、カメラが話し手とその隣りにあるホワイトボードの両方をキャプチャします。

Off: ホワイトボードへのスナップが無効になり、カメラは話し手のみをキャプチャします。

スピーカー トラッキングを切り替える方法

ホワイトボードへのスナップ拡張機能が動作するように、いつでもユーザがオン/オフを切り替えることができるスピーカー トラッキングをオンに設定しておく必要があります。

タッチコントローラのステータスバーにあるカメラアイコンをタップし、トグルボタンを使用してスピーカートラックのオン/オフを切り替えます。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

PresenterTrack 機能のセットアップ (1/4 ページ)

PresenterTrack 機能を使用すると、カメラがステージ上のプレゼンターの動きを追跡することができます。プレゼンターがステージを離れると、追跡は停止します。

PresenterTrack をサポートするカメラおよびビデオ会議デバイスは次のとおりです。

- Precision 60 または SpeakerTrack 60 カメラを搭載した Codec Plus
- Precision 60 または SpeakerTrack 60 カメラを搭載した Codec Pro
- Precision 60 を外部カメラとして使用する Room 55 Dual
- Precision 60 を外部カメラとして使用する Room 70
- Precision 60 を外部カメラとして使用する Room 70 G2

機能と制限事項

- セットアップ後は、PresenterTrack 機能のアクティブ化と非アクティブ化の操作をタッチコントローラのカメラパネルで行えます。
- カメラはデジタルパン、チルト、ズームを使用するため、プレゼンターを追跡する間、物理的に移動することはありません。
- PresenterTrack は、ステージ上の 1 人または複数の人物のトラッキングをサポートしています。拡大表示の範囲内に収まらない場合には、カメラはズームアウトしてステージ全体を表示します。
- PresenterTrack は、スタンドアロン機能として、または プリーフィングルーム や クラスルーム のシナリオの一環として使用することができます。
- PresenterTrack 用の SpeakerTrack 60 カメラアセンブリ内のカメラの 1 つを使用するようにデバイスを設定できます。
- PresenterTrack と SpeakerTrack を同時に使用することはできません。
 - PresenterTrack をアクティブにすると、SpeakerTrack は自動的に非アクティブ化します。
 - SpeakerTrack をアクティブにすると、PresenterTrack は自動的に非アクティブ化します。

ただし、これには 1 つ例外があります。プリーフィング ルームおよびクラスルームのシナリオでは、Q&A モードになると (デバイスがローカルプレゼンター モードのときにローカルのオーディエンスが質問した場合)、両方の機能が同時にアクティブになります。

カメラを配置する前の考慮事項

PresenterTrack を設定する際、ステージ エリアとトリガーゾーンを定義する必要があります。ステージ上の後援者を追跡するカメラを配置する際は、位置とこのエリアの使用を考慮に入れてください。

PresenterTrack をセットアップする間、ビデオ会議デバイスとカメラがある部屋で作業することを推奨します。

ステージ エリア

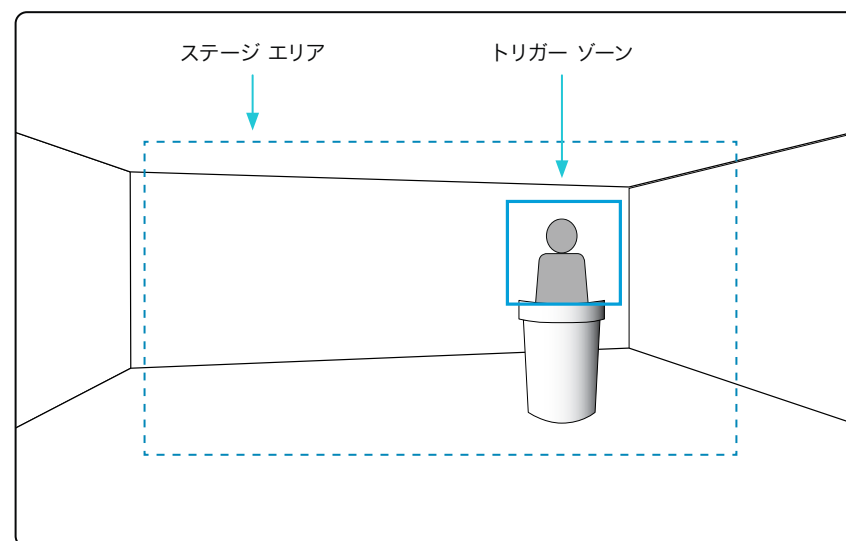
ステージ エリアは、ズームアウトした全体イメージになります。

- 後援者のステージ上の動きを考慮して、このエリアは十分な大きさに設定します。講演者がステージ エリアを離れると、追跡機能は停止します。
- 聴衆またはミーティングの参加者が、室内を自然に移動しても、追跡機能をトリガーしないように設定します。

トリガー ゾーン

PresenterTrack 機能は、カメラがトリガー ゾーン内で顔を検出するまで起動しません。

- プレゼンターが自然にステージに入ってくる場所 (演台や演壇など) を選択します。
- カメラが講演者の顔検出できる範囲の大きさに設定してください。
- 誤って顔を検出することがないように、トリガー ゾーンの背景は無彩色にします。トリガー ゾーンは、スクリーンの手前に設定しないでください。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

PresenterTrack 機能のセットアップ (2/4 ページ)

PresenterTrack 機能のセットアップとテスト

PresenterTrack をセットアップする間、ビデオ会議デバイスとカメラがある部屋で作業することを推奨します。

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動します。[\[音声とビデオ \(Audio and Video\)\]](#) を選択し、[\[プレゼンタートラッキング \(Presenter Track\)\]](#) サブタブを開きます。
2. [\[プレゼンタートラッキングの有効化 \(Enable PresenterTrack\)\]](#) をオンにし、[\[設定 \(Configure\)\]](#) をクリックして設定ページを開きます。

このページを開くと、スタンバイ機能と PresenterTrack 機能が非アクティブ化され、セルフビューが全画面表示になって、デバイスの画面上にトリガー ゾーンの枠が表示されます。

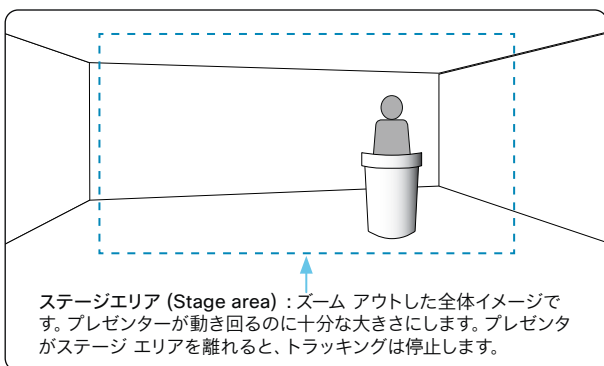


このウェブページを閉じる前に必ず [\[完了 \(Done\)\]](#) をクリックします。でないと、デバイス画面にトリガー ゾーンの枠が表示されたままになります。

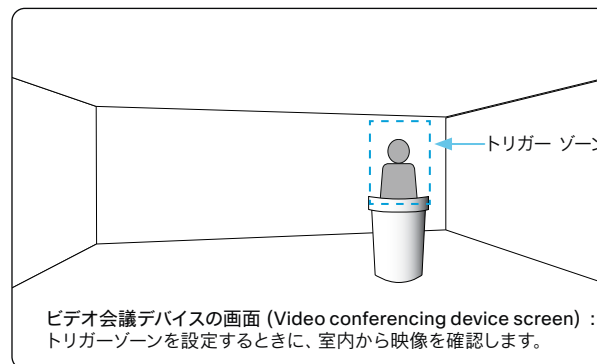
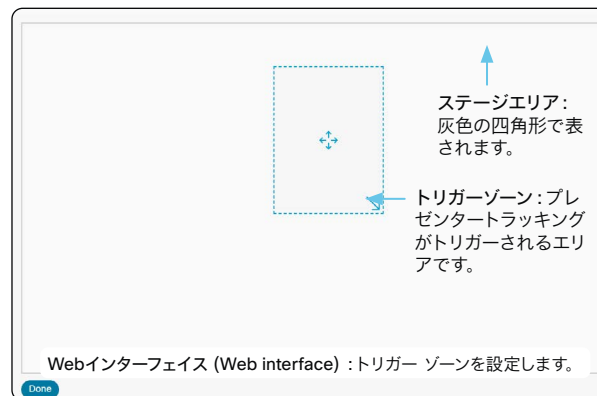
または、タッチコントローラの [\[カメラ \(Camera\)\]](#) アイコンをタップし、リストからカメラ位置を選択して、枠を削除することもできます。

3. [\[カメラソース \(Camera source\)\]](#) ドロップダウンリストからカメラを選択し、タッチコントローラのカメラコントロール (ズーム、パン、チルト) を使用してステージエリアを定義します。

カメラが PresenterTrack 機能をサポートしていない場合は、通知が表示されます。



4. トリガー ゾーンを表す青い破線枠が、Web インターフェイスに表示されます。デバイスの画面を見ながら、枠を移動させてサイズ調整します。カメラのセルフビューにも同じ枠が表示されます。トリガーゾーンが必要な場所に枠を配置します。



より高度な多角形のトリガーゾーンを設定する場合は、サイドバーを参照してください。

5. [\[完了 \(Done\)\]](#) をクリックします。

多角形トリガー ゾーンの設定

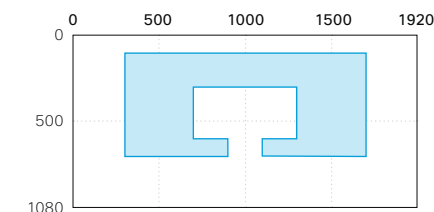
[\[プレゼンタートラッキング \(Presenter Track\)\]](#) Web ページで設定できるトリガーゾーンは、四角形に限られます。

より高度な多角形のトリガーゾーンを定義する場合は、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択して、[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタートラッキング \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[トリガーゾーン \(TriggerZone\)\]](#) 設定を使用する必要があります。

この設定の値は、多角形の頂点の座標ペアで構成される文字列です。

例:

次のトリガーゾーンを定義します。このゾーンには 12 個の頂点があります。このようなトリガーゾーンは、プレゼンターの背後に映りこませたくない画面がある場合に便利です。



頂点の座標は次のとおりです。

(300,100)	(1100,600)	(700,600)
(1700,100)	(1300,600)	(900,600)
(1700,700)	(1300,300)	(900,700)
(1100,700)	(700,300)	(300,700)

対応する設定値は次のとおりです。

[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタートラッキング \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[トリガーゾーン \(TriggerZone\)\]](#) :

300, 100, 1700, 100, 1700,
700, 1100, 700, 1100, 600, 1300,
600, 1300, 300, 700, 300, 700, 600,
900, 600, 900, 700, 300, 700

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

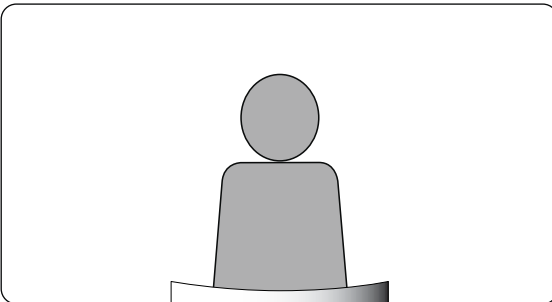
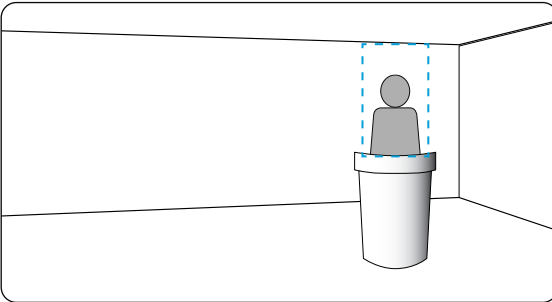
Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

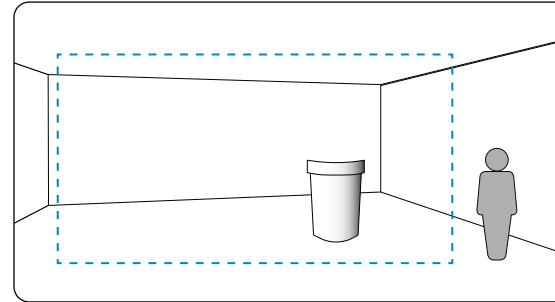
PresenterTrack 機能のセットアップ (3/4 ページ)

- タッチコントローラの右上隅にある **[カメラ (Camera)]** アイコンをタップし、カメラ位置のリストから **[プレゼンター (Presenter)]** を選択します。
プレゼンター トラッキング機能がアクティブ化されます。
- 実際にトリガーゾーン内に入り、カメラがズームインされるか確認します。



- ステージ上を動き回り、カメラが追跡していることを確認します。

- ステージを離れると、プレゼンター トラッキングが停止することも確認します。



何か問題があれば、ステップ 3、4、5 に戻り、ステージ エリアまたはトリガーゾーンのサイズを調整します。

より詳細なトラブルシューティングが必要な場合は、次のページで説明するように、PresenterTrack 診断モードをオンに切り替えることができます。

PresenterTrack の一時的なアクティブ化または非アクティブ化

会議中に、タッチコントローラを使用して、PresenterTrack を一時的にアクティブ化または非アクティブ化できます。

- ステータスバーの **[カメラ (Camera)]** アイコンをタップします。
- カメラ位置のリストで **[プレゼンター (Presenter)]** を選択すると、PresenterTrack がアクティブになります。
カメラ位置のリストで **[プレゼンター (Presenter)]** の選択を解除すると、PresenterTrack が非アクティブになります。

PresenterTrack を非アクティブ化した場合、追跡を開始するためにはプレゼンターが再びトリガーゾーンに入る必要があります。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

PresenterTrack 機能のセットアップ (4/4 ページ)

診断モード

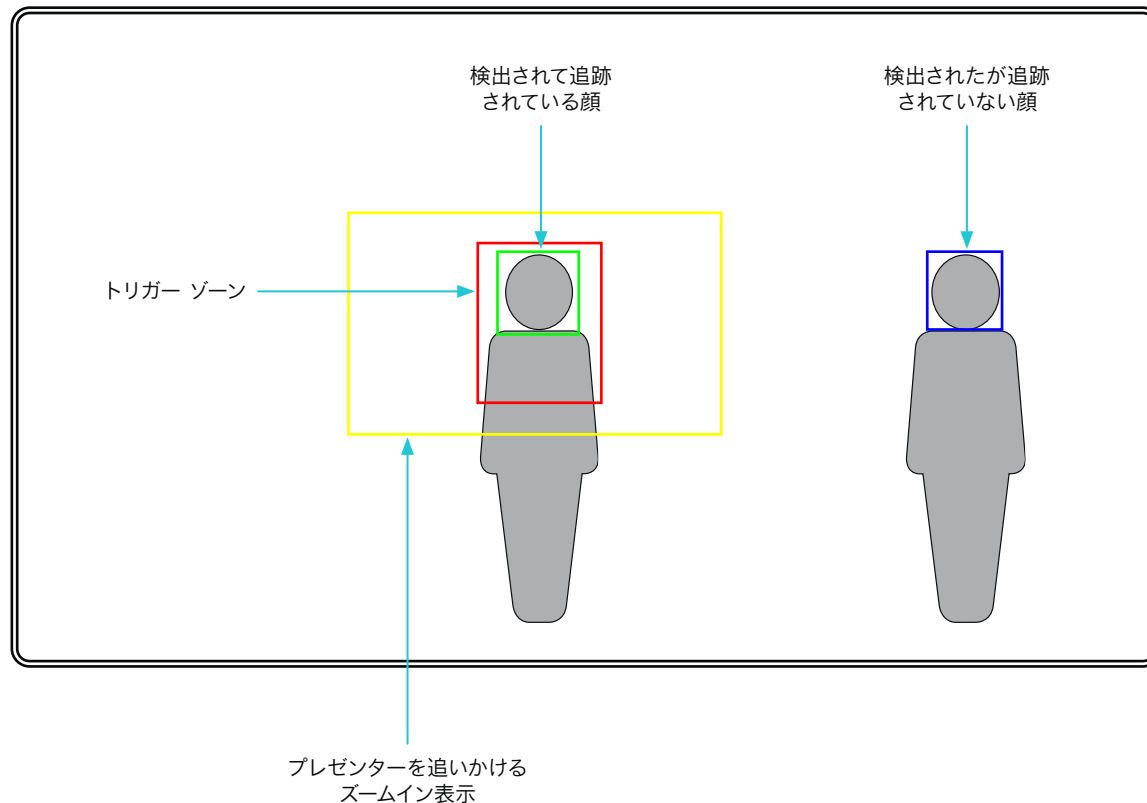
問題のトラブルシューティングを行うときは、PresenterTrack 診断モードが有用なツールとなる場合があります。デバイスを診断モードにするには、デバイスの xAPI を使用する必要があります。

xAPI にログインし、次のコマンドを実行します。

- xCommand Cameras PresenterTrack Set Mode: Diagnostic

このモードでは、画面上のステージエリア（ズームアウトした全体イメージ）と、次のインジケータのあるオーバーレイが表示されます。

- 赤色の枠: トリガー ゾーン。
- 黄色の枠: プレゼンターのズームイン表示。
- 緑色の枠: 検出されて追跡されている顔。
- 緑または赤の点滅枠: 顔検出。緑色は信頼度が高いことを示し、赤色は信頼度が低いことを示します。
- 青色: 顔が検出されましたが、この顔は追跡されません。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ブリーフィングルームのセットアップ (1/7 ページ)

ブリーフィングルームのセットアップによって、ユーザーグループにトレーニングと教育セッションを提供するためのルームの設定、管理、および使用が容易になります。

ブリーフィングルームの設定には、次のように、さまざまなシナリオに対応する定義済みのルームモードがあります。

- ローカル プレゼンタ (プレゼンタは部屋にいる)
- [遠隔地のプレゼンタ (Remote Presenter)] (プレゼンタは電話から)
- ディスカッション (部屋にいるローカルのプレゼンタと異なるサイト間のディスカッション用)

ブリーフィングルームの設定は、ルームタイプテンプレートとして使用できます。テンプレートを使用して部屋のセットアップを行うと、一連の設定がデバイスに自動的にプッシュされます。その部屋が正しくセットアップされていること、およびカメラがこの章の指定どおりに接続されていることが重要です。それ以外の場合、設定はルームと一致しません。

必要な機器

- 次のデバイスのいずれか
 - Codec Pro
 - Room 70 G2
- 3 台のディスプレイ (プレゼンテーション ディスプレイ、遠隔地のプレゼンタ ディスプレイ、遠隔地の聴衆者ディスプレイ)
- 2 台のカメラ (聴衆者カメラとプレゼンタ カメラ)
- マイク
- スピーカー
- Touch コントローラ



ブリーフィングルームのセットアップ

教室とブリーフィング ルームのセットアップの違い

画面の数と画面上のレイアウト分配という点では、教室のセットアップはブリーフィング ルームのセットアップよりも柔軟性があります。また、より多くの製品が教室をサポートしています。

教室

- サポートされる製品: Codec Plus、Codec Pro、Room 55 Dual、Room 70、および Room 70 G2
- デバイスがサポートする画面であればいつでも使用できます。通常は 2 つまたは 3 つです。デフォルトの動作で要件が満たされない場合は、ビデオ モニタ設定を使用して画面上のレイアウト配分を設定する必要があります。

ブリーフィング ルーム

- サポートされる製品: Codec Pro および Room 70 G2
- セットアップには 3 つの画面が必要であり、画面上のレイアウトは、その特定のシナリオに合わせて事前設定 (および固定) されています。

¹ 図は Speaker Track 60 カメラを視聴者カメラとして使用したコーデックを示しています。サポート対象の統合デバイスやその他のサポート対象のコーデックとカメラの組み合わせにも、同じ原則が適用されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

会議室のセットアップ (2/7 ページ)

ルーム モード*

ローカル プレゼンタ モード



プレゼンタは部屋にいます。このモードは、ローカル オーディオエンスの誰かが質問をする場合 (Q&A) にも対応します。

自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンター カメラが室内でプレゼンターを検出すると、デバイスはこのモードに切り替わります。

遠隔地のプレゼンタ モード



プレゼンタは電話をかけています。

自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンター カメラが室内でプレゼンターを検出できなかったときに、デバイスはこのモードに切り替わります。

ディスカッション モード



異なるサイト間のディスカッションの場合、ローカルプレゼンタは部屋にいます。

このモードをアクティブにするには、常にタッチコントローラを使用します。

	ローカル プレゼンタ モード	遠隔地のプレゼンタ モード	ディスカッション モード
遠端に送信されるビデオ	プレゼンタ カメラからビデオを送信します。 Q&A: プレゼンタ カメラからの画面と発表者 (聴衆者カメラ) からの画面を分割したビデオを送信します。	聴衆者カメラからビデオを送信します	聴衆者カメラからビデオを送信します
遠隔地のプレゼンタ ディスプレイ	プレゼンテーションを表示します。	電話をかけているプレゼンタと他のリモート サイトを表示します (レイアウトはローカルで決定できます)。	ディスカッションに参加しているリモート サイトを表示します (レイアウトはローカルで決定できます)。
プレゼンテーション ディスプレイ	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。
遠隔地の聴衆者ディスプレイ	さまざまなサイトから電話をかけているリモート参加者を表示します。	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。

プレゼンテーションがない場合は、対応する画面に何も表示されません (グレー)。

* 図は Speaker Track 60 カメラを聴衆者カメラとして使用したコーデックを示しています。サポート対象の統合デバイスやその他のサポート対象のコーデックとカメラの組み合わせにも、同じ原則が適用されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

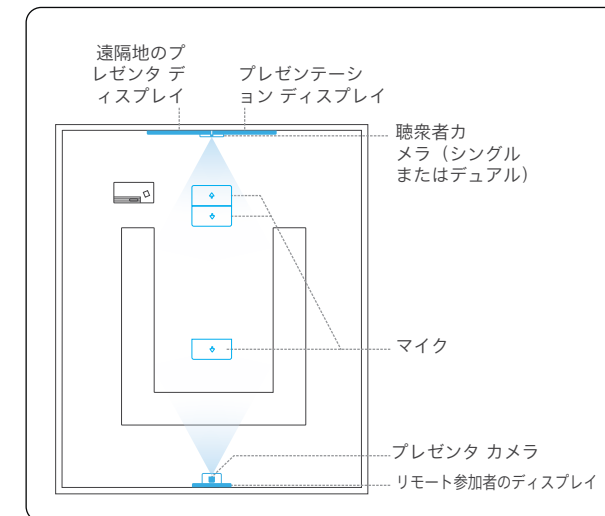
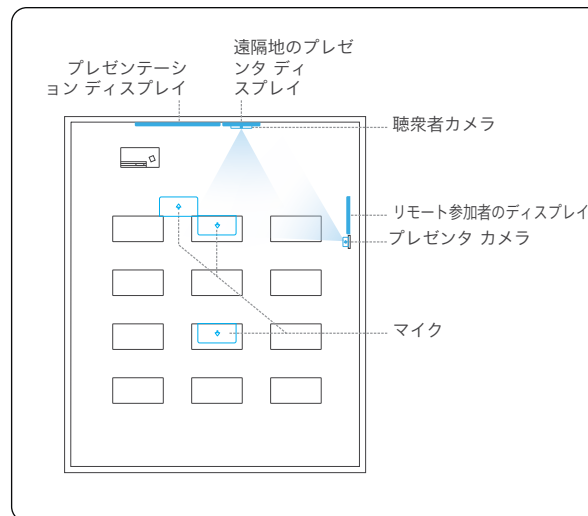
会議室のセットアップ (3/7 ページ)

部屋の配置例

これらの図は、画面、カメラ、マイク、および最適なエクスペリエンスのためのスタッフの配置の例を示しています。

推奨事項

- ・ **遠隔地のプレゼンタ ディスプレイ:** 正面に配置された第 1 画面。統合デバイスの場合、これがデバイスの画面 (左側) です。
- ・ **プレゼンテーション ディスプレイ:** 正面に配置された第 2 画面。2 つの画面を使用する統合デバイスの場合、これがデバイスの右側画面です。
- ・ **リモート参加者のディスプレイ:** 3rd スクリーンは、ローカルのプレゼンターがリモートのユーザを表示できるように、横に配置されています。または背面に配置されています。
- ・ **聴衆者カメラ:** ビデオ会議デバイスにカメラが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。そうでないデバイスの場合は、Cisco Quad Camera または Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラを推奨します。通常はスピーカー トラッキング機能が備わっているカメラを推奨しますが、この機能が備わっていないカメラを使用することも可能です。
- ・ **プレゼンタ カメラ:** プレゼンタ トラッキングが有効にされた Cisco TelePresence Precision 60。
- ・ **マイク:** 部屋を十分カバーする Cisco TelePresence 天井マイクを推奨します。他のマイク ソリューションを使用することもできます。
- ・ **スピーカー:** ビデオ会議デバイスにスピーカーが搭載されている場合は、そのスピーカーを使用します。その他のデバイスでは、室内正面のプレゼンテーションディスプレイの横に高品質のステレオスピーカーを設置することをお勧めします。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

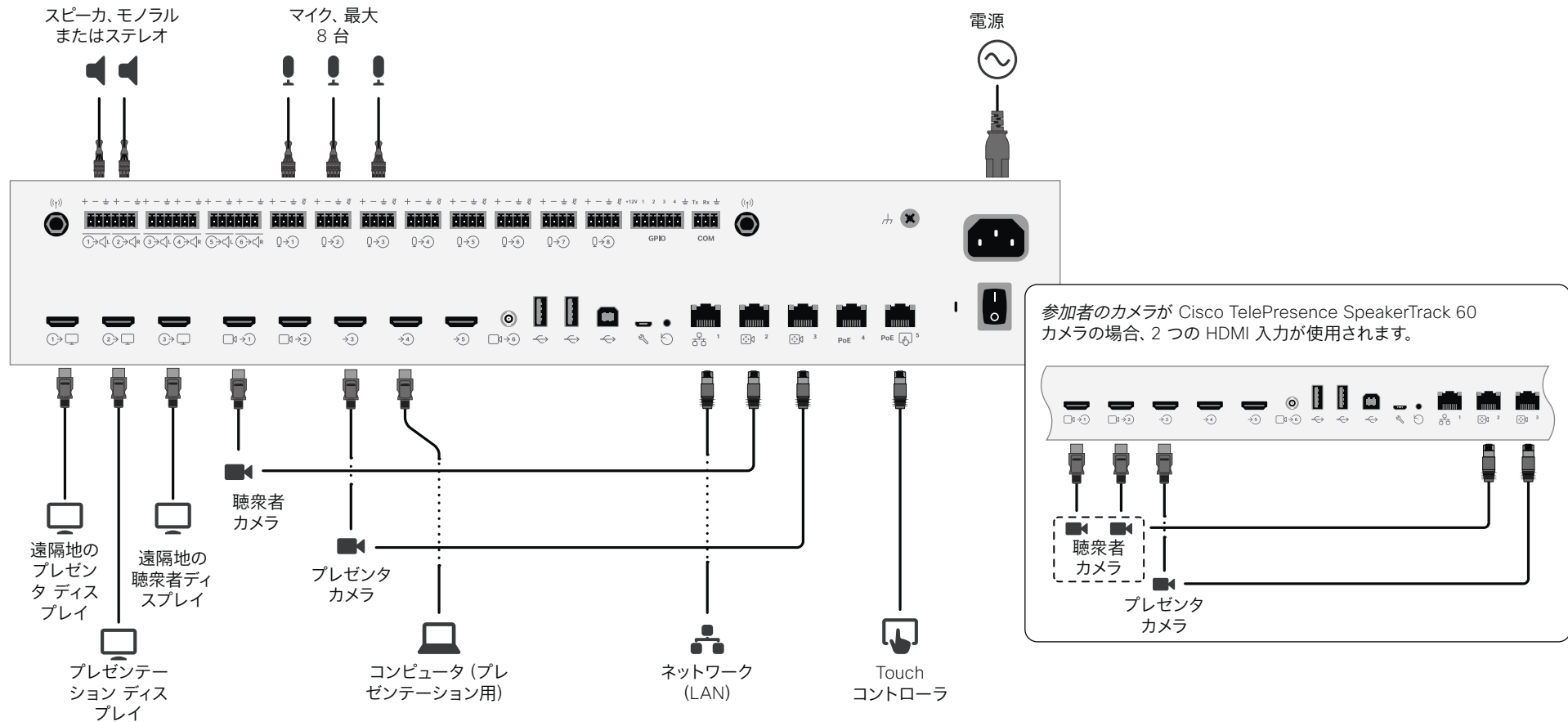
Room 70 Panorama

Room Panorama

会議室のセットアップ (4/7 ページ)

Codec Pro: ケーブルの接続

! 図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、フリーフィンガールームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

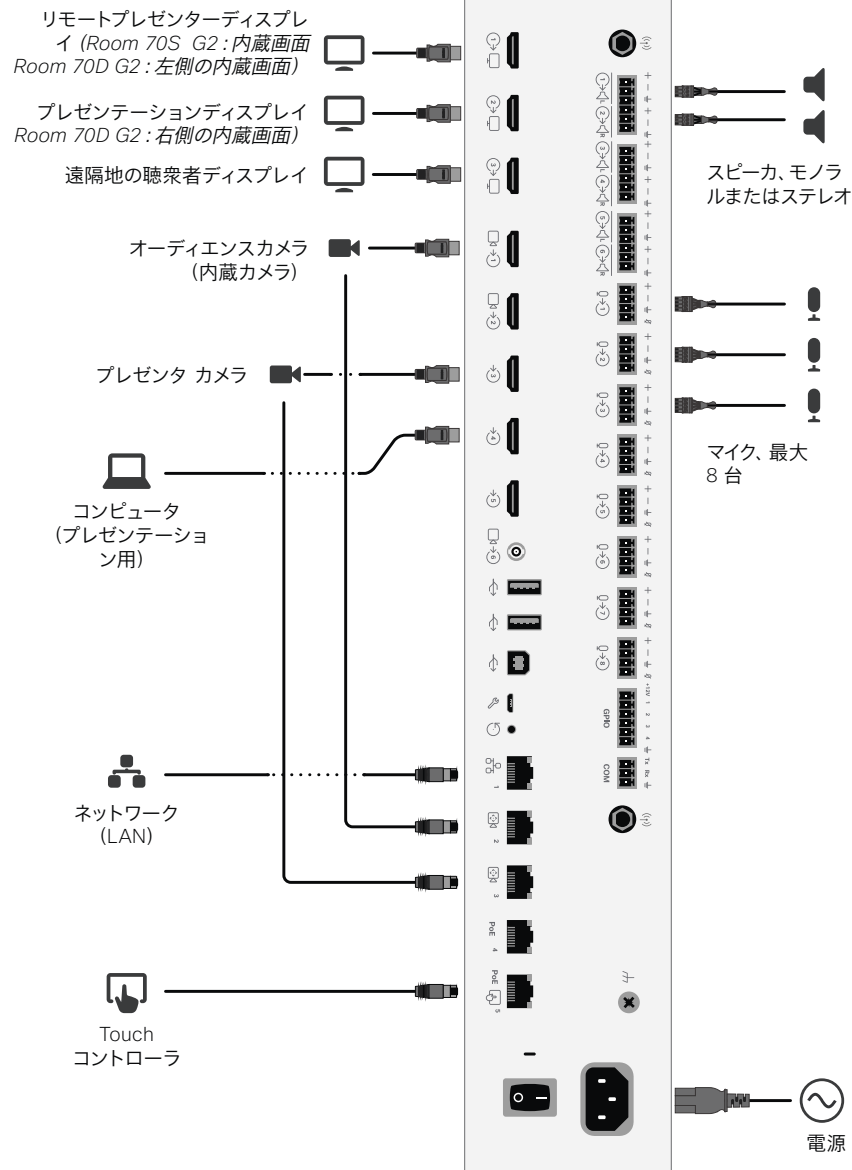
会議室のセットアップ (5/7 ページ)

Room 70 G2: ケーブルの接続



図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、ブリーフィングルーム タイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。



会議室のセットアップ (6/7 ページ)

デバイスの設定

ブリーフィングルームを設定するときは、同じ室内にいることを推奨します。それ以外の場合、PresenterTrack を適切に設定することはできません。

1. 前のページの説明に従って、カメラとスクリーンを接続します。
2. プレゼンタカメラからのビデオの共有を停止するには、タッチコントローラを使用します。ブリーフィングルームの設定中は、プレゼンタカメラからのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
4. [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ 3 \(Connector 3\)\]](#) に移動して、次のように設定します。
 - [\[入力ソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#): [カメラ (camera)]
 - [\[プレゼンテーション選択 \(PresentationSelection\)\]](#): [手動 (Manual)]
 - [\[品質 \(Quality\)\]](#): [モーション (Motion)]
 - [\[可視性 \(Visibility\)\]](#): [なし (Never)]
 - [\[カメラ制御モード \(CameraControl Mode\)\]](#): [オン (On)]

[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
5. プレゼンタカメラの PresenterTrack を設定します。▶ 「PresenterTrack 機能のセットアップ」の章を参照してください。
PresenterTrack 機能を使用すると、プレゼンタがステージ上を移動している間、カメラがプレゼンタを追跡します。
6. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタートラック \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[プレゼンタ検出ステータス \(PresenterDetectedStatus\)\]](#) を見つけて、[\[ローカルプレゼンター \(Local Presenter\)\]](#) モードと [\[遠隔地のプレゼンター \(Remote Presenter\)\]](#) モードの自動切り替えを有効にするか (デフォルト)、無効にするかを選択します。
[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
7. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ルームタイプ \(Room Types\)\]](#) を選択します。[\[ブリーフィング \(Briefing\)\]](#) サムネイルをクリックして、対応する設定をデバイスにプッシュします。

ルームモード間の切り替え

ルーム モード (ローカル プレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) を切り替えて、カメラの入力ソースとリモートおよびローカルの画面レイアウトを変更するには、次の 2 つの方法があります。

- 自動。誰が発言しているか、およびローカル プレゼンタがステージにいるかどうかによって、自動的に変更します。
自動では、ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。現在のモードが [\[ディスカッション \(Discussions\)\]](#) の場合、ルーム モードは自動的に変更されません。
自動的な切り替えは、この機能が有効になっている場合のみサポートされます ([\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[PresenterTrack\]](#) > [\[有効 \(Enabled\)\]](#) が True に設定されている場合)。
- 手動。タッチコントローラのボタンを使用して変更します。

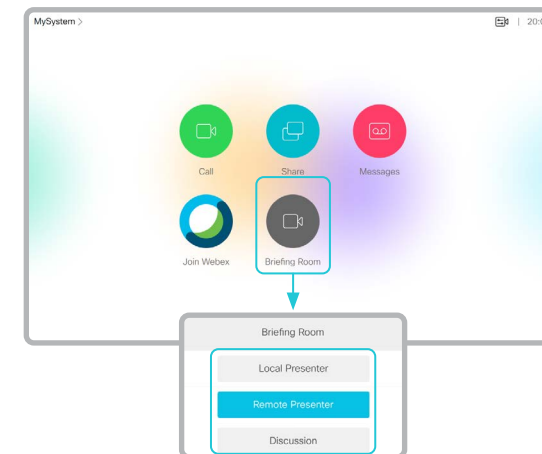
自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタートラックのトリガー ゾーンで検出されると、デバイスは [\[ローカル プレゼンタ \(Local Presenter\)\]](#) モードに切り替えます。
- 追跡されているローカルプレゼンターがステージから退出すると、デバイスはリモートプレゼンターモードに切り替わります。
- デバイスがローカルプレゼンターモードのときにローカルオーディエンスが質問すると、デバイスはプレゼンターと質問者の両方を表示する分割画面のビデオを送信します。これには、聴衆者カメラとして Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 または Cisco Webex Quad Camera が必要となり、スピーカー トラッキングがオンにされている必要もあります。

手動でのルームモードへの切り替え

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切替えることができます。

1. タッチコントローラで [\[会議室 \(Briefing Room\)\]](#) をタップします。
2. 変更するモードを [\[ローカルプレゼンター\]](#)、[\[リモートプレゼンター\]](#)、または [\[ディスカッション \(ディスカッション\)\]](#) のいずれかをタップします。現在のビューは、強調表示されます。



Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

会議室のセットアップ (7/7 ページ)

制限事項

ブリーフィングルームを使用している場合は機能しません。

- ・ MultiSite (内蔵マルチポイント スイッチ)
- ・ プロキシミティ クライアントへのコンテンツ共有
- ・ 指向性オーディオ
- ・ ホワイトボードへのスナップ
- ・ アクティブ コントロール (CMS からのレイアウト選択)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室のセットアップ (1/8 ページ)

教室セットアップでは、ユーザグループにトレーニングと教育セッションを提供するために、ルームの設定、管理、および使用が容易になります。

教室のセットアップは、ルームタイプテンプレートとして使用できます。テンプレートを使用して部屋のセットアップを行うと、一連の設定がデバイスに自動的にプッシュされます。その部屋が正しくセットアップされていること、およびカメラがこの章の指定どおりに接続されていることが重要です。それ以外の場合、設定はルームと一致しません。

必要な機器

- 次のデバイスのいずれか
 - Codec Plus
 - Codec Pro
 - Room 55 Dual
 - Room 70
 - Room 70 G2
- 1 つ以上の画面 (構成可能)
- 2 台のカメラ (聴衆者カメラとプレゼンタ カメラ)
- マイク
- スピーカー
- Touch コントローラ

制限事項

教室では、次の機能はサポートされていません。

- MultiSite (内蔵マルチポイント スイッチ)
- プロキシミティ クライアントへのコンテンツ共有
- 指向性オーディオ
- ホワイトボードへのスナップ

ルーム モード

教室のセットアップは、事前定義されたルーム モード (ローカル プレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) に基づいて調整されます。

ローカル プレゼンタ モード

- プレゼンタは部屋にいます。このモードは、ローカル オーディエンスの誰かが質問をする場合 (Q&A) にも対応します。
- 自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタカメラが室内でプレゼンタを検出すると、デバイスはこのモードに切り替わります。
- プレゼンタ カメラから遠端にビデオを送信します。Q&A の場合、プレゼンタ カメラからの画面と質問者 (聴衆者カメラ) からの画面を分割したビデオを遠端に送信します。

遠隔地のプレゼンタ モード

- プレゼンタは電話をかけています。
- 自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタカメラが室内でプレゼンタを検出できなかったときに、デバイスはこのモードに切り替わります。
- 聴衆者カメラから遠端にビデオを送信します

ディスカッション モード

- 異なるサイト間のディスカッションの場合。ローカルプレゼンタは部屋にいます。
- このモードをアクティブにするには、常にタッチコントローラを使用します。
- 聴衆者カメラから遠端にビデオを送信します

教室とブリーフィング ルームのセットアップの違い

画面の数と画面上のレイアウト分配という点では、教室のセットアップはブリーフィング ルームのセットアップよりも柔軟性があります。また、より多くの製品が教室をサポートしています。

教室

- サポートされる製品: Codec Plus、Codec Pro、Room 55 Dual、Room 70、および Room 70 G2
- デバイスがサポートする画面であればいくつでも使用できます。通常は 2 つまたは 3 つです。デフォルトの動作で要件が満たされない場合は、ビデオ モニタ設定を使用して画面上のレイアウト配分を設定する必要があります。

ブリーフィング ルーム

- サポートされる製品: Codec Pro および Room 70 G2
- セットアップには 3 つの画面が必要であり、画面上のレイアウトは、その特定のシナリオに合わせて事前設定 (および固定) されています。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室のセットアップ (2/8 ページ)

部屋の配置例

これらの図は、画面、カメラ、マイク、および最適なエクスペリエンスのためのスタッフの配置の例を示しています。

推奨事項

聴衆者カメラ:

- ビデオ会議デバイスにカメラが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。そうでないデバイスの場合は、Cisco Quad Camera または Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラを推奨します。通常はスピーカー トラッキング機能が備わっているカメラを推奨しますが、この機能が備わっていないカメラを使用することも可能です。

プレゼンタ カメラ:

- プレゼンタ トラッキングが有効にされた Cisco TelePresence Precision 60。

マイク:

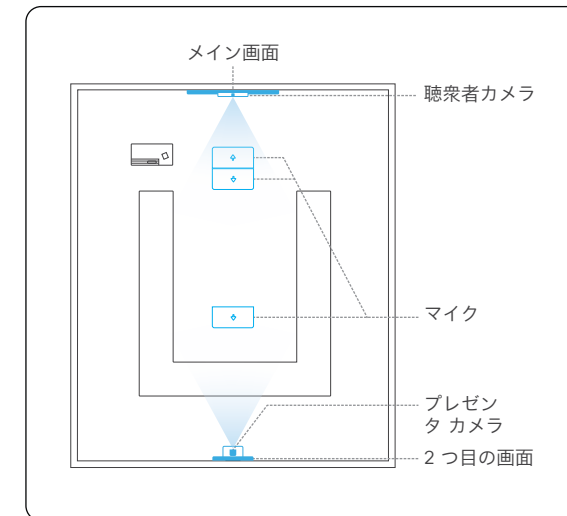
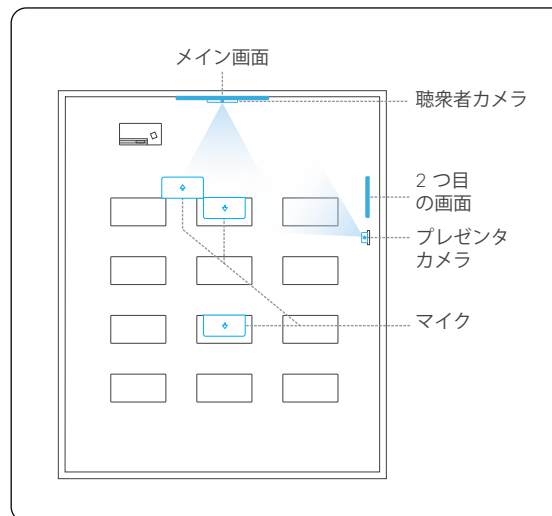
- 部屋を十分カバーする Cisco TelePresence 天井マイクを推奨します。他のマイク ソリューションを使用することもできます。

スピーカー:

- ビデオ会議デバイスにスピーカーが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。そうでない機器の場合は、室内正面のメイン画面の横に高品質のステレオ スピーカーを設置することを推奨します。

画面:

- 1 つ以上の画面を使用できます (画面の最大数はデバイスのタイプによって異なります)。
- ほとんどの設定では、2 つの画面を使用することを推奨します。メイン画面をルームの前面に配置します。ローカルのプレゼンターがリモートのユーザを表示できるように、2 つ目の画面を側面に配置するか、または背面に配置します。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

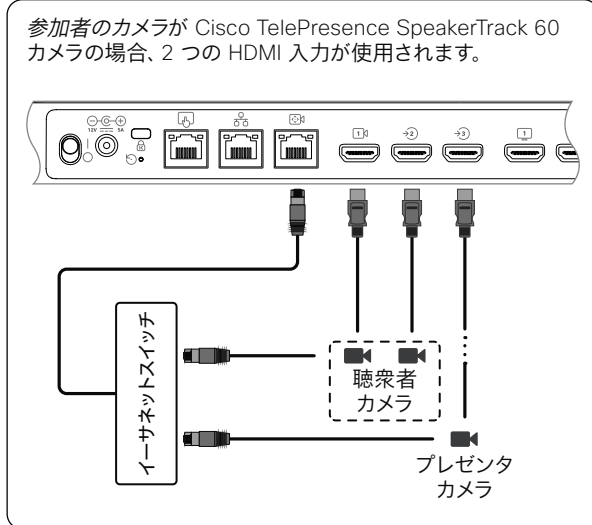
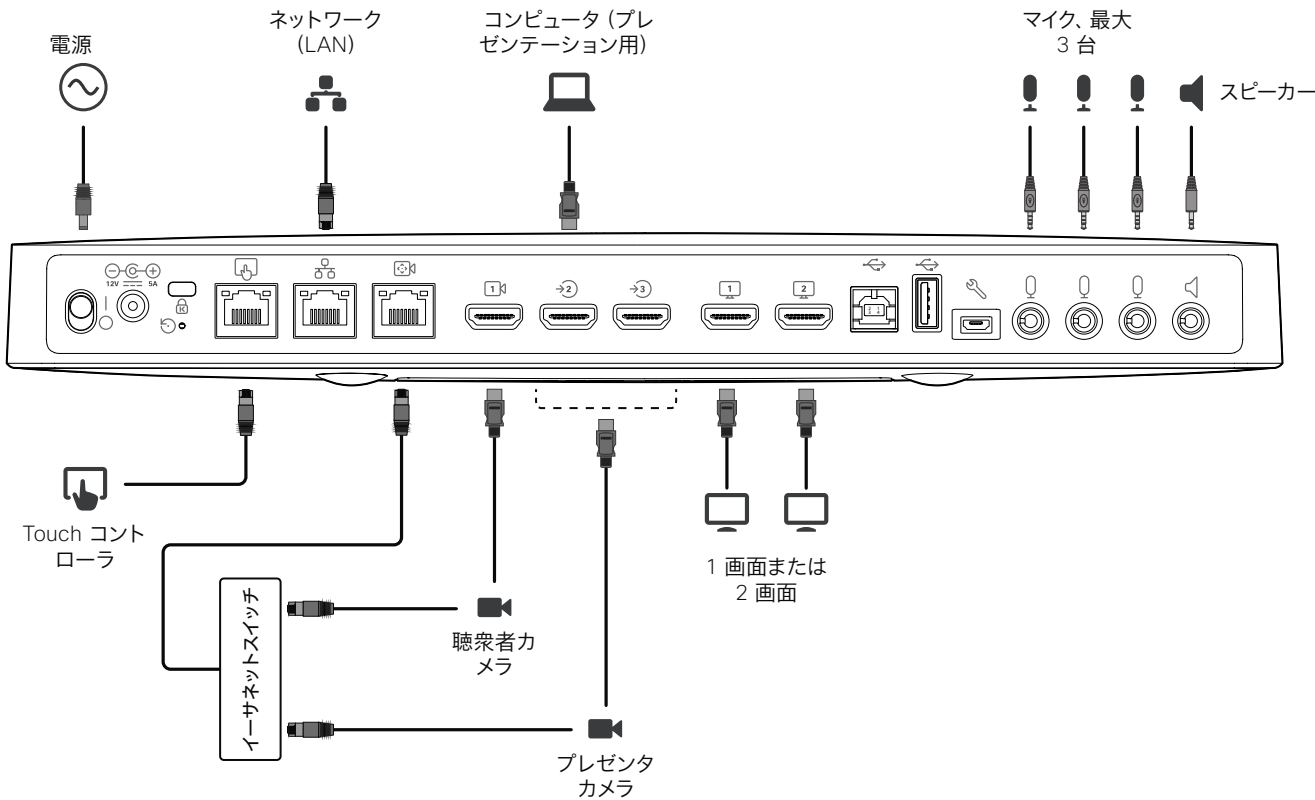
Room 70 Panorama

Room Panorama

教室のセットアップ (3/8 ページ)

Codec Plus: ケーブルの接続

⚠ 図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルーム ルーム タイプ テンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

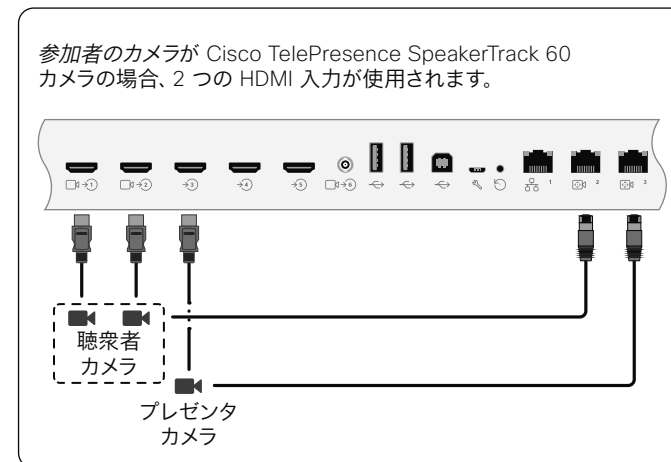
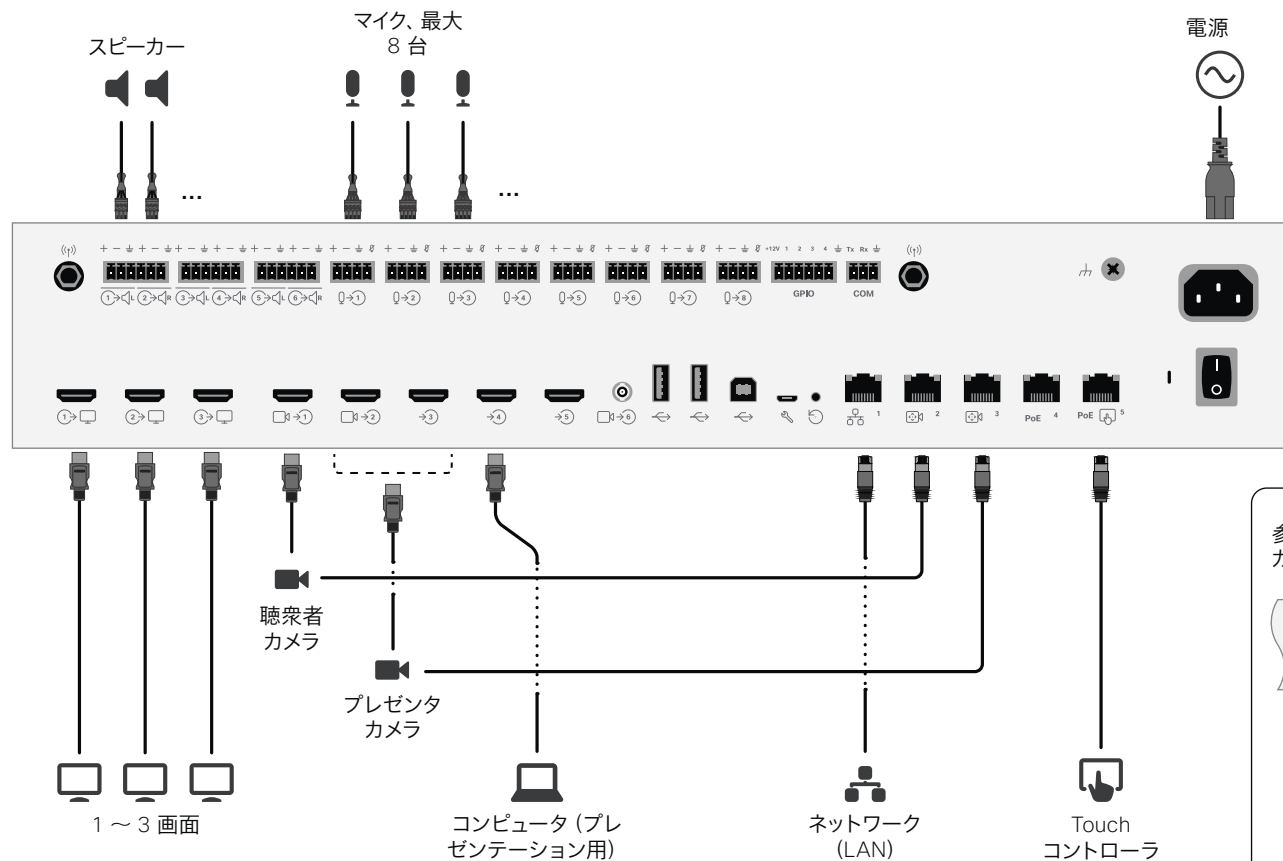
Room 70 Panorama

Room Panorama

教室のセットアップ (4/8 ページ)

Codec Pro: ケーブルの接続

⚠ 図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルーム ルーム タイプ テンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



参加者のカメラが Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合、2 つの HDMI 入力を使用されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70


Room 70 G2

Room 70 Panorama

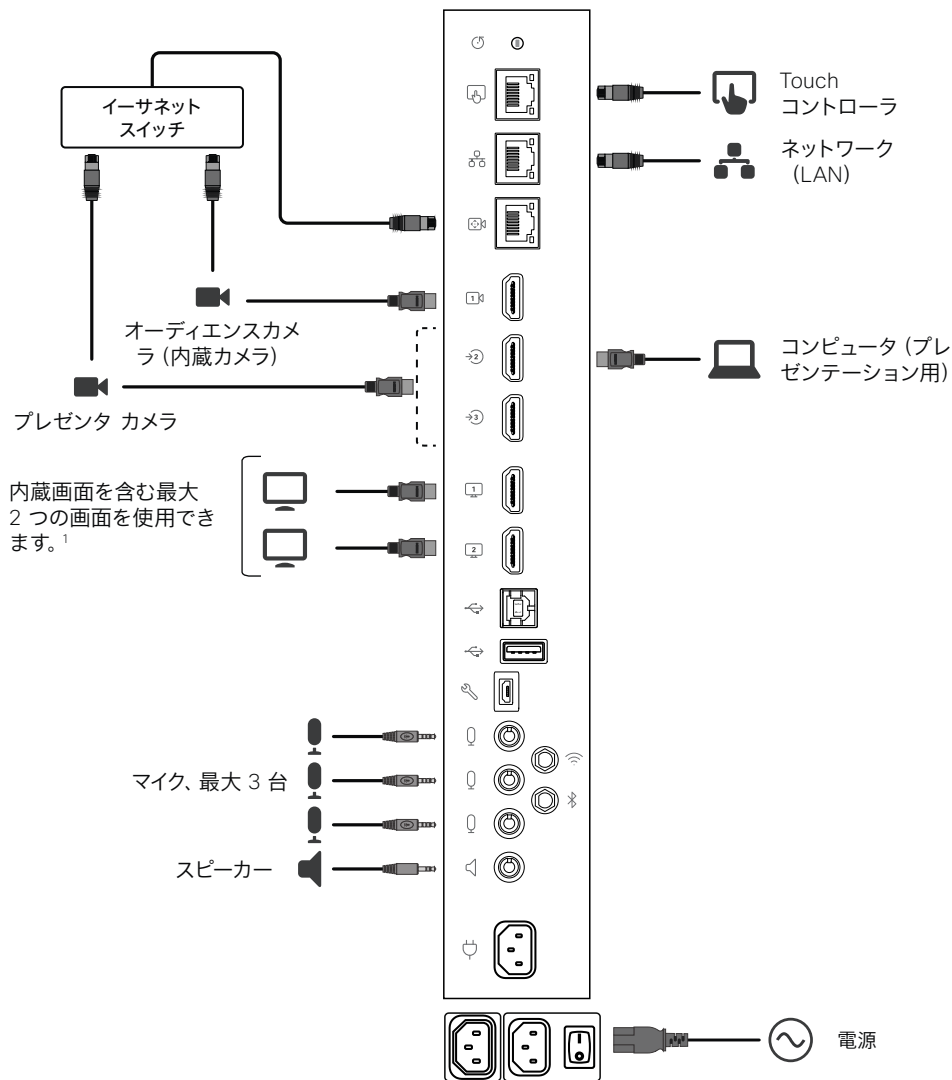
Room Panorama

教室のセットアップ (5/8 ページ)

Room 55 Dual および Room 70: ケーブルの接続

 図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルーム ルーム タイプ テンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。



¹ Room 55 Dual および Room 70 Dual: HDMI 出力 1 および 2 は、デバイスの内蔵画面用です。外部画面はサポートされていません。
Room 70 Single: HDMI 出力 1 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面をHDMI出力2に接続することができます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

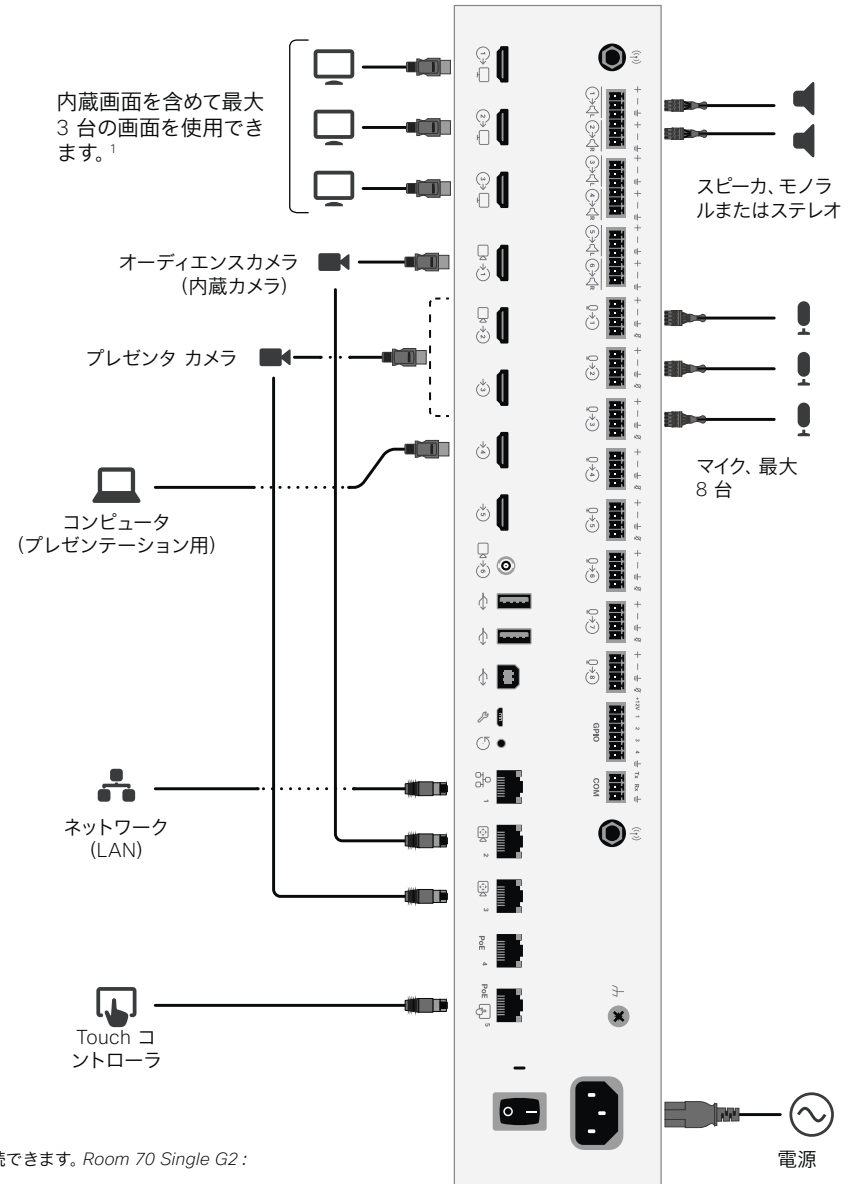
教室のセットアップ (6/8 ページ)

Room 70 G2: ケーブルの接続



図のようにカメラをデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルーム ルーム タイプ テンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。



¹ Room 70 Dual G2: HDMI 出力 1 および 2 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面は HDMI 出力 3 に接続できます。Room 70 Single G2: HDMI 出力 1 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面は HDMI 出力 2 および 3 に接続できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室のセットアップ (7/8 ページ)

デバイスの設定

教室をセットアップするときは、同じ会議室にいることをお勧めします。それ以外の場合、PresenterTrack を適切に設定することはできません。

1. 前のページの説明に従って、カメラと画面を接続します。
2. プレゼンタカメラからのビデオの共有を停止するには、タッチコントロールを使用します。教室のセットアップ中は、プレゼンターカメラからのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
4. [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) に移動し、次のように設定します (n はプレゼンターカメラが接続されているコネクタの番号です)。
 - ・ [\[入ソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#): [\[カメラ \(camera\)\]](#)
 - ・ [\[プレゼンテーション選択 \(PresentationSelection\)\]](#): [\[手動 \(Manual\)\]](#)
 - ・ [\[品質 \(Quality\)\]](#): [\[モーション \(Motion\)\]](#)
 - ・ [\[可視性 \(Visibility\)\]](#): [\[なし \(Never\)\]](#)
 - ・ [\[カメラ制御モード \(CameraControl Mode\)\]](#): [\[オン \(On\)\]](#)[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
5. プレゼンターカメラのプレゼンタートラッキングをセットアップします。▶ 「[PresenterTrack 機能のセットアップ](#)」の章を参照してください。

PresenterTrack 機能を使用すると、プレゼンタがステージ上を移動している間、カメラがプレゼンタを追跡します。
6. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタートラック \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[プレゼンター検出ステータス \(PresenterDetectedStatus\)\]](#) を見つけて、[\[ローカルプレゼンター \(Local Presenter\)\]](#) モードと [\[遠隔地のプレゼンター \(Remote Presenter\)\]](#) モードの自動切り替えを有効にするか (デフォルト)、無効にするかを選択します。
[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。

モード切り替えの詳細については、次のページを参照してください。
7. デフォルトの画面とレイアウトの動作がセットアップに適合しない場合は、次の設定を使用して画面とレイアウトを設定する必要があります。
 - ・ [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニタ \(Monitors\)\]](#): 部屋のセットアップで使用する異なるレイアウトの数を定義します。
 - ・ [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[モニタロール \(MonitorRole\)\]](#): 各画面にどのレイアウトを適用するかを定義します。モニタ ロールによって画面のレイアウトは異なります。

詳しくは、モニタの接続に関する章を参照してください。
8. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ルーム タイプ \(Room Types\)\]](#) を選択します。[\[教室 \(Classroom\)\]](#) サムネイルをクリックして、対応する設定をデバイスにプッシュします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室のセットアップ (8/8 ページ)

ルームモード間の切り替え

ルーム モード (ローカル プレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) を切り替えて、カメラの入力ソースとリモートおよびローカルの画面レイアウトを変更するには、次の 2 つの方法があります。

- 自動。誰が発言しているか、およびローカル プレゼンタがステージにいるかどうかによって、自動的に変更します。

自動では、ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。現在のモードが [ディスカッション (Discussions)] の場合、ルーム モードは自動的に変更されません。

自動的な切り替えは、この機能が有効になっている場合にのみサポートされます ([カメラ (Cameras)] > [PresenterTrack] > [有効 (Enabled)] が True に設定されている場合)。

- 手動。タッチコントローラのボタンを使用して変更します。

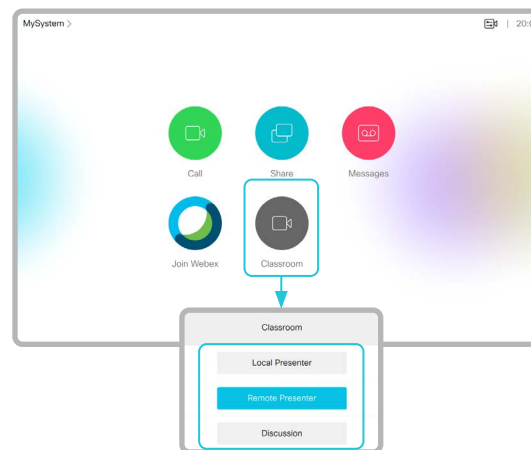
自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタトラックのトリガー ゾーンで検出されると、デバイスは [ローカル プレゼンタ (Local Presenter)] モードに切り替えます。
- 追跡されているローカル プレゼンターがステージから退出すると、デバイスはリモート プレゼンター モードに切り替わります。
- デバイスがローカルプレゼンターモードのときにローカルオーディエンスが質問すると、デバイスはプレゼンターと質問者の両方を表示する分割画面のビデオを送信します。この動作には、聴衆者カメラとして SpeakerTrack 60 または Quad Camera が必要です。また、そのスピーカートラッキングをオンにする必要があります。

手動でのルームモードへの切り替え

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切替えることができます。

- タッチコントローラで [教室 (Classroom)] をタップします。
- 変更するモードを [ローカルプレゼンター]、[リモートプレゼンター]、または [ディスカッション (ディスカッション)] のいずれかをタップします。現在のビューは、強調表示されます。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカー接続のテスト (1/3 ページ)

デバイスのスピーカーがコーデックに正しく接続されていることは、会議のエクスペリエンスにとって非常に重要です。

ケーブルを正しく接続して、右のスピーカーから出る音が実際に右のスピーカーから出て、左のスピーカーから出る音が左のスピーカーから出るようにします。スピーカーのケーブルが正しく接続されていないと、このとおりにはなりません。

スピーカーの接続のテストは、ビデオ会議デバイスと同じ部屋で行う必要があります。スピーカーテストで問題が生じる場合、ケーブルを接続し直す必要があります。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、および Room 70 Panorama

スピーカーが正しく接続されているか検証を行うスピーカー チェック ツールが用意されています。カメラモジュールのスピーカーもテストに含まれます。

Web インターフェイスにサインインして、[\[開発者 API \(Developer API\)\]](#) に移動します。

スピーカーチェックの実行

1. [\[コマンドとコンフィギュレーションの実行 \(Execute Commands and Configurations\)\]](#) テキスト領域に次のコマンドを入力します。*

```
xCommand Audio SpeakerCheck  
MeasurementLength: <秒数>  
Volume: <テスト信号の音量>
```

MeasurementLength および Volume パラメータを省略すると、テスト信号が各スピーカーから音量 1 で 1 秒間発信されます。

2. [\[実行 \(Execute\)\]](#) をクリックします。

スピーカーチェックが行われ、左から右の順に各スピーカーからテスト信号が発信されます。

3. テスト信号を聞き取ります。

1 つ以上のスピーカーから音が出ていない場合、または順番が正確に左から右ではない場合、スピーカーのケーブルを接続し直してスピーカー チェックを再度実行する必要があります。

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

Example command:

```
xCommand Dial Number: "person@example.com" Protocol: Sip
```

```
xCommand Audio SpeakerCheck
```

Execute

* 構文とセマンティックの説明については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

スピーカーの接続のテスト (2/3 ページ)

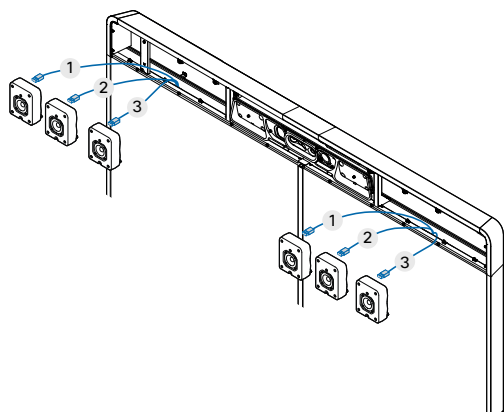
ケーブルの再接続方法

詳細については、製品のインストールガイドを参照してください。

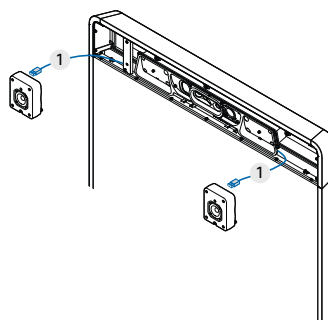
1. デバイスの上側のテキスタイル グリルを取り外します。カバーはマグネットで留められています。
2. スピーカー (Torx T20) を固定しているねじを外します。次に、スピーカーをベグから慎重に取り外します。
3. 正しく接続されていないケーブルを取り外し、正しいケーブルを接続します。

ケーブルには番号が付いています。どのケーブルをどのスピーカーに接続すればよいかについては、図を確認してください。

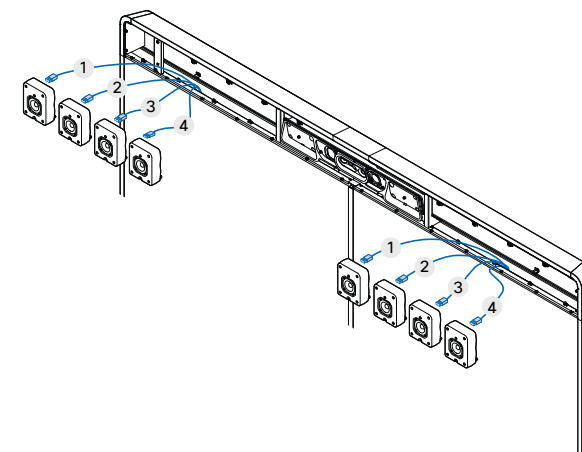
Room 55 Dual



Room 70 Single および Room 70 Single G2



Room 70 Dual, Room 70 Dual G2, Room 70 Panorama



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカーの接続のテスト (3/3 ページ)

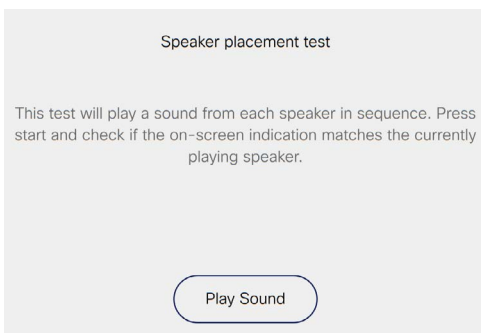
Room Panorama

スピーカーテストは、Room Panorama のセットアップアシスタントに含まれています。これは、製品のスタートアップガイドで説明されています。

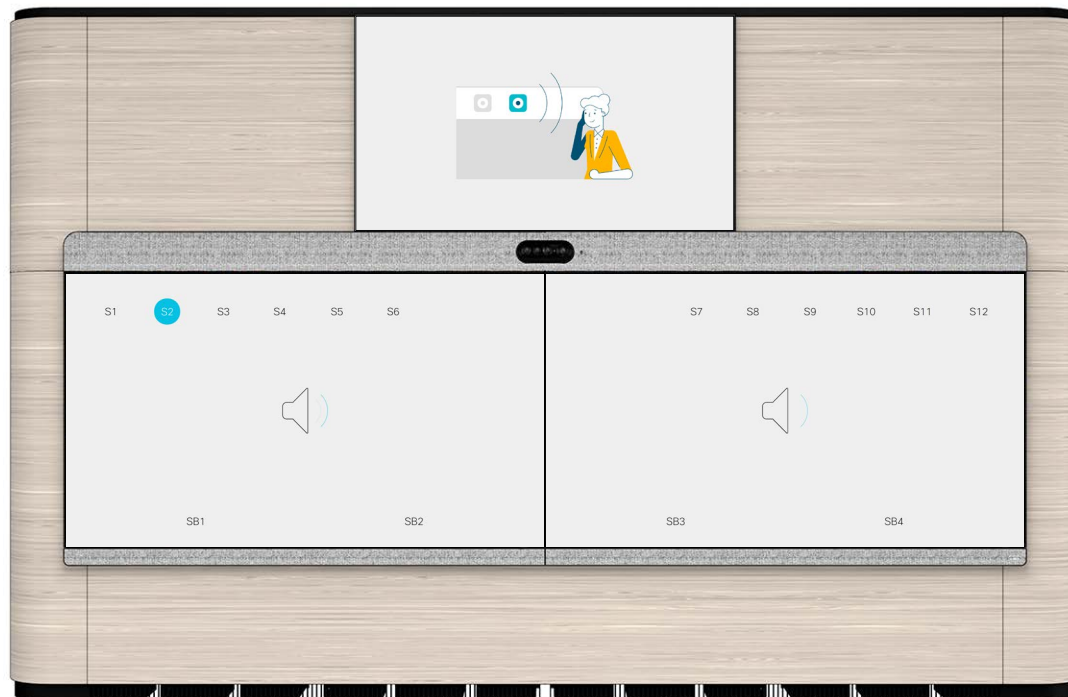
タッチコントローラから手動でテストを開始することもできます。

スピーカーテストを実行すると、各スピーカーから順にサウンドが再生されます。

1. [設定 (Settings)] > [問題と診断 (Issues and Diagnostics)] > [手動によるスピーカーのテスト (Manual speaker check)] > [サウンドを再生 (Play Sound)] をタップしてテストを開始します。



2. [次へ (Next)] をタップして次のスピーカーの音を確認するか、[前へ (Previous)] をタップして前のスピーカーにもう一度戻って音を確認します。



テストの実行中、画面のグラフィックに各スピーカーの位置に近い番号が表示されます。再生する必要があるスピーカーに近い番号は青色で示されます。

- **S1 ~ S12**: 画面の上のスピーカー (スピーカーグリルの後ろ)
- **SB1 ~ SB4**: 画面の下のサブウーファー (壁掛け用パネルの後ろ)

スピーカーとサブウーファーが正しく接続されている場合は、青色でマークが付いている位置のスピーカーからサウンドが聞こえます。

スピーカーが順番に再生されない場合、またはスピーカーでまったく再生されない場合は、ケーブル接続を確認する必要があります。問題を解決する方法については、スタートアップガイドを参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

補助スピーカーと音響補正の使用

デバイスでローカル音響補正を使用する場合は、室内にいる人が良好な聴覚体験を得られるようにするために、補助スピーカーを使用することを強くお勧めします。

デバイスの Web インターフェイスにあるオーディオ コンソールは、ローカル補正を設定するために推奨されるツールです。ソリューションの包括的な説明とベスト プラクティスについては、『*Using Extra Loudspeakers and Local Reinforcement*』のガイドを参照してください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Bluetooth® ヘッドセット

次の Bluetooth プロファイルがサポートされています。

- ・ HFP (ハンズフリー プロファイル)
- ・ A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル)
- ・ ヘッドセットでは HFP と A2DP の両方、または HFP のみがサポートされている必要があります。A2DP 専用のヘッドセットはサポートされていません。

Bluetooth ヘッドセットは組み込みの Bluetooth 無線を直接使用してサポートされています。また USB Bluetooth ドングルを介して使用することもできます。ビデオ会議デバイスに複数のヘッドセットをペアリングすることができますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声はビデオ会議デバイスのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量は同期しています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能

- ・ 着信コールに応答する
- ・ コールの保留および再開
- ・ 着信コールの拒否
- ・ コールの終了
- ・ 音量の増減
- ・ 一部のヘッドセットにはミュート コントロールがあります。これはビデオ会議デバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。

USB Bluetooth ドングル

- ・ USB Bluetooth ドングルを使用すると、ヘッドセットが USB ヘッドセットとして検出されます。
- ・ ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とビデオ会議デバイスの音量は同期されないことに注意してください。
- ・ シスコでは、Cisco 700 USB アダプタ、Jabra Link 360、Jabra Link 370、Plantronics BT300、および Plantronics BT600 についてテストを行っていますが、他の製品も同様に良好に動作するはずですが、

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。ご不明な点がある場合は、ヘッドセットのマニュアルを参照してください。
2. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。[設定 (Settings)]、[Bluetooth] の順に選択します。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。Bluetooth はデフォルトで有効になっています。
3. ビデオ会議デバイスは、Bluetooth デバイスをスキャンします。検出された Bluetooth ヘッドセットがデバイス リストに表示されます。
4. デバイスを選択するとペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが正常に行われると、ビデオ 会議デバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。これでペアリングが完了です。



ビデオ 会議デバイスに直接 Bluetooth ペアリングを使用するか、USB ドングルを使用します。

デバイス間の切り替え

ビデオ会議デバイスのスピーカーと、Bluetooth または USB で接続されたデバイスとを切り替えることができます。

ユーザ インターフェイスのステータス バーにあるアイコン (/ / / /) を選択し、使用可能なデバイスから選択します。

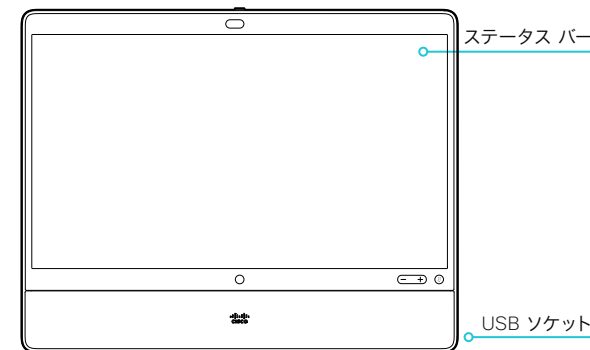
スピーカー

アナログ ヘッドセット

USB ヘッドセット

USB ハンドセット

Bluetooth デバイス



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラの接続 (1/8 ページ)

ビデオ会議デバイスのタイプに応じて、タッチコントローラは次の方法で接続できます。

- ビデオ会議デバイスに直接接続する (*Board* ではサポートされません)
- ネットワーク (LAN) を介してデバイスにペアリングする。これは、リモートペアリングと呼ばれます。

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

適用対象: *Board* を除くすべての製品

Room Panorama: Room Panorama の設置では、テーブルの下またはテーブルの近くに取り付けられるイーサネットスイッチが使用されます。タッチコントローラをコーデックに直接接続するのではなく、このスイッチに接続します。

Room Panorama は最大 2 つのタッチコントローラをサポートします。

その他の製品: 次のページの図に示すように、ビデオ会議デバイスの専用タッチコントローラポート (RJ-45) にタッチコントローラを接続します。

Room Kit は Power over Ethernet (PoE) を提供していないため、タッチコントローラに電源を供給するためのミッドスパン PoE インジェクタが必要であることに注意してください。

タッチコントローラの設定

タッチコントローラはイーサネット (PoE) 経由で電源供給されています。接続されると、設定手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

タッチコントローラのソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、セットアップ手順の一部で新しいソフトウェアがビデオ会議デバイスからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

図のように、タッチコントローラとビデオ会議デバイスを壁面のネットワークソケットまたはネットワークスイッチに接続します。

タッチコントローラの設定

タッチコントローラを電源に接続すると、セットアップ手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

[*ルーム システムの選択 (Select a room system)*] 画面が表示されたら、以下の点に注意してください。

- ペアリングできることを信号で伝えているデバイスのリストが、画面に表示されます。ペアリングするデバイスの名前をタップします。

デバイスがリストに表示されるためには、次の条件を満たす必要があることに注意してください。

- デバイスとタッチコントローラが同じサブネット上にある必要があります。
- デバイスが直近 10 分以内に再起動されている必要があります。デバイスがリストに表示されていない場合は、再起動をお試しください。
- 使用可能なデバイスのリストにデバイスが表示されない場合は、入力フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力します。[*接続 (Connect)*] をタップします。
- ペアリング プロセスを開始するには、ユーザ名とパスワードを使用してログインする必要があります。[*ログイン (Login)*] をタップします。

user ロールを持つユーザであれば十分対応できます。このタスクを実行するために admin ロールは必要ありません。

ユーザアカウントを作成してそれにロールを割り当てる方法の詳細については、▶「*ユーザ管理*」の章を参照してください。

タッチコントローラのソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、セットアップ手順の一部で新しいソフトウェアがデバイスからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

D15473.01

RoomOS
10.3
04-2021

* サポートされているタッチコントローラ: Touch 10 (図を参照) および Room Navigator。ただし、Board 55 および 70 (S シリーズではない) は Touch 10 のみをサポートします。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

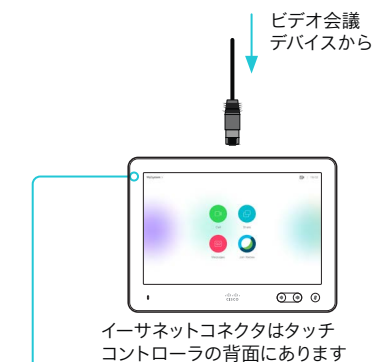
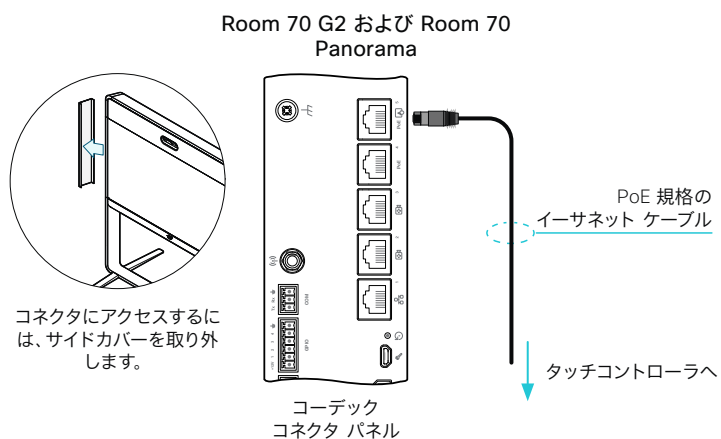
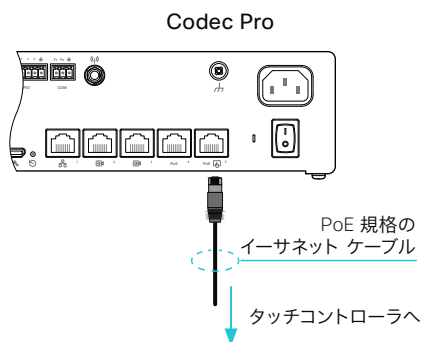
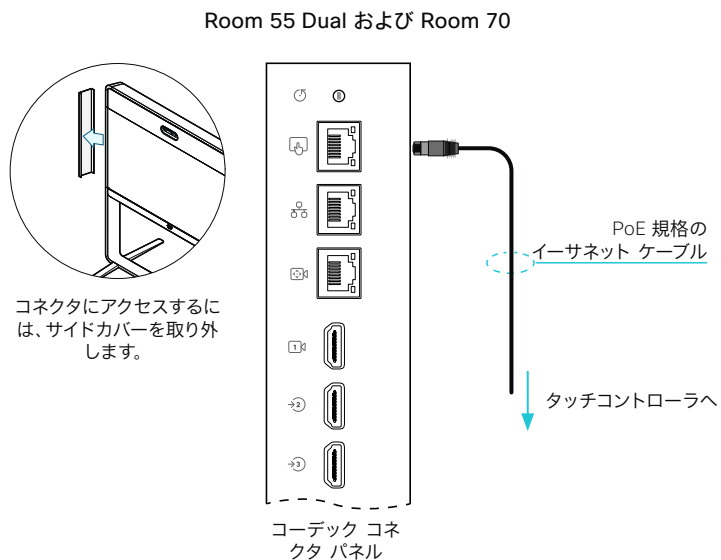
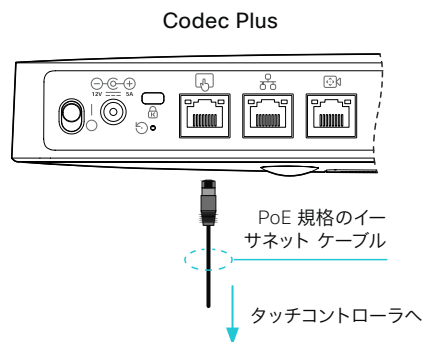
Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

タッチコントローラの接続 (2/8 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

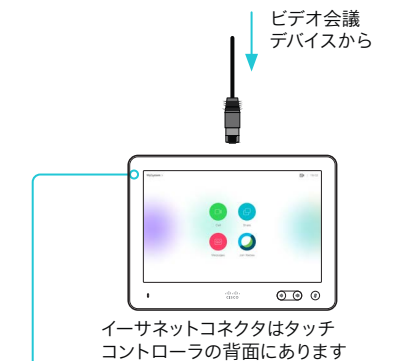
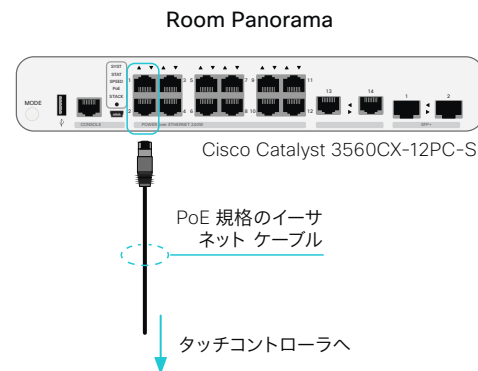
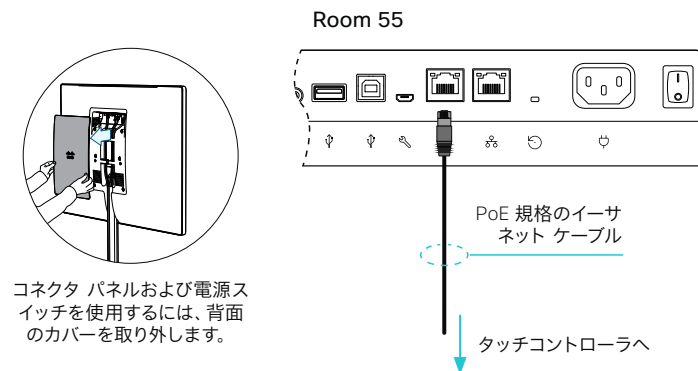
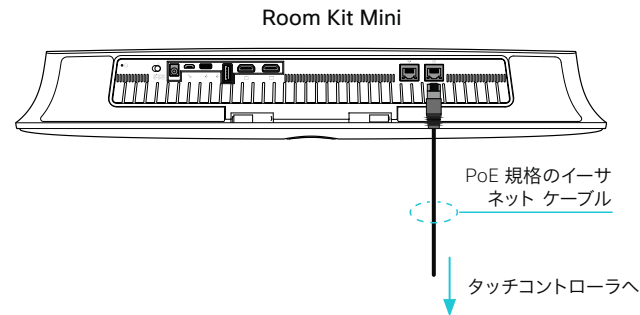
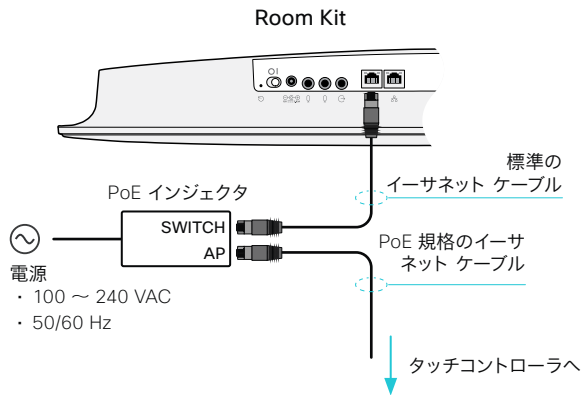


接点情報

タッチコントローラが正常にビデオ会議デバイスに接続されると、デバイスの名前またはアドレスがステータスバーに表示されます。

タッチコントローラの接続 (3/8 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する



接点情報

タッチコントローラが正常にビデオ会議デバイスに接続されると、デバイスの名前またはアドレスがステータスバーに表示されます。

- Board
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk LE, Desk Pro
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

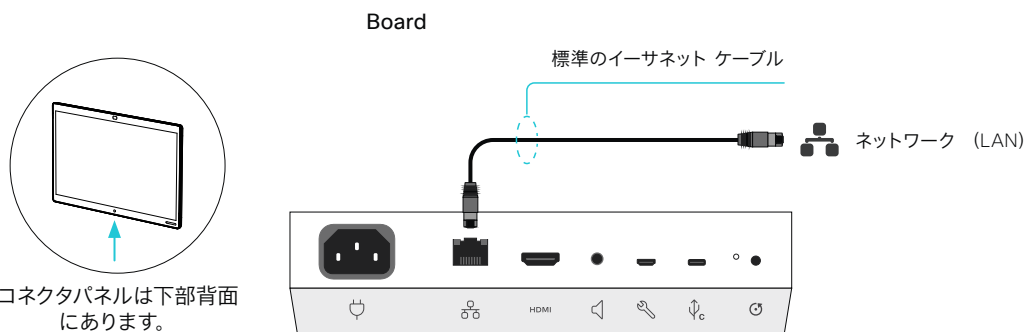
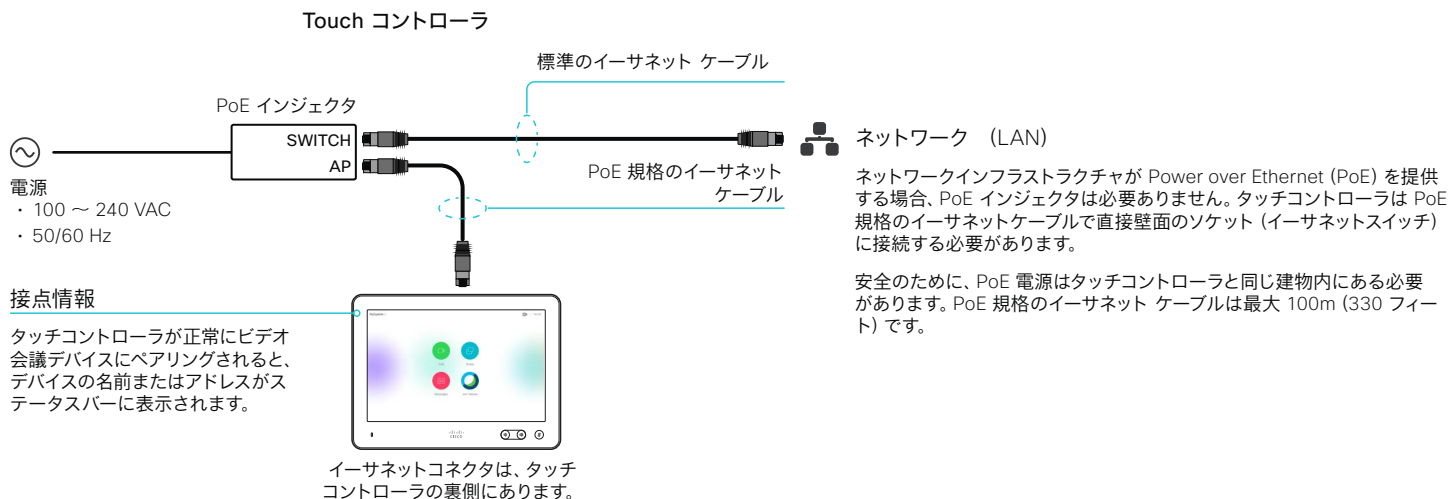
Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

タッチコントローラの接続 (4/8 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

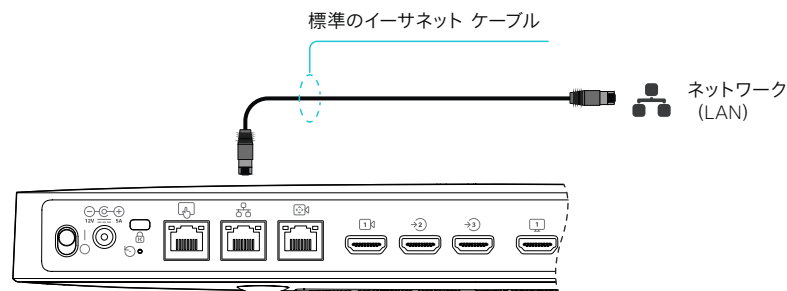
Room 70 Panorama

Room Panorama

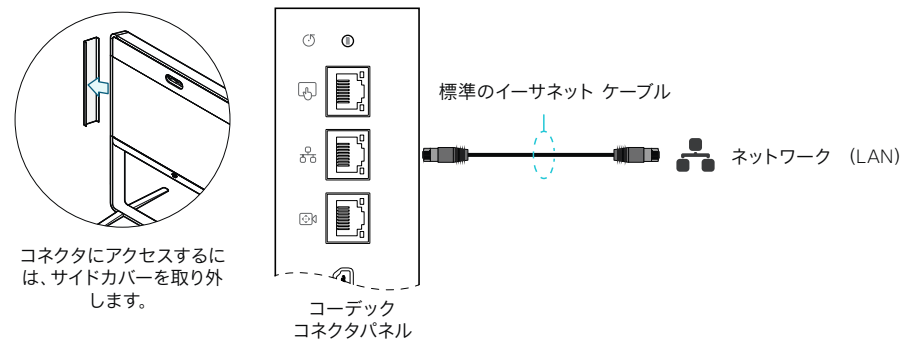
タッチコントローラの接続 (5/8 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

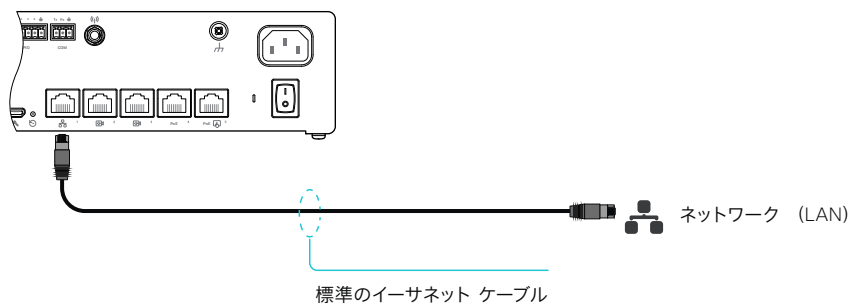
Codec Plus



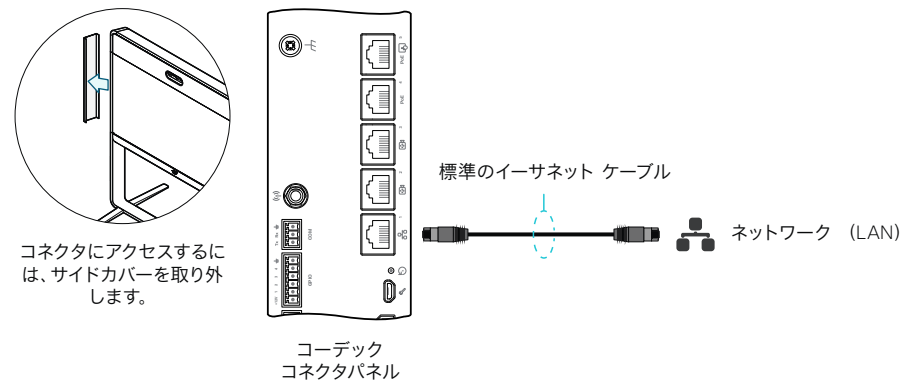
Room 55 Dual および Room 70



Codec Pro および Room Panorama



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

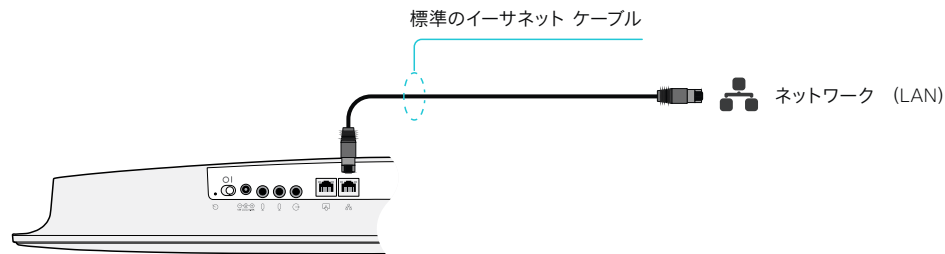
Room 70 Panorama

Room Panorama

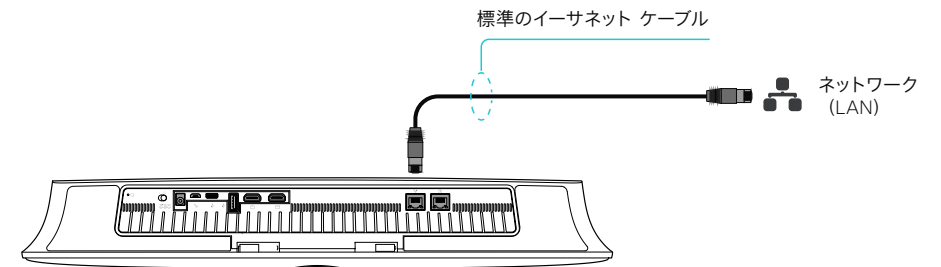
タッチコントローラの接続 (6/8 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

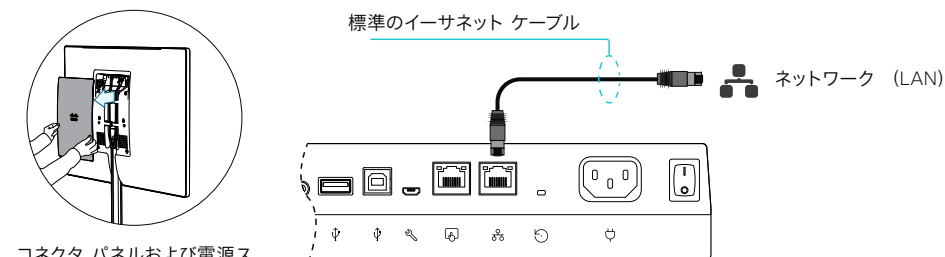
Room Kit



Room Kit Mini



Room 55



コネクタ パネルおよび電源スイッチを使用するには、背面のカバーを取り外します。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

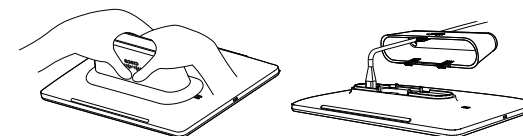
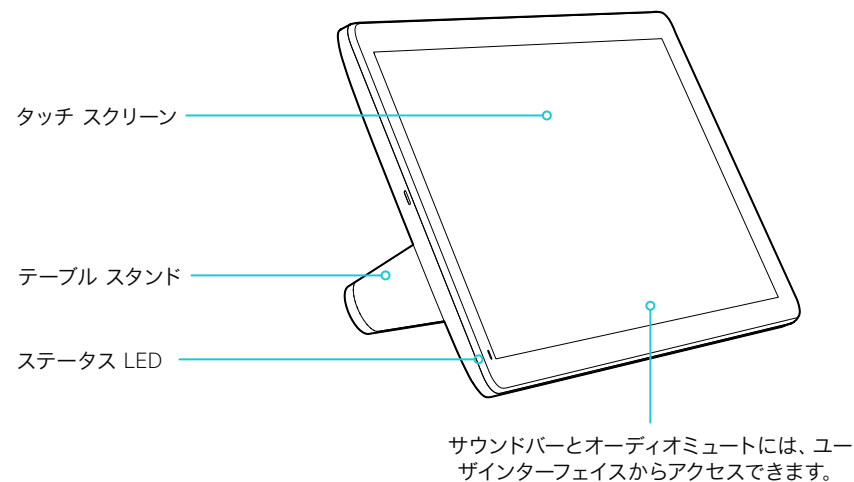
Room 70 Panorama

Room Panorama

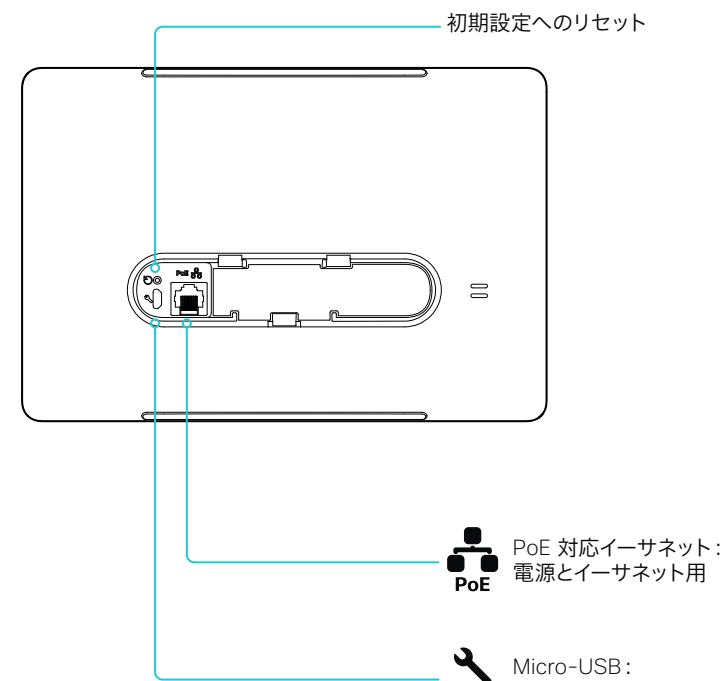
タッチコントローラの接続 (7/8 ページ)

Cisco Webex Room Navigator の物理インターフェイス

このタッチコントローラは、2021 年初めに発売されました。タッチコントローラは Touch 10 と同じ機能を備えていますが、電波品質や温度などをモニタリングするための環境センサーも提供しています。



コネクタパネルにアクセスするには、テーブルスタンドを取り外します。しっかりと押して回転させます。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

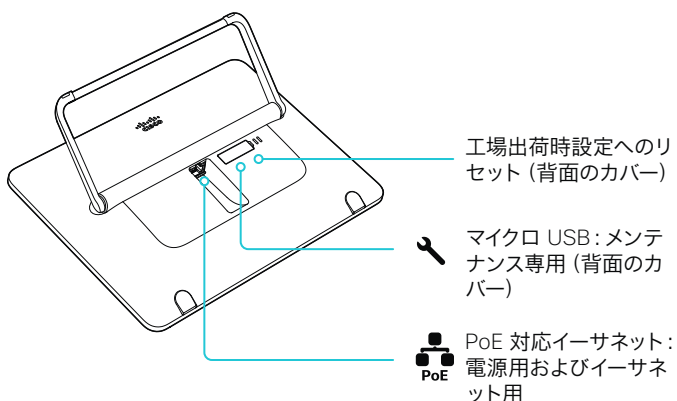
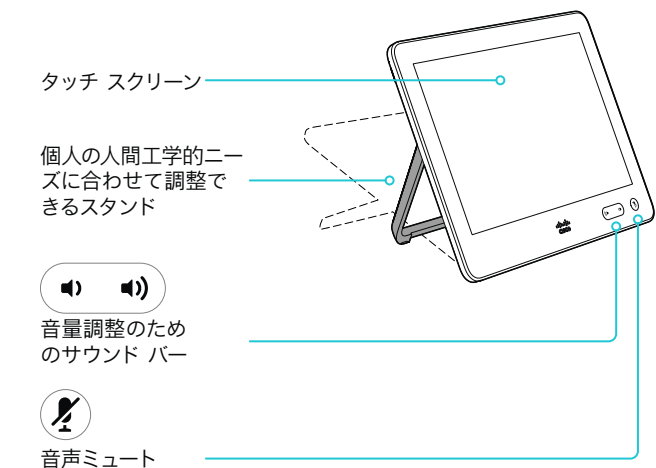
Room 70 Panorama

Room Panorama

タッチコントローラの接続 (8/8 ページ)

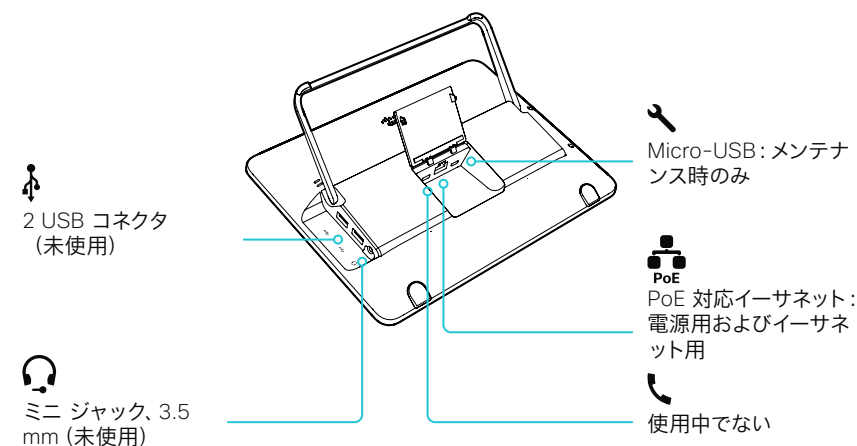
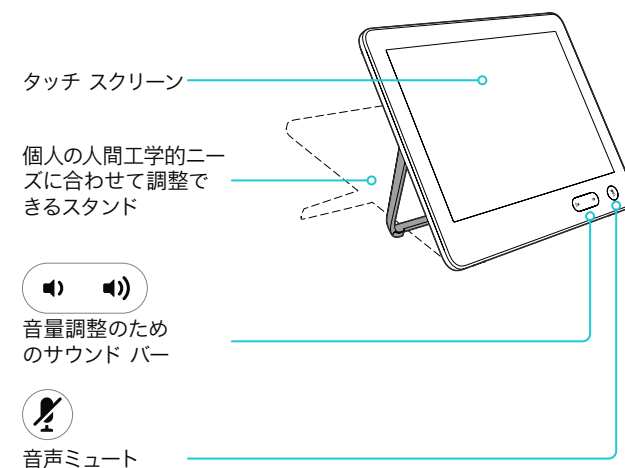
Cisco Touch 10 の物理インターフェイス

これは、Touch 10 コントローラ (2017 年後半に発売) の 2 つ目のバージョンです。最初のバージョンと同じ機能を備えています。物理インターフェイスが多少異なります。新しいデバイスは、前面のロゴと、背面のコネクタが少ないことによって識別できます。



Cisco TelePresence Touch 10 の物理インターフェイス

これは Touch 10 コントローラの最初のバージョンです。



Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 4 章

メンテナンス

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新しいソフトウェアのインストール

新しいソフトウェアをダウンロードする

各ソフトウェア バージョンに固有のファイル名があります。Cisco Download Software ウェブ ページにアクセスし、お使いの製品のページにアクセスします。▶<https://software.cisco.com/download/home>

ファイル名フォーマットは次のとおりです。*

- “cmterm-s53200ce10_x_y_z.k3.cop.sgn” or “cmterm-s53200ce10_x_y_z.k3.cop.sha512”
(Board, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, および Room 70)
- “cmterm-s53300ce10_x_y_z.k3.cop.sgn” or “cmterm-s53300ce10_x_y_z.k3.cop.sha512”
(Codec Pro, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 70 G2, Room 70 Panorama, および Room Panorama)

ここで、「x」はマイナーリリース番号で、「y」はパッチ番号、「z」はビルド番号です。

クラウド管理ソフトウェアのアップグレード

お使いのデバイスが Webex Edge for Devices にリンクされている場合、Webex クラウドサービスからソフトウェアをアップグレードできます。次に、クラウドから新しい RoomOS ソフトウェアバージョンが利用可能になるとすぐに、デバイスが自動的にアップグレードされます。

詳細については、Webex ヘルプセンターの ▶[Webex Edge for Devices のクラウド管理ソフトウェアアップグレード](https://help.webex.com/naspqfz/) (<https://help.webex.com/naspqfz/>) に関する記事を参照してください。

ソフトウェアイメージのファイル形式

PKG ファイルと COP ファイルについて

ビデオデバイスと周辺機器のソフトウェアイメージは別々の PKG ファイルになっています。

そのため、これらのデバイスをアップグレードする場合は COP ファイルを使用する必要があります。COP ファイルには、ビデオデバイスおよび周辺機器に必要な PKG ファイルと、COP ファイルの内容を示す *loads* ファイルが含まれています。

CUCM からのアップグレード

デバイスのアップグレードには COP ファイルを使用します。*

これらのデバイスをアップグレードする場合は *loads* ファイルを使用してソフトウェアを指定する必要があります。ビデオデバイスの PKG ファイルでは周辺機器がアップグレードされないため、ビデオデバイスの PKG ファイルだけを使用することはできません。

TMS またはデバイスの Web インターフェイスからのアップグレード

デバイスのアップグレードには COP ファイルを使用します。ビデオデバイスの PKG ファイルには周辺機器のソフトウェアイメージが含まれていないため、ビデオデバイスの PKG ファイルだけを使用することはできません。

ソフトウェア リリース ノート

新着情報および変更の概要について、ソフトウェアリリースノート (RoomOS 10) を読むことを推奨します。これは、すべての製品を対象にした 1 セットのリリースノートです。次のリンクからアクセスできます。

- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/tsd-products-support-series-home.html>
- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/tsd-products-support-series-home.html>
- ▶ https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/collaboration-endpoints/spark-board/tsd-products-support-series-home.html

CE9.13 以降へのアップグレードまたは CE9.13 以降からのダウングレード

アップグレードやダウングレードでは、特定の状況によって設定が失われる可能性があることに注意してください。

CE9.13 以降へのアップグレードまたは CE9.13 以降からのダウングレードを行うと、インストールするバージョンに存在しない設定はすべて削除されます。後で以前のソフトウェアバージョンに戻そうとしても、削除された設定にはデフォルト値が割り当てられます。

* CUCM 14 以降の場合は、拡張子が .sha512 のファイルを使用します。古い CUCM バージョンの場合は、拡張子が .sgn のファイルを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新しいソフトウェアのインストール (2/2 ページ)

Web インターフェイスにサインインして、[ソフトウェア (Software)] に移動し、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrade)] を選択します。

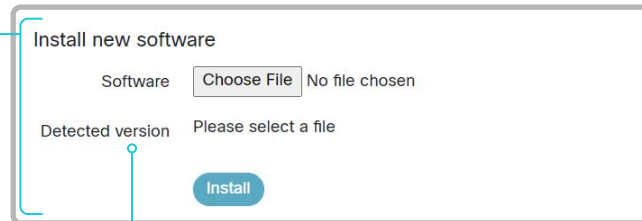
新しいソフトウェアのインストール

適切なソフトウェア パッケージをダウンロードして、コンピュータに保存します。これは .cop.sgn ファイルです。ファイル名は変更しないでください。

1. [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックし、新しいソフトウェアを含む .cop.sgn ファイルを見つけます。
ソフトウェアのバージョンが検出され、表示されます。
2. [インストール (Install)] をクリックして、インストール プロセスを開始します。

通常、インストールは 15 分以内に完了します。ウェブ ページから進捗状況を確認できます。インストール後、デバイスは自動的に再起動します。

再起動後に Web インターフェイスで作業を再開するには、再度サインインする必要があります。



新しいソフトウェア バージョンの確認

ファイルを選択すると、ここにソフトウェアのバージョンが表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70


Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オプションキーの追加

Web インターフェイスにサインインして、[ソフトウェア (Software)] に移動し、[オプションキー (Option Keys)] を選択します。

すべてのオプション キーのリストと、デバイスにインストールされていないオプション キーのリストが表示されます。

アンインストールされたオプションのオプション キーを取得する方法については、シスコの担当者にお問い合わせください。

Type	Description	Key	Status	
RemoteMonitoring	Enables snapshots of local and remote video sources in the web interface	Active	
DeveloperPreview	Enables previewing new APIs and features		Not installed	

オプションキーの
アンインストール
削除ボタンをクリックして、
オプションキーを
アンインストールします。

デバイスのシリアル番号

オプション キーの注文時にはデバイスのシリアル番号が必要です。

オプション キーの追加

1. テキストの入力フィールドにオプション キーを入力します。
2. [適用 (Apply)] をクリックしてオプション キーを追加します。

オプション キーを複数追加する場合は、すべてのキーに対してこの手順を繰り返してください。

Add key

Serial number

Option key

Contact your Cisco representative to obtain option keys. You need to provide the serial number to get option keys.

オプション キーについて

デバイスには、1 つ以上のソフトウェア オプションがインストールされている場合も、インストールされていない場合もあります。オプションの機能をアクティブにするには、対応するオプションキーがデバイスに存在している必要があります。

オプション キーは各デバイスに固有のもので、

オプション キーは、ソフトウェアのアップグレードまたは出荷時の状態にリセットしても削除されないため、一度追加するだけで済みます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスのステータス

デバイス情報の概要

Web インターフェイスにサインインして、[ホーム (Home)] を選択します。

これは、IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブネットワークインターフェイス、ソフトウェアバージョン、問題、登録ステータスなどの一般的な情報を示す [システム情報 (System Information)] ページです。

デバイス ステータスの詳細

より詳細なステータス情報を確認するには、Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[ステータス (Statuses)] を選択します。

ステータス エントリを検索する

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字が含まれているすべてのエントリが右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれているエントリも表示されます。

The screenshot shows a search interface with a search bar containing 'vol'. Below the search bar is a list of categories: Audio, Bookings, Cameras, Capabilities, and Conference. The 'Audio' category is selected, and the right-hand pane displays a table of audio-related status items.

Audio	
Ultrasound Volume	60
Volume	70
VolumeKeyStepSize	10
VolumeMute	Off

カテゴリを選択して適切なステータスに移動する

デバイス ステータスはカテゴリ別にグループ化されています。左側のペインでカテゴリを選択すると、関連するステータスが右側に表示されます。

The screenshot shows the 'Status / Conference' page. A search bar is at the top left. Below it is a list of categories: Audio, Bookings, Cameras, Capabilities, and Conference. The 'Conference' category is selected and highlighted in blue. The right-hand pane displays a table of conference-related status items.

Status / Conference	
ActiveSpeaker CallId	0
DoNotDisturb	Inactive
Line 1 Mode	Shared
Multipoint Mode	MultiSite
Muter Mode	User
SelectedCallProtocol	SIP

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

診断の実行

Web インターフェイスにサインインして、[\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、[\[問題 \(Issues\)\]](#) を選択します。

アクティブな問題のリスト*が表示されます。エラーや重大な問題は赤色で目立つように示されます。警告は黄色です。

診断の実行

[\[再実行 \(Rerun\)\]](#) をクリックして、リストが最新であることを確認します。

スタンバイ モードを離れる

スタンバイモードのデバイスを復帰させるには、[\[システムの復帰 \(System Wakeup\)\]](#) をクリックします。

Diagnostics help identify issues that may cause the system to fail or not work as expected. System Wakeup Rerun

Active Issues

- SIP Registration Failed**
SIP registration failed: DNS lookup failed. Verify SIP configuration and connectivity to SIP proxy.
- Camera Not Found**
No cameras found. Make sure that the control cable between the camera and the system is connected.
- HTTP Mode Detected**
The HTTP mode is set to HTTP+HTTPS. In order to avoid eavesdropping, please consider changing this setting to HTTPS.
- Macros Runtime Status**
System has active macros. Check the macros configuration or visit the macro editor.
- Ultrasound Pairing May Fail**

* 図に示している問題は一例です。お使いのデバイスでは表示される情報が異なります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

システムログファイルのダウンロード (1/2 ページ)

システムログファイルは、テクニカルサポートが必要な場合に、Cisco のサポートから要求されることがある Cisco 固有のデバッグファイルです。

現在のログと履歴ログ

Current log ファイルはタイムスタンプ付きのイベント ログ ファイルです。

デバイスを再起動するたびに、現在のログ ファイルはタイムスタンプ付きの履歴ログ ファイルにすべてアーカイブされます。履歴ログファイルの最大数に到達すると、最も古いファイルは上書きされます。

拡張ロギング モード

拡張ロギング モードをオンにすると、コールのセットアップ中にネットワークの問題の診断に役立つ場合があります。このモードの間は、より多くの情報がログ ファイルに保存されます。このモードでは、ネットワークトラフィックをキャプチャすることもできます。

拡張ロギングはデバイスのリソースをより多く使用するため、デバイスの動作が低下する場合があります。拡張ロギング モードは、トラブルシューティングのときにのみ使用してください。

拡張ロギングは、ネットワーク トラフィックの完全キャプチャが含まれているかどうかによって 3 分から 10 分かかります。

ログ内の個人を特定できる情報 (PII)

ログに PII を含めるかどうかを選択できます。場合によっては、PII は、完全なエントリが削除されるのではなく、「プライバシー保護のために削除されました」というメモに置き換えられます。

ユーザインターフェイスからのログの設定

デバイスのユーザインターフェイスからログを設定するには、いくつかのオプションがあります。[\[設定 \(Settings\)\]](#) > [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、次のトグルボタンを見つけます。

- ・ **拡張ロギング:** オンにすると、ネットワークトラフィックの全部のキャプチャがログに含められます。PII の情報も含められます。
- ・ **PII ロギング:** オンにすると、拡張ロギングがオンになっていない場合でも、PII がログに含められます。

Webex クラウドへのログの送信

デバイスが Webex クラウドサービスに登録されている場合、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合は、[\[ログの送信 \(Send logs\)\]](#) をタップしてログをクラウドにアップロードすることもできます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

システムログファイルのダウンロード (2/2 ページ)

Web インターフェイスからのログのセットアップとダウンロード

Web インターフェイスにサインインして、[問題と診断 (Issues and Diagnostics)] に移動し、[システムログ (System Logs)] を選択します。

すべてのログ ファイルをダウンロードする

[システムログ (System Logs)] カードを見つけて、[ログのダウンロード... (Download logs...)] をクリックします。

[完全なログ (Full logs)] をダウンロードするか、または [匿名化されたログ (Anonymized logs)] をダウンロードするかを選択します。

指示に従ってファイルを保存します。

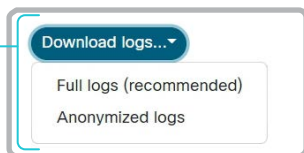
個人を特定できる情報 (PII) は、匿名化されたログで「プライバシー保護のために削除されました」というメモに置き換えられます。サポートケースに匿名化されたログを添付すると、問題の解決に必要な時間が長くなる場合があります。

すべてのログファイルのダウンロード (従来の形式) 非推奨

[システムログ (System Logs)] カードを見つけて、[従来の形式でログをダウンロード... (Download logs in legacy format...)] をクリックします。

ログファイルに完全な通話履歴 (匿名以外の発信側/着信側)、匿名化された通話履歴を含めるかどうか、または通話履歴をまったく含めないかを選択します。

指示に従ってファイルを保存します。

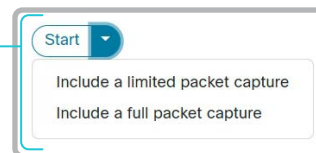


拡張ロギングの開始

[拡張ロギング (Extended Logging)] カードを見つけて、[開始 (Start)] をクリックします。

拡張ロギングは、ネットワークトラフィックの完全キャプチャが含まれているかどうかによって 3 分から 10 分かかります。

タイムアウトになる前に拡張ロギングを停止するには、[停止 (Stop)] をクリックします。



デフォルトとして、ネットワークトラフィックはキャプチャされません。ネットワークトラフィックの一部または全部のキャプチャを含めるには、ドロップダウンメニューを使用します。

ログファイルを開くまたは保存する

現在のログファイルをクリックして、ログファイルを Web ブラウザで開き、右クリックしてファイルをコンピュータに保存します。

履歴ログファイルをクリックし、指示に従ってファイルをコンピュータに保存します。



ログ ファイル リストの表示更新

[現在のログ (Current logs)] または [履歴ログ (Historical logs)] の更新ボタンをクリックすると、対応するリストの表示が更新されます。

ログファイルの形式

CE9.15 で、オンプレミスの登録済みデバイス用の新しいログファイル形式が導入されました。新しい形式は、クラウドに登録されたデバイスに使用される形式と同じです。

従来の形式ではなく、新しいファイル形式を使用してログをダウンロードすることをお勧めします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

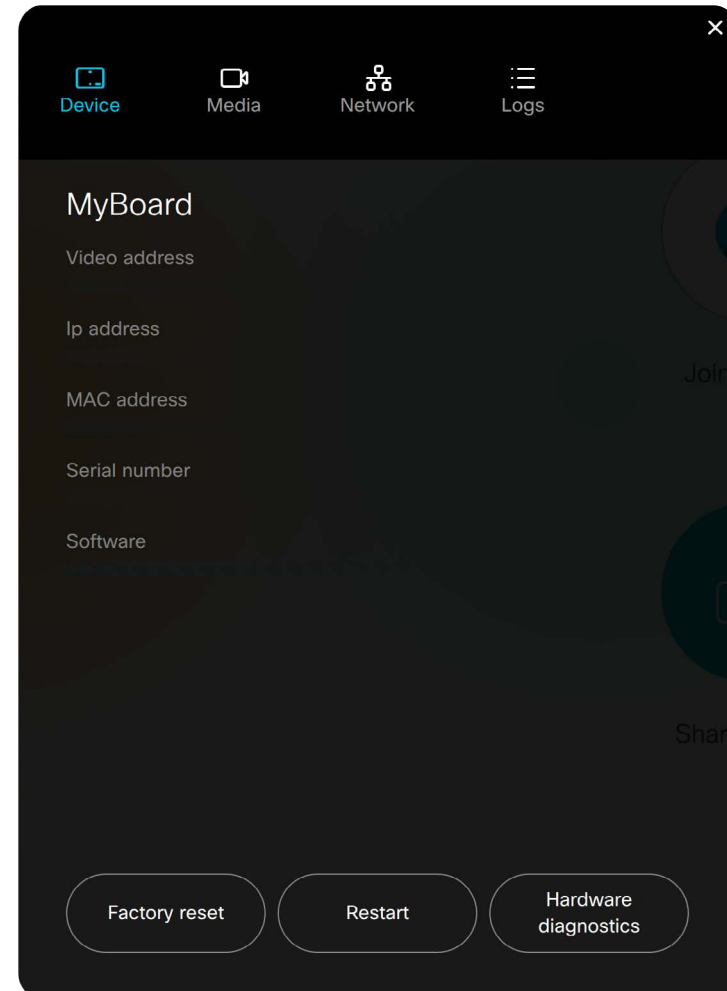
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

テクニカルサポート画面へのアクセス

テクニカルサポート画面にアクセスするには、画面に 1 本の指を置いたまま [ホーム (Home)] ボタンを 3 回タップします。

テクニカルサポート画面から次の情報にアクセスできます。

- ・ 機器情報
- ・ メディア統計情報
- ・ ネットワーク情報および診断
- ・ ハードウェア診断 (マイクのレベル、タッチスクリーン、ベストオーバービュー、およびカメラ)
- ・ ログ
- ・ ボードの再起動
- ・ 工場出荷時の状態へのリセット



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

リモートサポートユーザの作成

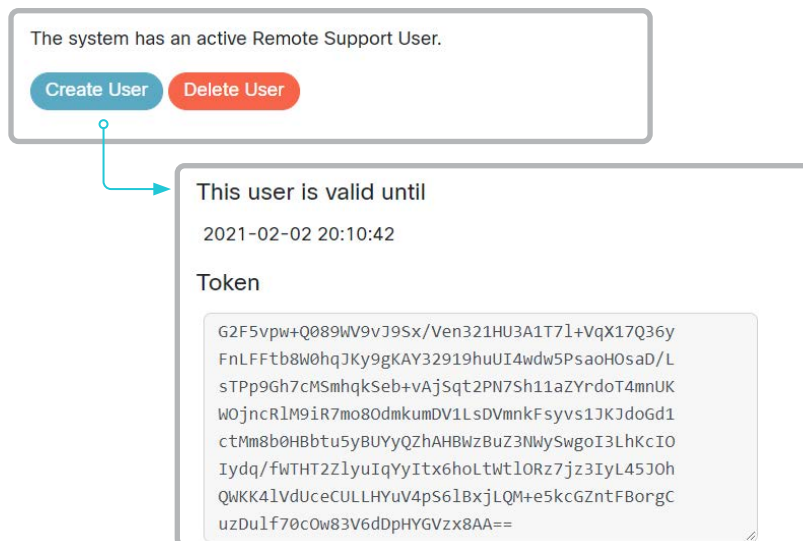
Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザ \(Users\)\]](#) に移動します。



リモート サポート ユーザは、Cisco TAC から指示されたトラブルシューティングを行うためだけに有効にする必要があります。

リモート サポート ユーザの作成

- [\[リモートサポートユーザ \(Remote Support User\)\]](#) カードを見つけて、[\[ユーザの作成 \(Create User\)\]](#) をクリックします。
 - Cisco TAC で案件を開きます。
 - [\[トークン \(Token\)\]](#) フィールドのテキストをコピーして、Cisco TAC に送信します。
 - Cisco TAC はパスワードを生成します。
- リモート サポート ユーザは 7 日間、または削除されるまで有効です。



リモート サポート ユーザの削除

[\[ユーザの削除\]](#) をクリックします。

リモート サポート ユーザについて

デバイスに診断の問題がある場合は、リモート サポート ユーザを作成できます。

リモート サポート ユーザにはデバイスに対する読み取りアクセス権が付与され、トラブルシューティングに役立つ限定された一連のコマンドにアクセスできます。

リモート サポート ユーザのパスワードを取得するには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のアシスタントが必要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

設定とカスタム要素のバックアップ/復元

Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動します。

バックアップ ファイル (zip 形式) には、設定とともにカスタム要素を含めることができます。以下の要素のいずれをバンドルに含めるかを選択できます。

- ・ ブランディング イメージ
- ・ マクロ
- ・ お気に入り
- ・ サインイン バナー
- ・ UI 拡張
- ・ 構成/設定 (すべてまたは一部)

バックアップ ファイルは、デバイスの Web インターフェイスから手動で復元できます。または、Cisco UCM や TMS などを使用して複数のデバイスにプロビジョニングできるように、バックアップ バンドルを一般化することもできます (これ以降の章を参照)。

バックアップ ファイルの作成

1. [\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. バックアップ ファイルに含める要素を選択します。
3. バックアップ ファイルに含める設定 (ある場合) を選択します。次の点に注意してください。
 - ・ デフォルトでは、すべての設定がバックアップ ファイルに含まれます。
 - ・ ウェブ ページの一覧から手動で設定を削除することにより、1 つ以上の設定を手動で削除できます。
 - ・ 特定のデバイスに固有の設定をすべて削除する場合は、[\[システム固有の設定の削除 \(Remove system-specific configurations\)\]](#) をクリックします。これは、他のデバイスでバックアップ バンドルを復元する予定がある場合に役立ちます。
4. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックして、コンピュータ上の zip ファイルに要素を保存します。

バックアップ ファイルの復元

1. [\[復元 \(Restore\)\]](#) を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックして、復元するバックアップファイルを見つけます。
バックアップ ファイル内のすべての設定と要素が適用されます。
3. [\[アップロード \(Upload\)\]](#) をクリックして、バックアップを適用します。
設定によっては、有効にするためにデバイスを再起動する必要があります。

その他の情報

マクロの復元

マクロを含むバックアップ ファイルをデバイスで復元すると、次の処理が適用されます。

- ・ マクロのランタイムを起動または再起動します。
- ・ マクロは自動的に有効化 (開始) されます。

ブランド イメージの復元

バックアップバンドルにブランドイメージが含まれている場合、[\[ユーザインターフェイス壁紙 \(UserInterface Wallpaper\)\]](#) 設定は自動的に [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されます。

したがって、ブランド イメージは自動的に表示されます。カスタム壁紙より優先される場合もあります。

バックアップ ファイル

バックアップ ファイルは、いくつかのファイルを含む zip 形式のファイルです。それらのファイルは zip ファイル内の最上位にあり、フォルダに含まれていないことが重要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama


カスタム要素の CUCM プロビジョニング

バックアップファイルは、▶「[設定とカスタム要素のバックアップ/復元](#)」の章で説明されているとおり、複数のデバイスでカスタマイズテンプレートとして使用できます。

カスタマイズ テンプレート (バックアップ ファイル) は、次のいずれかによってホストされています。

- ・ CUCM TFTP ファイル サービス、または
- ・ デバイスが HTTP または HTTPS で接続可能なカスタム Web サーバ。

デバイスが CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からカスタマイズ テンプレートの名前と格納場所に関する情報を取得するときは、デバイスがサーバに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

-  カスタマイズ テンプレートとして使用するバックアップ ファイルに設定が含まれている場合でも、設定はデバイス上に復元されません。

カスタマイズ テンプレートの TFTP ファイル サーバへのアップロード

1. Cisco Unified OS Administration にサインインします。
2. [\[ソフトウェア アップグレード \(Software Upgrade s\)\]](#) > [\[TFTP ファイル管理 \(TFTP File Management\)\]](#) に移動します。
3. [\[ファイルのアップロード \(Upload File\)\]](#) をクリックします。入力フィールドにカスタマイズ テンプレートの名前とパスを入力します。
4. [\[ファイルのアップロード \(Upload File\)\]](#) をクリックします。

デバイスごとのカスタマイズ プロビジョニング情報の追加

1. Cisco Unified CM Administration にサインインします。
2. [\[デバイス \(Device\)\]](#) > [\[電話 \(Phone\)\]](#) に移動します。
3. 関連するデバイスの製品固有の構成セクション内で、[\[カスタマイズ プロビジョニング \(Customization Provisioning\)\]](#) フィールドに以下を入力します。
 - ・ **カスタマイズ ファイル:** カスタマイズ テンプレートのファイル名 (backup.zip など) *
 - ・ **カスタマイズ ハッシュの型:** SHA512
 - ・ **カスタマイズ ハッシュ:** カスタマイズ テンプレートの SHA512 チェックサム。これらのフィールドが存在しない場合は、CUCM に新しいデバイスパッケージをインストールする必要があります。
4. [\[保存 \(Save\)\]](#) および [\[設定の適用 \(Apply Config\)\]](#) をクリックして、設定をデバイスにプッシュします。

SHA512 チェックサム

ヒント: Web インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元すると、そのファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[復元 \(Restore\)\]](#) を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックし、チェックサムを計算するファイルを見つけます。

ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されていることが確認できます。

CUCM のドキュメンテーション

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/tsd-products-support-series-home.html>

* TFTP サービスを使用しない場合は、カスタマイズ テンプレートの完全な URI: <hostname>:<portnumber>/<path-and-filename> を入力する必要があります。

次に例を示します。

- ・ http://host:6970/backup.zip または
- ・ https://host:6971/backup.zip

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタム要素の TMS プロビジョニング

バックアップファイルは、▶「[設定とカスタム要素のバックアップ/復元](#)」の章で説明されているとおり、複数のデバイスでカスタマイズテンプレートとして使用できます。

バックアップ ファイルは、デバイスが HTTP または HTTPS で接続可能なカスタム Web サーバ上にホストする必要があります。

デバイスが TMS (TelePresence Management Suite) からバックアップ ファイルの名前と位置に関する情報を取得するときは、デバイスがサーバに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

構成テンプレートの作成と適用

1. 構成テンプレートを作成します。
2. 次の XML 文字列を含むカスタム コマンドを構成テンプレートに追加します。

```
<コマンド>  
  <プロビジョニング>  
    <サービス>  
      <Fetch>  
        <URL>web-server-address</URL>  
        <Checksum>checksum</Checksum>  
        <Origin>origin</Origin>  
      </Fetch>  
    </サービス>  
  </プロビジョニング>  
</コマンド>
```

上記コマンドで、下記のように適用します。

`web-server-address`:バックアップ ファイルへの URI (例: `http://host/backup.zip`)。

`checksum`:バックアップ ファイルの SHA512 チェックサム。

`Origin`: プロビジョニング*

3. 設定テンプレートのプッシュ先のデバイスを選択し、[\[システムに設定 \(Set on systems\)\]](#) をクリックします。

TMS 構成テンプレートおよびカスタムコマンドの作成方法の詳細については、▶『[Cisco TMS 管理者ガイド](#)』を参照してください。

SHA512 チェックサム

ヒント: Web インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元すると、そのファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[復元 \(Restore\)\]](#) を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックし、チェックサムを計算するファイルを見つけます。
ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されていることが確認できます。

* このパラメータを **Provisioning** に設定しない場合は、バックアップ ファイルに含まれる設定もデバイスにプッシュされます。特定の 1 台のデバイスに固有の構成 (静的 IP アドレス、システム名、連絡先情報など) がバックアップ ファイルに含まれていると、接続できないデバイスができる可能性があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元

Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#) を選択します。

以前使用していたソフトウェア イメージに切り替える前に、デバイスのログ ファイル、構成、およびカスタム要素をバックアップすることを推奨します。

ログファイルのバックアップ

1. [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、[\[システムログ \(System Logs\)\]](#) を選択します。
2. [\[ログのダウンロード \(Download logs\)\]](#) をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。

設定とカスタム要素のバックアップ

1. [\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックし、指示に従ってバックアップバンドルをコンピュータに保存します。

以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元

管理者以外、または、Cisco テクニカルサポートの指示のもとで行う場合以外はこの手順を実行しないでください。

1. [\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#) を選択します。
2. [\[ソフトウェア回復交換 \(Software Recovery Swap\)\]](#) カードを見つけて、[\[ソフトウェアの交換 \(Swap software\)\]](#) をクリックします。
3. [\[Confirm \(確認\)\]](#) をクリックして続行します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) をクリックします。

デバイスがリセットされるまでお待ちください。完了するとデバイスが自動的に再起動します。この手順は数分かかることがあります。

以前に使用されたソフトウェアイメージについて

デバイスに重大な問題がある場合は、以前使用していたソフトウェア イメージに切り替えることで、問題の解決に役立つ場合があります。

ソフトウェアを最後にアップグレードしてからデバイスを初期設定にリセットしていない場合は、それまで使用していたソフトウェア イメージがデバイスに存在しています。ソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (1/5 ページ)

デバイスに重大な問題が発生した場合、最後の手段としてデフォルトの初期設定にリセットすることができます。



初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

工場出荷時の状態にリセットする前に以前使用したソフトウェア イメージに戻すことを常に検討してください。多くの場合これでデバイスが回復します。ソフトウェアの交換については、▶ [「以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元」](#)の章を参照してください。

デバイスを初期設定にリセットする際は、Web インターフェイスまたはユーザ インターフェイスを使用することを推奨します。上記インターフェイスが利用できない場合は、ピンホールリセットを利用します。

工場出荷時設定リセットにより、次のような影響が発生します。

- 通話履歴が削除されます。
- パスフレーズがデフォルト設定にリセットされます。
- すべてのデバイス パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- デバイスにアップロード済みのファイルがすべて削除されます。これには、カスタム壁紙 (*Board* では使用できません)、ブランディング要素、証明書、お気に入りリストなどが含まれます。
- 以前の (非アクティブな) ソフトウェア イメージが削除されます。
- オプション キーは影響を受けません。

初期設定にリセットした後は、デバイスが自動的に再起動します。これは、以前と同じソフトウェア イメージを使用しています。

初期設定へのリセットを実行する前に、デバイスのログ ファイル、設定、カスタム要素をバックアップすることを推奨します。バックアップしない場合、これらのデータは失われます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (2/5 ページ)

Web インターフェイスを使用した初期設定へのリセット

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#) を選択します。

1. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) カードを見つけ、表示される情報を注意深く読みます。
2. [\[工場出荷時の初期状態へのリセット \(Reset to Factory Defaults\)\]](#) をクリックします。
3. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) をクリックして選択内容を確認します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) をクリックします。
4. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップ アシスタントが起動し、[\[ようこそ \(Welcome\)\]](#) 画面が表示されます。

テクニカルサポート画面からの工場出荷時設定へのリセット

適用対象: [Board](#)

工場出荷時設定へのリセットを実行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることをお勧めします。

1. テクニカルサポート画面にアクセスするには、ボードの画面に 1 本の指を置いたままホームボタンを 3 回押します。
2. [\[工場出荷時設定へのリセット \(Factory reset\)\]](#) を選択します。
3. [\[リセット \(Reset\)\]](#) を選択して確認します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) を選択します。
4. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップ アシスタントが起動し、[\[ようこそ \(Welcome\)\]](#) 画面が表示されます。

ユーザ インターフェイスからの初期設定へのリセット

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [\[設定 \(Settings\)\]](#) を選択します。
3. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) を選択します。
4. 選択を確定するには [\[リセット \(reset\)\]](#) を選択し、リセットを中止する場合は [\[戻る \(Back\)\]](#) を選択します。
5. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップ アシスタントが起動し、[\[ようこそ \(Welcome\)\]](#) 画面が表示されます。

ログファイルのバックアップ

1. [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、[\[システムログ \(System Logs\)\]](#) を選択します。
2. [\[ログのダウンロード \(Download logs\)\]](#) をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。

設定とカスタム要素のバックアップ

1. [\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックし、指示に従ってバックアップバンドルをコンピュータに保存します。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (3/5 ページ)

リセット ボタンを使用して工場出荷時設定 にリセットする

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

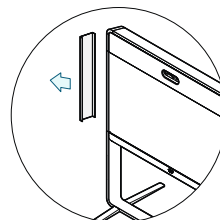
1. ペーパークリップ (または同等のもの) を使用して、画面が黒くなるまでリセット ボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップアシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。

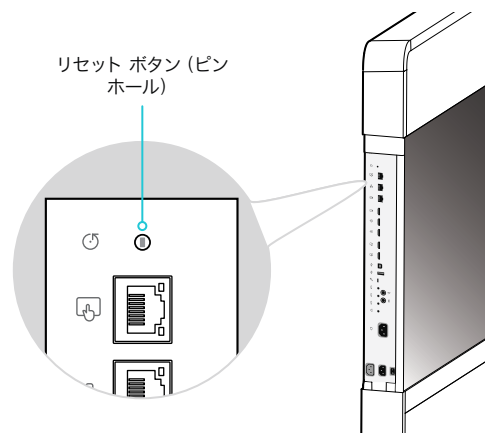
i 図を参照して、さまざまな製品の引っ込んでいるリセットボタンを確認してください。

ボタンは使用がかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが下がる感覚がわかります。

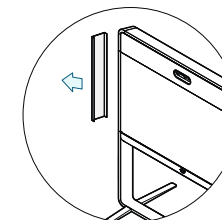
Room 55 Dual および Room 70



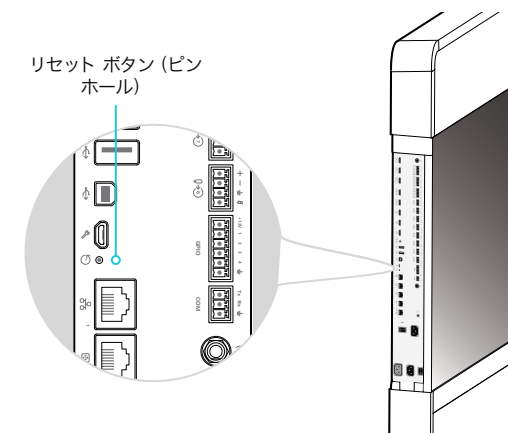
デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (4/5 ページ)

Codec Plus

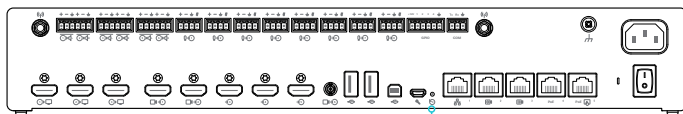


リセット ボタン
(ピン ホール)

Codec Pro および Room Panorama

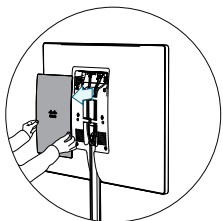
Room Panorama の場合:

- デコグリの下部にある持ち手を使用し、左側のモニタを引き下げてコーデックにアクセスします。

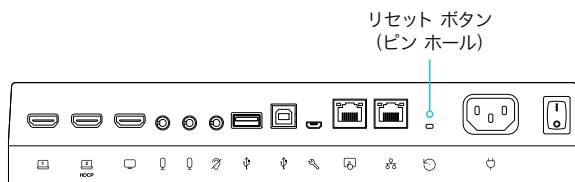


リセット ボタン
(ピン ホール)

Room 55



コネクタ パネルを利用するには、背面カバーを取り外します。

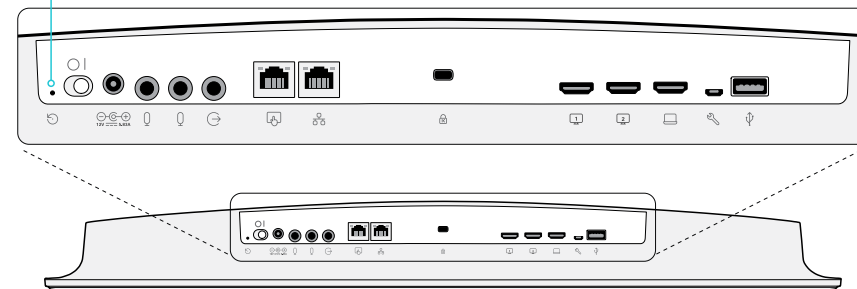


リセット ボタン
(ピン ホール)

Room Kit

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。

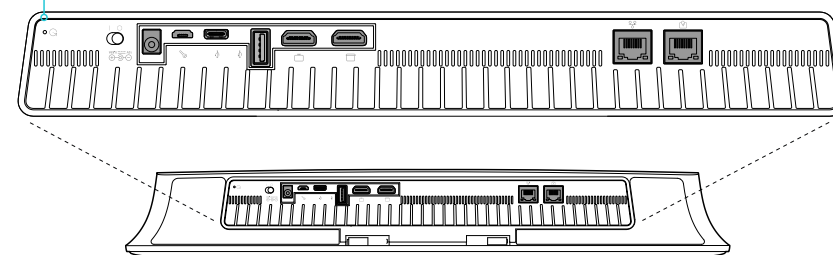
リセット ボタン
(ピン ホール)



Room Kit Mini

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。

リセット ボタン
(ピン ホール)



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

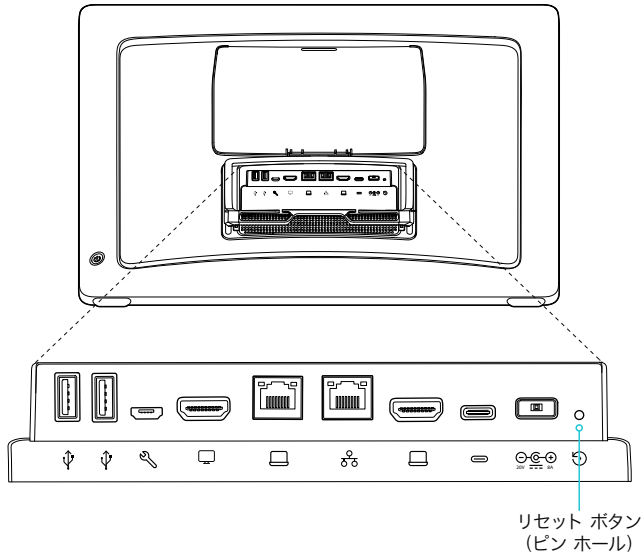
Room 70 Panorama

Room Panorama

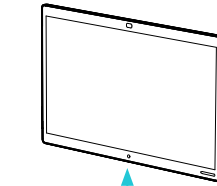
ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (5/5 ページ)

Desk Pro および Desk Limited Edition

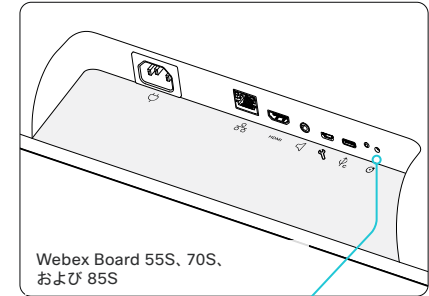
デバイスの背面のカバーをひっくり返して、コネクタパネルにアクセスします。



Webex Board

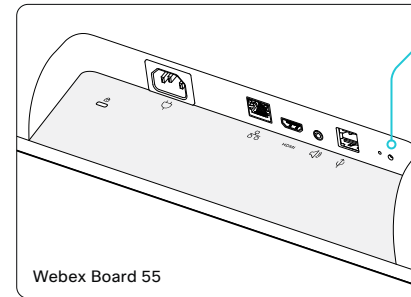


コネクタパネルは下部背面にあります。

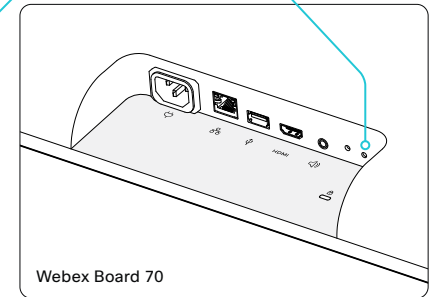


Webex Board 55S, 70S, および 85S

リセット ボタン (ピンホール)



Webex Board 55



Webex Board 70

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Webex Room Navigator の初期設定へのリセット

エラー状態で、接続を再確立するためにタッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすることが必要になる場合があります。

タッチコントローラを初期設定にリセットすると、ペアリング情報が失われ、(ビデオ会議デバイスではなく) タッチコントローラ自体がデフォルトの初期設定に戻ります。

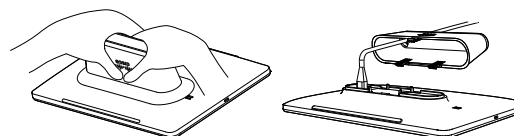


初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

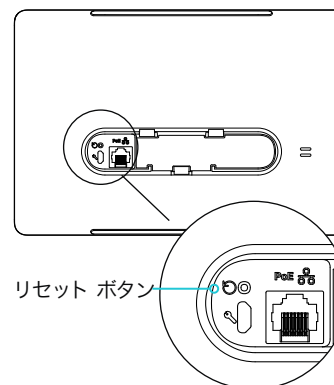
1. 脚を取り外して、コネクタパネルのリセットボタン (ピンホール) を見つけます。
2. ペーパークリップ (または同等のもの) を使用して、画面が黒くなるまでリセット ボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
3. Room Navigator がデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了すると、Room Navigator が自動的に再起動します。数分かかることがあります。

Room Navigator がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合、そのデバイスから新しい設定が自動的に受信されます。

Room Navigator が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。



しっかりと押し回転させ、テーブルスタンドを取り外します。



Room Navigator のビデオ会議デバイスへの接続方法およびペアリングについて

Room Navigator をビデオ会議デバイスに接続するには、次の 2 つの方法があります。

- Room Navigator をビデオ会議デバイスに直接接続する (ローカルペアリング)
(Board では使用できません)
- Room Navigator を LAN 経由でビデオ会議デバイスにペアリングする (リモートペアリング)

Room Navigator のビデオ会議デバイスへの接続方法およびペアリングについては、
▶ 「[タッチコントローラの接続](#)」の章を参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Touch 10 の初期設定へのリセット

エラー状態で、接続を再確立するためにタッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすることが必要になる場合があります。

Cisco Touch 10


1. 背面の小さなカバーを開き、リセット ボタンを見つけます。
2. 前面のミュート ボタンが点滅し始めるまでリセット ボタンを押し続けます (約 5 秒間)。その後、ボタンを離します。

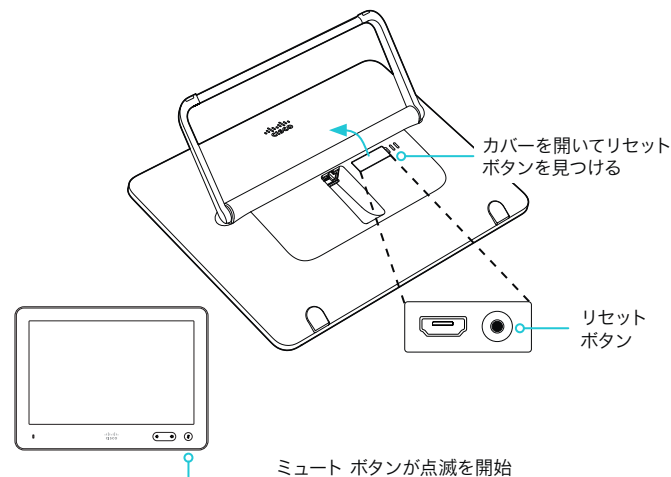
Touch 10 が工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合は、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

タッチコントローラを初期設定にリセットすると、ペアリング情報が失われ、(ビデオ会議デバイスではなく) タッチコントローラ自体がデフォルトの初期設定に戻ります。

 初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。



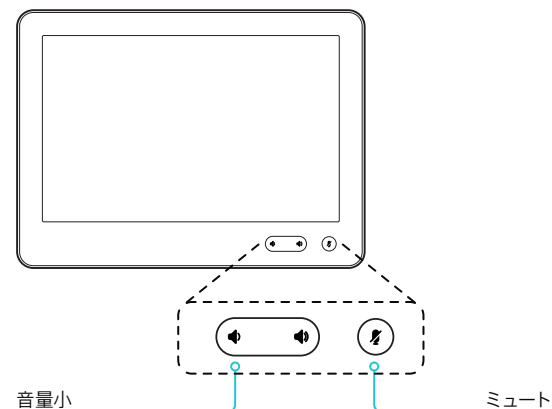
Cisco TelePresence Touch 10

1. **ミュート**および**音量小**ボタンを見つけます。
2. (赤と緑が)点滅しはじめるまで、**ミュート**ボタンを押します。約 10 秒かかります。
3. 音量小ボタンを 2 回押します。

Touch 10 が工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合は、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。



2 つの Touch 10 バージョン

Touch 10 には 2 つのバージョンがあります。どちらも同様の外観で、同じ機能を備えています。

- ・ *Cisco TelePresence Touch 10*:これは最初のバージョンです。前面にロゴはありません。
- ・ *Cisco Touch 10*:このバージョンは 2017 年後半に発売されました。前面のロゴと、背面のコネクタが少ないことによって識別できます。

ペアリングおよびビデオ会議デバイスと Touch 10 の接続方法について

Touch 10 をビデオ会議デバイスに接続するには、次の 2 つの方法があります。

- ・ Touch 10 をビデオ会議デバイスに直接接続する (ローカルペアリング) (*Board では使用できません*)
- ・ Touch 10 を LAN 経由でビデオ会議デバイスにペアリングする (リモートペアリング)

Touch 10 のビデオ会議デバイスへの接続方法およびペアリングについては、▶ [「タッチコントローラの接続」](#)の章を参照してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザ インターフェイスのスクリーンショットをキャプチャする

Web インターフェイスにサインインして、[問題と診断 (Issues and Diagnostics)] に移動し、[ユーザインターフェイスのスクリーンショット (User Interface Screenshots)] を選択します。

スクリーンショットのキャプチャ

タッチコントローラのスクリーンショットをキャプチャするには、[タッチパネルのスクリーンショット (Touch Panel Screenshot)] をクリックします。メイン画面 (オンスクリーンディスプレイ) のスクリーンショットをキャプチャするには、[OSD のスクリーンショット (OSD screenshot)] をクリックします。

スクリーンショットは [現在のスクリーンショット (Current Screenshots)] カードの下に表示されます。スクリーンショットの準備ができるまで最大 30 秒かかる場合があります。

キャプチャされたスクリーンショットはすべて、[現在のスクリーンショット (Current Screenshots)] カードに一覧表示されます。イメージを表示するには、スクリーンショット ID をクリックします。

デバイスの復帰

スタンバイからデバイスを復帰するには、次のボタンを使用します。

Screenshots

Create Screenshot

Taking a screenshot of the touch panel or the on-screen display (OSD) can be useful for creating user manuals, reporting bugs to Cisco, and so on.

Note that any on screen video or presentation will not be captured, and that capturing a screenshot may take a while, depending on image resolution and network bandwidth.

OSD Screenshot Touch Panel Screenshot

Remove Screenshots

Either remove screenshots individually from the table below, or remove all screenshots by clicking "Remove All".

Remove All

Wake System Up

Use the buttons below to put the system into awake or halfwake state.

Awake Halfwake

Web_2020-10-07 112:55:55.648Z	Touchpanel	✕
Web_2020-10-07 112:58:04.744Z	OSD	✕

Remove All

スクリーンショットを削除する

すべてのスクリーンショットを削除する場合は、[すべて削除 (Remove All)] をクリックします。

1 つのスクリーンショットのみを削除するには、そのスクリーンショットの [✕] ボタンをクリックします。

ユーザ インタフェースのスクリーンショットについて

ビデオ会議デバイスに接続されているタッチコントローラのスクリーンショットや、メニュー、インジケータ、メッセージを含むメイン画面 (オンスクリーンディスプレイとも呼ばれる) のスクリーンショットをキャプチャできます。

Desk Pro および Desk Limited Edition の場合:

- OSD のスクリーンショットのみ使用できます。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 5 章

デバイスの設定

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイス設定の概要

次のページでは、デバイス設定の完全なリストを確認できます。これらは Web インターフェイスから設定できます。

Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力してサインインします。[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。

IP アドレスの確認方法

1. ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [このデバイスについて (About this device)] に続き、[設定 (Settings)] を選択します。

オーディオ設定	143
オーディオ デフォルト音量	143
オーディオ 入力 ARC [n] モード	143
オーディオ 入力 HDMI [n] レベル	144
オーディオ 入力 HDMI [n] モード	144
オーディオ 入力 HDMI [n] ビデオの関連付け 非アクティブなビデオでミュート	144
オーディオ 入力 マイク モード	148
オーディオ 入力マイク [n] チャンネル	144
オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 残響除去	145
オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 モード	145
オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 ノイズリダクション	145
オーディオ 入力 マイク [n] イコライザ ID	145
オーディオ 入力 マイク [n] イコライザ モード	146
オーディオ 入力 マイク [n] レベル	146
オーディオ 入力 マイク [n] モード	147
オーディオ 入力マイク [n] ミュート上書き	147
オーディオ 入力 マイク [n] ファントム電源	147
オーディオ 入力 マイク [n] ビデオの関連付け 非アクティブなビデオでミュート	147
オーディオ 入力 マイク [n] ビデオの関連付け ビデオ入力ソース	148
オーディオ 入力 USBC [n] レベル	148
オーディオ 入力 USBC [n] モード	148
オーディオ 入力 WebView[n] モード	149
オーディオ キークリック検出 減衰	149
オーディオ キークリック検出 有効	149
オーディオ マイク AGC	149
オーディオ マイク ミュート 有効	150
オーディオ マイク ノイズ除去 モード	149
オーディオ マイク ファントム電源	150
オーディオ 出力 ARC [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)	150
オーディオ 出力 ARC [n] 遅延 モード	150
オーディオ 出力 ARC [n] モード	151
オーディオ 出力 コネクタ設定	151
オーディオ 出力 イーサネット [n] モード	152
オーディオ 出力 HDMI [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)	152
オーディオ 出力 HDMI [n] 遅延 モード	152
オーディオ 出力 HDMI [n] レベル	153
オーディオ 出力 HDMI [n] モード	153
オーディオ 出力 内蔵スピーカー モード	153
オーディオ 出力 ライン [n] チャンネル	153
オーディオ 出力 ライン [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)	154
オーディオ 出力 ライン [n] 遅延 モード	154
オーディオ 出力 ライン [n] イコライザ ID	154
オーディオ 出力 ライン [n] イコライザ モード	154

Board

オーディオ 出力 ライン [n] レベル	155
オーディオ 出力 ライン [n] モード	155
オーディオ 出力 ライン [n] 出力タイプ	155
オーディオ サウンドとアラート 着信音	156
オーディオ サウンドとアラート 着信音量	156
オーディオ 超音波 最大音量	156
オーディオ 超音波 モード	156
オーディオ USB モード	157

Bluetooth 設定	157
Bluetooth 許可	157
Bluetooth 有効	157

予約設定	158
予約 プロトコルの優先順位	158

BYOD 設定	158
BYOD HID 転送 有効	158
BYOD タッチ転送 有効	158

通話履歴設定	159
通話履歴モード	159

カメラ設定	159
カメラ バックグラウンド 有効	159
カメラ 背景 ユーザ画像 許可	159
カメラ カメラ 明るさ デフォルトレベル	161
カメラ カメラ 明るさ モード	161
カメラ カメラ 露出補正 レベル	162
カメラ カメラ フレームレート	165
カメラ カメラ [n] シリアル番号の割り当て	160
カメラ カメラ [n] バックライト デフォルトモード	160
カメラ カメラ [n] 明るさ アルゴリズム	160
カメラ カメラ [n] 明るさ デフォルトレベル	161
カメラ カメラ [n] 明るさ モード	161
カメラ カメラ [n] Flip	162
カメラ カメラ [n] フォーカス モード	162
カメラ カメラ [n] ガンマ レベル	163
カメラ カメラ [n] ガンマ モード	163
カメラ カメラ [n] ミラー	164
カメラ カメラ [n] モーター移動検出	164
カメラ カメラ [n] ホワイトバランス レベル	165
カメラ カメラ [n] ホワイトバランス モード	164
カメラ 電源 周波数	165
カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 パン	165

カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 チルト	166
カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 ズーム	166
カメラ プレゼンタートラック コネクタ	166
カメラ プレゼンタートラック 有効	166
カメラ プレゼンタートラック プレゼンター検出ステータス	166
カメラ プレゼンタートラック トリガーゾーン	167
カメラ スピーカートラック クローズアップ	168
カメラ スピーカートラック コネクタ検出 左カメラ	168
カメラ スピーカートラック コネクタ検出 右カメラ	169
カメラ スピーカートラック コネクタ検出 モード	168
カメラ スピーカートラック モード	167
カメラ スピーカートラック トラッキングモード	168
カメラ スピーカートラック ホワイトボード モード	169

会議設定	169
会議 アクティブコントロール モード	169
会議 自動応答 遅延	170
会議 自動応答 モード	169
会議 自動応答 ミュート	170
会議 通信プロトコルIPスタック	170
会議 デフォルトコール プロトコル	170
会議のデフォルト コール レート	170
会議 応答不可 デフォルトタイムアウト	171
会議 暗号化 モード	171
会議 遠端制御 モード	171
会議 遠端制御 信号機能	171
会議 遠端メッセージ モード	171
会議 着信マルチサイトコール モード	174
会議 最大受信コールレート	172
会議 最大合計受信コールレート	172
会議 最大合計転送コールレート	173
会議 最大転送コールレート	172
会議 切断時のマイクのミュート解除 モード	173
会議 マルチポイント モード	173
会議 マルチストリーム モード	174
会議 プレゼンテーション 保留時の動作	174
会議 プレゼンテーション リレー品質	174

ファシリティサービス設定	175
ファシリティサービス サービス [n] コールタイプ	175
ファシリティサービス サービス [n] 名前	175
ファシリティサービス サービス [n] 番号	175
ファシリティサービス サービス [n] タイプ	175

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

GPIO 設定	176
GPIO ピン [n] モード	176
H323 設定	176
H323 認証ログイン名	176
H323 認証モード	176
H323 認証 パスワード	177
H323 コールセットアップモード	177
H323 暗号化キーサイズ	177
H323 ゲートキーパー アドレス	177
H323 H323エイリアス E164	177
H323 H323エイリアス ID	178
H323 NAT アドレス	179
H323 NAT モード	178
H323 ポート割り当て	179
HttpClient 設定	179
HttpClient HTTPを許可	179
HttpClient 安全でないHTTPSを許可	180
HttpClient モード	179
HttpClient Httpプロキシの使用	180
HTTP フィードバック設定	180
HttpFeedback Tls検証	180
HttpFeedback Httpプロキシの使用	181
ロギングの設定	181
ロギング クラウドアップロード モード	181
ロギング デバッグ Wifi	181
ロギング 外部 モード	182
ロギング 外部 プロトコル	182
ロギング 外部 サーバー アドレス	182
ロギング 外部 サーバー ポート	182
ロギング 外部 Tls検証	182
ロギング 内部 モード	183
ロギング モード	183
マクロ設定	183
マクロ 自動スタート	183
マクロ モード	183
マクロ 無応答タイムアウト	184
マクロ XAPI トランスポート	184
ネットワーク設定	184
ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード	184
ネットワーク [n] DNS ドメイン 名前	184

ネットワーク [n] DNS サーバー [m] アドレス	185
ネットワーク [n] IEEE8021X 匿名ID	186
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Md5	186
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Peap	187
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Tls	187
ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Ttls	187
ネットワーク [n] IEEE8021X ID	186
ネットワーク [n] IEEE8021X モード	185
ネットワーク [n] IEEE8021X パスワード	186
ネットワーク [n] IEEE8021X Tls検証	185
ネットワーク [n] IEEE8021X クライアント証明書の使用	185
ネットワーク [n] IPスタック	187
ネットワーク [n] IPv4 アドレス	188
ネットワーク [n] IPv4 割り当て	188
ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ	188
ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク	188
ネットワーク [n] IPv6 アドレス	189
ネットワーク [n] IPv6 割り当て	189
ネットワーク [n] IPv6 DHCPオプション	190
ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ	189
ネットワーク [n] IPv6 インターフェイス ID	190
ネットワーク [n] MTU	190
ネットワーク [n] QoS Diffserv オーディオ	191
ネットワーク [n] QoS Diffserv データ	191
ネットワーク [n] QoS Diffserv ICMPv6	192
ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP	192
ネットワーク [n] QoS Diffserv シグナリング	191
ネットワーク [n] QoS Diffserv ビデオ	191
ネットワーク [n] QoS モード	190
ネットワーク [n] リモートアクセス 許可	192
ネットワーク [n] 速度	192
ネットワーク [n] トラフィック制御 モード	193
ネットワーク [n] VLAN 音声 モード	193
ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId	193
ネットワークサービス設定	194
ネットワークサービス CDP モード	194
ネットワークサービス H323 モード	194
ネットワークサービス HTTP モード	194
ネットワークサービス HTTP プロキシ ログイン名	194
ネットワークサービス HTTP プロキシ モード	195
ネットワーク サービス HTTP プロキシ PACUrl	195
ネットワークサービス HTTP プロキシ パスワード	195

Board

ネットワークサービス HTTP プロキシ Url	195
ネットワークサービス HTTPS OCSP モード	195
ネットワークサービス HTTPS OCSP URL	196
ネットワークサービス HTTPS サーバー 最小TLSバージョン	196
ネットワークサービス HTTPS StrictTransportSecurity	196
ネットワークサービス HTTPS クライアント証明書の検証	196
ネットワークサービス NTP モード	196
ネットワークサービス NTP サーバー [n] アドレス	197
ネットワークサービス NTP サーバー [n] キー	197
ネットワークサービス NTP サーバー [n] キーアルゴリズム	197
ネットワークサービス NTP サーバー [n] キーID	197
ネットワークサービス SIP モード	198
ネットワークシステム SMTP 送信元	199
ネットワークサービス SMTP モード	198
ネットワークサービス SMTP パスワード	199
ネットワークサービス SMTP ポート	198
ネットワークサービス SMTP セキュリティ	199
ネットワークサービス SMTP サーバー	198
ネットワークサービス SMTP ユーザー名	199
ネットワークサービス SNMP コミュニティ名	200
ネットワークサービス SNMP モード	199
ネットワークサービス SNMP システム管理者	200
ネットワークサービス SNMP システムロケーション	200
ネットワークサービス SSH 公開キーの許可	200
ネットワークサービス SSH ホストキーアルゴリズム	200
ネットワークサービス SSH モード	200
ネットワークサービス UPnP モード	201
ネットワークサービス UPnP タイムアウト	201
ネットワークサービス Websocket	201
ネットワークサービス ウェルカムテキスト	201
ネットワークサービス Wifi 許可	202
ネットワークサービス Wifi クラウド A_MPDU	202
ネットワークサービス Wifi 有効	202
ネットワークサービス XMLAPI モード	202

周辺機器の設定	203
周辺機器 入力デバイス モード	203
周辺機器 ペアリング Ciscoタッチパネル Emcレジリエンス	203
周辺機器 ペアリング Ciscoタッチパネル リモートペアリング	203
周辺機器 プロファイル カメラ	203
周辺機器 プロファイル カメラ	204
周辺機器 プロファイル 制御システム	204
周辺機器 プロファイル ネットワークスイッチ	204
周辺機器 プロファイル タッチパネル	204

電話帳の設定	205
電話帳 サーバー [n] ID	205
電話帳 サーバー [n] ページネーション	205
電話帳 サーバー [n] Tls検証	205
電話帳 サーバー [n] タイプ	206
電話帳サーバー [n] URL	206

プロビジョニング設定	206
プロビジョニング 接続	206
プロビジョニング CUCM コール管理レコード コール診断	206
プロビジョニング 外部マネージャー アドレス	207
プロビジョニング 外部マネージャー 代替アドレス	207
プロビジョニング 外部マネージャー ドメイン	207
プロビジョニング 外部マネージャー パス	207
プロビジョニング 外部マネージャー プロトコル	207
プロビジョニング ログイン名	208
プロビジョニング モード	208
プロビジョニング パスワード	208
プロビジョニング Tls検証	208
プロビジョニング WebexEdge	209

プロキシミティの設定	209
プロキシミティ 代替ポート 有効	209
プロキシミティ モード	210
プロキシミティ サービス コール制御	210
プロキシミティ サービス コンテンツ共有 クライアントから	210
プロキシミティ サービス コンテンツ共有 クライアントへ	210

ルーム分析設定	211
ルーム分析 環境雑音の予測 間隔	211
ルーム分析 環境雑音の予測 モード	211
ルーム分析 非通話中の人をカウント	211
ルーム分析 人の存在の検出	211
ルーム分析 残響時間 間隔	212
ルーム分析 残響時間 モード	212

ルームクリーンアップの設定	212
ルームクリーンアップ 自動実行 コンテンツタイプ Web データ	212
ルームクリーンアップ 自動実行 コンテンツタイプ ホワイトボード	212
ルームクリーンアップ 自動実行 時間	212

ルームリセットの設定	213
ルームリセット 制御	213

ルームスケジューラの設定	213
ルームスケジューラ 有効	213

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RTP 設定	214
RTP ポート 範囲 開始	214
RTP ポート 範囲 終了	214
RTP ビデオ ポート 範囲 開始	214
RTP ビデオ ポート 範囲 終了	214
セキュリティ設定	215
セキュリティ 監査 ログイング モード	215
セキュリティ 監査 エラー発生時 アクション	215
セキュリティ 監査 サーバー アドレス	215
セキュリティ 監査 サーバー ポート	216
セキュリティ 監査 サーバー ポート 割り当て	216
セキュリティ Fips モード	216
セキュリティ セッション ログイン失敗時のロックアウト時間	216
セキュリティ セッション 非アクティブタイムアウト	217
セキュリティ セッション ログイン失敗の最大数	217
セキュリティ セッション ユーザーあたりの最大セッション数	217
セキュリティ セッション 最大総セッション数	217
セキュリティ セッション 最後のログオンを表示	217
シリアルポート設定	218
シリアルポート ボーレート	218
シリアルポート ログインが必要	218
シリアルポート モード	218
SIP 設定	219
SIP ANAT	219
SIP 認証 パスワード	219
SIP 認証 ユーザー名	219
SIP デフォルトトランスポート	219
SIP 表示名	219
SIP Ice デフォルト候補	220
SIP Ice モード	220
SIP 回線	220
SIP リッスンポート	220
SIP メールボックス	221
SIP 最小TLSバージョン	221
SIP 優先IPシグナリング	221
SIP プロキシ [n] アドレス	221
SIP Tls検証	221
SIP Turn 検出モード	222
SIP Turn DropRflx	222
SIP Turn パスワード	222
SIP Turn サーバー	222

SIP Turn ユーザー名	222
SIP タイプ	222
SIP URI	223
スタンバイ設定	223
スタンバイ ブートアクション	223
スタンバイ 制御	223
スタンバイ 遅延	224
スタンバイ サイネージ オーディオ	224
スタンバイ サイネージ 対話モード	224
スタンバイ サイネージ モード	224
スタンバイ サイネージ 更新間隔	225
スタンバイ サイネージ Url	225
スタンバイ スタンバイアクション	225
スタンバイ ウェイクアップアクション	225
スタンバイ モーション検知ウェイクアップ	225
システムユニット設定	226
システムユニット クラッシュレポート 高度	226
システムユニット クラッシュレポート モード	226
システムユニット クラッシュレポート Url	226
システムユニット カスタムデバイス ID	226
システムユニット 名前	226
時刻設定	227
時刻 日付形式	227
時刻 時刻形式	227
時刻 ゾーン	227
ユーザインタラクション設定	229
ユーザインタラクション 挙手 CMS	229
ユーザインターフェイス設定	229
ユーザインターフェイス アクセシビリティ 着信コール通知	229
ユーザインターフェイス アシスタント モード	229
ユーザインターフェイス アシスタント 会議参加確認	230
ユーザインターフェイス 予約 可視性 タイトル	230
ユーザインターフェイス ブランディング アウェイク状態のブランディング 色	230
ユーザインターフェイス 連絡先情報 タイプ	230
ユーザインターフェイス カスタムメッセージ	231
ユーザインターフェイス 診断 通知	231
ユーザインターフェイス 機能 コール 終了	231
ユーザインターフェイス 機能 コール Webexに参加	231
ユーザインターフェイス 機能 コール キーパッド	231
ユーザインターフェイス 機能 コール 通話中のコントロール	232

Board

ユーザインターフェイス 機能 コール 音楽モード	232
ユーザインターフェイス 機能 コール 開始	232
ユーザインターフェイス 機能 コール ビデオミュート	232
ユーザインターフェイス 機能 すべて非表示	232
ユーザインターフェイス 機能 共有 開始	232
ユーザインターフェイス 機能 ホワイトボード 開始	233
ユーザインターフェイス キートーン モード	231
ユーザインターフェイス 言語	233
ユーザインターフェイス 名前およびサイトラベル モード	233
ユーザインターフェイス OSD 暗号化インジケータ	233
ユーザインターフェイス OSD ハーフウェイクメッセージ	233
ユーザインターフェイス OSD モード	234
ユーザインターフェイス OSD 出力	234
ユーザインターフェイス 電話帳 モード	235
ユーザインターフェイス プロキシミティ 通知	235
ユーザインターフェイス Qt 仮想キーボード	235
ユーザインターフェイス セキュリティ モード	235
ユーザインターフェイス 設定メニュー モード	235
ユーザインターフェイス 設定メニュー 可視性	236
ユーザインターフェイス サウンドエフェクト モード	236
ユーザインターフェイス Usbプロモーション	236
ユーザインターフェイス 壁紙	236
ユーザインターフェイス Webcamのみモード	237
ユーザインターフェイス ホワイトボード アクティビティインジケータ	237
ユーザインターフェイス ホワイトボード デフォルトテーマ	237

ユーザー管理設定	238
ユーザー管理 LDAP 管理者 フィルタ	238
ユーザー管理 LDAP 管理者 グループ	238
ユーザー管理 LDAP 属性	238
ユーザー管理 LDAP ベースDN	238
ユーザー管理 LDAP 暗号化	238
ユーザー管理 LDAP 最小TLSバージョン	239
ユーザー管理 LDAP モード	239
ユーザー管理 LDAP サーバー アドレス	239
ユーザー管理 LDAP サーバー ポート	240
ユーザー管理 LDAP サーバー証明書の検証	240
ユーザー管理 パスワードポリシー 複雑度 数字の最小数	240
ユーザー管理 パスワードポリシー 複雑度 最小文字数	240
ユーザー管理 パスワードポリシー 複雑度 小文字の最小数	241
ユーザー管理 パスワードポリシー 複雑度 特殊文字の最小数	241
ユーザー管理 パスワードポリシー 複雑度 大文字の最小数	241

ユーザー管理 パスワードポリシー 最大有効期間	241
ユーザー管理 パスワードポリシー 再使用制限	242

ビデオ設定	242
ビデオ アクティブスピーカー デフォルトPIPポジション	242
ビデオ デフォルトレイアウトファミリ ローカル	243
ビデオ デフォルトレイアウトファミリ ローカルコンテンツ	243
ビデオ デフォルトレイアウトファミリ リモート	244
ビデオ デフォルトメインソース	244
ビデオ 入力 コネクタ [n] カメラ制御 カメラID	244
ビデオ 入力 コネクタ [n] カメラ制御 モード	245
ビデオ 入力 コネクタ [n] CEC モード	245
ビデオ 入力 コネクタ [n] HDCP モード	246
ビデオ 入力 コネクタ [n] 入力ソースタイプ	246
ビデオ 入力 コネクタ [n] 名前	247
ビデオ 入力 コネクタ [n] 最適鮮明度 プロファイル	247
ビデオ 入力 コネクタ [n] 最適鮮明度 60fps のしきい値	248
ビデオ 入力 コネクタ [n] 推奨解像度	248
ビデオ 入力 コネクタ [n] プレゼンテーションの選択	249
ビデオ 入力 コネクタ [n] 画質	249
ビデオ 入力 コネクタ [n] RGB量子化範囲	250
ビデオ 入力 コネクタ [n] 可視性	250
ビデオ モニタ	251
ビデオ 出力 コネクタ [n] 明るさ	251
ビデオ 出力 コネクタ [n] 明るさ モード	251
ビデオ 出力 コネクタ [n] CEC モード	252
ビデオ 出力 コネクタ [n] 位置 水平オフセット	252
ビデオ 出力 コネクタ [n] 位置 垂直オフセット	253
ビデオ 出力 コネクタ [n] モニタロール	253
ビデオ 出力 コネクタ [n] 解像度	254
ビデオ 出力 コネクタ [n] RGB量子化範囲	254
ビデオ 出力 コネクタ [n] ホワイトバランス レベル	255
ビデオ 出力 Web カメラ USB モード	255
ビデオ プレゼンテーション デフォルトPIPポジション	255
ビデオプレゼンテーション デフォルトソース	255
ビデオ プレゼンテーション 優先順位	256
ビデオセルフビュー デフォルト フルスクリーンモード	256
ビデオセルフビュー デフォルト モード	256
ビデオセルフビュー デフォルト 表示先モニタロール	256
ビデオセルフビュー デフォルトPIPポジション	257
ビデオセルフビュー オンコール 時間	257
ビデオセルフビュー オンコール モード	257

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

音声制御の設定	258
音声制御 ウェイクワード モード	258
Web エンジン設定	258
Web エンジン 機能 SIP URL ハンドラ	258
Webエンジン 機能 WebGL	258
Web エンジン 最小 TLS バージョン	259
Webエンジン モード	259
Webエンジン リモートデバッグ	259
Webエンジン Httpプロキシの使用	259
Webex の設定	260
Webex クラウドプロキシミティ ゲスト共有	260
Webex クラウドプロキシミティ モード	260
Webex クラウド アップグレード モード	260
Webex Meetings 参加プロトコル	261
WebRTC の設定	261
WebRTC コール終了タイムアウト	261
WebRTC 対話モード	261
試験的設定	262

Board

ソフトウェア バージョン:

- RoomOS 10.3.2

Codec Plus

対象製品:

- CodecPro
- CodecPlus
- Room70G2
- Room70/Room55D
- Room55
- RoomKit
- RoomKitMini
- RoomPanorama/Room70Panorama
- DeskPro/DeskLE
- Board

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021



オーディオ設定

オーディオデフォルトボリューム

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

スピーカーのデフォルト音量を定義します。ビデオ会議デバイスのスイッチをオンにするか再起動すると、音量がこの値に設定されます。実行中に音量を変更するには、ユーザ インターフェイスのコントロールを使用します。また、API コマンド (xCommand Audio Volume) を使用して、デバイスの稼働中に音量を変更したり、デフォルト値にリセットしたりすることもできます。

デフォルト値:

50 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

70 [Board]

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 1 ~ 100 の値を選択します。これは、-34.5 dB ~ 15 dB の範囲内の 0.5 dB 単位に相当します。0 に設定すると、音声が入力になります。

オーディオ 入力 ARC [n] モード

適用対象: CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

各 HDMI 出力には、関連付けられた音声リターンチャンネル (ARC) があります。この ARC を使用して、HDMI 出力に接続されている画面またはテレビからビデオ会議デバイスに音声を送信することができます。音声転送を許可するかどうかによって、各 HDMI 出力コネクタ (n) を個別に決定することができます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

オフ: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを無効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されません)。

オン: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを有効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されます)。

n: ARC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1 [Codec Plus]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPro]

範囲: 3 ~ 3 (Room 70 Dual G2) 、 2 ~ 3 (Room 70 Single G2) [Room70G2]

範囲: 3 ~ 3 [RoomPanorama/Room70Panorama]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ入力 HDMI [n] レベル

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[Room55](#)]

範囲: 2 ~ 5 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ入力 HDMI [n] モード

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタの音声を有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: HDMI 入力 で音声を無効にします。

On: HDMI 入力 で音声を有効にします。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[Room55](#)]

範囲: 2 ~ 5 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ入力 HDMI [n] ビデオの関連付け 非アクティブなビデオでミュート

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、このプレゼンテーション ソースが現在画面上に表示されていない場合、またはプレゼンテーション ソースが接続されている間常に音声を再生する場合音声を再生を停止するかどうかを決定します。

デフォルト値:

On [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)]

HDMI [1, 2]: Off HDMI [3, 4, 5]: On [[CodecPro](#)]

HDMI [2]: Off HDMI [3, 4, 5]: On [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Off/On

Off: 音声は、プレゼンテーション ソースが接続されている間、ローカルおよび相手先に対して常に再生されます。HDMI 入力ソースを指定する必要はありません。

On: 音声は、接続されているプレゼンテーション ソースが画面上に表示されている間、ローカルおよび相手先に対して再生されます。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[Room55](#)]

範囲: 2 ~ 5 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#)]

オーディオ入力マイク [n] チャンネル

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク入力の信号がモノラル信号であるか、マルチチャンネル信号の一部であるかを定義します。

デフォルト値:

モノ

値スペース:

Left/Mono/Right

左: マイク入力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

モノ: マイク入力信号はモノラル信号です。

右: マイク入力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 モード

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

エコー キャンセラは、音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件に大幅な変更を加えた場合は、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: エコー コントロールをオフにします。外部のエコー キャンセラもしくは再生機器が使われている場合に推奨します。

On: エコー コントロールをオンにします。一般的には相手先で自らの音声がかき消えないようにするために、オンに設定することが推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [Room Kit Room 55]

オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 残響除去

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスには室内の残響を減らす組み込みの信号処理が備わっています。残響除去を使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode を有効にする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 残響除去をオフにします。

On: 残響除去をオンにします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [Room Kit Room 55]

オーディオ 入力 マイク [n] エコー制御 ノイズリダクション

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスにはノイズ リダクションが組み込まれており、これにより、定常的なバックグラウンド ノイズ (空調システム、冷却ファンなどのノイズ) が軽減されます。さらに、ハイパス フィルタ (ハム フィルタ) により、非常に低い周波数のノイズが軽減されます。ノイズ リダクションを使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode を有効にする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ノイズ リダクションをオフにします。

On: ノイズ リダクションをオンにします。低周波ノイズがある場合、推奨されます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [Room Kit Room 55]

オーディオ 入力 マイク [n] イコライザ ID

適用対象: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク入力に接続されたソースのイコライザ ID を選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 8)

イコライザ ID を設定します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 入力 マイク [n] イコライザ モード

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク入力に接続されたソースのイコライザ モードを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: イコライザなし。

On: マイク入力に接続されているソースのイコライザを有効にします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

オーディオ 入力 マイク [n] レベル

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクの入力コネクタのゲインを設定します。接続しているオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、オーディオ信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎる場合、オーディオの信号対雑音比が低下します。ただし、通常はクリッピングよりも望ましい結果が得られます。

通常、未処理の音声信号は信号レベルが大幅に変動するため、十分な信号のヘッドルームを取れるようにすることが非常に重要だということに注意してください。

0 dB のゲインの最大入力レベルは製品によって異なります: -18 dBu (Room Kit, Codec Plus, Room 55, Room 70, Room 55 Dual)、24 dBu (Codec Pro, Room 70 G2)。

例: マイクの最大出力レベルが -44 dBu で、Codec Pro に接続されている場合、ゲインの設定は 24 dBu - (-44 dBu) = 68 dB にしてください。

デフォルト値:

14 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)]

58 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

整数 (0..26) [[RoomKit](#) [Room55](#)]

整数 (0..24) [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

整数 (0..70) [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room Kit](#) [Room 55](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 入力 マイク [n] モード

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク コネクタで音声を無効または有効にします。

Room Kit、Room 55: マイク [1] は、デバイスの内蔵マイクです。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 音声入力マイクのコネクタを無効にします。

On: 音声入力マイクのコネクタを有効にします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [Room Kit Codec Plus Room 55 Room70/Room55D]

オーディオ 入力 マイク [n] ミュート上書き

適用対象: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は Codec Pro のアナログマイク入力専用です。

システムのメインミュート状態 (つまり、通常のミュートボタンで制御されるもの) を上書きするようにマイク入力を設定します。

これにより、マイク入力をミュート解除し、アクティブなビデオ入力中にプレゼンテーション音などを送信するためのライン入力として使用できます。

非アクティブなビデオ入力に関連付けられている場合や、非アクティブなビデオ入力でもミュートに設定されている場合、マイクはミュート状態が続く場合があります。

たとえば、アナログソースからの音声を提示する必要がある場合、一部のマイク入力をライン入力として再利用する必要があります。

ミュート上書きを使用しない場合、プレゼンテーションの再生中にプレゼンタがマイクをミュートにしたときに、これらのプレゼンテーションソースはサイレントになります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ミュート設定を上書きしません。

On: ミュート設定を上書きします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

オーディオ 入力 マイク [n] ファントム電源

適用対象: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク入力でもファントム電源 (48 V +/- 1 V) を使用するかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: マイク入力でもファントム電源を無効にします。ファントム電源を必要としない機器 (外部ミキサーなど) に接続する場合は、この設定を使用します。

On: マイク入力でもファントム電源を有効にします。Cisco Table Microphone や Cisco 天井マイクを含め、ファントム電源を必要とするマイクに直接接続する場合は、この設定を使用します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

オーディオ 入力 マイク [n] ビデオの関連付け 非アクティブなビデオでミュート

適用対象: CodecPro

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクをビデオ入力コネクタのビデオ ソースに関連付けることができます。さらに、ビデオ ソースが提供されるか否かに応じて、音声を再生するかミュートにするかを決定できます。デフォルトでは、音声はミュートされません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ビデオ ソースが関連付けられていません。

On: ビデオ ソースは関連付けられており、関連ビデオ ソースが表示されない場合は、音声はミュートになります。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

Board

オーディオ 入力 マイク [n] ビデオの関連付け ビデオ入力ソース

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オーディオ ソースに関連付けるビデオ入力コネクタを選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4/5/6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ ソースに関連付けるビデオ入力コネクタを選択します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

オーディオ 入力 マイク モード

適用対象: [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクモードを Focused に設定すると、マイクを組み合わせで音声感度が高くなります。その結果、室内のノイズが聞こえなくなり、デバイスの正面に座った人の声がよく聞こえるようになります。デバイスの正面に座っていない人の声は聞こえなくなります。

マイクモードを Wide に設定すると、デバイスは他のデバイスと同様に動作します。横に座っている人の声が聞こえるようになり、また室内のノイズもより聞こえるようになります。

話者が 1 人のみの場合、Focused モードを使用することをお勧めします。デバイスの前で複数の人が話す場合は Wide モードを使用してください。

デフォルト値:

Focused [[DeskPro/DeskLE](#)]

値スペース:

Focused/Wide

Focused: 1 点に集中された音の感度。デバイスの真正面でないソースからの音は抑制されます。

Wide: デフォルトのマイク動作で、通常の音声感度です。

オーディオ 入力 USBC [n] レベル

適用対象: [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C の音声レベルを設定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

音声レベル。-24 ~ 0 デシベル。

n: USBC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

オーディオ 入力 USBC [n] モード

適用対象: [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C 音声モードを設定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: USB-C からの音声を許可します。

Off: USB-C からの音声を許可しません。

n: USBC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 入力 WebView[n] モード

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

WebView モードを設定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: Web ブラウザからのオーディオを許可します。

Off: Web ブラウザからのオーディオの再生を許可しません。

n: WebView 入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

オーディオ減衰キー クリック検出

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスがキーボードからのクリック ノイズを検出し、マイク信号を自動的に減衰させることができます。キー入力のノイズが他の参加者の邪魔をする可能性があるため、会議出席者がキーボードで入力を開始するときにはこの機能が便利です。

参加者がキーボードで入力しながら話す場合、マイクの信号は減衰しません。[オーディオ キー クリック デテクタ有効化 (Audio KeyClickDetector Enabled)] 設定が On に設定されている必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: マイクの信号の減衰は無効です。

True: キーボードのクリック ノイズが検出された場合、デバイスによりマイクの信号が減衰されます。音声または音声とキーボードのクリックが併せて検出された場合、マイクの信号は減衰されません。

オーディオ キー クリック検出の有効化

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスがキーボードからのクリック ノイズを検出し、マイク信号を自動的に減衰させることができます。キー入力のノイズが他の参加者の邪魔をする可能性があるため、会議出席者がキーボードで入力を開始するときにはこの機能が便利です。マイクの信号の減衰を有効にするには、[オーディオ キー クリック デテクタ減衰 (Audio KeyClickDetector Attenuate)] を On にします。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: キー クリックの検出は無効です。

True: デバイスによりキーボードからクリック ノイズが検出されます。

オーディオ マイク AGC

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

マイクのオートゲインコントロール (AGC) を有効または無効にします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: AGC を無効にします。外部ミキサーや DSP など、マイク信号にすでに AGC が適用されている機器への接続時に使用します。

On: オートゲインコントロール (AGC) を有効にします。

オーディオ マイク ノイズ除去 モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、デバイスのノイズ除去機能をオン/オフにするために使用されます。

これが無効になっていると、オプションはユーザインターフェイスに表示されません。また、xAPI を介して設定することはできません。

デフォルト値:

手動

値スペース:

Disabled/Manual

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ マイク ミュートの有効化

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスでのマイク ミュートの動作を定義します。

デフォルト値:

True

値スペース:

True/InCallOnly

True: 音声ミュートが使用可能になります。通常、コール外ではマイクのミュート LED は点灯しませんが、API コマンドを使用するとミュートすることができます。

InCallOnly: 音声ミュートはデバイスがコール中の場合にだけ使用できます。アイドル状態のときは、マイクをミュートにできません。これは、外部の電話サービスまたは音声システムがデバイスを介して接続されており、デバイスがコール中でないときに使用可能にする場合に便利です。InCallOnly に設定されたとき、音声システムが誤ってミュートにされることを防止できます。

オーディオマイクのファントム電源

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

マイク入力でファントム電源 (11 V +/- 1 V) を使用するかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: マイク入力でファントム電源を無効にします。ファントム電源を必要としない機器 (外部ミキサーなど) に接続する場合は、この設定を使用します。

On: マイク入力でファントム電源を有効にします。Cisco Table Microphone や Cisco 天井マイクを含め、ファントム電源を必要とするマイクに直接接続する場合は、この設定を使用します。

オーディオ 出力 ARC [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ同期を実現するには、各 ARC ライン出力で、他の接続デバイス (TV、外付けスピーカーなど) の遅延に合わせた追加の遅延を設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output ARC [n] Delay Mode 設定での定義に従い、一定の遅延になるか、外部モニターで測定または報告された遅延に相対的な遅延になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

オーディオ 出力 ARC [n] 遅延 モード

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オーディオ 出力 ARC [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒) 設定を使用すると、音声 ARC 出力に遅延を追加できます。追加される遅延は、一定のミリ秒数か、検出された遅延または外部モニターで報告された遅延に対して相対的なミリ秒数です。

デフォルト値:

RelativeToHDMI [[CodecPro](#)]

Fixed [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、検出された遅延または外部モニターで報告された遅延に対して相対的になります。実際の遅延は、顕出された遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs ステータスにより、実際の遅延がレポートされます。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 出力 ARC [n] モード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI [n] 入力コネクタの音声リターンチャンネル (ARC) を有効にするかどうかを選択します。Quad Camera を使用して音声を再生する場合は、ARC出力を有効にする必要があります。

Room 70 G2 には、Quad Camera が統合スピーカーシステムの一部として含まれています。ARC 出力は有効にしておくことをお勧めします。内蔵スピーカーシステムを完全に無効にする場合は、[オーディオ 出力 内蔵スピーカー モード (Audio Output InternalSpeaker Mode)] 設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

オフ: HDMI 入力に ARC チャンネルを無効にします。

オン: HDMI 入力に ARC チャンネルを有効にします。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

オーディオ出力コネクタ設定

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オーディオ入力とオーディオ出力を手動で設定するか、使用しているカメラのタイプと接続されているスクリーンに基づいてビデオ会議デバイスが自動的に実行するかを選択できます。

自動モードでは、音声入力と出力を手動で追加、更新、削除、または接続することはできません。したがって、以下の API コマンドは何の効果もありません。xCommand Audio Setup *, xcommand audio Setup *, xCommand audio Setup * と xCommand audio Localinput *。

手動モードに移行する場合: 既存のオーディオ設定はクリアされ (xCommand Audio セットアップがクリアされます)、入力および出力グループは製品のデフォルト設定に従って設定されます。[オーディオ 出力 HDMI [n] モード (Audio Output HDMI [n] Mode)] および [オーディオ 出力 ARC [1] モード (Audio Output ARC [1] Mode)] 設定はデフォルト値に設定されます。Codec Pro の自動遅延測定が有効になっています。

[自動 (Auto)] モードへの移行時: HDMI および ARC 出力コネクタは、デフォルトグループに接続されます。オーディオ 出力 HDMI [n] モードと、オーディオ出力の ARC [1] モード設定は変更されません。Codec Pro の遅延測定が停止されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: Code Pro のビデオ会議デバイスでは、カメラやいずれかの HDMI 出力に接続された画面を介して音声を再生します。ビデオ会議デバイスは、次のリストで利用可能な最初のデバイスで音声を再生することを選択します。

1. カメラ コントロールがビデオ会議デバイスのカメラ コントロール コネクタのいずれか (イーサネット 2 または 3) に接続されており、HDMI がビデオ会議デバイスのカメラ入力 (HDMI 1 入力) に接続されている Quad Camera。さらに、オーディオ 出力 ARC [1] モードとビデオ入力コネクタ [1] はオンになっている必要があります。カメラを介して音声を再生するには、HDMI 1 入力の音声リターンチャンネル (ARC) が使用されます。
2. 音声出力 HDMI [1] モード設定がオンになっている場合は、HDMI 1 の出力に接続された画面。
3. 音声出力 HDMI [2] モード設定がオンになっている場合、HDMI 2 の出力に接続された画面。
4. 音声出力 HDMI [3] モード設定がオンになっている場合、HDMI 3 の出力に接続された画面。

音声が Quad Camera を通じて再生される場合、ビデオ会議デバイスは、画面とカメラの間の遅延を測定して、カメラの音声を画面上のビデオに同期させることができます (リップ シンク)。遅延を測定するために、ビデオ会議デバイスが画面に信号を送信し、画面がその信号を ARC (オーディオ リターン チャンネル) を介してビデオ会議デバイスに返します。遅延測定では、上記の一覧で CEC (消費者向け電子機器制御) をサポートする最初の画面で、ビデオ出力コネクタ [n] CEC モードがオンに設定されています。

音声が画面内で再生される場合、追加の lip 同期遅延が画面上の役割になります。ビデオ会議デバイスが遅延することはありません。

Room 70 G2 では、[オーディオ 出力 ARC [1] モード (Audio Output ARC [1] Mode)] およ

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

び [オーディオ 出力 内蔵スピーカー モード (Audio Output InternalSpeaker Mode)] がオンで、内蔵画面の [オーディオ 出力 HDMI [n] モード (Audio Output HDMI [n] Mode)] がオンの場合、ビデオ会議デバイスは内蔵スピーカーシステムを通じてオーディオを再生します。統合されたスピーカーシステムと画面の関係が明確なため、自動遅延測定は必要ありません。

[手動 (Manual)]: audio Console アプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalInput *, xCommand Audio Localinput *) を使用して、オーディオ入出力を設定し、手動で出力する必要があります。

Room 70 G2 では、オーディオ コンソール アプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalOutput *) を使用して明示的にコネクタを追加すると、外部画面をオーディオ出力に使用することができます。この場合、外部画面では、内蔵スピーカー システムで再生される音声のステレオ ダウン ミックスが再生されます。超音波信号は、外部画面やライン出力を介しては再生されず、内蔵スピーカー システムでのみ再生されます。

オーディオ出力 イーサネット [n] モード

適用対象: *RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

イーサネット接続を介して、DNAM IV アンプへの音声出力を有効または無効にします。これをオフに切り替えた場合、外部スピーカーが接続されていない限り、Room Panorama での音声エクスペリエンスが直接影響を受け、システムがミュートになります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

オーディオ 出力 HDMI [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)

適用対象: *CodecPro*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ同期を実現するには、各 HDMI ライン出力で、他の接続デバイス (TV、外付けスピーカーなど) の遅延に合わせた追加の遅延を設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output HDMI [n] Delay Mode 設定での定義に従い、一定の遅延になるか、外部モニタで測定または報告された遅延に相対的な遅延になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 3

オーディオ 出力 HDMI [n] 遅延 モード

適用対象: *CodecPro*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オーディオ 出力 HDMI [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒) 設定を使用すると、音声 HDMI 出力に遅延を追加できます。追加される遅延は、一定のミリ秒数か、検出された遅延または外部モニタで報告された遅延に対して相対的なミリ秒数です。

デフォルト値:

Fixed

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、検出された遅延または外部モニタで報告された遅延に対して相対的になります。実際の遅延は、顕出された遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors HDMI [n] DelayMs ステータスにより、実際の遅延がレポートされます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 3

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 出力 HDMI [n] レベル

適用対象: [Room70G2](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 出力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ 出力 HDMI [n] モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 出力コネクタの音声チャンネルを有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Room 70 Dual G2: HDMI 1, 2: On HDMI 3: Off

Room 70 Single G2: HDMI 1: On HDMI 2, 3: Off [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

On [[CodecPlus](#) [CodecPro](#)]

値スペース:

Off/On

Off: 音声出力にコネクタが使用されません。

On: 音声出力にコネクタを使用できます。Codec Pro および Room 70 G2 では、Audio Output コネクタの設定に依存しています。

n: HDMI 出力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [[Codec Plus](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ 出力 内蔵スピーカー モード

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの内蔵スピーカーを使用するかどうかを定義します。この設定を適用するには、Quad Camera に Codec Plus が接続されている必要があります。

Room 70 G2 では、統合されたモニタの Audio Output HDMI [n] Mode の設定がオンに設定されていないと、内蔵スピーカーの音声を再生できません。Room 70 G2 についても、Audio Output ARC 1 Mode 設定がオンになっている必要があります。

Codec Plus 以外のすべての製品では、統合スピーカーの使用を制限して、超音波のみを再生することができます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On/UltrasoundOnly [[RoomKit](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Off/On [[CodecPlus](#)]

Off: デバイスの統合スピーカーを無効にします。

On: デバイスの統合スピーカーを有効にします。

UltrasoundOnly: デバイスの内蔵スピーカーのみで超音波を有効にします

オーディオ 出力 ライン [n] チャンネル

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

音声ライン出力がモノラル信号またはマルチチャンネル信号の一部のいずれであるかを定義します。

デフォルト値:

Line [[1](#), [3](#), [5](#)]: Left Line [2, 4, 6]: Right [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

Room Panorama: Line [[1](#), [3](#), [5](#)]: Left Line [2, 4, 6]: Right

Room 70 Panorama: Line [[1](#), [2](#)]: Mono Line [3, 5]: Left Line [4, 6]: Right [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Left/Mono/Right

Left: 音声ライン出力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

Mono: オーディオライン出力信号はモノラル信号です。

Right: 音声ライン出力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 出力 ライン [n] 遅延 遅延時間 (ミリ秒)

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ シンクを実現するために、他の接続されているデバイス (たとえば、TV、外部スピーカー) の遅延と釣り合う追加の遅延を各音声ライン出力に設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output Line [n] Delay Mode 設定での定義に従い、固定であるか、HDMI 出力の遅延に対して相対的です。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ 出力 ライン [n] 遅延 モード

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Audio Output Line [n] Delay DelayMs 設定を使用すると、音声ライン出力に遅延を追加できます。追加される遅延は、固定のミリ秒数か、(接続済み TV に通常備わっている) HDMI 出力で検出された遅延に対して相対的なミリ秒数です。

デフォルト値:

Fixed [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

RelativeToHDMI [[CodecPro](#)]

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延に対して相対的になります。実際の遅延は HDMI の遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors Line [n] DelayMs ステータスにより、実際の遅延がレポートされます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

オーディオ 出力 ライン [n] イコライザ ID

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

出力ラインに接続されたオーディオ ソースのイコライザ ID を選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 8)

イコライザ ID を設定します。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

オーディオ 出力 ライン [n] イコライザ モード

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ライン出力に接続されたオーディオ ソースのイコライザ モードを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: イコライザなし。

オン: オーディオ出力ラインのイコライザを有効にします。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ 出力 ライン [n] レベル

適用対象: [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラインの出力コネクタのゲインを設定します。接続されているデバイスのオーディオ出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

0 dB のゲインの最大入力レベルは、製品によって次のように異なります。8 dBu (Room 70、Room 55 Dual)、18 dBu (Codec Pro、Room 70 G2)。

例: オーディオデバイスの最大入力レベルが 10 dBu で、Codec Pro に接続されている場合、ゲインの設定は 10 dBu - 18 dBu = -8 dB にしてください。

デフォルト値:

0 [[CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[Room70/Room55D](#)]

オーディオ 出力 ライン [n] モード

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

音声ライン出力のモードを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 音声ライン出力を無効にします。

On: 音声ライン出力を有効にします。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)]

オーディオ 出力 ライン [n] 出力タイプ

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

出力タイプは、接続デバイスに一致するように設定する必要があります。

デフォルト値:

Loudspeaker [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#)]

LineOut [[Room70/Room55D](#)]

値スペース:

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder/Subwoofer [[RoomKit](#)]

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)]

Loudspeaker: スピーカーがライン出力に接続されている場合、スピーカーを使用します。このモードでのコネクタ出力レベルは、音量のマスターコントロールと、システムサウンドすべて (着信音、Webex Assistant など) を含めた出力信号に従って設定されます。

Microphone: このモードでは、接続されているマイクが拾った音がライン出力に送信されません。システム音声や遠隔ソースからの音声は含まれません。

録画機能が回線の出力に接続されている場合は、よく: 使用記録します。このモードでは出力レベルは固定され、システム音は含まれません。ローカルでのプレゼンテーションソース、ローカルマイク、および遠隔ソースからの音声が含まれます。

Subwoofer: サブウーファーがライン出力に接続されている場合、サブウーファーを使用します。このモードでは、低音はライン出力に送信され、それ以外のオーディオ信号は内蔵スピーカーで再生されます。

LineOut: 他のデバイスのライン出力を使用します。このモードでは出力レベルは固定され、システム音は含まれません。ローカルでのプレゼンテーションソースおよび遠隔ソースからの音声が含まれます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

オーディオ サウンドとアラート 着信音

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

着信コールに使用する着信音を定義します。

デフォルト値:

Sunrise [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Waves [Board]

値スペース:

Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/
Mellow/Ringer

リストから呼び出し音を選択します。

オーディオ サウンドとアラート 着信音量

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

着信コールの着信音量を定義します。

デフォルト値:

50 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 値は 5 刻みで 0 ~ 100 (-34.5 dB ~ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ ウルトラサウンド モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、インテリジェント プロキシミティ機能に適用されます。設定はデフォルト値のままにしておいてください。

デフォルト値:

Dynamic [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

Static [Board]

値スペース:

Dynamic/Static

Dynamic: デバイスが超音波ボリュームを動的に調整します。ボリュームは、[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] の設定で定義された最大レベルまでさまざまに変化します。

Static: シスコが助言した場合にのみ使用してください。

オーディオ ウルトラサウンド最大音量

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、Intelligent Proximity 機能に適用されます。超音波ペアリングメッセージの最大音量を設定します。

[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、超音波ペアリングメッセージにのみ影響します。超音波を使用した人の存在の検出とモーション検知については、[ルーム分析 人の存在の検出 (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector)] 設定および [スタンバイ モーション検知ウェイクアップ (Standby WakeupOnMotionDetection)] 設定を参照してください。

デフォルト値:

70

値スペース:

整数 (0 ~ 90) [CodecPlus CodecPro]

整数 (0..70) [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値は指定の範囲内から選択します。0 に設定すると、超音波ペアリングメッセージは出力されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ USB モード

適用対象: *RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB コネクタの音声チャンネルを有効または無効にします。

デフォルト値:

SpeakerAndMicrophone

値スペース:

Off/SpeakerAndMicrophone

Off: 音声の流れはありませんが、シグナリングは引き続き有効です。これにより、USB デバイスをミュート/音量コントローラとして使用できます。

SpeakerAndMicrophone: USB オーディオデバイスの入力および出力チャンネルが接続されます。

Bluetooth 設定

Bluetooth 許可

適用対象: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスは、組み込みの Bluetooth® モジュールを備えています。デフォルトで、ユーザはユーザ インターフェイスを使用してオンとオフを切り替えることができます。この設定を使用すると、管理者は Bluetooth 設定を無効にしてユーザ インターフェイスからセットアップできないようすることができます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 管理者が Bluetooth をオフにし、ユーザがユーザ インターフェイスからオンにすることはできません。

True: Bluetooth が許可されます。ユーザがユーザ インターフェイスを使用してオンとオフを切り替えることができます。

Bluetooth が有効 (Bluetooth Enabled)

適用対象: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: ADMIN

Bluetooth® 接続が許可されている場合 (Bluetooth 許可設定を参照)、この設定を使用して Bluetooth を有効および無効にすることができます。ビデオ会議デバイスは HFP (ハンズフリー プロファイル) と A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル) のプロファイルをサポートします。A2DP だけをサポートするヘッドセットは使用できません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Bluetooth は無効になり、ビデオ会議デバイスと Bluetooth デバイスはペアリングできません。

True: Bluetooth が有効になり、ペアリングを行って Bluetooth ヘッドセットを使用することができます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

予約設定

予約 プロトコルの優先順位

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ビデオデバイスは、Webex クラウドで提供されるサービスである Cloud Video Interop (CVI) ゲートウェイ経由で SIP を使用するか、Microsoft Teams ミーティング Web アプリ (WebRTC) を実行することで、Microsoft Teams 会議に参加できます。

Microsoft Teams の会議に参加するには、カレンダーサービスを利用します。また、オンプレミスサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスで利用できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/WebRTC

Auto: ミーティングの招待に CVI アドレスがある場合、デバイスは SIP/CVI 経由で Microsoft Teams の会議に参加します。それ以外の場合、WebRTC が使用されます。

WebRTC: デバイスは常に Microsoft Teams の会議に WebRTC を使用します。

BYOD 設定

BYOD HID 転送 有効

適用対象: DeskPro/DeskLE

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラップトップ用の外付けマウスまたはキーボード (有線 USB または USB ドングル) を使用する場合、ラップトップに直接接続する代わりに、ビデオ会議デバイスの USB ポートにそれらを接続できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 外付けマウスまたはキーボードをラップトップに直接接続する必要があります。

True: ラップトップ用の外部マウスまたはキーボードをビデオ会議デバイスに接続できます。

BYOD タッチ転送 有効

適用対象: DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用すると、タッチリダイレクト機能を有効または無効にすることができます。タッチリダイレクトを使用すると、Board またはビデオデバイスのタッチスクリーンからラップトップを制御できます。ラップトップは、HDMI ケーブル (有線共有) と USB-C ケーブルによってデバイスに接続する必要があります。デバイスからラップトップへの接続には、USB-C - USB-C ケーブルまたは USB-C - USB-A ケーブルを使用できます。

この機能は第 1 世代のボード (Webex Board 55 および 70、S シリーズ以外) では使用できないことにも注意してください。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: タッチ リダイレクトが無効になります。

True: タッチ リダイレクトが有効になります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

通話履歴設定

通話履歴モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

不在着信や応答されなかったコールを含めて、発着信コールに関する情報を保存するかどうかを指定します (通話履歴)。これにより、ユーザ インターフェイスの Recents リストにコールが表示されるかどうかが決まります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 新しいエントリが通話履歴に追加されません。

On: 新しいエントリは通話履歴一覧に保存されます。

カメラ設定

カメラ バックグラウンド 有効

適用対象: DeskPro/DeskLE

必要なユーザ ロール: admin、user

カメラの背景機能を有効または無効にします。

カメラの背景機能を使用すると、実際の環境の代わりに、仮想背景 (つまり、画像やエフェクト) をカメラビューの背景として表示できます。カメラの背景設定コマンドを有効にするには、この設定を有効にする必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True: カメラの背景機能を有効にします。

False: カメラの背景機能を無効にします。

カメラ 背景 ユーザ画像許可

適用対象: DeskPro/DeskLE

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザが会議やコール中に仮想背景としてカスタム画像を使用する機能を有効または無効にします。

この機能にアクセスするには、カメラ 背景 有効 (Cameras Background Enabled) 設定も有効に設定する必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

True: 仮想背景としてカスタム画像を使用できます。

False: 仮想背景としてカスタム画像の使用を無効にします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ [n] シリアル番号の割り当て

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラ ID は、Camera [n] の数字 n です。 デフォルトでは、カメラ ID はカメラに自動的に割り当てられます。 EDID 情報がカメラからビデオ会議デバイスに送信されない場合、カメラ ID は再起動後に保持されません。 これは、ビデオ会議デバイスの再起動時にカメラが新しいカメラ ID を取得する可能性があることを意味します。

ビデオ会議デバイスが複数のカメラから EDID 情報を受信しない構成を考慮するには、カメラ カメラ シリアル番号の割り当て設定を使用する必要があります。 この設定は、カメラ ID をカメラのシリアル番号に関連付けることでカメラにカメラ ID を割り当てられるようにします。 この設定はビデオ会議デバイスが工場出荷時の状態にリセットされるまで維持されます。

ビデオ会議デバイスが EDID 情報を受信しない一般的な状況として、3G SDI を使用して Cisco TelePresence Precision 60 カメラを接続する場合や、EDID 情報を送信しない HDMI リピータを使用する場合があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、20)

カメラのシリアル番号。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ [n] バックライト デフォルトモード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このコンフィギュレーションは、逆光補正をオンまたはオフにします。 逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。 逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えてしまいます。

Cisco Quad Camera および、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。 これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: カメラの逆光補正をオフにします。

On: カメラの逆光補正をオンにします。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ [n] 明るさ アルゴリズム

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの明るさアルゴリズムを指定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Average/FaceOptimized

Auto: カメラの明るさアルゴリズムはデバイスによって自動的に設定されます。

Average: 従来の明るさアルゴリズムが適用されます。 これは画像領域全体を使用して明るさを計算します。

FaceOptimized: 明るさは、人が検出された領域を重み付けして計算されます。 これには、自動逆光補正が含まれます。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ [n] 明るさ モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの明るさモードを定義します。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラの明るさはデバイスによって自動的に設定されます。

Manual: カメラの明るさの手動設定を有効にします。明るさのレベルは、Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ 明るさ モード

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの明るさモードを定義します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラの明るさはデバイスによって自動的に設定されます。

Manual: カメラの明るさの手動設定を有効にします。明るさのレベルは、Cameras Camera Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定します。

カメラ カメラ [n] 明るさ デフォルトレベル

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

明るさのレベルを定義します。カメラ カメラ [n] 明るさ モードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、および Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 31)

明るさレベル。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ 明るさ デフォルトレベル

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

明るさのレベルを定義します。カメラ カメラ 明るさ モード (Cameras Camera Brightness Mode) を Manual に設定する必要があります。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 31)

明るさレベル。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ 露出補正 レベル

適用対象: [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

露出補正 レベルを設定して、カメラ画像の露出過多または露出不足を調整します。自動露出は実行されますが、この設定によってターゲットの明るさが変化します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-3 ~ 3)

正の数に設定すると、キャプチャした画像の明るさが増します。負の数にすると暗くなります。

カメラ カメラ [n] Flip

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

反転モード (垂直フリップ) を使用すると、画像を上下反転できます。反転は、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

この機能は、Quad Camera、PTZ-12 カメラ、および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラではサポートされません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On [[CodecPro](#)]

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 画像を通常の方法で画面に表示します。

On: 画像を上下反転させて表示します。この設定は、カメラが上下逆にマウントされたが、マウント方向を自動的に検出できない場合に使用されます。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ [n] フォーカス モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラのフォーカス モードを定義します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/AutoLimited/Manual [[CodecPlus](#)]

Auto/Manual [[CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Auto: オート フォーカスの動作は製品によって異なります。Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の場合、また Cisco Quad Camera をコーデック (Codec Plus または Codec Pro) と一緒に使用する場合は、コールがつながった時点、およびビューが変更された後にカメラがシングルショットオートフォーカスを行います。コーデック (Codec Plus または Codec Pro) を備えた Cisco TelePresence Precision 60 カメラを使用する場合、カメラは連続オートフォーカスを行います。この場合、通話がつながったとき、パン、チルト、ズームが行われたとき、またカメラが風景の変化を識別したときに、オート フォーカスが実行されます。

AutoLimited: このモードは、Codec Plus を搭載した Cisco TelePresence Precision 60 カメラを使用している場合のみ適用されます。ほとんどの場合、このモードはオート フォーカスと同様に動作します。AutoLimited により、フォーカスを合わせようとし続ける可能性を減らすことができます。問題となる状況は、コントラストがない、またはコントラストが低い広い場所です。たとえば装飾のない壁、または部分的に空白のあるホワイトボードなどもこのおそれがあります。オート フォーカスと比べて、このモードを使用する方が、背景にフォーカスが合う可能性が高まります。

Manual: オート フォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ [n] ガンマ モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、ガンマ補正を有効にします。ガンマは、画像ピクセルとモニタの明るさとの間の関係を表します。

Cisco Quad Camera、および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードではガンマ値はガンマ レベル設定で変更されます。「カメラ カメラ [n] ガンマ レベル」を参照してください。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ [n] ガンマ レベル

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ガンマレベルを設定して、使用するガンマ修正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。カメラ カメラ [n] ガンマ モードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

Cisco Quad Camera および、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 7)

ガンマ レベルを定義します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ [n] ミラー

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。スピーカートラックがオンのときはミラーリングが自動的に無効になります。

Cisco Quad Camera および、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。また、この機能は PTZ-12 カメラではサポートされません。

デフォルト値:

Auto [[CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Auto/Off/On [[CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

On: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラ カメラ [n] モーター移動検出

適用対象: [CodecPro](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、Cisco TelePresence PrecisionHD 1080p12x のカメラを使用する場合にのみ適用されます。

カメラの位置を手で調整する場合、カメラの新しい位置を維持するか、プリセットまたは以前の位置に戻すかを設定できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: カメラの位置を手で調整する場合、カメラが再び調整されるまでこの位置を維持します。警告: カメラを手で傾ける場合、位置のフィードバックがないため、カメラは新しいパンおよびチルトの値を登録しません。これは、後でカメラのプリセットを再呼び出しする場合に、誤ったパンおよびチルト値が発生する原因になります。

On: カメラの位置を手で調整した場合、またはモーターが移動したことをカメラが検出した場合、最初に再初期化 (つまり、デフォルト位置に移動) してからプリセットまたはカメラを調整する前に割り当てられていた位置に戻ります。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

カメラ カメラ [n] ホワイトバランス モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

Cisco Quad Camera、および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

Manual: カメラのホワイトバランスの手動設定を有効にします。ホワイト バランスのレベルは Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ カメラ [n] ホワイトバランス レベル

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ホワイトバランスのレベルを定義します。カメラ カメラ [n] ホワイトバランス モードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

Cisco Quad Camera、および Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。また、ホワイトバランスのレベル設定は、ホワイトバランスモードが手動に設定されているときに Sony の One Push モードを使用する PTZ-12 カメラには効果がありません。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 16)

ホワイトバランスのレベル。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

カメラのカメラ フレーム レート

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Room55](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

デフォルトとして、カメラは 1 秒あたり 30 フレームを出力します。これにより、通常の帯域と照明条件であってもクローズアップと広い視野両方の画像の品質が良くなります。条件がさらに良い場合、カメラから 1 秒あたり 60 フレームの出力となり、全般的に良い品質となる可能性があります。

デフォルト値:

30

値スペース:

30/60

30 : カメラは、1 秒あたり 30 フレームを出力します。

60: カメラは 1 秒あたり 60 フレームを出力します。

カメラ 電源 周波数

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラが電源周波数フリッカー防止をサポートしている場合、カメラは電源からのすべてのフリッカーノイズを補うことができます。このカメラ設定はお使いの電源周波数に基づいて設定する必要があります。カメラが電源周波数の自動検出をサポートしている場合、設定で Auto オプションを選択できます。

シスコのカメラは、フリッカー防止と電源周波数の自動検出の両方をサポートしています。Auto はデフォルト値であるため、自動検出をサポートしないカメラの場合、この設定を変更する必要があります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

50Hz/60Hz/Auto

50Hz: 電線周波数が 50 Hz の場合、この値を使用します。

60Hz: 電線周波数が 60 Hz の場合、この値を使用します。

Auto: カメラが電源周波数を自動検出できるようにします。

カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 パン

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンタートラッキング カメラをどのパン ポジションに動かすかを定義します (プレゼンタートラッキング機能が有効にされている場合)。プレゼンタートラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

パン ポジション。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 チルト

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンタ トラッキング カメラをどのチルト ポジションに動かすかを定義します (プレゼンタ トラッキング機能が有効にされている場合)。プレゼンタ トラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

チルト ポジション。

カメラ プレゼンタートラック カメラの位置 ズーム

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンタ トラッキング カメラをどのズーム ポジションに動かすかを定義します (プレゼンタ トラッキング機能が有効にされている場合)。プレゼンタ トラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

ズーム ポジション。

カメラ プレゼンタートラック コネクタ

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンタ トラッキング カメラが接続されるビデオ入力コネクタを定義します。プレゼンタ トラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

1 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

1 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

整数 (1..6) [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

整数 (1 ~ 3) [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

ビデオ入力コネクタ。

カメラ プレゼンタートラック 有効

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

PresenterTrack 機能を使用可能にするかどうかを定義します。プレゼンタ トラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: PresenterTrack 機能が無効になります。

True: PresenterTrack 機能を使用できます。

カメラ プレゼンタートラック プレゼンター検出ステータス

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ブリーフィングルームと教室のシナリオ (ルーム タイプ テンプレート) で、リモート プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードを自動切り替えを有効にするか無効にするかを定義します。自動切り替えとは、PresenterTrack のトリガー ゾーン内で人物が検出されるとデバイスがローカル プレゼンタ モードに切り替わり、ローカル プレゼンターがステージから退出するとリモート プレゼンタ モードに戻ることを意味します。

この設定を有効にすると、新しい人物がトリガー ゾーンに入ったときに、Cameras PresenterTrack PresenterDetected ステータスが更新されます。

プレゼンタ トラッキングは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。ブリーフィングルームは Codec Plus、Room 70、および Room 55 Dual ではサポートされていません。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: モードの自動切り替えは行われません。

Enabled: ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。

Board

カメラ プレゼンタートラック トリガーゾーン

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

トリガー ゾーンを定義します。このゾーンに対応する領域で人物の顔が検出されると、プレゼンタートラックが開始されます。

形式は、文字列型の 2 組の x 座標と y 座標 (x1,y1,~xn,yn) です。x の範囲は (0, 1920) で、y の範囲は (0, 1080) です。2 組の座標により、長方形のトリガー ゾーンの左上隅と右下隅が定義されます。座標が 3 組以上になると、多角形のトリガー ゾーンの頂点が定義されます。

プレゼンタートラックは Precision 60 と SpeakerTrack 60 カメラでのみサポートされます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

トリガー ゾーンの座標。

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ スピーカー トラック モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スピーカー トラックやベスト オーバービューのサポートでカメラを使用する場合のみ、この設定が適用されます。

Cisco Quad Camera: スピーカー トラックは自動カメラ フレーミングを使用し、部屋にいる人の場所に基づいて最適なカメラ表示を選択します。Quad Cameraは、通話中のスピーカーのクローズアップを検索してキャプチャするオーディオ トラック技術を使用します。

Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ: デュアル カメラ アセンブリは、2 台のカメラで構成され、アクティブ スピーカーのクローズアップを検索してキャプチャするオーディオ トラック技術を使用します。スピーカーの変更が検出された場合、ビデオ会議デバイスでは、最適なカメラのビューが常に適用されるように、2 台のカメラを自動的に切り替えることができます。異なるスイッチング モードについては、「カメラ スピーカートラック トラックモード」を参照してください。

内蔵スピーカートラックカメラ付きビデオ会議デバイス (Room Kit, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama, Board) : スピーカートラックは自動カメラフレーミングを使用し、室内の人の場所に基づいて最適なカメラビューを選択します。カメラは、通話中のスピーカーのクローズアップを検索してキャプチャするオーディオ トラック技術を使用します。

ベストオーバービューをサポートしているカメラを備えた、スピーカートラック (Room Kit Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition) 以外のビデオ会議デバイス: ベストオーバービューでは、室内のどこに人がいるかに基づいて最適なカメラビューを選択するために、自動カメラフレーミングを使用します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: スピーカートラック (Room Kit Mini ではサポートされません) およびベストオーバービューがオンになります。デバイスが室内の人々を検出して自動的に最適なカメラフレーミングを選択します。ユーザは、タッチコントローラのカメラのコントロールパネルで、機能のオン/オフを即座に切り替えることができますが、その機能は、各コールの後に再度オンになり、デバイスが次のユーザに対応できるようになります。

Off: スピーカートラック (Room Kit Mini, Desk Pro, または Desk Limited Edition ではサポートされません) およびベストオーバービューはオフになります。Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 Camera アセンブリがある場合、2 台のカメラは個別のカメラとして動作します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カメラ スピーカートラック クローズアップ

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

カメラの SpeakerTrack モードが [自動 (Auto)] に設定されている場合のみ、この設定が適用されます。

クローズアップ機能をオンにすると、人が話していることがデバイスによって検出され、その人が映るように最適なフレーミングが選択されます。これはクローズ アップといい、室内のすべての人を含まない場合があります。室内のすべての人を常に表示しておきたい場合、クローズ アップ機能をオフにできます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: 動作はデバイスのタイプによって異なります。Board では、室内のすべての人が常にカメラのフレームに入るように維持されます。その他のデバイスでは、話している人にズームインします。

Off: デバイスは、室内のすべての人が常にカメラのフレームに入るように維持されます。

On: デバイスは、話している人にズームインします。

カメラ スピーカートラック トラッキングモード

適用対象: CodecPlus CodecPro

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラを使用している場合にカメラ スピーカートラック モードが Auto に設定されている場合のみ適用されます。

スピーカのトラッキング アルゴリズムは、2 つのモード (高速なモードと低速なモード) の変更に応じて変わります。このモードは、カメラのビューが新しいスピーカーに移行するタイミングを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Conservative

Auto: 通常トラッキング モードです。

Conservative: カメラのビューは、通常モードよりも遅いタイミングで新しいスピーカーに移行します。

カメラ スピーカートラック コネクタ検出 モード

適用対象: CodecPlus CodecPro

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議デバイスに接続されている場合のみ適用されます。

個々のカメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出するか、それとも手動で設定するかを定義します。ビデオ会議デバイスがカメラから EDID 情報を受信しない状況の場合、手動設定を選択する必要があります。通常、これは、EDID 情報を送信しない HDMI リピータを使用する場合にあてはまります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出します。

Manual: カメラが接続されているビデオ入力を手動で定義します。カメラ スピーカートラック コネクタ検出 左カメラおよびカメラ スピーカートラック コネクタ検出 右カメラ設定を使用します。

カメラ スピーカートラック コネクタ検出 左カメラ

適用対象: CodecPlus CodecPro

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

SpeakerTrack 60 の左側のカメラが接続されているビデオ入力の数値を定義します。

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議デバイスに接続されている場合のみ適用されます。さらに、カメラ スピーカートラック コネクタ検出 モードを Manual に設定する必要があります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 5) [CodecPro]

整数 (1 ~ 3) [CodecPlus]

有効なビデオ入力の番号を設定します。たとえば、左側のカメラがビデオ入力 1 に接続されている場合は、1 に設定します。

Board

カメラ スピーカートラック コネクタ検出 右カメラ

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SpeakerTrack 60 の右側のカメラが接続されているビデオ入力の数値を定義します。

この設定は、Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラがビデオ会議デバイスに接続されている場合にのみ適用されます。さらに、カメラ スピーカートラック コネクタ検出 モードを Manual に設定する必要があります。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (1 ~ 5) [[CodecPro](#)]

整数 (1 ~ 3) [[CodecPlus](#)]

有効なビデオ入力の番号を設定します。たとえば、右側のカメラがビデオ入力 2 に接続されている場合は、2 に設定します。

カメラ スピーカー トラック ホワイトボード モード

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

ホワイトボードへのスナップ機能はスピーカー トラッキング機能の拡張です。そのため、スピーカートラッキングをサポートするカメラが必要になります。プレゼンタがホワイトボードの横に立っている場合、Snap to Whiteboard が有効になっていると、カメラはプレゼンタとホワイトボードの両方をキャプチャします。この機能が無効の場合、プレゼンタのみがキャプチャされます。[ホワイトボードへのスナップ (Snap to Whiteboard)] 機能はタッチコントローラまたは Web インターフェイスで設定されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Snap to Whiteboard 機能は無効です。

On: Snap to Whiteboard 機能は有効です。

会議設定

会議 アクティブコントロール モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

アクティブ コントロールは、会議参加者がビデオ会議デバイスのインターフェイスを使用して Cisco TelePresence Server または Cisco Meeting Server の会議を管理できる機能です。各ユーザは、参加者リストの表示、ビデオ レイアウトの変更、参加者の接続解除などをインターフェイスから行えます。アクティブ コントロール機能は、インフラストラクチャ (Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 9.1.2 以降、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) バージョン X8.1 以降、Cisco Media Server (CMS) バージョン 2.1 以降) でサポートされている限り、デフォルトでイネーブルです。アクティブ コントロール機能を無効にするには、この設定を変更します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: アクティブ コントロールがインフラストラクチャでサポートされている場合に有効になります。

Off: アクティブ コントロールは無効です。

会議 自動応答 モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

自動応答モードを定義します。デバイスを使用してコールに回答する前に数秒間待機する場合は、会議 自動応答 遅延設定を使用し、コールに回答するときにマイクをミュートする場合は会議自動応答のミュート設定を使用します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: タッチコントローラで [応答 (Answer)] をタップし、着信コールに手動で応答できます。

On: コール中でなければ、デバイスが自動的に着信コールに回答します。常に手動で、通話中の着信コールの応答や拒否が行えます。

Board

会議 自動応答 ミュート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

着信コールに自動応答する場合にマイクをミュートにするかどうかを定義します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 着信コールはミュートにされません。

On: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

会議 自動応答 遅延

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスが自動応答するまで着信コールが待つ必要がある時間 (秒単位) を定義します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 50)

自動応答遅延 (秒単位)。

会議 通信プロトコルIPスタック

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスで通信プロトコル (SIP、H323) の IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを有効にする必要がある場合に選択します。

デフォルト値:

Dual

値スペース:

デュアル (Dual) /IPv4/IPv6

Dual: 通信プロトコルの IPv4 と IPv6 の両方をイネーブルにします。

IPv4: [IPv4] に設定すると、通信プロトコルは IPv4 を使用します。

IPv6: [IPv6] に設定すると、通信プロトコルは IPv6 を使用します。

会議 デフォルトコール プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスからコールを発信するときに使用するデフォルトのコール プロトコルを定義します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/H320/H323/Sip/Spark

Auto: 使用可能なプロトコルに基づいた通信プロトコルの自動選択をイネーブルにします。複数のプロトコルが使用可能な場合、優先順位は次の通りです: 1) SIP、2) H323、3) H320。デバイスが登録を実行できない場合、自動選択により H323 が選択されます。

H320: すべてのコールが H.320 コールとしてセットアップされます (Cisco TelePresence ISDN リンクとともに使用している場合のみ)。

H323: すべてのコールが H.323 コールとして設定されます。

SIP: すべてのコールが SIP コールとして設定されます。

Spark: Webex 登録済みデバイスのために予約されています。使用しません。

会議のデフォルト コール レート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスからコールを発信するときに使用するデフォルトのコール レートを定義します。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

10000 [Board]

16000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64 ~ 10000) [Board]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

デフォルト コール レート (kbps) です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

会議 応答不可 デフォルトタイムアウト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定はサイレント セッションのデフォルト期間、つまり着信コールが拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。セッションは、ユーザ インターフェイスを使用して早期に終了できません。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (1 ~ 1440)

DoNotDisturb (着信拒否) セッションが自動的にタイムアウトするまでの分数 (最大 1440 分、つまり 24 時間)。

会議 暗号化 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、数秒間画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が表示されます。

注: 暗号化オプション キーがデバイスにインストールされていない場合、暗号化モードは常に [オフ (Off)] になります。

デフォルト値:

BestEffort

値スペース:

Off/On/BestEffort

Off: デバイスは暗号化を使用しません。

On: デバイスは、暗号化されたコールだけを許可します。

BestEffort: デバイスは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイントツーポイント コール: 相手先デバイスで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

会議 遠端制御 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモート側 (遠端) にこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可するかどうか決定できます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 相手先はこちら側のビデオ ソースの選択やローカル カメラの制御 (パン、チルト、ズーム) を許可されません。

On: 遠端はこちら側のビデオ ソースの選択とローカル カメラの制御 (パン、傾斜、ズーム) を許可します。カメラの制御とビデオ ソースの選択は、こちら側でも通常どおり可能です。

会議 遠端制御 信号機能

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 遠端制御信号機能を無効にします。

On: 遠端制御信号機能を有効にします。

会議遠隔メッセージ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

制御システムまたはマクロと併用するために、ポイントツーポイント コールにおける 2 台のデバイス間でデータ送信が許可されているかどうかを切り替えます。SIP コールでのみ動作します。この設定は、遠隔メッセージ送信コマンドの xCommand のコール使用を有効化または無効化します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 2 台のデバイス間でメッセージを送信できません。

On: ポイントツーポイント コールの 2 台のデバイス間でメッセージ送信を行うことができます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

会議 最大受信コールレート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

コールの発信または受信時に使用する最大受信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、会議 最大合計受信コールレート設定を使用します。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

10000 [Board]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

10000 [Board]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

整数 (64 ~ 10000) [Board]

最大受信帯域 (kbps)。

会議 最大合計転送コールレート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

コールの発信または受信時に使用する最大送信ビット レートを定義します。これは個別のコールの最大ビット レートです。すべての同時アクティブ コールに集約した最大レートを設定するには、会議 最大合計転送コールレート設定を使用します。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Board]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Board]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大送信帯域 (kbps)。

会議 最大合計受信コールレート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

受信全体の最大許容ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大受信ビット レートは、会議 最大受信コールレート設定により定義されます。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

10000 [Board]

15000 [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

整数 (64 ~ 10000) [Board]

整数 (64 ~ 15000) [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大受信帯域 (kbps)。

Board

会議 最大合計転送コールレート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

送信全体の最大許容ビット レートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かがマルチポイント会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々のコールが適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大送信ビット レートは、会議 最大転送コールレート設定により定義されます。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

15000 [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

20000 [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

整数 (64 ~ 15000) [CodecPro Room70G2 DeskPro/DeskLE]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

最大送信帯域 (kbps)。

会議 切断時のマイクのミュート解除 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

すべてのコールが切断されたときに、マイクを自動的にミュート解除するかどうかを定義します。会議室またはその他の共有リソースでは、次のユーザのためにデバイスを準備するためにこれを実行する場合があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: コール中にミュートにされている場合、コールが切断された後もマイクロフォンをミュートにされたままにします。

On: コールが切断された後にマイクロフォンのミュートを解除します。

会議 マルチポイント モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ポイントツーポイント ビデオ コール (2 者間のコール) から、参加者を追加してマルチポイント会議 (アドホック会議) に拡大する方法を定義します。ローカルのリソースのみに依存する組み込みの MultiSite 機能と、集中型のインフラストラクチャ (マルチポイント コントロール ユニット: MCU) をベースとする別のソリューションの両方を使用することができます。

MultiSite 機能はアップグレードオプションであり、すべてのデバイスで使用できるとは限りません。デバイスには、MultiSite オプション キーをインストールする必要があります。

Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に登録されている場合、デバイスは他のビデオデバイス呼び出す場合に MultiSite を使用できます。Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 8.6.2 以降に登録されている場合、デバイスは、CUCM 会議ブリッジ、またはデバイス内蔵の MultiSite 機能を使用できます。使用するオプションは CUCM によってセットアップされます。

いずれの場合も、デバイスが会議に参加者を追加できるように MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議がセットアップされます (直接リモート追加)。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

Auto: マルチ ポイント メソッドが自動的に選択されます。

MultiSite オプション キーをデバイスにインストールして、他のビデオ デバイス (MCU 以外) を呼び出す場合、マルチ パーティ会議は、組み込みの MultiSite 機能を使ってセットアップされます。参加者を追加できるのは MultiSite のホストのみです。これにより、カスケード会議ができなくなります。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、複数のビデオ デバイスをビデオで呼び出すことはできません。音声のみの参加者を 1 人追加できます。

MultiSite オプション キーに関係なく、デバイスが会議に参加者を追加する (Direct Remote Add) MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議をセットアップすることができます。

CUCMMediaResourceGroupList: マルチパーティ会議は、CUCM で設定された会議ブリッジによってホストされます。この設定は、CUCM 環境で CUCM によってプロビジョニングされるため、ユーザが手動で設定すべきではありません。

MultiSite: デバイスに MultiSite オプション キーがインストールされている場合は、組み込み MultiSite 機能を使ってマルチ パーティ会議がセットアップします。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、複数のデバイスをビデオでコールすることはできません。音声のみのデバイスを 1 つ追加できます。

Off: 複数のデバイスをビデオでコールすることはできませんが、音声のみのデバイスを追加することができます。デバイスが会議に参加者を追加できるように MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議がセットアップされます (直接リモート追加)。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

会議 マルチストリーム モード

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスでは、電話会議のマルチストリーム ビデオをサポートしています。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 電話会議インフラストラクチャがマルチストリーム機能をサポートしている場合は、マルチストリームが使用されます。最低限必要なバージョン: CMS 2.2、CUCM 11.5、VCS X8.7。

Off: マルチストリームが無効になります。

会議 着信マルチサイトコール モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

すでにコール中または会議中の場合に着信コールを許可するかどうかを選択します。

デフォルト値:

許可

値スペース:

Allow/Deny

Allow: すでに通話している間に、誰かが電話をかけてきた場合、通知されます。着信コールを受け入れるかどうかは任意です。着信コールに応答している間、進行中のコールを保留しておくこともできますし、それらのコールをマージすることもできます (マルチパーティ ビデオ会議をサポートしている必要があります)。

Deny: すでに通話中の場合、着信コールは拒否されます。着信コールについては通知されません。ただし、コール履歴リストの不在履歴として表示されます。

会議 プレゼンテーション 保留時の動作

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモート サイトで保留状態にされた後、プレゼンテーションを共有し続けるかどうかを定義します。

デフォルト値:

[アクションなし (NoAction)]

値スペース:

NoAction/Stop

NoAction: 保留しても、デバイスはプレゼンテーションの共有を停止しません。保留されている間はプレゼンテーションは共有されませんが、コールが再開されると自動的に継続されます。

Stop: リモート サイトで保留されると、デバイスはプレゼンテーションの共有を停止します。コールが再開されてもプレゼンテーションは継続されません。

会議 プレゼンテーション リレー品質

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議をホストするデバイスに適用されます。リモート ユーザがプレゼンテーションを共有している場合、デバイスがプレゼンテーションのトランスコーディングを行い、それをマルチポイント会議の他の参加者に送信します。[リレー品質 (RelayQuality)] 設定は、プレゼンテーション ソースに対して、高フレームレートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

デフォルト値:

Sharpness

値スペース:

Motion/Sharpness

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。高いフレーム レートが必要な場合に使用します (通常、画像の動きが激しい場合)。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ファシリティサービス設定

ファシリティサービス サービス [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

最大 5 種類のファシリティ サービスを同時にサポートできます。この設定で、どのようなサービスかを選択できます。ファシリティ サービスは、ファシリティサービス サービス [n] 名前とファシリティ サービス サービス [n] 番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティ サービスは、ユーザ インターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

ヘルプデスク

値スペース:

Catering/Concierge/Emergency/Helpdesk/Security/Transportation/Other

Catering: ケータリング サービスには、このオプションを選択します。

Concierge: コンシェルジュ サービスには、このオプションを選択します。

Emergency: 緊急サービスには、このオプションを選択します。

Helpdesk: ヘルプ デスク サービスには、このオプションを選択します。

Security: セキュリティ サービスには、このオプションを選択します。

Transportation: 転送サービスには、このオプションを選択します。

Other: その他のオプションでカバーされないサービスには、このオプションを選択します。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

ファシリティサービス サービス [n] 名前

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ファシリティ サービスの名前を定義します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、ファシリティサービス サービス [n] 名前とファシリティサービス サービス [n] 番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。名前は、上部バーの疑問符アイコンをタップすると表示されるファシリティ サービス コール ボタンに表示されます。施設サービスは、ユーザ インターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

Service 1: "Live Support" その他のサービス: ""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

ファシリティ サービスの名前。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

ファシリティサービス サービス [n] 番号

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ファシリティ サービスの番号 (URI または電話番号) を定義します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、ファシリティサービス サービス [n] 名前とファシリティサービス サービス [n] 番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティ サービスは、ユーザ インターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

ファシリティ サービスの番号 (URI または電話番号)。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

ファシリティサービス サービス [n] コールタイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

各ファシリティ サービスのコール タイプを定義します。最大 5 種類のファシリティ サービスがサポートされます。ファシリティ サービスは、ファシリティサービス サービス [n] 名前とファシリティサービス サービス [n] 番号の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティ サービスは、ユーザ インターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

ビデオ

値スペース:

Audio/Video

Audio: オーディオ コールには、このオプションを選択します。

Video: ビデオ コールには、このオプションを選択します。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

GPIO 設定

GPIO ピン [n] モード

適用対象: *CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

4 つの GPIO のピンは個別に設定されます。実際の測定したピン状態 (Low/High) は、GPIO Pin [1..4] State ステータスにより取得できます。

出力モードのピンのデフォルトの状態は High (+12 V) です。

注: 出力モードに定義されたピンを設定して、強制的にラインをアクティブに Low にすることができません。High に設定すると、ラインを Low にする外部デバイスに接続されていない場合にのみラインが High になります。

デフォルト値:

[InputNoAction]

値スペース:

InputAcceptAllCalls/InputDisconnectAllCalls/InputMuteMicrophones/InputNoAction/
OutputAllCallsEncrypted/OutputInCall/OutputManualState/OutputMicrophonesMuted/
OutputPresentationOn/OutputStandbyActive

InputAcceptAllCalls: 着信コールでピンが High から Low に移行すると、コールが受け入れられます (Call Accept コマンドが自動的に発行されます)。

InputDisconnectAllCalls: コール中にピンが High から Low に移行すると、コールが切断されます (Call Disconnect コマンドが自動的に発行されます)。

InputMuteMicrophones: コール中にピンが High から Low に移行すると、マイクはミュートになります。コール中にピンが Low から High に移行すると、マイクがミュート解除されます (Audio Mute および Audio Unmute コマンドが自動的に発行されます)。

InputNoAction: ピン状態によってアクションはトリガーされません。ピン状態は GPIO Pin [1..4] State ステータスで読み取り可能です。

OutputAllCallsEncrypted: すべてのコールが暗号化されるとピンが Low に設定され、複数の通話が暗号化されないと High に設定されます。

OutputInCall: コール中の場合はピンが Low に設定され、コール中でない場合は High に設定されます。

OutputManualState: ピン状態を GPIO ManualState Set PinX コマンドにより High または Low に設定できます。それぞれ、+12 V または 0 V に設定されます。

OutputMicrophonesMuted: マイクがミュートされるとピンは Low に設定され、ミュート解除されると High に設定されます。

OutputPresentationOn: プレゼンテーションがアクティブになるとピンが Low に設定され、プレゼンテーションが非アクティブのときは High に設定されます。

OutputStandbyActive: デバイスがスタンバイモードのときはピンが Low に設定され、デバイスがスタンバイモードではないときは High に設定されます。

n: GPIO ピン番号。

範囲: 1 ~ 4

H323 設定

H323 認証モード

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試行せず、通常の登録を試行します。

On: 認証が必要なことを H.323 ゲートキーパーから示されると、デバイスはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。デバイスとゲートキーパーの両方で、H323 認証 ログイン名と H323 認証 パスワードの設定を定義する必要があります。

H323 認証ログイン名

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスは認証のために、H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、デバイスは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

認証ログイン名。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

H323 認証 パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスは認証のために、H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの単方向の認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、デバイスは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)
認証パスワード。

H323 コールセットアップモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

H.323 コールを確立するときにゲートキーパーとダイレクト コールのどちらを使用するかを定義します。

ダイレクト H.323 コールは、H323 コールセットアップ モードが Gatekeeper に設定されている場合も発信できます。

デフォルト値:

Gatekeeper

値スペース:

Direct/Gatekeeper

Direct: IP アドレスに直接ダイヤルすることによってのみ、H.323 コールを発信できます。

Gatekeeper: デバイスは、H.323 コールを発信するためにゲートキーパーを使用します。このオプションを選択する場合は、H323 ゲートキーパー アドレスも設定する必要があります。

H323 暗号化キーサイズ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大のキー サイズを定義します。

デフォルト値:

Min1024bit

値スペース:

Max1024bit/Min1024bit/Min2048bit
Max1024bit: 最大サイズは 1024 ビットです。
Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。
Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

H323 Gatekeeper Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 コールセットアップ モードを Gatekeeper に設定する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)
有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

H323 H323エイリアス E164

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってデバイスのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 30)
H.323 Alias E.164 のアドレス。 使用できる文字は、0 ~ 9、*、# です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

H323 H323エイリアス ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

H.323 エイリアス ID を定義します。この ID は、H.323 ゲートキーパーでデバイスのアドレス指定に使用され、コール リストに表示されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID。 例: "firstname.lastname@company.com", "My H.323 Alias ID"

H323 NAT モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

H323 NAT モードは、デバイスがプライベートネットワーク上にあり、ゲートキーパーに登録されていない場合に使用することを目的としています。H323 NAT モードを使用すると、パブリックネットワーク上のデバイスにアクセスできます。

NAT は IPv6 ではサポートされません。

注: ビデオ会議デバイスがゲートウェイに登録されている場合、H323 NAT モードと H323 NAT アドレス設定は無視されます。H323 NAT モードではなく、ファイアウォールトラバーサル機能を持つゲートキーパーを使用することをお勧めします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: Auto モードは、H323 NAT アドレス設定で NAT アドレスを指定している場合にのみ動作します。

デバイスがゲートキーパーに登録されていない場合、デバイスのローカルアドレスがプライベートである場合、発信先のアドレス (リモート) がパブリックである場合、ローカルアドレスとリモートアドレスの両方が IPv4 の場合、NAT がオンになります。それ以外の場合は、NAT がオフになります。

つまり、プライベートネットワーク上にあるデバイスだけでなく、(プライベートネットワークの外部の) 外部デバイスにも発信することができます。プライベートネットワーク上のコールの場合、H323 NAT アドレスは使用されません (ただし、存在する必要があります)。パブリックネットワークへのコールでは、H323 NAT アドレスが使用されます。

Off: NAT がオフになっている場合、H323 NAT アドレス設定は無視されます。この場合、ゲートキーパーを使用しない限り、プライベートネットワーク外のデバイスへのコールを設定することはできません。

On: NAT は常にオンになります。H323 NAT アドレス設定で NAT アドレスを指定する必要があります。デバイスは、Q.931 および H.245 内にあるプライベート IP アドレスの代わりに、H323 NAT アドレスをシグナリングします。H323 NAT アドレスが間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

H323 NAT アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

NAT 対応ルータの外部/グローバル IP アドレスを定義します。プライベートネットワーク外のデバイスへのコールを設定する場合は、このアドレスが公開されます。NAT アドレスを使用する場合の詳細については、H323 NAT モード設定を参照してください。

ルータで、次のポートはビデオ会議デバイスの IP アドレスにルーティングする必要があります。

* ポート 1720

*ポート 5555-6555

*ポート 2326-2487

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

IPv4 アドレス。ほとんどの場合、パブリック IP アドレスで、RFC 1918 を参照しますが、別のプライベートアドレス (より大きな企業ネットワークなど) にすることもできます。

H323 ポート割り当て

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、H.323 コール シグナリングに使用される H.245 ポート番号に影響を与えます。

デフォルト値:

ダイナミック

値スペース:

Dynamic/Static

Dynamic: TCP 接続を開くとき、使用するポートをシステムが割り当てます。このようにする理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の徴候と見なします。Dynamic を選択した場合、使用される H.323 ポートは 11000 ~ 20999 です。20999 に達すると 11000 から再スタートされます。ポートは、特定の範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、どのポートがいつ使用されるかを推定しようとはなりません。指示された範囲内の割り当てスキーマがより詳細な通知なしで変更されることがあるからです。

Static: スタティックに設定すると、スタティックに事前定義された範囲 [5555-6555] 内でポート指定されます。

HttpClient 設定

HttpClient モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

HTTP(S) 要求および応答を使用する外部 HTTP(S) サーバとのコミュニケーションを許可または禁止します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバと通信できません。

On: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバと通信できます。

HttpClient HTTPを許可

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

HttpClient モード の設定は、外部 HTTPs サーバとの通信を許可または禁止するために使用されません。モード設定では HTTP と HTTPS の区別をしていません。HTTP の使用を許可または禁止するには、HttpClient HTTPを許可設定を使用する必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: ビデオ会議デバイスは、HTTPS のみで通信できます。

True: ビデオ会議デバイスは HTTPS と HTTP の両方で通信できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HttpClient 安全でないHTTPSを許可

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

サーバの証明書を最初に確認せずに、HTTPS を使用したサーバとの通信をビデオ会議デバイスに許可するかどうかを選択できます。

デバイスによる証明書検証プロセスのスキップを許可する設定になっていても、自動的にスキップされません。証明書検証なしでデータをサーバで交換するには AllowInsecureHTTPS パラメータを各 xCommand HttpClient コマンドで具体的に設定する必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: デバイスは常に、HTTPS サーバに有効な証明書があるかどうかを確認します。証明書の検証に失敗した場合、サーバとの通信は行われません。

True: デバイスは、サーバと通信する前に証明書検証プロセスをスキップできます。

HttpClient Http プロキシの使用

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [HttpClient プロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。[HttpClient Http プロキシの使用 (HttpClient UseHttpProxy)] 設定は、HttpClient コマンドを使用するマクロおよび任意の HTTP(S) リクエストに適用されます。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

HTTP フィードバック設定

HttpFeedback Tls 検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスが任意の HTTPS 通信のために HTTPS サーバに接続するときに適用されます (HTTP クライアントの POST/PUT/PATCH/GET/DELETE コマンドを参照してください)。電話帳、プロビジョニング、および外部ログイン サーバについては、電話帳 サーバ [1] Tls 検証、プロビジョニング Tls 検証およびログイン 外部 Tls 検証の設定を参照してください。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。このルールには次の 2 つの例外があります。1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来のネットワークサービス HTTPS サーバ証明書検証設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバの間の接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HttpFeedback Http プロキシの使用

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [Http プロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。[HttpFeedback Http プロキシの使用 (HttpFeedback UseHttpProxy)] 設定は、ビデオデバイスから送信されたフィードバックに適用されます。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

ロギングの設定

ロギング クラウドアップロード モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスからのログを Webex クラウドサービスにアップロードできるかどうかを指定します。デバイスログは、個人を特定できる情報でフィルタリングされた後、クラウドに送信されます。

有効にすると、デバイス自体または Control Hub からログのアップロードを開始できます。デバイスにはユーザインターフェイスに [ログの送信 (Send logs)] ボタンが表示され、Control Hub の [デバイス (Devices)] ページに [ログの管理 (Manage Logs)] セクションが表示されます。

デバイスは、Webex クラウドサービスに登録されているか、オンプレミスサービスに登録されて Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードすることはできません。

On: デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードできます。

ロギング デバッグ Wifi

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

このオプションを有効にすると、デバイスは、デバイスとアクセス ポイントの間の Wi-Fi 接続のセットアップやメンテナンスについて詳細な情報を記録します。この機能は、WiFi 接続に問題があった場合のトラブルシューティングに便利です。Wi-Fi 接続が期待通りに動作している場合は、この設定をオフにすることを推奨します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

オフ: 基本 Wi-Fi 情報だけをロギング。

オン: Wi-Fi 接続についての大量の情報をロギング。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ロギング 外部 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスログをリモート syslog サーバに保存するかどうかを指定します。ロギングモード設定がオフに設定されている場合、この設定には効果がありません。

リモートサーバのアドレスをロギング外部サーバ アドレス設定に入力する必要があります。ロギング外部サーバ ポートセットに記載されていない限り、標準規格 syslog ポートが使用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイス ログはリモート syslog サーバに保存されません。

On: デバイス ログはリモート syslog サーバに保存されます。

ロギング 外部 プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモートロギングサーバに対して使用するプロトコルを指定します。syslog プロトコル over TLS (Transport Layer Security)、またはプレーンテキストの syslog プロトコルのいずれかを使用できます。syslog プロトコルの詳細については、RFC 5424 を参照してください。

デフォルト値:

SyslogTLS

値スペース:

Syslog/SyslogTLS

Syslog: プレーン テキストの syslog プロトコル。

SyslogTLS: syslog プロトコル over TLS。

ロギング 外部 サーバー アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモート syslog サーバのアドレスを指定します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

ロギング 外部 サーバー ポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモート syslog サーバがメッセージをリッスンするポート。0 に設定した場合、デバイスは標準の syslog ポートを使用します。syslog の標準 syslog ポートは 514 で、TLS を使用した syslog の標準 syslog ポートは 6514 です。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

リモート syslog サーバが使用しているポート番号。0 は、デバイスが標準 syslog ポートを使用することを意味します。

ロギング 外部 Tls 検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスがリモートの syslog サーバに接続している場合に適用されます。通常のログ作成 (ロギング外部モードの設定を参照) と監査ログ (セキュリティ監査ロギング モードの設定を参照) の両方に適用されます。

デバイスと syslog サーバの間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

syslog 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは syslog サーバの証明書を確認しません。

On: デバイスは、syslog サーバの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバの間の接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ロギング 内部 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

システムログをデバイス (ローカルファイル) に保存するかどうかを指定します。 これらは、ログ バンドルをデバイスからダウンロードした際に得られるファイルです。 ロギングモード設定がオフに設定されている場合、この設定には効果がありません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: システム ログはデバイスに保存されません。

On: システム ログはデバイスに保存されます。

ロギング モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスのロギング モード (syslog サービス) を定義します。 無効にすると、syslog サービスが起動せず、システムログと監査ログのほとんどが生成されません。 履歴ログと通話履歴は影響を受けません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: システムのロギング サービスを無効にします。

On: システムのロギング サービスを有効にします。

マクロ設定

マクロ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

マクロによって、ビデオ会議デバイスの一部を自動化できる JavaScript コードのスニペットを記述できます。これによりカスタム動作を作成します。 デフォルトではマクロの使用は無効化されていますが、最初にマクロ エディタを開くときにデバイスでのマクロ使用を有効にするかどうか確認を求められます。 デバイスのマクロの使用を手動で有効にする場合や、完全に無効にする場合は、この設定を使用します。 マクロ エディタ内でのマクロの使用を無効にすることができます。 ただし、デバイスがマクロをリセットするたびにマクロが自動的に再び有効化されるため、マクロの実行は永続的に無効にはなりません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: このデバイス上でのマクロの使用を完全に無効にします。

On: このデバイス上でのマクロの使用を有効にします。

マクロ オートスタート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

すべてのマクロは、マクロ ランタイムに呼び出され、ビデオ会議デバイスにおいてシングル プロセスで実行します。 デフォルトでは実行されている必要がありますが、手動での停止と開始を選択することができます。 自動開始が有効化されている場合、デバイスを再起動するときにランタイムは自動的に再び開始されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスの再起動後、マクロ ランタイムは自動的に開始されません。

On: デバイスの再起動後、マクロ ランタイムは自動的に開始されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

マクロ 無応答タイムアウト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

マクロは、応答しないコードを検出するために継続的に監視されます。マクロが応答しない状況は、通常はプログラムエラーを示唆するものですが、システムリソースが限られているために発生する場合があります。この値を大きくすると、より長い時間にわたってマクロを終了せずに実行できるようになります。一方、値を小さくすると、問題のあるマクロがシステムリソースを消費するのを抑えることができます。

デフォルト値:

5 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

応答しないマクロを終了するまでの秒数を設定します。値を 0 にすると、チェックが完全に無効になります。

マクロ XAPI トランスポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

マクロシステムで使用される xAPI 伝送方式を設定します。

デフォルト値:

WebSocket

値スペース:

TSH/WebSocket

TSH: マクロでの xAPI 伝送方式は t-shell です。

WebSocket: マクロでの xAPI 伝送方式は WebSocket です。

ネットワーク設定

ネットワーク [n] DNS DNSSEC モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張 (DNSSEC) は、DNS の拡張セットです。署名されたゾーンの DNS の応答を認証するために使用されます。署名されていないゾーンを引き続き許可します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張を無効にします。

On: ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張を有効にします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] DNS ドメイン 名前

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

DNS ドメイン名は非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyVideoSystem」の場合、DNS ルックアップ「MyVideoSystem.company.com」になります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

ネットワーク [n] DNS サーバー [m] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

DNS サーバのネットワーク アドレスを定義します。最大 3 つまでのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーにお問い合わせます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

m: DNS サーバを識別するインデックス。最大 3 台の DNS サーバが許可されます。

範囲: 1 ~ 3

ネットワーク [n] IEEE8021X モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

デバイスは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される、ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 802.1X 認証が無効になります。

On: 802.1X 認証が有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IEEE8021X Tls検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

TLS を使用する場合は、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバ側証明書の検証です。CA リストをビデオ会議デバイスにアップロードする必要があります。これは、ウェブ インターフェイスから実行できます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にのみ有効です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバ側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、デバイスに CA リストがアップロードされていない場合に選択する必要があります。

On: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバ側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバだけが許可されます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IEEE8021X クライアント証明書の使用

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書がビデオ会議デバイスにアップロードされている必要があります。これは、Web インターフェイスから実行できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバ側のみ)。

On: On に設定した場合、クライアント (ビデオ会議デバイス) はサーバと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

ネットワーク [n] IEEE8021X ID*適用対象: すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

802.1X 認証用のユーザー名を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 認証用のユーザー名。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama**ネットワーク [n] IEEE8021X 匿名ID***適用対象: すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 匿名 ID 文字列。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Md5*適用対象: すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-MD5 プロトコルは無効になります。

On: EAP-MD5 プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Ttls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

TTLS (トンネル方式トランスポート層セキュリティ) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-TTLS プロトコルは無効になります。

On: EAP-TTLS プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Tls

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

IEEE802.1x 接続用の EAP-TLS (トランスポート層セキュリティ) の使用をイネーブルまたはディセーブルにします。RFC5216 で定義された EAP-TLS プロトコルは最もセキュアな EAP 標準の 1 つと見なされています。LAN クライアントは、クライアント証明書を使用して認証されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-TLS プロトコルは無効になります。

On: EAP-TLS プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IEEE8021X Eap Peap

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

PEAP (Protected Extensible Authentication Protocol) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、Cisco と RSA Security により開発されました。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-PEAP プロトコルは無効になります。

On: EAP-PEAP プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPスタック

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。注: この設定を変更した後、反映されるまでに 30 秒間待つ必要があります。

デフォルト値:

Dual

値スペース:

デュアル (Dual) /IPv4/IPv6

Dual: [デュアル (Dual)] に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

IPv6: IPv6 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

ネットワーク [n] IPスタック

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。

DHCP 要求で使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、および Codec Pro)、および RFC 4361 で規定されている DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

DHCP

値スペース:

静的 (Static) /DHCP

Static: アドレスは、ネットワーク IPv4 アドレス、ネットワーク IPv4 ゲートウェイ、ネットワーク IPv4 サブネットマスクの各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

DHCP: デバイス アドレスは DHCP サーバによって自動的に割り当てられます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv4 アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。ネットワーク [n] IPv4 割り当てが Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv4 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。ネットワーク [n] IPv4 割り当てが Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv4 サブネットマスク

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。ネットワーク [n] IPv4 割り当てが Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

ネットワーク [n] IPv6 割り当て

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスが IPv6 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを取得する方法を定義します。

DHCP 要求で使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、[01] の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、および Codec Pro)、および RFC 4361 で規定されている DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

[Autoconf]

値スペース:

静的 (Static) /DHCPv6/Autoconf

Static: デバイスおよびゲートウェイの IP アドレスは、ネットワーク IPv6 アドレスおよびネットワーク IPv6 ゲートウェイの設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク [n] IPv6 DHCP オプション設定は、どの方法を使用するかを決定します。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバから取得されます。詳細については RFC3315 を参照してください。ネットワーク [n] IPv6 DHCP オプション設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステートレス自動設定を有効にします。詳細については RFC4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバ アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバから取得する必要があります。ネットワーク [n] IPv6 DHCP オプション設定は、どの方法を使用するかを決定します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv6 アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。ネットワーク IPv6 割り当てが Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

ネットワーク マスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv6 ゲートウェイ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、ネットワーク IPv6 割り当てが Static に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク [n] IPv6 DHCPオプション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

DHCPv6 サーバから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバ アドレスなど) を取得します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: DHCPv6 サーバからの DHCP オプションの取得を無効にします。

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバからの取得を有効にします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] IPv6 インターフェイス ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスの IPv6 インターフェイス ID を定義します。 選択したインターフェイス ID (MAC または Opaque) によって、IPv6 アドレスの一部を生成するために使用されるメソッドが決定します。 これは、リンクローカル IPv6 アドレスとステートレスアドレス自動構成 (SLAAC) アドレスの両方に該当します。

アドレスには、デバイスによって生成された 64 ビットのプレフィックスと 64 ビットインターフェイス ID が含まれます。MAC では、RFC-2373 で説明するように、EUI-64 ベースのインターフェイス ID が生成されます。

Opaque では、デバイスの最初のブート時に RFC-7217 で説明するようにランダムな 64 ビットのインターフェイス ID が生成され、永遠に、または工場出荷時の状態にリセットされるまで使用されません。

デフォルト値:

MAC

値スペース:

MAC/Opaque

MAC: インターフェイス識別方法として MAC を選択します。

Opaque: インターフェイス識別方法として Opaque を選択します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] MTU

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

イーサネット MTU (最大伝送ユニット) サイズを定義します。MTU サイズは、ネットワーク インフラストラクチャでサポートする必要があります。IPv4 の場合、最小サイズは 576 で、IPv6 の場合、最小サイズは 1280 です。

デフォルト値:

1500

値スペース:

整数 ((576 ~ 1500)

MTU の値を設定します (バイト単位)。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] QoS モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオ、その他のデータの優先順位を処理する手法です。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (差別化サービス) は、ネットワークトラフィックを分類して管理するための、シンプルかつスケラブルで粗いメカニズムを指定するネットワークングアーキテクチャです。 これにより、IP ネットワークに QoS 優先順位が割り当てられます。

デフォルト値:

[Diffserv]

値スペース:

オフ (Off) /Diffserv

Off: QoS メソッドは使用されません。

Diffserv: [ネットワーク QoS Diffserv オーディオ (Network QoS Diffserv Audio)], [ネットワーク QoS Diffserv ビデオ (Network QoS Diffserv Video)], [ネットワーク QoS Diffserv データ (Network QoS Diffserv Data)], [ネットワーク QoS Diffserv シグナリング (Network QoS Diffserv Signalling)], [ネットワーク QoS Diffserv ICMPv6 (Network QoS Diffserv ICMPv6)], および [ネットワーク QoS Diffserv NTP (Network QoS Diffserv NTP)] の各設定を使用して、パケットに優先順位が付けられます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク [n] QoS Diffserv オーディオ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。オーディオには EF を使用することをお勧めします。EF は 10 進数値 46 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

46

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのオーディオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] QoS Diffserv ビデオ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオパケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーションチャンネル (共有コンテンツ) のパケットも、ビデオパケットのカテゴリに属します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ビデオには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのビデオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] QoS Diffserv データ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータパケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。データには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのデータパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] QoS Diffserv シグナリング

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリングパケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。シグナリングには CS3 を使用することをお勧めします。CS3 は 10 進数値の 24 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

24

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのシグナリングパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク [n] QoS Diffserv ICMPv6

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ICMPv6 には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内での ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。0 は「ベスト エフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] QoS Diffserv NTP

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。NTP には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内での NTP パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] リモートアクセス 許可

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

リモート アクセスで SSH/HTTP/HTTPS からデバイスに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ~ 32 の範囲および IPv6 では 1 ~ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワーク マスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] 速度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

イーサネット リンクの速度を定義します。デフォルト値では、ネットワークとネゴシエートして自動的に速度が設定されます。このため、デフォルト値は変更しないことをお勧めします。自動ネゴシエーションを使用しない場合、選択した速度を、ネットワーク インフラストラクチャの最も近いスイッチがサポートしているか確認してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/10half/10full/100half/100full/1000full

Auto: リンク速度を自動でネゴシエートします。

10half: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

10full: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

100half: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

100full: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

1000full: 1 Gbps 全二重に強制リンクします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

D15473.01

RoomOS

10.3

04-2021



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク [n] トラフィック制御 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

ネットワーク トラフィック制御モードを定義して、ビデオ パケットの伝送速度の制御方法を決定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ビデオ パケットをリンク速度で送信します。

On: ビデオ パケットを最大 20 Mbps で送信します。発信ネットワーク トラフィックのバーストを平滑化するために使用できます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] VLAN 音声 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、VLAN 音声モードが Auto に自動的に設定されます。ネットワークサービス CDP モード設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN は有効になりません。

Manual: VLAN ID は、ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって却下されます。

Off: VLAN は有効になりません。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

ネットワーク [n] VLAN 音声 VlanId

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、ネットワーク VLAN 音声モード が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス設定

ネットワークサービス CDP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、デバイスは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP を無効にすると、[ネットワーク音声 VLAN モード (Network VLAN Voice Mode)]:[自動 (Auto)] 設定は機能しません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: CDP デーモンは無効です。

On: CDP デーモンは有効です。

ネットワークサービス H323 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスでの H.323 コールの受発信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: H.323 コールの発信と受信の可能性を無効にします。

On: H.323 コールの発信と受信の可能性を有効にします。

ネットワークサービス HTTP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

HTTP または HTTPS (セキュア HTTP) プロトコルによるデバイスへのアクセスを許可するかどうかを指定します。デバイスの Web インターフェイスは HTTP または HTTPS を使用することに注意してください。この設定を Off にすると、Web インターフェイスを使用できなくなります。

セキュリティの強化 (Web サーバから返されるページと要求の暗号化/暗号化解除) が必要な場合、HTTPS のみを許可します。

注: 以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 以降にアップグレードされたデバイスについては、アップグレード後に初期設定にリセットされていない場合、デフォルト値は HTTP+HTTPS となります。

デフォルト値:

HTTPS (CE9.4 では HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)

値スペース:

Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP や HTTPS によるデバイスへのアクセスを禁止します。

HTTP+HTTPS: HTTP と HTTPS の両方によるデバイスへのアクセスを許可します。

HTTPS: HTTPS によるデバイスへのアクセスを許可し、HTTP によるアクセスを禁止します。

ネットワークサービス HTTP プロキシ ログイン名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

これは、HTTP プロキシに対する認証に使用されるクレデンシャルのユーザ名部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

認証ログイン名。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス HTTP プロキシ パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

これは、HTTP プロキシへの認証に使われるクレデンシャルのパスワード部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

認証パスワード。

ネットワークサービス HTTP プロキシ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィックに対してプロキシサーバを使用するように設定できます。HTTP プロキシは手動でセットアップするか、自動設定 (PACUrl) または完全な自動化 (WPAD) を使用するか、オフにすることができます。

[ネットワークサービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が [オフ (Off)] でない場合は、どのサービスでプロキシを使用するかを、[HttpClient Httpプロキシの使用 (HttpClient UseHttpProxy)]、[HttpFeedback Httpプロキシの使用 (HttpFeedback UseHttpProxy)]、および [Webエンジン Httpプロキシの使用 (WebEngine UseHttpProxy)] の各設定で指定できます。

Cisco Webex Cloud との通信は、[ネットワークサービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が [オフ (Off)] でない限り、常にプロキシ経由で行われます。

プロキシのモードにかかわらず、デバイスと CUCM、MRA (Expressway 経由の CUCM)、TMS との通信にはプロキシは使用されません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Manual/Off/PACUrl/WPAD

Manual: ネットワーク サービス HTTP プロキシ URL 設定にプロキシ サーバのアドレスを入力します。必要に応じて、ネットワーク サービス HTTP プロキシ ログイン名/パスワード設定に HTTP プロキシのログイン名とパスワードを追加します。

Off: HTTP プロキシ モードがオフになっています。

PACUrl: HTTP プロキシは自動構成です。ネットワーク サービス HTTP プロキシ PACUrl 設定で PAC (プロキシ自動設定) スクリプトの URL を入力する必要があります。

WPAD: WPAD (Web プロキシ自動検出) を使用して、HTTP のプロキシは完全に自動化されかつ自動構成されます。

ネットワークサービス HTTP プロキシ Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

HTTP プロキシ サーバの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

HTTP プロキシ サーバの URL。

ネットワーク サービス HTTP プロキシ PACUrl

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が PACUrl に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL。

ネットワークサービス HTTPS OCSP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

OCSP (Online Certificate Status Protocol) レスポンダ サービスのサポートを定義します。OCSP 機能により、証明書失効リスト (CRL) の代わりに OCSP を有効にして、証明書のステータスをチェックできます。

すべての発信 HTTPS 接続に対して、OCSP レスポンダを介してステータスが照会されます。対応する証明書が失効している場合、HTTPS 接続は使用されません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: OCSP サポートを無効にします。

On: OCSP サポートを有効にします。

Board

ネットワークサービス HTTPS OCSP URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

証明書のステータスを調べるために使用される OCSP レスポンド (サーバ) の URL を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な URL。

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス HTTPS サーバー 最小TLSバージョン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

HTTPS で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.1

値スペース:

TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

ネットワークサービス HTTPS StrictTransportSecurity

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

HTTP Strict Transport Security ヘッダーにより、Web サイトからブラウザに対して、サイトを HTTP を使用してロードすることを避け、サイトへの HTTP を使用したアクセスはすべて HTTPS リクエストに自動変換する必要があることを通知します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: HTTP Strict Transport Security 機能が無効になります。

On: HTTP Strict Transport Security 機能が有効になります。

ネットワークサービス HTTPS クライアント証明書の検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ビデオ会議デバイスが HTTPS クライアント (ウェブ ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにビデオ会議デバイスに証明書を提示するように要求されることがあります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: クライアント証明書を確認しません。

On: 信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがデバイスに事前にアップロードされている必要があります。

ネットワークサービス NTP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバにデバイスの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバに定期的に照会します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: デバイスは時間を参照するために NTP サーバを使用します。デフォルトでは、サーバのアドレスはネットワークの DHCP サーバから取得されます。DHCP サーバを使用しない場合や、DHCP サーバが NTP サーバのアドレスを提供しない場合は、ネットワークサービス NTP サーバ [n] アドレス設定で指定された NTP サーバ アドレスが使用されます。

Manual: デバイスは、ネットワークサービス NTP サーバ [n] アドレス設定で指定された NTP サーバを使って時間を参照します。

Off: デバイスは NTP サーバを使用しません。ネットワークサービス NTP サーバ [n] アドレス設定は無視されます。

Board

ネットワークサービス NTP サーバー [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

NetworkServices NTP Mode が Manual に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定されアドレスが DHCP サーバから提供されない場合に使用される NTP サーバのアドレスです。

デフォルト値:

"0.tandberg.pool.ntp.org"

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: NTP サーバに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

ネットワークサービス NTP サーバ [n] キー

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

NTP 情報が信頼できる送信元から来ていることを確かめるために、ビデオ会議デバイスは NTP 送信元が使用する ID とキーのペアリングを把握する必要があります。 ネットワークサービス NTP サーバ [n] キー設定を使用してキーを指定します。 キーの先頭に「HEX:」を付けます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 2045)

NTP ソースが使用する ID またはキーペアの一部であるキー。

n: NTP サーバに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス NTP サーバ [n] キーID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

NTP 情報が信頼できる送信元から来ていることを確かめるために、ビデオ会議デバイスは NTP 送信元が使用する ID とキーのペアリングを把握する必要があります。 ID にはネットワークサービス NTP サーバ [n] キー ID 設定を使用します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 10)

NTP ソースが使用する ID/キーペアの一部である ID。

n: NTP サーバに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

ネットワークサービス NTP サーバ [n] キーアルゴリズム

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

NTP サーバが使用し、ビデオ会議デバイスが時間メッセージを認証するために使用する必要がある、認証ハッシュ機能を選択します。

デフォルト値:

""

値スペース:

None/SHA1/SHA256

None: NTPサーバはハッシュ機能を使用しません。

SHA1: NTPサーバは SHA-1 ハッシュ機能を使用します。

SHA256: NTP サーバは SHA-256 ハッシュ機能を使用します (ハッシュ機能の SHA-2 群から)。

n: NTP サーバに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス SIP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: SIP コールの発信と受信の可能性を無効にします。

On: SIP コールの発信と受信の可能性を有効にします。

ネットワークサービス SMTP モード

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN

SMTP (簡易メール転送プロトコル) を使用するようにデバイスを設定して、デバイスから中継用のメール サーバに電子メールを送信することができます。これは、ユーザが組織内外の人に電子メールでホワイトボードやプレゼンテーションを送信する場合に必要です。

暗号化通信を使用するように設定されているデバイスでは ([ネットワークサービス SMTP セキュリティ (NetworkServices SMTP Security)] 設定を参照)、SMTP サーバの証明書が検証された場合にのみ接続が許可されます。証明書チェックを無視することはできません。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: SMTP (および電子メール) サポートを無効にします。

On: 電子メールの送信用に SMTP サポートを有効にします。

ネットワークサービス SMTP サーバ

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN

これは SMTP サーバのアドレスです。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

ネットワークサービス SMTP ポート

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN

このポートは、デバイスから SMTP サーバへの送信メールに使用されます。

暗号化の設定 (NetworkServices SMTP Security) と SMTP サーバの要件に基づいてポート番号を設定します。デフォルト値は使用しないでください。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

デバイスからの送信電子メールに使用されるポート。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス SMTP ユーザ名

適用対象: [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

これは、SMTP サーバでデバイスを認証するために使用されるクレデンシャルのユーザ名の部分です。この設定は、SMTP サーバによって要求される場合があります。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

ネットワークサービス SMTP パスワード

適用対象: [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

これは、SMTP サーバでデバイスを認証するために使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。この設定は、SMTP サーバによって要求される場合があります。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

ネットワークシステム SMTP 送信元

適用対象: [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

このデバイスから電子メールメッセージを送信するときに使用する、メッセージの送信元メールアドレスの名前を指定します。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

SMTP サーバの要件を満たす電子メールアドレス。

ネットワークサービス SMTP セキュリティ

適用対象: [RoomKitMini](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスと SMTP サーバ間の通信を保護するかどうかと、その方法を選択します。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

StartTls

値スペース:

None/StartTls/Tls

None: 暗号化なしで SMTP サーバに接続します。

StartTls: 最初に暗号化なしで SMTP サーバに接続してから、STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

Tls: TLS (トランスポート層セキュリティ) 経由で SMTP に接続します。

ネットワークサービス SNMP モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) は、IP ネットワークに接続されているルーター、サーバ、スイッチなどのデバイスの監視と管理を行うために、ネットワーク管理システムによって使用されます。SNMP は、管理対象デバイスの管理データを変数の形で公開します。これにより、デバイスのステータスと設定が表されます。これらの変数は、管理アプリケーションでリモートから照会したり、場合によっては設定したりできます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

オフ (Off) /読み取り専用 (ReadOnly) /読み書き (ReadWrite)

Off: SNMP ネットワーク サービスを無効にします。

ReadOnly: SNMP ネットワーク サービスを照会のみ有効にします。

ReadWrite: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方を有効にします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワーク サービス SNMP コミュニティ名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は、SNMP 要求を認証するために使用されます。管理システムからの SNMP 要求に、一致するコミュニティ名 (大文字と小文字の区別あり) が含まれていない場合、そのメッセージは破棄され、ビデオデバイスの SNMP エージェントは応答送信しません。

Cisco TelePresence Management Suite (TMS) を使用している場合は、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、50)

SNMP コミュニティ名。

ネットワーク サービス SNMP システム接点

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP サーバで使用できる連絡先情報を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、50)

ビデオデバイスの連絡先情報を表す文字列。

ネットワーク サービス SNMP システム ロケーション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP サーバで使用できるロケーション情報を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、50)

ビデオデバイスのロケーション情報を表す文字列。

ネットワークサービス SSH モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SSH (セキュア シェル) プロトコルは、ビデオ会議デバイスとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: SSH プロトコルは無効になります。

On: SSH プロトコルは有効になります (デフォルト)。

ネットワークサービス SSH ホストキーアルゴリズム

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SSH ホストキーに使用される暗号化アルゴリズムを選択します。2048 ビットのキーサイズを用いる RSA (リベスト・シャミール・エイドルマンアルゴリズム)、NIST 曲線の P-384 を用いる ECDSA (楕円曲線デジタル署名アルゴリズム)、ed25519 署名方式を用いる EdDSA (エドワード曲線デジタル署名アルゴリズム) から選択します。

デフォルト値:

RSA

値スペース:

ECDSA/RSA/ed25519

ECDSA: ECDSA アルゴリズムを使用します (nist-384p)。

RSA: RSA アルゴリズムを使用します (2048 bits)。

ed25519: ed25519 アルゴリズムを使用します。

ネットワークサービス SSH 公開キーの許可

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Secure Shell (SSH) 公開キー認証をデバイスへのアクセスに使用できます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: SSH 公開キーは許可されません。

On: SSH 公開キーが許可されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス UPnP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) を完全に無効にするか、ビデオ会議デバイスがオンになった後または再起動した後に、短時間だけ UPnP を有効にします。

デフォルトでは、ビデオ会議デバイスをオンにするか再起動すると、UPnP が有効になります。その後、ネットワークサービス UPnP タイムアウトの設定で定義されたタイムアウト時間が経過すると、UPnP は自動的に無効になります。

UPnP が有効になると、デバイスはネットワーク上での自身のプレゼンスをアダプタイズします。このアダプタイズによって、タッチコントローラはビデオ会議デバイスを自動的に検出できるようになります。タッチコントローラとペアリングするために、手動でデバイスの IP アドレスを入力する必要はありません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: UPnP は無効になります。ビデオ会議デバイスは自身のプレゼンスをアダプタイズしないため、タッチコントローラをデバイスとペアリングするためにはデバイスの IP アドレスを手動で入力する必要があります。

On: UPnP は有効になります。ビデオ会議デバイスはタイムアウト期間が経過するまで、自身のプレゼンスをアダプタイズします。

ネットワークサービス UPnP タイムアウト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスの電源をオンにした後または再起動した後に、UPnP を有効のままにしておく秒数を定義します。この設定を有効にするには、ネットワークサービス UPnP モードを On に設定する必要があります。

デフォルト値:

600

値スペース:

整数 (0 ~ 3600)

範囲: 0 ~ 3600 秒の値を選択します。

ネットワークサービス Websocket

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

非セキュアおよびセキュア バージョン (ws および wss) の両方で、デバイスの API に WebSocket プロトコルから相互作用することができます。WebSocket は HTTP に結びついているので、HTTP または HTTPS を有効にしてから WebSockets を使用する必要があります (NetworkServices HTTP モード設定を参照)。

デフォルト値:

Off

値スペース:

FollowHTTPService/Off

FollowHTTPService: HTTP または HTTPS が有効な場合、WebSocket プロトコル経由での通信は許可されます。

Off: WebSocket プロトコル経由での通信は許可されません。

ネットワークサービス ウェルカムテキスト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SSH でデバイスにログインする際に、ユーザに表示する情報を選択します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ようこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successfu)

On: ようこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ネットワークサービス Wifi 許可

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

Wi-Fi アダプタが組み込まれているデバイスは、イーサネットまたは Wi-Fi 経由でネットワークに接続できます。イーサネットと Wi-Fi の両方がデフォルトで許可され、ユーザはどちらを使用するかをユーザ インターフェイスから選択できます。この設定を使用して、管理者はユーザ インターフェイスがセッアップできないように Wi-Fi 設定を無効にすることができます。

このデバイスは次の標準をサポートします: IEEE 802.11a, IEEE 802.11b, IEEE 802.11g, IEEE 802.11n, and IEEE 802.11ac。デバイスは次のセキュリティ プロトコルをサポートします: WPA-PSK (AES)、WPA2-PSK (AES)、EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-FAST、PEAP、EAP-MSCHAPV2、EAP-GTC、およびオープン ネットワーク (セキュリティ保護なし)。

デバイスの背面の定格ラベルに記載されている PID (製品 ID) に NR (無線なし) の文字が含まれている場合、デバイスは Wi-Fi をサポートしていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi は使用できません。イーサネット経由でネットワークに接続する必要があります。

True: イーサネットと Wi-Fi の両方を使用できます。

ネットワークサービス Wifi クラウド A_MPDU

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、リアルタイムのメディアパフォーマンスを向上させることを目的としています。集成的 MAC プロトコルデータユニット (A-MPDU) がオンの場合、MAC プロトコルデータフレームはグループ化され、まとめて送信されます。受信者は、個々のフレームごとに確認するのではなく、グループの受信を確認します。これにより帯域幅が最適化されますが、データ配信が遅延する可能性があります。これは、ビデオコールデータなど、リアルタイム配信の優先順位が必要なデータには不適切です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: A-MPDU を無効にし、データがグループ化されてまとめて送信されるのではなく、リアルタイム配信の優先順位を維持するためにすぐに送信されるようにします。

On: A-MPDU を有効にし、MAC プロトコルデータフレームがグループ化され、まとめて送信されるようにします。

ネットワークサービス WiFi 有効

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

デバイスが Wi-Fi 経由でのネットワーク接続を許可されている場合 (NetworkServices WIFI Allowed 設定を参照)、この設定を使用して Wi-Fi を有効または無効にすることができます。

イーサネットと Wi-Fi の両方を同時に使用することはできません。Wi-Fi を設定するときにイーサネット ケーブルが接続されている場合、そのイーサネット ケーブルを抜かないと続行できません。Wi-Fi に接続している最中にイーサネット ケーブルを接続すると、イーサネットが優先されます。イーサネット ケーブルを抜いた場合、前回接続した Wi-Fi ネットワークが使用可能であれば、デバイスはそのネットワークに自動的に接続します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi は無効になります。

True: Wi-Fi が有効になります。

ネットワークサービス XMLAPI モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスの XML API を有効化または無効化します。セキュリティ上の理由からこれを無効にできません。XML API を無効化すると、TMS などによるリモート管理機能が制限され、デバイスに接続できなくなります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: XML API は無効になります。

On: XML API は有効になります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

周辺機器の設定

周辺機器 入力デバイス モード

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

USB キーボードまたはワイヤレスリモート制御などのサードパーティー入力デバイスの、USB ドングルとの使用を許可するかどうかを定義します。入力デバイスはそれ自体を USB キーボードとしてアダプタイズする必要があります。ご自身で、キークリックに対する応答として行うアクションを定義して実装する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: サードパーティー入力デバイスは許可されません。

On: サードパーティー製の USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能を制御できます。

周辺機器 ペアリング Ciscoタッチパネル Emcレジリエンス

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

多量の電磁雑音が存在する環境でタッチコントローラを使用すると、誤信号が生じる (例、誰もタップしていないのに、タッチコントローラがタップされた状態になる) ことがあります。この問題に対処するには、[EMC レジリエンスモード (EMC Resilience Mode)] を有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: EMC レジリエンスモードは無効になります。

On: EMC レジリエンスモードは有効になります。

周辺機器 ペアリング Ciscoタッチパネル リモートペアリング

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

ビデオ会議デバイスのユーザインターフェイスとしてタッチコントローラ (Cisco Webex Room Navigator または Cisco Touch 10) を使用するには、タッチコントローラをデバイスにペアリングする必要があります。タッチコントローラをネットワーク (LAN) を介してペアリングする場合、これはリモートペアリングと呼ばれます。リモート ペアリングはデフォルトで許可されています。リモートペアリングを回避する場合は、この設定をオフに切り替えてください。

Board 55/70 では Room Navigator をサポートしていません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: タッチコントローラのリモートペアリングは許可されません。

On: タッチコントローラのリモートペアリングは許可されます。

周辺機器 プロファイル カメラ

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスに接続されることが予想されるタッチ パネルの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使用します。接続されたカメラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Minimum1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

0 [[DeskPro/DeskLE](#)]

値スペース:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5/6/7 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

0 [[DeskPro/DeskLE](#)]

NotSet: カメラの確認は実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のカメラがデバイスに接続されている必要があります。

0 ~ 7: デバイスへの接続が予想されるカメラの数を選択します。

Board

周辺機器 プロファイル カメラ

適用対象: Board

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続されることが予想されるカメラの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使用します。接続されたカメラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

0

値スペース:

0

0: デバイスに接続されることが予想されるカメラの数。

周辺機器 プロファイル 制御システム

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

サードパーティ製の制御システム (Crestron または AMX など) をビデオ会議デバイスに接続する予定であれば、定義します。この情報はビデオ会議デバイスの診断サービスで使用します。接続された制御システムの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。サードパーティ制御システムは 1 つのみサポートされるので注意してください。

1 に設定する場合、xCommand Peripherals Pair コマンドおよび HeartBeat コマンドを使用して、制御システムからビデオ会議デバイスにハート ビートを送信する必要があります。これに失敗すると、ビデオ会議デバイスは、コントロール システムへの接続が失われたことを示す警告を表示します。

デフォルト値:

NotSet

値スペース:

1/NotSet [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]NotSet [*DeskPro/DeskLE Board*]

1: 1 つのサードパーティ製コントロール システムをデバイスに接続する必要があります。

NotSet: サードパーティ製の制御システムの存在に対するチェックは実行されません。

周辺機器 プロファイル ネットワークスイッチ

適用対象: RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続されることが予想されるネットワークスイッチの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使用します。接続されたタッチコントローラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Room Panorama: 2、Room 70 Panorama: NotSet

値スペース:

1/2/Minimum1/NotSet

NotSet: ネットワークスイッチが接続されていません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のネットワークスイッチがデバイスに接続されている必要があります。

1-2: デバイスに接続されることが予想されるネットワークスイッチの数を指定します。

周辺機器 プロファイル タッチパネル

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続する予定の Cisco タッチコントローラの数定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使用します。接続されたタッチコントローラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Minimum1 [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]0 [*DeskPro/DeskLE*]

値スペース:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5 [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]0 [*DeskPro/DeskLE*]

NotSet: タッチコントローラチェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台の Cisco タッチコントローラがデバイスに接続されている必要があります。

0-5: デバイスへの接続が予想される Cisco タッチコントローラの数を選択します。公式にサポートされている Cisco タッチコントローラの数に次のとおりです。Desk Pro/Desk Limited Edition の場合は 0、Room Panorama および Room 70 Panorama の場合は 2、その他の製品の場合は 1。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電話帳の設定

電話帳 サーバー [n] ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

外部電話帳の名前を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

外部の電話帳の名前。

n: 電話帳サーバを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

電話帳 サーバ [n] ページネーション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

電話帳サーバがページネーション(ウェルカムページ) に対応するかどうかを定義します。 ページネーションとはサーバが連続検索に対応しているかどうか、さらにこれらの検索がオフセットに関連付けられるかどうかを意味します。 これにより、ユーザインターフェイスは完全な検索結果を得るために必要な可能な限り多くの連続検索を実行できます。

ページネーションが無効の場合、デバイスは検索を 1 度行い、最大 100 エントリを検索結果に返します。 それ以上の検索結果をさらにスクロールすることはできません。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: 電話帳サーバはページネーションに対応しません。 デバイスは 1 回の検索を実行します。 検索結果の最大エントリ数は 100 です。

Enabled: 電話帳サーバはページネーションに対応しています。

n: 電話帳サーバを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

電話帳 サーバ [n] TLS 検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスが HTTPS 経由で外部の電話帳サーバに接続するときに適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。 CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。 このルールには次の 2 つの例外があります。 1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。 2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来のネットワークサービス HTTPS サーバ証明書検証設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバの証明書が信頼できるかどうかを確認します。 信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバの間の接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電話帳 サーバー [n] タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

電話帳サーバの種類を選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/CUCM/Spark/TMS/VCS

Off: 電話帳を使用しません。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager 上に配置されます。

Spark: 電話帳が Cisco Webex クラウドサービス内に配置されます。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence Management Suite サーバ上に配置されます。

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence Video Communication Server 上に配置されます。

n: 電話帳サーバを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

電話帳サーバー [n] URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

外部電話帳サーバのアドレス (URL) を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

外部電話帳サーバの有効なアドレス (URL)。

n: 電話帳サーバを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

プロビジョニング設定

プロビジョニング 接続

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

この設定は、プロビジョニング サーバからの内部または外部の設定を要求するかどうかを、デバイスが検出する方法を制御します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Internal/External/Auto

Internal: 内部コンフィギュレーションを要求します。

External: 外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部コンフィギュレーションが要求されます。それ以外の場合、内部コンフィギュレーションが要求されます。

プロビジョニング CUCM コール管理レコード コール診断

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスがコール統計を CUCM に送信できるようにし、コール統計は CUCM のコール管理レコードに追加されます。コール統計は、コールの終了時に CUCM に送信されます。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Enabled: CUCM コール管理レコードのサポートを有効にします。

Disabled: CUCM コール管理レコードのサポートを無効にします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プロビジョニング 外部マネージャー アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、デバイスは起動時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、結果として外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットにコンフィギュレーション/コマンドを返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。プロビジョニング 外部マネージャーアドレス で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

プロビジョニング 外部マネージャー 代替アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、冗長構成として代替の CUCM が利用可能な場合のみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを定義します。メインの CUCM が使用できない場合、デバイスは代替 CUCM でプロビジョニングされます。メインの CUCM が再び使用可能になると、デバイスはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

プロビジョニング 外部マネージャー プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムに要求を送信する際に、HTTP (非セキュアな通信) または HTTPS (セキュアな通信) のどちらのプロトコルを使用するかを定義します。

選択したプロトコルは、ネットワークサービス HTTP モードの設定で有効になっている必要があります。

デフォルト値:

HTTP

値スペース:

HTTPS/HTTP

HTTPS:HTTPS を介してリクエストを送信します。

HTTP:HTTP を介してリクエストを送信します。

プロビジョニング 外部マネージャー パス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムへのパスを定義します。いくつかの管理サービスが同じサーバに存在する、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合、この設定が必要です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムへの有効なパス。

プロビジョニング 外部マネージャー ドメイン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

VCS プロビジョニング サーバの SIP ドメインを定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なドメイン名。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プロビジョニング モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してデバイスを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のデバイスを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Off/Auto/CUCM/Edge/Webex/WebexCalling/TMS/VCS

Off: デバイスはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto: DHCP サーバでセットアップされる対象としてプロビジョニング サーバが自動的に選択されます。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。

Edge: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。デバイスは Expressway インフラストラクチャを介して CUCM に接続します。Expressway を経由して登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

Webex: Cisco Webex クラウド サービスからデバイスに設定をプッシュします。Webex クラウドサービスに登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

WebexCalling: このリリースでは利用できません。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からデバイスに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からデバイスに設定をプッシュします。

プロビジョニング ログイン名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

これは、プロビジョニング サーバでデバイスを認証するために使用されるログイン情報のユーザ名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザ名。

プロビジョニング パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

これは、プロビジョニング サーバでデバイスを認証するために使用されるログイン情報のパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバが要求する場合、使用する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

プロビジョニング Tls 検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

この設定は、ビデオ会議デバイスが HTTPS 経由でプロビジョニング サーバに接続するときに適用されます。

デバイスと HTTPS サーバ間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。このルールには次の 2 つの例外があります。1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来のネットワークサービス HTTPS サーバ証明書検証設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デバイスが Expressway 経由で Cisco Webex クラウド サービスや CUCM からプロビジョニングされている場合 (MRA またはエッジとも呼ばれます)、この設定に関係なく、常に証明書のチェックが実行されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバの間の接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プロビジョニング WebexEdge

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デバイスを Webex Edge for Devices にリンクするかどうかを定義します。リンクしたデバイスには、特定の Webex クラウドサービスへのアクセスが提供されます。

この設定は、オンプレミスサービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは Webex Edge for Devices にリンクされません。

On: デバイスは Webex Edge for Devices にリンクされます。

プロキシミティの設定

プロキシミティ 代替ポート 有効

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワークサービス HTTP モード (NetworkServices HTTP Mode)] が [HTTP+HTTPS] または [HTTPS.] に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルトでは、プロキシミティ接続は TCP ポート 443 を使用します。この設定を使用すると、ポート 65533 でもプロキシミティ接続が許可されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: プロキシミティ接続は常に TCP ポート 443 を使用します。

True: プロキシミティ接続は TCP ポート 443 または 65533 を使用できます。使用されるポートはクライアントによって変わります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プロキシミティ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスには効果がありません。クラウド登録デバイスから超音波ペアリングメッセージが送信されないようにするには、[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] を 0 に設定する必要があります。

オンプレミス登録デバイスの場合は、[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定により、超音波ペアリングメッセージを出力するかどうかを決定します。デバイスから超音波ペアリングメッセージを出力すると、デバイスが近くにあることをシスココラボレーションクライアントで検知できます。

クライアントを使用するには、少なくとも 1 つのプロキシミティサービスを有効にする必要もあります ([プロキシミティ サービス (Proximity Services)] 設定を参照)。一般的に、すべてのプロキシミティサービスを有効にすることをお勧めします。

[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定と [オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定は、超音波ペアリングメッセージにのみ影響します。超音波の出力をすべて停止するには、[ルーム分析 人の存在の検出 (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector)] 設定と [スタンバイ モーション検知ウェイクアップ (Standby WakeupOnMotionDetection)] 設定も [オフ (Off)] にする必要があります。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board]

Off [CodecPlus CodecPro DeskPro/DeskLE]

値スペース:

Off/On

Off: シスココラボレーションクライアントはデバイスが近くにあることを検知できません。このため、プロキシミティサービスは使用できません。

On: シスココラボレーションクライアントはデバイスが近くにあることを検知できます。有効になっているプロキシミティサービスを使用できます。

プロキシミティ サービス コール制御

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

シスココラボレーションクライアントの基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定を有効にすると、シスココラボレーションクライアントを使用してコールを制御できます (ダイヤル、ミュート、音量調節、コールの終了など)。このサービスはモバイル デバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定が機能するには、プロキシミティ モードを On にする必要があります。

デフォルト値:

無効

値スペース:

Enabled/Disabled

Enabled: シスココラボレーションクライアントからのコール制御が有効になります。

Disabled: シスココラボレーションクライアントからのコール制御が無効になります。

プロキシミティ サービス コンテンツ共有 クライアントから

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

シスココラボレーションクライアントからのコンテンツ共有を有効または無効にします。この設定を有効にすると、シスココラボレーションクライアントからのコンテンツをデバイスにワイヤレスで共有できます (ラップトップ画面の共有など)。このサービスはラップトップ (OS X および Windows) でサポートされます。この設定が機能するには、プロキシミティ モードを On にする必要があります。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Enabled/Disabled

Enabled: シスココラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が有効になります。

Disabled: シスココラボレーションクライアントからのコンテンツ共有が無効になります。

プロキシミティ サービス コンテンツ共有 クライアントへ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

現在では、これは該当しません。

デフォルト値:

無効

値スペース:

[無効 (Disabled)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルーム分析設定

ルーム分析 環境雑音の予測 間隔

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

環境雑音の予測を実行する間隔を設定します (有効化されている場合)。xConfiguration ルーム分析 環境雑音の予測 モードを使用して、環境雑音の予測を有効または無効にすることができます。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (10 ~ 60)

環境雑音の予測を実行する頻度の間隔 (秒) を設定します。

ルーム分析 環境雑音の予測 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスは室内の固定周囲ノイズ レベル (背景雑音レベル) を算出することができます。結果は RoomAnalytics AmbientNoise レベル dBA ステータスにレポートされます。新しい周囲ノイズレベルが検出されるとステータスが更新されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: デバイスは固定周囲ノイズ レベルを定期的に予測します。

Off: デバイスは固定周囲ノイズ レベルを定期的に予測しません。

ルーム分析 非通話中の人をカウント

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

顔検出を使用して、デバイスが室内にいる人の人数を特定できます。デフォルトでは、デバイスは通話中のときまたはセルフ ビューに画像を表示したときにのみ人数を数えます。

Codec Plus、Codec Pro: デバイスに Cisco Quad Camera が接続されている場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは、デバイスが通話中のときまたはセルフ ビューがオンのときのみ、人数を数えます。

On: デバイスは、デバイスがスタンバイ モードでない限り、人数を数えます。セルフ ビューがオフであっても、これは非通話中の人数を含みます。

ルーム分析 人の存在の検出

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスは、人が室内に存在しているかどうかを確認し、その結果を [ルーム分析 人の存在 (RoomAnalytics PeoplePresence)] のステータスにレポートすることができます。この機能は、超音波に基づいています。詳細については、ステータスの説明を参照してください。

この設定と [スタンバイ モーション検知ウェイクアップ (Standby WakeupOnMotionDetection)] 設定の両方が [オフ (Off)] になっている場合、人の存在を検出するための超音波信号は出力されません。[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、人の存在の検出には影響しません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ユーザの存在に関する情報は、デバイスのステータスで報告されません。

On: ユーザの存在に関する情報は、デバイスのステータスで報告されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルーム分析 残響時間 間隔

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

RT60 を測定して RoomAnalytics ステータスにレポートする頻度を定義します。間隔は秒単位です。

間隔を設定するには、ルーム分析 残響時間 モード (RoomAnalytics ReverberationTime Mode) 設定を有効にする必要があります。

デフォルト値:

1800

値スペース:

整数 (60 ~ 3600)
間隔 (秒単位)。

ルーム分析 残響時間 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

残響時間は、音が室内で「フェードアウトする」かまたは減衰する速度の測定です。

これは、室内の音響品質の認識に大きく関連しています。

Cisco Webex Devices では、音響エコーキャンセラから直接、残響時間 (RT60) を測定できます。

室内でノイズやインパルス信号を発生する必要がある従来の残響時間測定とは異なり、Cisco デバイスは RT60 を「サイレント測定」として測定します。

サイレント測定動作のため、RT60 値は暗示的で、ISO 3382-2 標準規格に従って厳密には正確ではありません。

測定では、125 Hz ~ 4 kHz の各オクターブバンドの RT60 値を測定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: サイレント RT60 測定値をアクティブにします。

Off: サイレント RT60 測定値を非アクティブにします。

ルームクリーンアップの設定

ルームクリーンアップ 自動実行 コンテンツタイプ Web データ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Web データの毎日のルームクリーンアップを有効または無効にします。xConfiguration ルームクリーンアップ 自動実行 時間を使用して時刻を設定します。

デフォルト値:

毎日

値スペース:

Daily/Off

Daily: Web データの毎日のクリーンアップを有効にします。

Off: Web データの毎日のクリーンアップを無効にします。

ルームクリーンアップ 自動実行 コンテンツタイプ ホワイトボード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ホワイトボードの毎日のルームクリーンアップを有効または無効にします。xConfiguration ルームクリーンアップ 自動実行 時間を使用して時刻を設定します。

デフォルト値:

毎日

値スペース:

Daily/Off

Daily: ホワイトボードの毎日のクリーンアップを有効にします。

Off: ホワイトボードの毎日のクリーンアップを無効にします。

ルームクリーンアップ 自動実行 時間

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ルームクリーンアップを実行する毎日の時刻を設定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 23)

ルームクリーンアップが行われる時刻。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルームリセットの設定

ルームリセット 制御

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定は、コントロールシステムまたはマクロの使用に対するものです。マクロによって、ビデオ会議デバイスの一部を自動化できる JavaScript コードのスニペットを記述できます。これによりカスタム動作を作成します。

ルームが数分に渡って待機状態になると、ビデオ会議デバイスは、ルームがリセット可能な状態であることを示すイベントを送信できます。

この設定が有効である場合に送られるイベントは次の通りです:

```
*e RoomReset SecondsToReset: 30
```

```
** end
```

```
*e RoomReset Reset
```

```
** end
```

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ルームリセットイベントは送信されません。

On: ルームリセット制御が有効になっており、ルームリセットイベントが送信されます。

ルームスケジューラの設定

ルームスケジューラ 有効

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ルームスケジューリング機能を使用すると、会議室にあるタッチコントローラから部屋を直接予約できます。部屋が使用可能な場合は、進行中の会議を延長することもできます。Webex Assistant (音声駆動型の仮想アシスタント) を使用して会議を予約または延長することもできます。

ルームスケジューリング機能では、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。また、予約を許可するカレンダーサービスをルームに設定する必要があります。

ルームスケジューリング機能はパーソナルモードデバイスではサポートされていません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ルームスケジューリング機能は使用できません。

True: 上記の前提条件を満たす場合、ルームスケジューリング機能を使用できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RTP 設定

RTP ポート 範囲 開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

RTP ポート範囲の最初のポートを定義します。

デフォルトでは、デバイスは RTP および RTCP メディア データに 2326 ~ 2487 の範囲のポートを使用します。RTP ビデオ ポート範囲を無効にしたときの最小範囲は 100、RTP ビデオ ポート範囲を有効にしたときの最小範囲は 20 です。

RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、オーディオは RTP ポート範囲設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP ビデオ ポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次の発信から有効になります。

デフォルト値:

2326

値スペース:

整数 (1024 ~ 65438)

RTP ポート範囲内で最初のポートを設定します。この値は偶数にする必要があります。

RTP ポート 範囲 終了

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

RTP ポート範囲の最後のポートを定義します。

デフォルトでは、デバイスは RTP および RTCP メディア データに 2326 ~ 2487 の範囲のポートを使用します。RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、デバイスは 1024 ~ 65436 の範囲のポートを使用します。RTP ビデオ ポート範囲を無効にしたときの最小範囲は 100、RTP ビデオ ポート範囲を有効にしたときの最小範囲は 20 です。

RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、オーディオは RTP ポート範囲設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP ビデオ ポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次の発信から有効になります。

デフォルト値:

2487

値スペース:

整数 (1121 ~ 65535)

RTP ポート範囲内で最後のポートを設定します。この値は奇数にする必要があります。偶数値を入力すると、自動的に 1 が加算されます。

RTP ビデオ ポート 範囲 開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

RTP ビデオ ポート範囲の最初のポートを定義します。

開始と終了の値の両方が 0 に設定されている場合、RTP ビデオ ポートの範囲は無効です。有効にするには、最初のポートを 1024 から 65454 までの値に設定し、最後のポートを 1024 から 65535 までの値に設定します。最小範囲は 80 です。

RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、オーディオは RTP ポート範囲設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP ビデオ ポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次の発信から有効になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0, 1024..65454)

RTP ビデオ ポート範囲の最初のポートを設定します。

RTP ビデオ ポート 範囲 終了

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

RTP ビデオ ポート範囲の最後のポートを定義します。

開始と終了の値の両方が 0 に設定されている場合、RTP ビデオ ポートの範囲は無効です。有効にするには、最初のポートを 1024 から 65454 までの値に設定し、最後のポートを 1024 から 65535 までの値に設定します。最小範囲は 80 です。

RTP ビデオ ポート範囲が有効な場合、オーディオは RTP ポート範囲設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP ビデオ ポート範囲設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次の発信から有効になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0, 1024..65535)

RTP ビデオ ポート範囲の最後のポートを設定します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

セキュリティ設定

セキュリティ 監査 ログング モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: AUDIT

監査ログを記録または送信する場所を定義します。監査ログは syslog サーバに送信されます。ログングモード設定がオフに設定されている場合、この設定には効果がありません。

External モードまたは ExternalSecure モードを使用する場合は、セキュリティ監査サーバアドレス設定に監査サーバのアドレスを入力する必要があります。

デフォルト値:

内部

値スペース:

External/ExternalSecure/Internal/Off

External: デバイスは外部監査 syslog サーバに監査ログを送信します。syslog サーバでは UDP をサポートする必要があります。

ExternalSecure: デバイスは、監査 CA リストの証明書で検証された外部 syslog サーバに暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルが Web インターフェイスからデバイスにアップロードされている必要があります。CA のリストの証明書の common_name パラメータは syslog サーバの IP アドレスまたは DNS 名と一致する必要があり、セキュア TCP サーバでセキュア (TLS) TCP syslog メッセージをリッスンするように設定される必要があります。

Internal: デバイスは内部ログに監査ログを記録し、満杯になるとログをローテーションします。

Off: 監査ログングは実行されません。

セキュリティ 監査 エラー発生時 アクション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: AUDIT

syslog サーバへの接続が失われた場合の動作を定義します。この設定は、セキュリティ監査ログング モードが ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

デフォルト値:

無視

値スペース:

Halt/Ignore

Halt: 停止状態が検出された場合、デバイスはリブートし、停止期間が経過するまでは監査役だけが装置の操作を許可されます。停止状態が過ぎ去ると、監査ログは syslog サーバに再スプールされます。ネットワークの違反 (物理リンクなし)、動作中の外 Syslog サーバが存在しない (または syslog への間違ったアドレスまたはポート)、TLS 認証が失敗した (使用中の場合)、ローカル バックアップ (再スプール) ログがいっぱいになった、などの停止状態があります。

Ignore: デバイスは通常の動作を続行し、満杯になった場合は内部ログをローテーションします。接続が復元されると syslog サーバに再度監査ログを送信します。

セキュリティ 監査 サーバー アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: AUDIT

監査ログの送信先である syslog サーバの IP アドレスまたは DNS 名を設定します。この設定は、セキュリティ監査ログング モードが External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

セキュリティ監査サーバのポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバに送信されます。デバイスが監査ログを送信する syslog サーバのポートを定義します。この設定は、セキュリティ 監査 サーバ ポート割り当てがマニュアルに設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

監査サーバのポートを設定します。

セキュリティ 監査 サーバ ポート割り当て

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバに送信されます。外部 syslog サーバのポート番号の割り当て方法を定義できます。この設定は、セキュリティ監査ロギング モードが External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。使用しているポート番号を確認するために、セキュリティ 監査 サーバ ポート状態をチェックできます。Web インターフェイスで [セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動するか、コマンドライン インターフェイスの場合はコマンド xStatus Security Audit Server Port を実行します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: [セキュリティ監査ロギング モード (Security Audit Logging Mode)] が [外部 (External)] にセットされている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。セキュリティ監査ロギング モードが ExternalSecure にセットされている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

Manual: [セキュリティ監査サーバのポート (Security Audit Server Port)] 設定で定義されたポート値を使用します。

セキュリティ Fips モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

必要に応じて、デバイスを FIPS モードに設定することができます (連邦情報処理標準 (FIPS) 140-3、「暗号化モジュールのセキュリティ要件」)。FIPS モードでは、リモートサポートユーザは利用できません。また、デバイスと HTTP プロキシ間のダイジェストアクセス認証はサポートされません。これは、ダイジェストアクセス認証で使用される MD5 暗号化ハッシュが FIPS で許可されていないためです。この最後の制限は、Webex 登録デバイスにのみ影響します。これは HTTP プロキシが Webex ソリューションにのみ使用されるためです。

FIPS モードでは、HTTPS のみを許可し、SNMP や IEEE8021X に切り替えないようにする (デフォルト値を保持する) 必要があります。

この設定に対する変更を完全に反映させるには、デバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは FIPS モードではありません。

On: デバイスが FIPS モードになります。

セキュリティ セッション ログイン失敗時のロックアウト時間

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザが Web または SSH セッションのログインに失敗したあと、デバイスがユーザをロックアウトする時間を定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (0 ~ 10000)

ロックアウト時間 (分) を設定します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

セキュリティ セッション 非アクティブタイムアウト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザが Web または SSH セッションから自動的にログアウトされるまでに、デバイスがユーザの非アクティブ状態をどれくらいの時間受け入れるかを定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 10000)

非アクティブタイムアウト (分) を設定します。0 を指定すると、1 時間のタイムアウトになります。最大タイムアウト長は 12 時間です。

セキュリティ セッション ログイン失敗の最大数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Web または SSH セッションにログイン試行を失敗できるユーザ 1 人あたりの最大数を定義します。ユーザが試行の最大数を超えた場合、ユーザはロックアウトされます。0 は、失敗できるログインの回数に制限がないことを意味します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 10)

ユーザ 1 人あたりの失敗できるログイン試行の最高回数を設定します。

セキュリティセッション ユーザーの最大セッション数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザ 1 人あたりの最大同時セッション数は 20 セッションです。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 20)

ユーザ 1 人あたりの最大同時セッション数を設定します。

セキュリティ セッション 最大総セッション数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

同時セッションの合計最大数は 20 セッションです。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 20)

同時セッションの合計最大数を設定します。

セキュリティ セッション 最後のログオンを表示

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SSH を使用してデバイスにログインすると、前回ログインに成功したセッションのユーザ ID、時刻および日付が表示されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: 最後のセッションに関する情報を表示します。

Off: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

シリアルポート設定

シリアルポート モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

シリアルポートを有効/無効にします。 デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてのシリアルポートに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Webex Board 55 および Webex Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: シリアル通信が無効になります。

On: シリアル通信が有効になります。

シリアルポート ボーレート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

シリアルポートのボーレート (データ転送速度) を設定します。 新しいボーレートは、デバイスの再起動後に有効になります。

シリアル ポートの他の接続パラメータは次の通りです。データ ビット: 8。パリティ: なし。ストップ ビット: 1。フロー制御: なし。

この設定は、専用のメンテナンスポート (マイクロ USB) には影響しません。 メンテナンスポートでは、常にデフォルトのボーレートが使用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Webex Board 55 および Webex Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

115200 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

115200 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE Board]

9600/19200/38400/57600/115200 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

リストからボーレートを選択します (ビット/秒)。

シリアルポート ログインが必要

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

シリアルポートに接続するときにログインが必要かどうかを定義します。 デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてのシリアルポートに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Webex Board 55 および Webex Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ユーザはログインせずに、シリアル ポート経由でデバイスにアクセスできます。

On: シリアル ポート経由でデバイスに接続するときに、ログインが必要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP 設定

SIP ANAT

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ANAT (Alternative Network Address Types) は RFC 4091 で規定されている複数のアドレスとアドレス タイプのメディア ネゴシエーションを有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ANAT を無効にします。

On: ANAT を有効にします。

SIP 認証 ユーザー名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザー名部分です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なユーザー名。

SIP 認証 パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP デフォルトトランスポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/TCP/Tls/UDP

TCP: デバイスはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

UDP: デバイスはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

Tls: デバイスはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをデバイスにアップロードできます。該当する CA リストがデバイスにない場合は、ディフィー ヘルマン匿名認証が使用されます。

Auto: デバイスは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

SIP 表示名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

これを設定した場合、着信コールは、SIP URI ではなく、表示名を報告します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 550)

SIP URI の代わりに表示する名前。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP Ice デフォルト候補

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ICE プロトコルには、使用するメディア ルートを決定するまでの時間（最大で通話開始から 5 秒間）が必要となります。この時間内に、この設定に従って、デバイスのメディアがデフォルトの候補に送信されます。

デフォルト値:

Host

値スペース:

Host/Rflx/Relay

Host: メディアをデバイスのプライベート IP アドレスに送信します。

Rflx: TURN サーバが認識しているデバイスのパブリック IP アドレスにメディアを送信します。

Relay: TURN サーバで割り当てられた IP アドレスおよびポートにメディアを送信します。

SIP Ice モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ICE (Interactive Connectivity Establishment, RFC 5245) は、最適化されたメディア パスの検出にデバイスで使用できる NAT トラバースル ソリューションです。このため、音声とビデオの最短ルートがデバイス間で常に確保されます。メディアパスを設定すると、最初に STUN (Session Traversal Utilities for NAT) メッセージが交換されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: TURN サーバが提供されている場合は ICE が有効になり、提供されていない場合は ICE が無効になります。

Off: ICE が無効になります。

On: ICE が有効になります。

SIP 回線

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、デバイスを共有電話の一部にできます。これは、複数のデバイスが同じディレクトリ番号を共有することを意味します。RFC 4235 で規定されているように、同じ番号を共有する各デバイスは、ライン上のもう一方のアピアランスからステータスを受け取ります。

共有回線はデバイスではなく CUCM によって設定されることに注意してください。そのため、手動でこの設定を変更しないでください。CUCM は必要に応じてこの情報をデバイスにプッシュします。

デフォルト値:

プライベート

値スペース:

Private/Shared

Shared: デバイスは共有電話の一部であるため、ディレクトリ番号を他のデバイスと共有します。

Private: このデバイスは共有電話の一部ではありません。

SIP リッスンポート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、デバイスは SIP プロキシ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。セキュリティ対策として、デバイスが SIP プロキシに設定されている場合は SIP ListenPort をオフにする必要があります。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto [DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP TCP/UDP ポートでの着信接続に対するリスニングは自動的にオフになります。それ以外の場合は、オンになります。

Off: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

On: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP メールボックス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、個人用ボイス メールボックスを所有するオプションが与えられます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な番号またはアドレス。ボイス メールボックスがない場合は、文字列を空のままにしておきます。

SIP 最小 TLS バージョン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SIP で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.0

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以上をサポートします。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以上をサポートします。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以上をサポートします。

SIP 優先IPシグナリング

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

シグナリングの優先 IP バージョンを定義します (音声、ビデオ、データ)。ネットワーク IP スタックおよび会議 通信プロトコルIPスタックの両方が Dual に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。また、優先 IP バージョンが登録に使用されるように、DNS で A/AAAA ルックアップのプライオリティを指定します。

デフォルト値:

IPv4

値スペース:

IPv4/IPv6

IPv4: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv6 です。

SIP プロキシ [n] アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを使用することが可能です。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: プロキシを識別するインデックス (最大 4 つのプロキシを定義できます)。

範囲: 1 ~ 4

SIP Tls検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SIP TLS 経由の接続を確立する前に、デバイスは、信頼できる認証局 (CA) がピアの証明書に署名しているかどうかを確認します。CA が CA リストに含まれており、Web インターフェイスまたは API を使用して手動でデバイスにアップロードされている必要があります。ブレイクストールされている証明書リストは、SIP TLS 接続の証明書の検証には使用されません。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、この設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

どの TLS バージョンを許可するかを指定するには、SIP 最小 TLS バージョン設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスはピアの証明書を確認しません。いずれにしても SIP TLS 接続が確立されません。

On: デバイスは、ピアの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない場合、SIP TLS 接続は確立されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP Turn 検出モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

検出モードを定義し、DNS で利用可能な TURN サーバの検索に対してアプリケーションを有効/無効にします。 コールを発信する前に、デバイスはポート割り当てが可能かどうかを確認します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 検出モードを無効にします。

On: On に設定すると、デバイスは DNS で利用可能な TURN サーバを検索し、コールを発信する前にポート割り当てが可能かどうかをテストします。

SIP Turn DropRflx

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

DropRflx は、リモート デバイスが同じネットワークにない場合に限り、TURN リレー経由でデバイスにメディアを強制させます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: DropRflx を無効にします。

On: リモート デバイスが別のネットワークにある場合、デバイスは TURN リレー経由でメディアを強制します。

SIP Turn サーバー

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバのアドレスを定義します。 これはメディア リレー フォールバックとして使用され、また、デバイス固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

推奨する形式は DNS SRV レコード (例: _turn._udp.<ドメイン>) ですが、有効な IPv4 または IPv6 アドレスも指定できます。

SIP Turn ユーザー名

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

TURN サーバへのアクセスに必要なユーザー名を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なユーザー名。

SIP Turn パスワード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

TURN サーバへのアクセスに必要なパスワードを定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP タイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ベンダーまたはプロバイダーに対する SIP 拡張および特別な動作を有効にします。

デフォルト値:

Standard

値スペース:

Standard/Cisco

Standard: 標準 SIP プロキシに登録する場合はこれを使用します (Cisco TelePresence VCS でテスト済み)。

Cisco: Cisco Unified Communications Manager に登録する場合はこれを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、デバイスの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりデバイスへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

スタンバイ設定

スタンバイ ブートアクション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

ビデオ会議デバイスの再起動後のカメラの位置を定義します。

デフォルト値:

DefaultCameraPosition [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

RestoreCameraPosition [DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

None/DefaultCameraPosition/RestoreCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスを再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスを再起動すると、カメラは工場出荷時のデフォルトの位置に移動します。

スタンバイ 制御

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスがスタンバイ モードに移行するかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスはスタンバイ モードを開始しません。

On: Standby Delay がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイ モードを開始します。

Board

スタンバイ 遅延

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スタンバイ モードに入るまでにデバイスがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。[スタンバイ制御 (Standby Control)] が有効である必要があります。

デフォルト値:

10 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE]

4 [Board]

値スペース:

整数 (1 ~ 480)

スタンバイ遅延 (分) を設定します。

スタンバイ サイネージ オーディオ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトでは、デバイスは、Web ページに音声がある場合でも、デジタル信号モードで音声を再生しません。この設定を使用して、デフォルトの動作を上書きすることができます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは、Web ページで音声を再生しません。

On: Web ページに音声が含まれている場合、デバイスは音声を再生します。音量は、デバイスの音量設定に従います。

スタンバイ サイネージ 対話モード

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトでは、ユーザがデジタル サイネージの Web ページを操作することはできません。この設定を使用すると、Web ページとの対話機能を有効にすることができます。

対話モードは、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

NonInteractive

値スペース:

インタラクティブ/非対話型

Interactive: Web ページを操作することができます。

NonInteractive: Web ページを操作することはできません。

スタンバイ サイネージ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

URL (Web ページ) からのコンテンツは、従来のハーフ ウェイク バックグラウンド イメージおよび情報を置き換えることができます。この機能は、「デジタルサイネージ」と呼ばれます。ユーザは、デバイスに対話型の画面がある場合 (リンクをクリックしたり、フォームにテキストを入力したりするなど)、Web ページを操作できます。

デジタル サイネージを使用すると、デバイスが通常の方法でスタンバイ状態に入ることを防止できません。そのため、スタンバイ遅延の設定は、デバイスがスタンバイ状態になるまでのデジタル サイネージの表示時間を決定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスでデジタル サイネージが有効になっていません。

On: Web エンジン モード設定がオンになっている場合、デジタル サイネージが有効化され、デバイスのハーフ ウェイク モードに置き換えられます。

Board

スタンバイ サイネージ 更新間隔

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、Web ページを定期的に更新することができます。これは、Web ページ自体を更新できない場合に便利です。更新間隔をインタラクティブ モードで設定することは推奨されません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (1~ 1440)

各 Web ページの更新間隔を秒数で表示します。値が 0 の場合、Web ページは強制的に更新されなくなります。

スタンバイ サイネージ Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

画面 (デジタル サイネージ) に表示する Web ページの URL を設定します。URL の長さが 0 の場合、デバイスに通常のハーフ ウェイク モードが保持されます。URL が機能していない場合、デバイスは通常のハーフ ウェイク モードを保持し、診断メッセージが発行されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、2000)

Web ページの URL。

スタンバイ スタンバイアクション

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

デフォルト値:

PrivacyPosition

値スペース:

なし (None) / プライバシー位置 (PrivacyPosition)

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: ビデオ 会議デバイスがスタンバイになると、プライバシー保護のためカメラは横向きになります。

スタンバイ ウェイクアップアクション

適用対象: Room70/Room55D すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

デフォルト値:

RestoreCameraPosition

値スペース:

None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態から復帰すると、カメラはスタンバイ前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態になると、カメラは工場出荷時のデフォルトの位置に移動します。

スタンバイ モーション検知ウェイクアップ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

モーション検知時の自動ウェイクアップは、人が入室したことをデバイスで検出できるようにする機能です。この機能は、超音波検出に基づいています。

この設定と [ルーム分析 人の存在の検出 (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector)] 設定の両方が [オフ (Off)] になっている場合、モーション検知用の超音波信号は出力されません。[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、モーション検知には影響しません。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

Off [CodecPlus CodecPro]

値スペース:

Off/On

Off: モーション検知ウェイクアップが無効になります。

On: 人が部屋に入ると、デバイスが自動的にスタンバイから復帰します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

システムユニット設定

システムユニット 名前

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイス名を定義します。 デバイスが SNMP エージェントとして機能している場合に、デバイス名は DHCP リクエストでホスト名として送信されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

デバイス名を定義します。

システムユニット クラッシュレポート 高度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。 ACR ツールは、Cisco の内部使用のみであり、お客様は利用できません。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

Off/On

Off: ACR ツールは標準的なログ解析を実行します。

On: ACR ツールは高度なログ解析を実行します。

システムユニット クラッシュレポート モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。 ACR ツールは、Cisco の内部使用のみであり、お客様は利用できません。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

Off/On

Off: ACR ツールにログは送信されません。

On: ACR ツールにログは自動的に送信されます。

システムユニット クラッシュレポート Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。 ACR ツールは、Cisco の内部使用のみであり、お客様は利用できません。

デフォルト値:

"acr.cisco.com" [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

文字列 (0, 255)

[シスコ自動クラッシュレポートツール (Cisco Automatic Crash Report tool)] の URL。

システムユニット カスタムデバイス ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

システムユニット カスタムデバイス ID は、ユニットに関するカスタム情報を保存する場所になります。 これは、たとえば、プロビジョニング設定でデバイスを追跡する上で役立ちます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

時刻設定

時刻 時刻形式

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

時刻の形式を定義します。

デフォルト値:

[24H]

値スペース:

24H/12H

24H: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

12H: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

時刻 日付形式

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

日付の形式を定義します。

デフォルト値:

[DD_MM_YY]

値スペース:

DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

DD_MM_YY: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

MM_DD_YY: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

YY_MM_DD: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

タイムゾーン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスが物理的に存在する地域のタイム ゾーンを設定します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

デフォルト値:

Etc/UTC

値スペース:

Africa/Abidjan, Africa/Accra, Africa/Addis_Ababa, Africa/Algiers, Africa/Asmara, Africa/Asmera, Africa/Bamako, Africa/Bangui, Africa/Banjul, Africa/Bissau, Africa/Blantyre, Africa/Brazzaville, Africa/Bujumbura, Africa/Cairo, Africa/Casablanca, Africa/Ceuta, Africa/Conakry, Africa/Dakar, Africa/Dar_es_Salaam, Africa/Djibouti, Africa/Douala, Africa/El_Aaiun, Africa/Freetown, Africa/Gaborone, Africa/Harare, Africa/Johannesburg, Africa/Juba, Africa/Kampala, Africa/Khartoum, Africa/Kigali, Africa/Kinshasa, Africa/Lagos, Africa/Libreville, Africa/Lome, Africa/Luanda, Africa/Lubumbashi, Africa/Lusaka, Africa/Malabo, Africa/Maputo, Africa/Maseru, Africa/Mbabane, Africa/Mogadishu, Africa/Monrovia, Africa/Nairobi, Africa/Ndjamena, Africa/Niamey, Africa/Nouakchott, Africa/Ouagadougou, Africa/Porto-Novo, Africa/Sao_Tome, Africa/Timbuktu, Africa/Tripoli, Africa/Tunis, Africa/Windhoek, America/Adak, America/Anchorage, America/Anguilla, America/Antigua, America/Araguaina, America/Argentina/Buenos_Aires, America/Argentina/Catamarca, America/Argentina/ComodRivadavia, America/Argentina/Cordoba, America/Argentina/Jujuy, America/Argentina/La_Rioja, America/Argentina/Mendoza, America/Argentina/Rio_Gallegos, America/Argentina/Salta, America/Argentina/San_Juan, America/Argentina/San_Luis, America/Argentina/Tucuman, America/Argentina/Ushuaia, America/Aruba, America/Asuncion, America/Atikokan, America/Atka, America/Bahia, America/Bahia_Banderas, America/Barbados, America/Belem, America/Belize, America/Blanc-Sablon, America/Boa_Vista, America/Bogota, America/Boise, America/Buenos_Aires, America/Cambridge_Bay, America/Campo_Grande, America/Cancun, America/Caracas, America/Catamarca, America/Cayenne, America/Cayman, America/Chicago, America/Chihuahua, America/Coral_Harbour, America/Cordoba, America/Costa_Rica, America/Creston, America/Cuiaba, America/Curacao, America/Danmarkshavn, America/Dawson, America/Dawson_Creek, America/Denver, America/Detroit, America/Dominica, America/Edmonton, America/Eirunepe, America/El_Salvador, America/Ensenada, America/Fort_Nelson, America/Fort_Wayne, America/Fortaleza, America/Glace_Bay, America/Godthab, America/Goose_Bay, America/Grand_Turk, America/Grenada, America/Guadeloupe, America/Guatemala, America/Guayaquil, America/Guyana, America/Halifax, America/Havana, America/Hermosillo, America/Indiana/Indianapolis, America/Indiana/Knox, America/Indiana/Marengo, America/Indiana/Petersburg, America/Indiana/Tell_City, America/Indiana/Vevay, America/Indiana/Vincennes, America/Indiana/Winamac, America/Indianapolis, America/Inuvik, America/Iqaluit, America/Jamaica, America/Jujuy, America/Juneau, America/Kentucky/Louisville, America/Kentucky/Monticello, America/Knox_IN, America/Kralendijk, America/La_Paz, America/Lima, America/Los_Angeles, America/Louisville, America/Lower_Princes, America/Maceio, America/Managua, America/Manaus, America/Marigot, America/Martinique, America/Matamoros, America/Mazatlan, America/Mendoza, America/Menominee, America/

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Merida, America/Metlakatla, America/Mexico_City, America/Miquelon, America/Moncton, America/Monterrey, America/Montevideo, America/Montreal, America/Montserrat, America/Nassau, America/New_York, America/Nipigon, America/Nome, America/Noronha, America/North_Dakota/Beulah, America/North_Dakota/Center, America/North_Dakota/New_Salem, America/Nuuk, America/Ojinaga, America/Panama, America/Pangnirtung, America/Paramaribo, America/Phoenix, America/Port-au-Prince, America/Port_of_Spain, America/Porto_Acre, America/Porto_Velho, America/Puerto_Rico, America/Punta_Arenas, America/Rainy_River, America/Rankin_Inlet, America/Recife, America/Regina, America/Resolute, America/Rio_Branco, America/Rosario, America/Santa_Isabel, America/Santarem, America/Santiago, America/Santo_Domingo, America/Sao_Paulo, America/Scoresbysund, America/Shiprock, America/Sitka, America/St_Barthlemy, America/St_Johns, America/St_Kitts, America/St_Lucia, America/St_Thomas, America/St_Vincent, America/Swift_Current, America/Tegucigalpa, America/Thule, America/Thunder_Bay, America/Tijuana, America/Toronto, America/Tortola, America/Vancouver, America/Virgin, America/Whitehorse, America/Winnipeg, America/Yakutat, America/Yellowknife, Antarctica/Casey, Antarctica/Davis, Antarctica/DumontDURville, Antarctica/Macquarie, Antarctica/Mawson, Antarctica/McMurdo, Antarctica/Palmer, Antarctica/Rothera, Antarctica/South_Pole, Antarctica/Syowa, Antarctica/Troll, Antarctica/Vostok, Arctic/Longyearbyen, Asia/Aden, Asia/Almaty, Asia/Amman, Asia/Anadyr, Asia/Aqtai, Asia/Aqtobe, Asia/Ashgabat, Asia/Ashkhabad, Asia/Atyrau, Asia/Baghdad, Asia/Bahrain, Asia/Baku, Asia/Bangkok, Asia/Barnaul, Asia/Beirut, Asia/Bishkek, Asia/Brunei, Asia/Calcutta, Asia/Chita, Asia/Choibalsan, Asia/Chongqing, Asia/Chungking, Asia/Colombo, Asia/Dacca, Asia/Damascus, Asia/Dhaka, Asia/Dili, Asia/Dubai, Asia/Dushanbe, Asia/Famagusta, Asia/Gaza, Asia/Harbin, Asia/Hebron, Asia/Ho_Chi_Minh, Asia/Hong_Kong, Asia/Hovd, Asia/Irkutsk, Asia/Istanbul, Asia/Jakarta, Asia/Jayapura, Asia/Jerusalem, Asia/Kabul, Asia/Kamchatka, Asia/Karachi, Asia/Kashgar, Asia/Kashgar, Asia/Katmandu, Asia/Katmandu, Asia/Khandyga, Asia/Kolkata, Asia/Krasnoyarsk, Asia/Kuala_Lumpur, Asia/Kuching, Asia/Kuwait, Asia/Macao, Asia/Macau, Asia/Magadan, Asia/Makassar, Asia/Manila, Asia/Muscat, Asia/Nicosia, Asia/Novokuznetsk, Asia/Novosibirsk, Asia/Omsk, Asia/Oral, Asia/Phnom_Penh, Asia/Pontianak, Asia/Pyongyang, Asia/Qatar, Asia/Qostanay, Asia/Qyzylorda, Asia/Rangoon, Asia/Riyadh, Asia/Saigon, Asia/Sakhalin, Asia/Samarkand, Asia/Seoul, Asia/Shanghai, Asia/Singapore, Asia/Srednekolymsk, Asia/Taipei, Asia/Tashkent, Asia/Tbilisi, Asia/Tehran, Asia/Tel_Aviv, Asia/Thimbu, Asia/Thimphu, Asia/Tokyo, Asia/Tomsk, Asia/Ujung_Pandang, Asia/Ulaanbaatar, Asia/Ulan_Bator, Asia/Urumqi, Asia/Ust-Nera, Asia/Vientiane, Asia/Vladivostok, Asia/Yakutsk, Asia/Yangon, Asia/Yekaterinburg, Asia/Yerevan, Atlantic/Azores, Atlantic/Bermuda, Atlantic/Canary, Atlantic/Cape_Verde, Atlantic/Faeroe, Atlantic/Faroe, Atlantic/Jan_Mayen, Atlantic/Madeira, Atlantic/Reykjavik, Atlantic/South_Georgia, Atlantic/St_Helena, Atlantic/Stanley, Australia/ACT, Australia/Adelaide, Australia/Brisbane, Australia/Broken_Hill, Australia/Canberra, Australia/Currie, Australia/Darwin, Australia/Eucla, Australia/Hobart, Australia/LHI, Australia/Lindeman, Australia/Lord_Howe, Australia/Melbourne, Australia/NSW, Australia/North, Australia/Perth, Australia/Queensland, Australia/South, Australia/Sydney, Australia/Tasmania, Australia/Victoria, Australia/West, Australia/Yancowinna, Brazil/Acre, Brazil/DeNoronha, Brazil/East, Brazil/West, CET, CST6CDT, Canada/Atlantic, Canada/Central, Canada/Eastern, Canada/Mountain, Canada/Newfoundland, Canada/Pacific, Canada/Saskatchewan, Canada/Yukon, Chile/Continental, Chile/EasterIsland, Cuba, EET, EST, EST5EDT, Egypt, Eire, Etc/GMT, Etc/GMT+0, Etc/GMT+1, Etc/GMT+10, Etc/

GMT+11, Etc/GMT+12, Etc/GMT+2, Etc/GMT+3, Etc/GMT+4, Etc/GMT+5, Etc/GMT+6, Etc/GMT+7, Etc/GMT+8, Etc/GMT+9, Etc/GMT-0, Etc/GMT-1, Etc/GMT-10, Etc/GMT-11, Etc/GMT-12, Etc/GMT-13, Etc/GMT-14, Etc/GMT-2, Etc/GMT-3, Etc/GMT-4, Etc/GMT-5, Etc/GMT-6, Etc/GMT-7, Etc/GMT-8, Etc/GMT-9, Etc/GMT0, Etc/Greenwich, Etc/UCT, Etc/UTC, Etc/Universal, Etc/Zulu, Europe/Amsterdam, Europe/Andorra, Europe/Astrakhan, Europe/Athens, Europe/Belfast, Europe/Belgrade, Europe/Berlin, Europe/Bratislava, Europe/Brussels, Europe/Bucharest, Europe/Budapest, Europe/Busingen, Europe/Chisinau, Europe/Copenhagen, Europe/Dublin, Europe/Gibraltar, Europe/Guernsey, Europe/Helsinki, Europe/Isle_of_Man, Europe/Istanbul, Europe/Jersey, Europe/Kaliningrad, Europe/Kiev, Europe/Kirov, Europe/Lisbon, Europe/Ljubljana, Europe/London, Europe/Luxembourg, Europe/Madrid, Europe/Malta, Europe/Mariehamn, Europe/Minsk, Europe/Monaco, Europe/Moscow, Europe/Nicosia, Europe/Oslo, Europe/Paris, Europe/Podgorica, Europe/Prague, Europe/Riga, Europe/Rome, Europe/Samara, Europe/San_Marino, Europe/Sarajevo, Europe/Saratov, Europe/Simferopol, Europe/Skopje, Europe/Sofia, Europe/Stockholm, Europe/Tallinn, Europe/Tirane, Europe/Tiraspol, Europe/Ulyanovsk, Europe/Uzhgorod, Europe/Vaduz, Europe/Vatican, Europe/Vienna, Europe/Vilnius, Europe/Volgograd, Europe/Warsaw, Europe/Zagreb, Europe/Zaporozhye, Europe/Zurich, GB, GB-Eire, GMT, GMT+0, GMT-0, GMT0, Greenwich, HST, Hongkong, Iceland, Indian/Antananarivo, Indian/Chagos, Indian/Christmas, Indian/Cocos, Indian/Comoro, Indian/Kerguelen, Indian/Mahe, Indian/Maldives, Indian/Mauritius, Indian/Mayotte, Indian/Reunion, Iran, Israel, Jamaica, Japan, Kwajalein, Libya, MET, MST, MST7MDT, Mexico/BajaNorte, Mexico/BajaSur, Mexico/General, NZ, NZ-CHAT, Navajo, PRC, PST8PDT, Pacific/Apia, Pacific/Auckland, Pacific/Bougainville, Pacific/Chatham, Pacific/Chuuk, Pacific/Easter, Pacific/Efate, Pacific/Enderbury, Pacific/Fakaofu, Pacific/Fiji, Pacific/Funafuti, Pacific/Galapagos, Pacific/Gambier, Pacific/Guadalcanal, Pacific/Guam, Pacific/Honolulu, Pacific/Johnston, Pacific/Kiritimati, Pacific/Kosrae, Pacific/Kwajalein, Pacific/Majuro, Pacific/Marquesas, Pacific/Midway, Pacific/Nauru, Pacific/Niue, Pacific/Norfolk, Pacific/Noumea, Pacific/Pago_Pago, Pacific/Palau, Pacific/Pitcairn, Pacific/Pohnpei, Pacific/Ponape, Pacific/Port_Moresby, Pacific/Rarotonga, Pacific/Saipan, Pacific/Samoa, Pacific/Tahiti, Pacific/Tarawa, Pacific/Tongatapu, Pacific/Truk, Pacific/Wake, Pacific/Wallis, Pacific/Yap, Poland, Portugal, ROC, ROK, Singapore, Turkey, UCT, US/Alaska, US/Aleutian, US/Arizona, US/Central, US/East-Indiana, US/Eastern, US/Hawaii, US/Indiana-Starke, US/Michigan, US/Mountain, US/Pacific, US/Samoa, UTC, Universal, W-SU, WET, Zulu

リストからタイムゾーンを選択します。

D15473.01

RoomOS

10.3

04-2021



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインタラクション設定

ユーザインタラクション 挙手 CMS

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

この設定は、CMS 会議の挙手機能の可用性を制御します。CMS が挙手機能をサポートし、この設定が True に設定されている場合、挙手ボタンがデバイスのユーザインターフェイスに表示されます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/true

ユーザインターフェイス設定

ユーザインターフェイス アクセシビリティ 着信コール通知

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

画面表示を強調した着信コールの通知を利用できます。画面とタッチコントローラ は約 1 秒ごと (1.75 Hz) に赤と白に点滅し、聴覚が不自由なユーザが着信コールに気づきやすくするようにしています。デバイスがコール中の場合、進行中のコールの妨げになるため画面は点滅しません、その代わりに、通常の通知が画面とタッチ パネルに表示されます。

デフォルト値:

デフォルト

値スペース:

AmplifiedVisuals/Default

AmplifiedVisuals: デバイスがコールを受け入れたときに、画面とタッチパネル上での画面表示の強調を有効にします。

Default: スクリーンとタッチパネル上での通知を使用したデフォルトの動作を有効にします。

ユーザインターフェイス アシスタント モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Webex Assistant を使用すると、音声コマンドを使用してデバイスを制御できます。Webex Assistant はクラウドサービスなので、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、オンプレミスサービスに登録されて Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。

デバイスで Webex Assistant を有効または無効にするには、この設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: Webex Assistant がオフになります。

On: インフラストラクチャでサポートされていれば、Webex Assistant を使用できます。

Board

ユーザインターフェイス アシスタント 会議参加確認

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

参加確認は Webex Assistant によって提供される機能です。参加確認が有効になっている場合、OBTP ミーティングの開始直前にミーティングルームに人がいることが検出されると、デバイスはその人にこれから始まるミーティングに参加するかどうかを確認します。

デバイスで参加確認機能を有効または無効にするには、この設定を使用します。

デフォルト値:

True [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

False/True

False: 参加確認機能はオフになります。

True: Webex Assistant がアクティブになっていれば、参加確認機能を使用できます。

ユーザインターフェイス 予約 可視性 タイトル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

ミーティングの詳細をプライベートに変更します。「ミーティングのスケジュール (Scheduled meeting)」というテキストがミーティングのタイトルとして表示されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: ミーティングのタイトルが公開され、ユーザインターフェイスに表示されます。

Hidden: ミーティングのタイトルが非表示になり、ユーザインターフェイスには「ミーティングのスケジュール (Scheduled meeting)」と表示されます。

ユーザインターフェイス ブランディング アウェイク状態のブランディング 色

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ブランディングのカスタマイズを使用してデバイスがセットアップされている場合、この設定は、デバイスが起動している時に表示されるロゴの色に影響します。ロゴをフルカラーで表示するか、またはロゴの不透明度を下げるかによって、画面上の背景や他の要素とより自然にブレンドするように設定することができます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/ネイティブ

Auto: ロゴの不透明度は低減されます。

Native: ロゴはフルカラーです。

ユーザインターフェイス 連絡先情報のタイプ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザ インターフェイスに表示する連絡先情報の種類を選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/DisplayName/E164Alias/H320Number/H323Id/IPv4/IPv6/None/SipUri/SystemName

Auto: 他のデバイスがこのビデオ会議デバイスに接続するためにダイヤルする必要があるアドレスを表示します。アドレスは、デフォルトのコール プロトコルおよびデバイス登録によって異なります。

None: どのようなコンタクト情報も表示しません。

IPv4: デバイスの IPv4 アドレスを示します。

IPv6: デバイスの IPv6 アドレスを示します。

H323Id: デバイスの H.323 ID を表示します (H323 H323Alias ID 設定を参照)。

H320Number: 連絡先情報としてデバイスの H.320 番号を表示します (Cisco TelePresence ISDN リンクを使用している場合のみサポートされます)。

E164Alias: 連絡先情報としてデバイスの H.323 E164 エイリアスを表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照)。

SipUri: デバイスの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照)。

SystemName: デバイス名を表示します (SystemUnit Name 設定を参照)。

DisplayName: デバイスの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照)。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインターフェイス カスタムメッセージ

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

アウェイク モードのとき、スクリーンの下部左側にカスタム メッセージを表示することができます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

カスタム メッセージを追加します。 カスタム メッセージを削除するには空の文字列を追加します。

ユーザインターフェイス 診断 通知

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザインターフェイスに診断の通知を表示するかどうかを設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: 診断の通知がユーザインターフェイスに表示されます。

Hidden: 診断の通知はユーザインターフェイスに表示されません。

ユーザインターフェイス キートーン モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

テキストまたは数値を入力する際に、キーボード クリック効果音 (キー トーン) が鳴るようにデバイスを設定できます。

デフォルト値:

Off [[DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

On [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Off/On

Off: キー トーンは再生されません。

On: キー トーンがオンになります。

ユーザインターフェイス 機能 コール 終了

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスからデフォルトの通話終了ボタンを削除するかどうかを選択します。 設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスから削除します。

ユーザインターフェイス 機能 コール キーパッド

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスから、デフォルトの通話中の [キーパッド (Keypad)] ボタンを削除するかどうかを選択します。 このボタンは、DTMF 入力などに使用できるキーパッドを開きます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスから削除します。

ユーザインターフェイス 機能 コール Webexに参加

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスからデフォルトの [Webexに参加 (Join Webex)] ボタンを削除するかどうかを選択します。

このボタンを使用すると、ユーザは Webex ミーティング番号で Webex ミーティングにダイヤルインできます。ドメインは必要ありません。 ただし、この機能を動作させるには、インフラストラクチャの設定で *@webex.com へのコールのルーティングを許可する必要があります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスから削除します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインターフェイス 機能 コール 通話中制御

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスからデフォルトの保留、転送、および通話再開ボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: ユーザ インターフェイスからデフォルトボタンを削除する

ユーザインターフェイス 機能 コール 音楽モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスで音楽モードのトグルボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

非表示

値スペース:

自動/非表示

Auto: この機能が対応中のコールでサポートされている場合、ユーザインターフェイスで音楽モードのトグルボタンを表示します。

Hidden: 音楽モードのトグルボタンは、ユーザインターフェイスに表示されません。

ユーザインターフェイス 機能 コール 開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスから、デフォルトの通話ボタン (ディレクトリ、お気に入り、および直近の通話リスト)、さらにデフォルトの着信追加参加者ボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: ユーザ インターフェイスからデフォルトボタンを削除する

ユーザインターフェイス機能通話ビデオミュート

適用対象: RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスにデフォルトの[ビデオをオフにする]ボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

自動: この機能が継続的な通話でサポートされている場合、ユーザインターフェイスに[ビデオをオフにする]ボタンが表示されます。

非表示: [ビデオをオフにする]ボタンはユーザインターフェイスに表示されません。

ユーザインターフェイス 機能 すべて非表示

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスからデフォルトボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: すべてのデフォルトボタンをユーザインターフェイスで表示します。

True: すべてのデフォルトボタンをユーザインターフェイスで表示しません。

ユーザインターフェイス 機能 共有 開始

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスから、コンテンツの共有とコール発信の両方で、コンテンツを共有およびレビューするためのデフォルトボタンやその他の UI 要素を削除するかどうかを選択します。設定はボタンと UI 要素だけを削除し、機能などは削除しません。Cisco Proximity または Cisco Webex アプリを使用してコンテンツを共有することもできます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンと UI 要素をユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デフォルトボタンと UI 要素をユーザ インターフェイスから削除します。

D15473.01

RoomOS
10.3

04-2021



Board

ユーザインターフェイス ホワイトボード 開始

適用対象: [DeskPro/DeskLE Board](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザ インターフェイスからデフォルトの [ホワイトボード (Whiteboard)] ボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。この設定は、Cisco Webex に登録されているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デフォルトボタンをユーザ インターフェイスから削除します。

ユーザインターフェイス 言語

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

ユーザ インターフェイスで使用される言語を選択します。該当する言語がサポートされていない場合、デフォルトの言語 (Medium) が使用されます。

デフォルト値:

英語

値スペース:

Arabic/Catalan/ChineseSimplified/ChineseTraditional/Czech/Danish/Dutch/English/
EnglishUK/Finnish/French/FrenchCanadian/German/Hebrew/Hungarian/Italian/Japanese/
Korean/Norwegian/Polish/Portuguese/PortugueseBrazilian/Russian/Spanish/SpanishLatin/
Swedish/Turkish

リストから言語を選択します。

ユーザインターフェイス 名前およびサイトラベル モード

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

会議のリモート参加者のすべての名前とサイトラベルを非表示にするようにデバイスを設定できません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: 名前とサイトラベルを表示します。

Hidden: 名前とサイトラベルを非表示にします。

ユーザインターフェイス OSD 暗号化インジケータ

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN

暗号化インジケータが画面に表示される時間の長さを定義します。暗号化された通話のアイコンは、ロックされた南京錠です。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/AlwaysOn/AlwaysOff

Auto: コールが暗号化されている場合は、「コールは暗号化されています (Call is encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。その後、通話の残りの部分では暗号化インジケータ アイコンが表示されます。

コールが暗号化されていない場合は、「コールは暗号化されていません (Call is not encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。暗号化インジケータ アイコンは表示されません。

AlwaysOn: 「コールは暗号化されています (Call is encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。その後、通話の残りの部分では暗号化インジケータ アイコンが表示されます。

AlwaysOff: 暗号化インジケータは画面上に表示されません。

ユーザインターフェイス OSD ハーフウェイクメッセージ

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カスタム メッセージは、デバイスがハーフウェイク状態のときに、メイン スクリーンの中央に表示できます。カスタム メッセージは、デバイスの使用開始方法について指示するデフォルトのメッセージを置き換えます。カスタム メッセージを追加せずにデフォルト メッセージを削除することもできます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

カスタム メッセージ。空の文字列: デフォルト メッセージを復元します。空白のみ: メッセージは一切表示されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザーインターフェイス OSD モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

クリーンなビデオストリームを出力するようにデバイスを設定できます。これはブロードキャストモードと呼ばれます。このモードでは、インジケータ、通知、およびコントロールが削除されます。このモードは、視聴者にビデオを配信したいだけのブロードキャストおよび録音サービスを目的としています。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Unobstructed

Auto: インジケータ、通知、およびコントロールがビデオストリーム (通常モード) に含まれます。

Unobstructed: インジケータ、通知、およびコントロールがビデオストリーム (ブロードキャストモード) から削除されます。名前ラベルは削除されません。

ユーザーインターフェイスOSDアウトプット

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オンスクリーン用の情報とインジケータ (OSD) を表示するモニタを定義します。

デフォルト値:

1 [[CodecPro](#) [Room55](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

Auto [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

値スペース:

1 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

Auto/1/2 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

Auto/1/2/3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Auto [[RoomKitMini](#)]

Auto: 内蔵画面があるデバイスの場合、画面に表示される情報とインジケータが内蔵画面に送信されます。デバイスに 2 つの内蔵画面がある場合は、左側のモニタが使用されます。

内蔵画面のないデバイスの場合、デバイスは、ビデオ出力に接続されたモニタを検出し、最初に接続されたモニタに画面表示用の情報とインジケータを送信します。マルチモニタを設定して、デバイスをオンにする前にすべてのモニタを接続した場合、オンスクリーン用の情報とインジケータは番号が最も小さいビデオ出力に送信されます。ビデオ出力の番号は、出力コネクタ 1 (HDMI 1) から始まります。

1..n: デバイスは画面に表示される情報とインジケータを、指定した出力に送信します。デバイスの出力コネクタ n にオンスクリーン用の情報とインジケータを送信するには、n を選択します。

内蔵画面があるデバイスの場合、最も低い数値が内蔵画面を示します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインターフェイス 電話帳 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、ユーザーが連絡先をディレクトリに追加または変更したり、お気に入りリストをデバイスのユーザ インターフェイスに追加または変更可能かどうかを決定します。

デフォルト値:

ReadWrite

値スペース:

ReadOnly/ReadWrite

ReadOnly: 連絡先をお気に入りリストに追加したり、お気に入りリストの連絡先を編集したりはできません。また、通話前にディレクトリやお気に入りリストから連絡先を編集することはできません。

ReadWrite: 連絡先をお気に入りリストに追加したり、お気に入りリストの連絡先を編集したりできます。また、通話前にディレクトリやお気に入りリストから連絡先を編集することができます。

ユーザインターフェイス プロキシミティ 通知

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザインターフェイスにプロキシミティの通知を表示するかどうかを設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: プロキシミティの通知を表示するタイミングをシステムが自動的に決定できるようにします。

Off: プロキシミティの通知はユーザインターフェイスに表示されません。

On: すべてのプロキシミティの通知がユーザインターフェイスに表示されます。

ユーザインターフェイス Qt 仮想キーボード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

これは仮想キーボードのプレビュー機能です。今後のリリースでは、この xconfig が削除され、この機能が永続的に有効になります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

ユーザインターフェイス セキュリティ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定では、重要なデバイス情報 (例: ビデオ会議デバイスの連絡先情報や IP アドレス、Touch コントローラ、および UCM/VCS レジストラ) がユーザ インターフェイス (ドロップダウン メニューと設定パネル) で公開されるのを防ぐことができます。設定パネルに移動するとこのような情報は非表示になっていないので注意してください。

管理者権限を持たない人に連絡先情報、IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号およびソフトウェアのバージョンを絶対に公開しない場合は、[ユーザ インターフェイス設定メニュー モード (UserInterface SettingsMenu Mode)] を [ロック (Locked)] に設定します。また、管理者権限を持つすべてのユーザ アカウントにパスフレーズを設定することも必要です。

デフォルト値:

標準

値スペース:

Normal/Strong

Normal: IP アドレスやその他のデバイス情報がユーザ インターフェイスに表示されます。

Strong: 連絡先情報および IP アドレスは、ユーザ インターフェイス (ドロップ ダウン メニューと設定パネル) に表示されません。

ユーザインターフェイス 設定メニュー モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ユーザインターフェイス (タッチコントローラまたは画面上) の設定パネルは、そのデバイスの管理者パスワードで保護できます。このパスワードが空白の場合、誰でも設定パネルの設定にアクセスし、たとえばデバイスを初期設定にリセットすることができます。認証を有効にすると、認証を必要とするすべての設定に南京錠のアイコンが表示されます。設定を選択するときに、管理者のユーザ名とパスフレーズを入力するよう求められます。認証が必須でない設定には、南京錠のアイコンが表示されません。

デフォルト値:

Unlocked

値スペース:

Locked/Unlocked

Locked: 管理者のユーザ名とパスフレーズによる認証が必要です。

Unlocked: 認証は必要ありません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインターフェイス 設定メニュー 可視性

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイス名 (または連絡先情報) と、関連するドロップ ダウン メニューやユーザ インタフェースの [設定 (Settings)] パネルに表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

自動/非表示

Auto: デバイス名とドロップ ダウン メニュー、[設定 (Settings)] パネルをユーザ インターフェイスに表示します。

Hidden: デバイス名とドロップ ダウン メニュー、[設定 (Settings)] パネルを、ユーザ インタフェースに表示しません。

ユーザインターフェイス サウンドエフェクト モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

他のユーザが Proximity でラップトップやモバイルに接続したときなどにサウンド エフェクトを鳴らすように、デバイスを設定できます。

テキスト入力時のキーボード クリックのサウンド エフェクトは、この設定の影響を受けません (ユーザインターフェイス キートーン モード 設定を参照してください)。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サウンド エフェクトを鳴らしません。

On: サウンド エフェクトをオンにします。

ユーザインターフェイス 壁紙

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

アイドル状態のときのビデオ画面の背景画像 (壁紙) を選択します。

Web インターフェイスを使用してデバイスにカスタム壁紙をアップロードできます。 サポートされるファイル形式は BMP、GIF、JPEG、PNG です。 最大ファイル サイズは 4 MByte です。 カスタム壁紙を使用すると、予定されている会議のクロックおよび一覧がメイン ディスプレイから削除されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Custom/None

Auto: デフォルトの壁紙を使用します。

None: 画面に背景イメージはありません。

Custom: 画面の背景画像としてカスタムの壁紙を使用します。 デバイスにカスタム壁紙がアップロードされていない場合、この設定はデフォルト値に戻ります。

ユーザインターフェイス Usbプロモーション

適用対象: RoomKitMini

必要なユーザ ロール: ADMIN

ハーフ ウェイク画面に、このデバイスを USB カメラとして使用できることを知らせるテキストを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

オフ: USB カメラの情報テキストは表示されません。

オン: USB カメラの情報テキストが表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザインターフェイス Webcamのみモード

適用対象: *RoomKitMini*

必要なユーザ ロール: ADMIN

このデバイスは、Web カメラとして使用することも、通常のビデオ会議デバイスとして使用することもできます。 オンプレミスまたはクラウドコールサービス (CUCM、VCS、Webex など) に登録されていない場合でも、web カメラとして使用できます。

この設定は、ビデオ会議デバイスが登録されていない場合に、ユーザインターフェイスを Web カメラのみのシナリオに適応させるかどうかを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: デバイスがコール サービスに登録されている場合は、ユーザインターフェイス全体が表示されます。 デバイスが登録されていない場合はコールに使用できないため、関係のないユーザインターフェイス要素は削除されます。

Off: 常にユーザ インターフェイス全体がデバイスに表示されます。

ユーザインターフェイス ホワイトボード アクティビティインジケータ

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN

アクティビティインジケータを使用すると、コール中に誰が描画し、注釈を付けているかを確認できます。

参加者がホワイトボードと対話しているときは、その参加者のアバターまたはデバイスの頭文字が表示されるため、誰が描画や注釈付けを行っているかを把握できます。

クラウド登録デバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: アクティビティインジケータを有効にします。

Off: アクティビティインジケータを無効にします。

ユーザインターフェイス ホワイトボード デフォルトテーマ

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザ ロール: ADMIN

ホワイトボードのデフォルトのテーマを黒または白に変更します。

デフォルト値:

光

値スペース:

Dark/Light

Dark: ホワイトボードのデフォルトの外観は黒です。 誰かが自分とホワイトボードを共有している場合も黒です。

Light: ホワイトボードのデフォルトの外観は白です。 誰かが自分とホワイトボードを共有している場合も白です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザ管理設定

ユーザ管理 LDAP 管理者 フィルタ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

どのユーザに管理者権限を付与する必要があるか決定するために LDAP フィルタが使用されます。LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルタをつねに設定する必要があります。LDAP 管理者フィルタが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理者フィルタが設定されている場合であっても、ユーザ管理 LDAP 管理者グループ設定は無視されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

この文字列の構文については、LDAP の仕様を参照してください。例: "(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

ユーザ管理 LDAP 管理者 グループ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この AD (Active Directory) グループのメンバーには、管理者権限が付与されます。この設定は、memberOf:1.2.840.113556.1.4.1941:=<group name> の短縮形です。

LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルタをつねに設定する必要があります。LDAP 管理者フィルタが優先されるため、ユーザ管理 LDAP 管理者フィルタが設定されている場合であっても、ユーザ管理 LDAP 管理者グループ設定は無視されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

AD グループの識別名。例: "CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

ユーザ管理 LDAP 属性

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

指定のユーザ名にマップするために使用する属性。設定しない場合、sAMAccountName が使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

属性名。

ユーザ管理 LDAP ベースDN

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

検索を開始するエントリの識別名 (ベース)。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

ベースの識別名。例: "DC=company, DC=com"

ユーザ管理 LDAP 暗号化

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスと LDAP サーバ間の通信を保護する方法を定義します。ポート番号は、ユーザ管理 LDAP サーバ ポート設定を使用してポート番号をオーバーライドできます。

デフォルト値:

LDAPS

値スペース:

LDAPS/None/STARTTLS

LDAPS: ポート 636 over TLS (Transport Layer Security) 上の LDAP サーバに接続します。

None: ポート 389 で LDAP サーバに接続します (暗号化なし)。

STARTTLS: ポート 389 で LDAP サーバに接続し、暗号化された接続 (TLS) にアップグレードするための STARTTLS コマンドを送信します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザー管理 LDAP 最小TLSバージョン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

LDAP で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.2

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以上をサポートします。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以上をサポートします。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以上をサポートします。

ユーザー管理 LDAP モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

このデバイスでは、ユーザ名とパスワードを一元的に保存、検証する場所として、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバの使用をサポートします。この設定を使用して、LDAP 認証を使用するかどうか設定します。実装は、Microsoft Active Directory (AD) サービスでテスト済みです。

LDAP モードをオンにする場合、設定に合わせたユーザ管理 LDAP 設定の構成を確認してください。いくつかの例を示します。

例 1:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- ユーザ管理 LDAP ベース DN: "DC=company, DC=com"
- ユーザ管理 LDAP 管理グループ: "CN=admin group, OU=company group, DC=company, DC=com"

例 2:

- ユーザ管理 LDAP モード: On
- ユーザ管理 LDAP アドレス: "192.0.2.20"
- ユーザ管理 LDAP ベース DN: "DC=company, DC=com"
- ユーザ管理 LDAP 管理フィルタ: "(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: LDAP 認証は使用不可です。

On: LDAP 認証は許可されます。

ユーザー管理 LDAP サーバー アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

LDAP サーバの IP アドレスまたはホスト名を設定します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザー管理 LDAP サーバー アドレス

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

LDAP サーバに接続するポートをオンに設定します。0 に設定した場合は、選択したプロトコルのデフォルトを使用します (「ユーザー管理 LDAP 暗号化設定」を参照)。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)
LDAP サーバのポート番号。

ユーザー管理 LDAP サーバー証明書の検証

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスを LDAP サーバに接続すると、サーバはデバイスに証明書を提示して自身を識別します。この設定は、デバイスがサーバの証明書を確認するかどうかを決定するために使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは LDAP サーバの証明書を検証しません。

On: デバイスは、LDAP サーバの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうか検証する必要があります。該当する CA が、デバイスに事前にアップロードされている信頼できる CA のリストに含まれている必要があります。デバイスの Web インターフェイスを使用して、信頼できる CA のリストを管理します (詳細については『管理者ガイド』を参照してください)。

ユーザ管理 パスワードポリシー 複雑度 数字の最小数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある数字 (0 ~ 9) の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)
数字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

ユーザ管理 パスワードポリシー 複雑度 最小文字数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードの最小文字数を指定します。

デフォルト値:

8

値スペース:

整数 (0 ~ 256)
文字の最小数。0 は制限がないことを意味します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザ管理 パスワードポリシー 複雑度 小文字の最小数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある小文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

小文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

ユーザ管理 パスワードポリシー 複雑度 特殊文字の最小数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある特殊文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

特殊文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

ユーザ管理 パスワードポリシー 複雑度 大文字の最小数

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある大文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

大文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

ユーザ管理 パスワードポリシー 最大有効期間

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードが無効になるまでの最大日数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 7300)

最小日数。0 は制限がないことを意味します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザ管理 パスワードポリシー 再使用制限

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、再使用の制限 (n) を指定します。つまり、ユーザは、直前の n 個のパスワードを再使用することはできません。

デフォルト値:

12

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

パスワードの最小数。0 は制限がないことを意味します。

ビデオ設定

ビデオ アクティブスピーカー デフォルトPIPポジション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

通話中のスピーカーを示すピクチャインピクチャ (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、通話中のスピーカーを PiP 表示するビデオ レイアウト (オーバーレイ レイアウト) を使用している場合にのみ有効です。また、場合によっては、カスタム レイアウトでも有効です (「Video DefaultLayoutFamily Local の設定」を参照)。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/
LowerRight

Current: 通話中のスピーカーの PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: 通話中のスピーカーの PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右下隅に表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ デフォルトレイアウトファミリ ローカル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

ローカルで使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Overlay/Prominent/Prominent_L/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツがある場合、それはグリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが全画面で表示され、他の参加者はサムネイルで下部にオーバーレイ表示されます。コンテンツがある場合は、通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態でコンテンツが全画面表示で表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーまたは共有コンテンツは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像として上部に表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが画面の左上部分に表示され、他の参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

ビデオ デフォルトレイアウトファミリ ローカルコンテンツ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

コンテンツ共有の開始時に、デフォルトでローカルで切り替えるビデオレイアウトファミリを選択します。この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Overlay/Prominent/Prominent_L/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツが、グリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。共有コンテンツは、全画面表示で通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態で表示されます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。共有コンテンツは大きい画像となり、参加者は小さい画像として上部に表示されます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。コンテンツが画面の左上部分に表示され、参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。共有コンテンツは全画面表示で表示されます。参加者は表示されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ デフォルトレイアウトファミリ リモート

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

リモート参加者(遠く)に送信されるストリーミングで使用するビデオレイアウトファミリを選択します。この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能(オプション)を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Prominent/Prominent_L/Overlay/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツがある場合、それはグリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが全画面で表示され、他の参加者はサムネイルで下部にオーバーレイ表示されます。コンテンツがある場合は、通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態でコンテンツが全画面表示で表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーまたは共有コンテンツは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像として上部に表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが画面の左上部分に表示され、他の参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または(存在する場合)プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

ビデオ デフォルトメインソース

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, USER

コールのメインビデオのデフォルト入力ソースを定義します。ビデオ会議デバイスのスイッチをオンにするか再起動すると、メインビデオがこのソースで再生されます。デバイスの実行中に別のソースに変更するには、Video Input SetMainVideoSource コマンドを使用します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4/5/6 [CodecPro]

1/2/3/4 [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKitMini Board]

1/2/3 [RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

メインビデオのデフォルトソース。

ビデオ 入力 コネクタ [n] カメラ制御 カメラID

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

カメラ ID は、このビデオ入力に接続されているカメラの一意の ID です。

複数のカメラを備えたデバイスでは、xStatus Camera API コマンドを使用して、さまざまなカメラの ID を表示できます。

デフォルト値:

Connector n: n [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

1/2/3/4/5/6/7 [CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1 [RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Board]

複数のカメラを備えたデバイスの場合、カメラの ID を選択します。1 台のカメラを備えたデバイスでは、値は固定されており、変更できません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE]

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini Board]

Board

ビデオ 入力 コネクタ [n] カメラ制御 モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このビデオ入力コネクタに接続されているカメラを制御するかどうかを定義します。一部のコネクタでは制御できません (Off のみを選択できます)。

デフォルト値:

On [*CodecPlus Room70/Room55D*]

コネクタ 1、2、3、4、5: On コネクタ 6: Off [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタ 1: On コネクタ 2、3: Off [*Room55 DeskPro/DeskLE*]

コネクタ 1: On コネクタ 2: Off [*RoomKit RoomKitMini Board*]

値スペース:

Off/On [*CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2、3: Off [*Room55 DeskPro/DeskLE*]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off [*RoomKit RoomKitMini Board*]

Off: カメラ制御を無効にします。

On: カメラ制御を有効にします。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1 ~ 3 [*CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE*]

範囲: 1 ~ 2 [*RoomKit RoomKitMini Board*]

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] CEC モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。この設定を有効にすると、接続デバイスの情報 (デバイスの種類やデバイス名) がビデオ会議デバイスのステータスで使用可能になります (Video Input Connector[n] ConnectedDevice CEC [n])。ただし、接続デバイスは CEC もサポートすることが条件となります。

カメラのスピーカーから音声がなくなるため、Cisco Quad Camera がある場合はコネクタの CEC のスイッチを切らないでください。CEC は、ビデオ会議デバイスからカメラに音声を送信するために使用されるチャンネルである HDMI ARC (オーディオ リターン チャンネル) が必要です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board*]

コネクタ 1: On その他のコネクタ: Off/On [*Room70/Room55D*]

Off: CEC が無効です。

On: CEC が有効になります。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 5 [*CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 1 ~ 3 [*CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 2 ~ 3 [*Room55 DeskPro/DeskLE*]

範囲: 2 ~ 2 [*RoomKit RoomKitMini Board*]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] HDCP モード

適用対象: [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスの HDMI 入力の 1 つを HDCP 保護コンテンツをサポートするように設定することができます (高帯域幅デジタル コンテンツ保護、バージョン 1.4)。これにより、Google ChromeCast、AppleTV、または HDTV デコーダなどのデバイスを接続してビデオ会議デバイスの画面を再利用できます。通話中にこの種のコンテンツを共有することはできません。

HDCP をサポートするために入力コネクタが設定される場合、このタイプのコンテンツ用に予約されます。つまり、何が接続されているかに関係なく、コール中にこの特定のコネクタから任意のコンテンツを共有することはできません。

保護されたコンテンツが表示される画面は HDCP をサポートしている必要があります。Codec Plus、Room 70 (シングルおよびデュアル)、および Room 55 Dual の場合、保護されたコンテンツは常に出力コネクタ 1 に接続された画面に表示されます。Codec Pro、Room 70 G2 (シングルおよびデュアル)、Room Panorama、および Room 70 Panorama の場合、保護されたコンテンツは出力コネクタ 1 および 2 に接続された画面に表示されます。Room 55 の場合、保護されたコンテンツは内蔵画面に表示されます。Room シリーズのデバイス内蔵画面は HDCP をサポートしています。

デフォルト値:

Off

値スペース:

コネクタ 1、3: Off、コネクタ 2: Off/On [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

コネクタ 1、2、3、4: Off、コネクタ 5: Off/On [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 2: Off、コネクタ 3: Off/On [[Room55](#)]

オフ: ビデオ入力コネクタ上の HDCP 保護コンテンツのサポートを無効にします。

オン: ビデオ入力コネクタ上の HDCP 保護コンテンツのサポートを有効にします。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room 55](#)]

ビデオ 入力 コネクタ [n] 入力ソースタイプ

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを選択します。

デバイスが内蔵カメラを備えている場合、コネクタ 1 は内蔵カメラを指します。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: camera Connector 3,4,5: PC [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: camera その他のコネクタ: PC [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

コネクタ 1: camera コネクタ 2: PC [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

値スペース:

PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [[CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: camera コネクタ 2: PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

コネクタ 1: camera その他のコネクタ: PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

camera: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

document_camera: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

mediaplayer: メディア プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

whiteboard: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

other: 他のオプションが当てはまらない場合に使用します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

Board

ビデオ 入力 コネクタ [n] 名前

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

デフォルト値:

コネクタ 1: "Camera 1" コネクタ 2: "Camera 2" コネクタ 3: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 4: "PC 2 (HDMI)" コネクタ 5: "PC 3 (HDMI)" コネクタ 6: "Camera 3 (SDI)" [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2,3: "" [[Room55](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC" [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" コネクタ 3: "PC (HDMI)" [[DeskPro/DeskLE](#)]

値スペース:

文字列 (0, 50)

ビデオ入力コネクタの名前。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] 最適鮮明度 プロファイル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、対応するビデオ入力コネクタ [n] 画質設定が Sharpness に設定されている場合には無効です。

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の照明状態とカメラと品質を反映します。光の条件およびカメラの品質が優れているほど、プロファイルが高くなります。通常、Normal または Medium プロファイルが推奨されます。ただし、光の条件が良い場合、特定のコール率の解像度を大きくするために、High プロファイルを設定できます。解像度が発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

ビデオ 入力 コネクタ [n] 最適鮮明度 しきい値 60 fps 設定を使用し、60 fps が許可される最小解像度を設定します。このしきい値を下回ると、30 fps が最大フレームレートになります。

デフォルト値:

Medium [[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board](#)]

コネクタ 1: Medium コネクタ 2, 3: High [[DeskPro/DeskLE](#)]

値スペース:

Normal/Medium/High

Normal: 照明が通常から不良の環境には、このプロファイルを使用します。解像度は控えめに設定されます。

Medium: 安定した光条件および高品質なビデオ入力が必要です。一部のコール レートの場合、これは高解像度へ移動できます。

High: 優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、理想に近いビデオ会議の光の状態および高品質なビデオ入力が必要です。相当高い解像度が使用されます。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] 最適鮮明度 60fps のしきい値

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

各ビデオ入力について、この設定は 60 fps で送信できる最低解像度をデバイスに通知します。これより低い解像度すべてについて、最大送信フレーム レートは 30 fps となります。使用可能な帯域幅が適切であれば、これより高い解像度で 60 fps も可能です。

デフォルト値:

1920_1080 [[RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

Never [[RoomKit](#) [Room55](#)]

値スペース:

512_288/768_448/1024_576/1280_720/1920_1080/Never

512_288: 512x288 にしきい値を設定します。

768_448: 768x448 にしきい値を設定します。

1024_576: 1024x576 にしきい値を設定します。

1280_720: 1280x720 にしきい値を設定します。

1920_1080: 1920 X 1080 にしきい値を設定します。

Never: 60 fps を送信するしきい値を設定しません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

ビデオ 入力 コネクタ [n] 推奨解像度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスに HDMI 経由でシステムに接続した入力ソース (例: ラップトップ) の解像度として通知されている推奨の画面解像度と更新間隔を定義します。ソース デバイス (例: ラップトップのディスプレイ構成ソフトウェア) によって手動でオーバーライドされない限り、ソース側の解像度の選択するためのロジックは、自動的にこの解像度とリフレッシュ レートを選択します。

1920_1080_60 より大きい形式では特に大量のデータが使用されるため、少なくとも HDMI 1.4b データレートに対応したプレゼンテーションケーブル (またはアダプタ) が必要です。

デフォルト値:

1920_1080_60 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Desk Pro の場合: 3840_2160_60

Desk Limited Edition の場合: 1920_1080_60 [[DeskPro/DeskLE](#)]

1920_1080_60 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Board](#)]

値スペース:

コネクタ 1、2: 1920_1080_60 Connector 3、4、5:

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: 1920_1080_60 コネクタ 2、3:

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Room55](#) [Board](#)]

Desk Pro の場合: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60

Desk Limited の場合: 1920_1080_60 [[DeskPro/DeskLE](#)]

1920_1080_60: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 X 1440、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 X 2160、リフレッシュ レートは 30 Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] プレゼンテーションの選択

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンテーション ソースをビデオ入力に接続したときの、ビデオ会議デバイスの動作を定義します。デバイスがスタンバイモードの場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。遠端とプレゼンテーションを共有するには、この設定が AutoShare に設定されていなければ、追加操作（ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を選択）が必要です。

複数のカメラを備えたデバイスの場合: どの入力ソースでもプレゼンテーション ソースとして使用できます。通常、メイン カメラはプレゼンテーション ソースとして使用されません。

内蔵カメラを備えたデバイスの場合: 内蔵カメラはプレゼンテーション ソースとして利用できません。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: Manual コネクタ 3、4、5: OnConnect [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: Manual その他のコネクタ: OnConnect [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

Desktop [[DeskPro/DeskLE](#)]

OnConnect [[RoomKit RoomKitMini Room55](#)]

AutoShare [[Board](#)]

値スペース:

AutoShare/Desktop/Manual/OnConnect [[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board](#)]

AutoShare: 通話時に、ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが有効になると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、自動的に遠端とローカル画面に表示されます。ユーザ インターフェイス上で [共有 (Share)] を選択する必要はありません。コールの発信時または応答時にプレゼンテーション ソースがすでに接続されている場合は、ユーザ インターフェイス上で [共有 (Share)] を手動で選択する必要があります。

Desktop: ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが有効になると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、画面に表示されます。これは、アイドル状態のときと通話中のときの両方に適用されます。また、ビデオ入力のコンテンツは、通話の終了時にアクティブ入力であれば、画面に表示されたままとなります。

Manual: ユーザ インターフェイスで [共有 (Share)] を選択するまでビデオ入力の内容は画面に表示されません。

OnConnect: ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが起動すると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、画面に表示されます。それ以外の場合は、Manual モードと同じ動作です。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room55 DeskPro/DeskLE](#)]

ビデオ 入力 コネクタ [n] 画質

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオのエンコーディングと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この設定で、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

デバイスにより、Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 が検出されると、この設定は自動的に Motion に設定されます。ユーザが手動でこの設定を変更した場合、再起動後またはカメラの再接続後に、Motion に戻ります。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: Motion コネクタ 3、4、5: Sharpness [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: Motion コネクタ 2、3: Sharpness [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

Sharpness [[RoomKit RoomKitMini Room55 DeskPro/DeskLE Board](#)]

値スペース:

Motion/Sharpness

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。高いフレームレートが必要な場合に使用します（通常、画像の動きがある場合）。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room55 DeskPro/DeskLE](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 入力 コネクタ [n] RGB量子化範囲

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力に接続されたデバイスは CTA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していません。その場合、ソースの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。

デフォルト値:

Auto [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

値スペース:

Auto/Full/Limited

Auto: RGB 量子化範囲は CTA-861-F に従ったビデオ形式に基づいて自動的に選択されません。CE ビデオ形式は、限定された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は、完全な量子化範囲レベルを使用します。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CTA-861-F で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CTA-861-F で規定されています。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

ビデオ 入力 コネクタ [n] 可視性

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザ インターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタの表示を定義します。

内蔵カメラを備えたデバイスの場合: コネクタ 1 はデバイス内蔵のカメラであり、プレゼンテーション ソースとしては利用できません。

デフォルト値:

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: IfSignal [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

コネクタ 1: Never Connector 2: Never その他のコネクタ: IfSignal [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: Always [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#)]

コネクタ 1: Never コネクタ 2: Always [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#)]

コネクタ 1: Never コネクタ 2: IfSignal [[Board](#)]

値スペース:

Always/IfSignal/Never [[CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: Never コネクタ 2: Always/IfSignal/Never [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: Always/IfSignal/Never [[DeskPro/DeskLE](#)]

Always: ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ユーザ インターフェイスに常に表示されません。

IfSignal: ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ビデオ入力に何か接続されている場合のみ表示されます。

Never: 入力の送信元はプレゼンテーション ソースとして使用されないため、ユーザ インターフェイスに表示されません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオモニター

適用対象: *RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ 出力 コネクタ [n] モニタールール設定を使用する各画面にロールを割り当てます。 モニタ ロールは、この出力に接続されている画面上のどのレイアウト (コール参加者とプレゼンテーション) に表示するかを決定します。 同じモニタ ロールの画面は同じレイアウトになり、別のモニタ ロールの画面は異なるレイアウトになります。

ビデオ モニタで設定するモニタ レイアウト モードには、部屋のセットアップで利用する各レイアウト数を反映させてください。 いくつかの画面がプレゼンテーション用に確保できることに注意してください。

デフォルト値:

Auto [*RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*]

値スペース:

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly [*RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE*]

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly/TriplePresentationOnly/Triple [*CodecPro Room70G2*]

Auto/TriplePresentationOnly [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

Auto: デバイスに接続された画面数は自動的に検出され、レイアウトはモニタ ロールの設定に従って画面に割り振られます。

Single: レイアウトは、デバイスの画面に表示されます。 デバイスが複数の画面を備えている場合、すべての画面に同じレイアウトが表示されます。

Dual: レイアウトはモニタ ロール [第 1 (First)] および [第 2 (Second)] の画面に配信されます。 プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニタ ロールが First である画面に表示され、プレゼンテーションはモニタ ロールが Second である画面に表示されます。

DualPresentationOnly: コールのすべての参加者がモニタ ロールが First である画面に表示されます。 プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニタ ロールが Second である画面に表示されます。

Triple: レイアウトはモニタ ロールが First、Second、Third である画面に配信されます。 Second のモニタ ロールがある画面がまず使用され、次に First、最後に Third が使用されます。 プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニタ ロールが First および Second である画面に表示され、プレゼンテーションはモニタ ロールが Third の画面に表示されます。

TriplePresentationOnly: コールのすべての参加者がモニタ ロール First および Second の画面に配信されます。 Second のモニタ ロールがある画面がまず使用され、次に First の画面が使用されます。 プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニタ ロールが Third の画面に表示されます。

ビデオ 出力 コネクタ [n] 明るさ

適用対象: *Room55 DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: admin、user

デバイスの内蔵画面の明るさレベルを定義します。

デフォルト値:

80

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 値は 0 ~ 100 である必要があります。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

ビデオ出力 コネクタ [n] 明るさモード

適用対象: *DeskPro/DeskLE*

必要なユーザ ロール: admin、user

メインディスプレイの明るさレベルの自動または手動制御を許可するように設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: ディスプレイの明るさレベルをデバイスで自動的に設定できるようにします。

Manual: ディスプレイの明るさレベルをユーザが手動で設定できるようにします。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 出力 コネクタ [n] CEC モード

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ出力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。

この設定が [オン (On)] の場合、ビデオ会議デバイス自身がスタンバイになるときに、CEC を使用して画面をスタンバイ状態にセットします。同様に、デバイスがスタンバイから復帰するときに、デバイス自身が画面を起動します。

画面のアクティブなビデオ入力为用户によって変更されることがあります。コールが開始されると、デバイスはアクティブなビデオ入力が画面の別の入力に切り替えられたかどうかを検出します。切り替えられている場合、デバイスは入力を切り替え直し、デバイスがアクティブなビデオ入力ソースになります。デバイスがスタンバイ状態になるときに、デバイスがアクティブな入力ソースでない場合は、画面はスタンバイ状態にセットされません。

出力に接続した画面に CEC 互換性があること、および CEC が画面上で有効であることが必須条件です。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

デフォルト値:

On [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

Off [[Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)]

Room Panorama: On、Room 70 Panorama: コネクタ 1: Off、コネクタ 2: Off、コネクタ 3:

On [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Off/On [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

Room Panorama: On、

Room 70 Panorama: Off/On [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Off: CEC が無効です。

On: CEC が有効になります。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKitMini](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 2 ~ 2: Room 70 Single 対応。 Room 70 Dual では利用できません [[Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#)]

ビデオ 出力 コネクタ [n] 位置 水平オフセット

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニタが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニタが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニタが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニタが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが (他のディスプレイと比較して) どれくらい中央から離れているかを示します。

Room 55、Desk Pro および Desk Limited Edition の場合、内蔵画面 (コネクタ 1) は HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" です (暗黙の設定であり、設定不可能です)。

例: 隣り合った 2 つの画面があります。左はコネクタ 1 の画面、右はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1"、VerticalOffset = "0"

例: 下のように 2 つの画面があります。上側はコネクタ 1 の画面、下側はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "-1"

デフォルト値:

コネクタ 1: "-1" コネクタ 2: "0" コネクタ 3: "1" [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

コネクタ 1: "0" コネクタ 2: "1" コネクタ 3: "0.5" [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: "0" コネクタ 2: "1" [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

コネクタ 2: "1" [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

値スペース:

String (1, 12)

この文字列は、-100.0 ~ 100.0 (両方の値を含む) の 10 進数を表します。C++ の文字列ライブラリの std::stof 関数に準拠した入力文字列を使用できます。つまり、10 進数表記または指数表記のどちらも使用できることを意味します。例: "12"、"12.0"、"1.2e1"、"1.2E1"、"-0.12"、"-12e-2"。先頭の空白文字は破棄されます。小数点には "." を使用します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 出力 コネクタ [n] 位置 垂直オフセット

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニタが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニタが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニタが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニタが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが（他のディスプレイと比較して）どれくらい中央から離れているかを示します。

Room 55、Desk Pro、および Desk Limited Edition の場合、内蔵画面（コネクタ 1）は HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" です（暗黙の設定であり、設定不可能です）。

例: 隣り合った 2 つの画面があります。左はコネクタ 1 の画面、右はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1"、VerticalOffset = "0"

例: 2 つの画面（一方がもう一方の下にある）があります。上側はコネクタ 1 の画面、下側はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0"、VerticalOffset = "-1"

デフォルト値:

Connector n: "0" [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

コネクタ 1、2: "0" コネクタ 3: "-1" [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

String (1, 12)

この文字列は、-100.0 ~ 100.0（両方の値を含む）の 10 進数を表します。C++ の文字列ライブラリの std::stof 関数に準拠した入力文字列を使用できます。つまり、10 進数表記または指数表記のどちらも使用できることを意味します。例: "12"、"12.0"、"1.2e1"、"1.2E1"、"-0.12"、"-12e-2"。先頭の空白文字は破棄されます。小数点には "." を使用します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

ビデオ 出力 コネクタ [n] モニタールール

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

モニタ ルールは、ビデオ出力に接続された画面にどのビデオ ストリームを表示するかを示します。すべての出力用のビデオ モニタ設定およびモニタ ルール設定とともに、各画面に表示されるレイアウト（ビデオ ストリーム）を定義します。

この設定でサポートしている画面は 1 つだけのため、Room Kit Mini には適用されません。

デフォルト値:

Auto [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

デュアル: コネクタ 1、2: Auto; シングル: コネクタ 1: Auto コネクタ 2: PresentationOnly [[Room70/Room55D](#)]

値スペース:

Auto/First/Second/PresentationOnly [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

Auto/First/Second/Third/PresentationOnly/Recorder [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Auto: 画面が接続されたときにデバイスが検知し、Video Monitors 設定に対応するモニタ ルール (First、Second、Third) を自動的に割り当てます。

First/Second/Third: マルチ画面設定での画面の役割を定義します。シングル画面設定では、First、Second、Third の間に相違はありません。

PresentationOnly: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示し、他のものは表示しません。このモニタ ルールの画面および出力は Video Monitors 設定によって無視されます。

Recorder: ローカル メイン ビデオ (セルフビュー) を含むすべての参加者を表示します。アクティブであれば、プレゼンテーションも表示されます。このモニタ ルールの画面および出力は Video Monitors 設定によって無視されます。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKitMini](#)]

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ 出力 コネクタ [n] 解像度

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

接続している画面の解像度とリフレッシュ レートを定義します。

1920_1200_60 より大きなフォーマットには、高品質なディスプレイ ケーブルを使用する必要があります。動作が保証されている範囲については、3840_2160_60 でシスコが事前に選定したディスプレイ ケーブルを使用するか、または「プレミアム HDMI 認証」プログラムに合格したケーブルを使用します。

UHD テレビおよび画面には、3840_2160_30 (30 Hz) のみしか使用できないものもありますが、3840_2160_60 (60 Hz) はデフォルト設定ではありません。このような場合、テレビと画面の関連設定で、デバイスが接続されている HDMI 入力として 3840_2160_60 を許可するように再設定する必要があります。

デフォルト値:

3840_2160_60 [[DeskPro/DeskLE Board](#)]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: Auto [[Room55](#)]

コネクタ n: Auto [[RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2](#)]

コネクタ 1、2: Auto、コネクタ 3: 3840_2160_30 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

コネクタ 1、2: uto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/
1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60
Connector 3: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/
1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [[CodecPro Room70G2](#)]

コネクタ 1、2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/
1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60
コネクタ 3: 3840_2160_30 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

3840_2160_60 [[Board](#)]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: Auto/1920_1080_50/
1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/
3840_2160_30/3840_2160_60 [[Room55 DeskPro/DeskLE](#)]

Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/
2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [[RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room70/
Room55D](#)]

Auto: デバイスは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

1280_720_50: 解像度は 1280 X 720、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1280_720_60: 解像度は 1280 X 720、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

1920_1080_50: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

1920_1200_50: 解像度は 1920 X 1200、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1920_1200_60: 解像度は 1920 X 1200、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 X 1440、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 X 2160、リフレッシュ レートは 30 Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKitMini Board](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

ビデオ 出力 コネクタ [n] RGB量子化範囲

適用対象: [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 出力に接続されたディスプレイは CTA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のディスプレイは規格に準拠していません。その場合、ディスプレイの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。ほとんどの HDMI ディスプレイはフルの量子化範囲を想定しています。

デフォルト値:

Full [[RoomKit RoomKitMini CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/
DeskLE](#)]

コネクタ 1: Auto、コネクタ 2: Full [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

値スペース:

Auto/Full/Limited

Auto: ディスプレイの信号が EDID で「選択可能な RGB 量子化範囲」をサポートする場合、AVI インフォフレームは RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) で完全な範囲をシグナリングします。それ以外の場合、CE ビデオ形式の AVI インフォフレームでは限定された範囲がシグナリングされ、IT ビデオ形式では完全な範囲がシグナリングされます。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CTA-861-F で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CTA-861-F で規定されています。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKitMini](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit CodecPlus Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[Room55 DeskPro/DeskLE](#)]

Board

ビデオ出力 Web カメラ USB モード

適用対象: [RoomKitMini](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオの接続時またはストリーミングビデオの開始時に、USB モード (つまり、do-not-disturb) を入力するかどうかを指定します。

デフォルト値:

OnStreaming

値スペース:

OnConnect/OnStreaming

OnConnect: ビデオの接続時に USB モードになります。

OnStreaming: ストリーミングビデオの開始時に USB モードになります。

ビデオ 出力 コネクタ [n] ホワイトバランス レベル

適用対象: [Room55](#) [DeskPro/DeskLE](#)

必要なユーザ ロール: admin、user

内蔵スクリーンの色温度 (ホワイト バランス) を、4000 K (暖色) ~ 9000 K (寒色) の間で調整します。

デフォルト値:

6500

値スペース:

整数 (4000 ~ 9000)

ケルビン単位の色温度。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

ビデオ プレゼンテーション デフォルトPIPポジション

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンテーションのピクチャインピクチャ (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、たとえばユーザ インターフェイスを使用して、プレゼンテーションが明示的に PiP に縮小された場合にのみ有効です。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: プレゼンテーション PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: プレゼンテーション PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: プレゼンテーション PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: プレゼンテーション PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: プレゼンテーション PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: プレゼンテーション PiP が画面の右下隅に表示されます。

ビデオプレゼンテーション デフォルトソース

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN、USER

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は、API およびサードパーティのユーザ インターフェイスで使用できます。Cisco が提供するユーザ インターフェイスの使用時には関係ありません。

デフォルト値:

3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#) [Board](#)]

値スペース:

1/2/3/4/5 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

1/2/3 [[CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskPro/DeskLE](#)]

1/2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Board](#)]

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

Board

ビデオ プレゼンテーション 優先順位

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

プレゼンテーションチャンネルとビデオチャンネル間でどのように帯域幅を分配するかを指定します。

デフォルト値:
等分

値スペース:

Equal/High/Low [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE Board]

Equal [RoomPanorama/Room70Panorama]

利用可能なビデオ伝送帯域幅がメインチャンネルとプレゼンテーションチャンネルの間で分散されます。

High: プレゼンテーションチャンネルは、メインビデオチャンネルを犠牲にして、利用可能な帯域の大部分に割り当てられます。

Low: メインビデオチャンネルは、プレゼンテーションチャンネルを犠牲にして、利用可能な帯域の大部分に割り当てられます。

ビデオセルフビュー デフォルト フルスクリーンモード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール終了後に、メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャインピクチャ (PiP) として表示するかを定義します。この設定はセルフビューがオンになっている場合にのみ有効です (ビデオ セルフビュー デフォルト モードの設定を参照)。

Desk Pro および Desk Limited Edition の場合、ユーザインターフェイスを使用して全画面のセルフビューをオフにすると、ユーザインターフェイスを使用して再度オンにした場合に PiP として表示されます。

デフォルト値:
Current

値スペース:

Off/Current/On

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビューの画像のサイズはコール終了時に未変更の状態に保たれます。つまりコール中に PiP であった場合はコール終了後も PiP のままであり、コール中に全画面であった場合はコール終了後も全画面のままです。

On: セルフビューの画像は全画面表示されます。

ビデオ セルフビュー デフォルト モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール後、およびコール中にビデオがオフになって再度オンになった後に、メインビデオソース (セルフビュー) を画面に表示する必要があるかどうかを定義します。セルフビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、ビデオ セルフビュー デフォルト PIP ポジションとビデオ セルフビュー デフォルト フルスクリーンモードの設定によって決まります。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Off/Current/On

Off: コール退出時や、コール中にビデオをオンにした後も、セルフビューがオフになります。

Current: セルフビューはそのままの状態が残ります。つまりコール中にオンであった場合はコール終了後もオンのままであり、コール中にオフであった場合はコール終了後もオフのままです。コール中にビデオをオンにした後も同様です。

On: コール退出時や、コール中にビデオをオンにした後も、セルフビューがオンになります。

ビデオ セルフビュー デフォルト 表示先モニターロール

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コールの後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示する画面/出力を設定します。この値は、異なる出力用に設定されたビデオ出力 コネクタ [n] モニタロール設定のモニタ ロールを反映します。

この設定は、セルフ ビューが全画面で表示されたとき、およびセルフビューがピクチャインピクチャ (PiP) で表示されたときの両方に適用されます。

デフォルト値:

Current [RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE Board]

値スペース:

Current/First/Second [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro/DeskLE Board]

Current/First/Second/Third [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Current: コールを中止すると、セルフビュー画像がコール中と同じ出力上に維持されます。

First: モニタ ロールが First である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Second: モニタ ロールが Second である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Third: モニタ ロールが Third である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ セルフビュー デフォルトPIPポジション

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール終了後に小さいセルフビュー ピクチャインピクチャ (PiP) を表示する画面上の位置を定義します。この設定は、セルフビューがオンになっており (ビデオ セルフビュー デフォルト モード設定を参照)、全画面表示がオフになっている場合 (ビデオ セルフビュー デフォルト フルスクリーン モード設定を参照) にのみ有効です。

デフォルト値:

Current [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro/DeskLE*]

LowerRight [*RoomPanorama/Room70Panorama*]

Current [*Board*]

値スペース:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/
LowerRight

Current: セルフビュー PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

ビデオ セルフビュー オンコール モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。セルフビューをオンのままにしておく時間の長さは、ビデオ セルフビュー オンコール 期間設定で定義します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

デフォルト値:

On [*RoomKit RoomKitMini CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro/DeskLE*]

Off [*Board*]

値スペース:

Off/On

Off: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

On: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

ビデオ セルフビュー オンコール 時間

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定はビデオ セルフビュー オンコール モード設定がオンになっている場合にのみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (1 ~ 60)

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

音声制御の設定

音声制御 ウェイクワード モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、Webex Assistant で使用されるウェイクワード (「OK Webex」など) を有効または無効にします。Webex Assistant では、デバイスのハンズフリーを使用できます。ウェイクワードを使用すると、コールの発信やプレゼンテーションの開始などのタスクを開始できます。

ユーザインターフェイス アシスタント モード設定を使用して Webex Assistant をオンにします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ウェイクワードの使用を無効にします。

On: ウェイクワードの使用を有効にします。

Web エンジン設定

Webエンジン 機能 WebGL

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

WebGL (Web Graphics Library) は、Web ブラウザでプラグインを使用せずにインタラクティブな 2D グラフィックや 3D グラフィックをレンダリングするための Javascript API です。

WebGL は試験的な機能であり、将来変更される可能性があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: WebGL が有効になります。

Off: WebGL が無効になります。

Web エンジン 機能 SIP URL ハンドラ

適用対象: RoomKit DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定により、Web ビューベースの機能 (Web アプリ、デジタルサイネージなど) から直接 SIP コールを開始できます。ユーザは SIP:yourSipUrl というラベルの付いたボタンを選択してコールを開始し、そのコールはデバイスによって発信されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Web ビューからの SIP コールの開始は無効になります。

On: Web ビューからの SIP コールの開始は有効になります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web エンジン 最小 TLS バージョン

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Web エンジンで許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.1

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降のサポート。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

Web エンジン モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Web エンジンは、デジタル サイネージや Web アプリなど、デバイスの Web ビューを使用する機能が動作するための前提条件です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Web エンジンが無効になります。

On: Web エンジンが有効になります。

Web エンジン リモートデバッグ

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることを推奨します。リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

使用後は、必ずリモート デバッグをオフにしてください。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: リモート デバッグがオフに切り替わります。

On: リモート デバッグがオンに切り替わります。

Web エンジン Http プロキシの使用

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [Http プロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。[Web エンジン Http プロキシの使用 (WebEngine UseHttpProxy)] 設定は、デジタルサイネージ、API 駆動型 Web ビュー、Web アプリなど、Web ビューベースのすべての機能に適用されます。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex の設定

Webex クラウドプロキシミティ ゲスト共有

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

この設定では、devices.webex.com 経由でゲスト共有機能をオフにすることができます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: ゲストの共有を許可するかどうかをシステムが自動的に判断できるようにします。これは、現在デフォルトでは有効になっています。

Off: ゲスト共有機能をオフにします。

Webex クラウドプロキシミティ モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

オンプレミスのコールマネージャに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされたデバイスは、超音波、Wi-Fi 検出、ゲスト共有のようなペアリングメカニズムを処理するためにオンプレミスとクラウド両方のプロキシミティモードをサポートします。この設定では、使用する 2 つのプロキシミティモードを定義できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: リンクされたデバイスは、オンプレミスのプロキシミティモードを使用します。

On: リンクされたデバイスはクラウドのプロキシミティモードを使用します。

Webex クラウドアップグレード モード

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

オンプレミスサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスでは、オンプレミスのプロビジョニングサービスまたは Webex クラウドサービス (クラウド管理のソフトウェアのアップグレード) からソフトウェアをアップグレードするかどうかを選択できます。

クラウド管理のソフトウェアのアップグレードでは、新しい RoomOS ソフトウェアバージョンが利用可能になると、デバイスは自動的にアップグレードされます。これは、クラウドに登録されたデバイスのアップグレードと同時です。デバイスを手動でアップグレードする必要なく、最新の更新とバグ修正をより速く取得できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスソフトウェアはクラウドからアップグレードされません。CUCM などのオンプレミスのプロビジョニングサービスを使用するか、または手動アップグレードを使用する必要があります。

On: クラウドで新しいソフトウェアバージョンが利用可能になると、デバイスソフトウェアは自動的にアップグレードされます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex Meetings 参加プロトコル

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスは、Webex Meetings へのコールに Webex クラウドサービスを使用する場合があります。Webex を介したコールでは、高度なミュート、共同ホスト、転送ホスト、顔認識など、一連のネイティブ Webex Meetings インコール機能を利用できます。

Webex Meetings のコールルーティングが使用される場合は次のとおりです。[Webex に参加 (Join Webex)] ボタンを使用する場合、Webex Assistant を使用してパーソナルルームミーティング (PMR) に参加する場合、および @webex.com、@*.webex.com、および @meet.ciscospark.com のいずれかのドメインを含む URI で [コール (Call)] ボタンまたはダイヤル API コマンドを使用する場合。他のコールは、デフォルトプロトコルに使用します。

また、ネイティブの Webex Meetings コールルーティングでは、デバイスがクラウド管理のソフトウェアのアップグレードに対して有効で、Control Hub からの設定が有効で、会議マルチポイントモードが Auto に設定されている必要があります。

CE 9.15.0 では Room Panorama と Room 70 Panorama はサポートされていません。

デフォルト値:

SIP

値スペース:

SIP/Webex

SIP: コールプロトコルは SIP です。

Webex: 上記の要件を満たしている場合、コールプロトコルは Webex です。それ以外の場合は、SIP です。

WebRTC の設定

WebRTC コール終了タイムアウト

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN

WebRTC ミーティングで [コールの終了 (End Call)] を押して Web ビューを閉じるまでの時間を延長できます。通常動作では、この設定を変更する必要はありませんが、トラブルシューティングに役立つ場合があります。

WebRTC は、Microsoft Teams ミーティング Web アプリで Microsoft Teams ミーティングに参加する場合に使用されます。WebRTC は、オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスでのみ使用できます。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (0 ~ 600)

秒単位の時間。

WebRTC 対話モード

適用対象: RoomKitMini DeskPro/DeskLE Board

必要なユーザ ロール: ADMIN

WebRTC ミーティングでは、デバイスのコール制御または WebRTC アプリのネイティブコントロールを使用できます。

WebRTC は、Microsoft Teams ミーティング Web アプリで Microsoft Teams ミーティングに参加する場合に使用されます。WebRTC は、オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスでのみ使用できます。

デフォルト値:

NonInteractive

値スペース:

インタラクティブ/非対話型

Interactive: WebRTC アプリのネイティブコントロールをデバイスのタッチスクリーンから直接使用できます。これにより、ネイティブの WebRTC 機能にアクセスできます。

NonInteractive: WebRTC アプリのネイティブコントロールは利用できません。デバイスの通常のコール制御のみ使用できます。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

試験的設定

試験的設定は、テストのためだけのもので、Cisco と同意したのではない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 6 章

物理インターフェイス

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

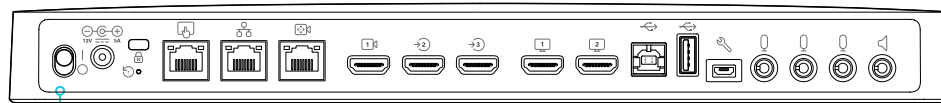
Room
Panorama

電源オン/オフ (1/8 ページ)

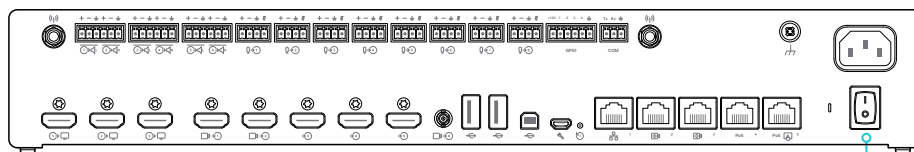
Codec Plus、Codec Pro

コーデック背面にある電源スイッチは、メインのオン/オフスイッチです。

コーデックの起動には、数分かかる場合があります。コーデックが使用可能な状態になると、LED が点灯します。



Codec Plus の電源スイッチ。LED はデバイスの上部にあります。



Codec Pro の電源スイッチ。LED はデバイスの前面にあります。

LED の動作

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク) :
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ) :
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など) :
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

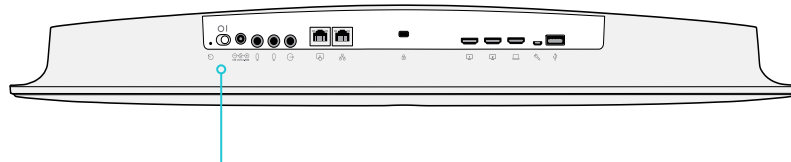
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源オン/オフ (2/8 ページ)

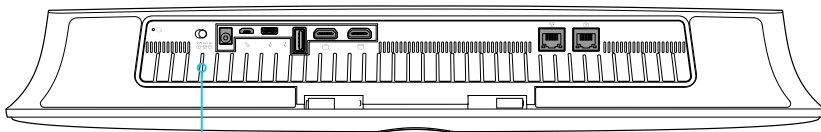
Room Kit, Room kit mini

メインのオン/オフスイッチは、Room Kit/Room Kit Mini の後ろ側にあります。オンの位置に切り替えます。起動に数分かかる場合があります。デバイスが使用可能な状態になると、システム LED が点灯します。

デバイスが画面の上部に取り付けられると、電源スイッチにアクセスするのが難しくなる場合があることに注意してください。



Room Kit の電源スイッチ。LED はデバイスの前面にあります。



Room Kit Mini の電源スイッチ。LED はデバイスの前面にあります。

LED の動作

システム LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

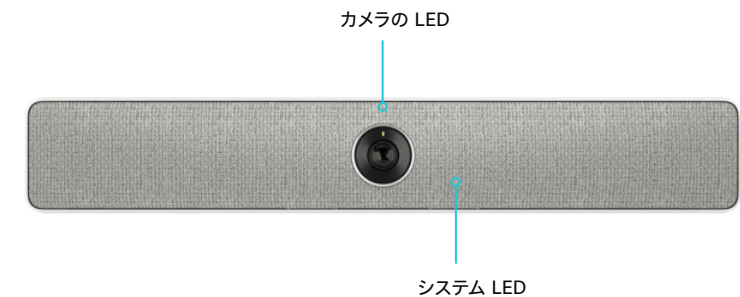
スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

コールの着信時:
LED が点滅します。

コール中:
点灯状態になります。

セルフビュー オン時:
点灯状態になります。



カメラの LED

システム LED

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源オン/オフ (3/8 ページ)

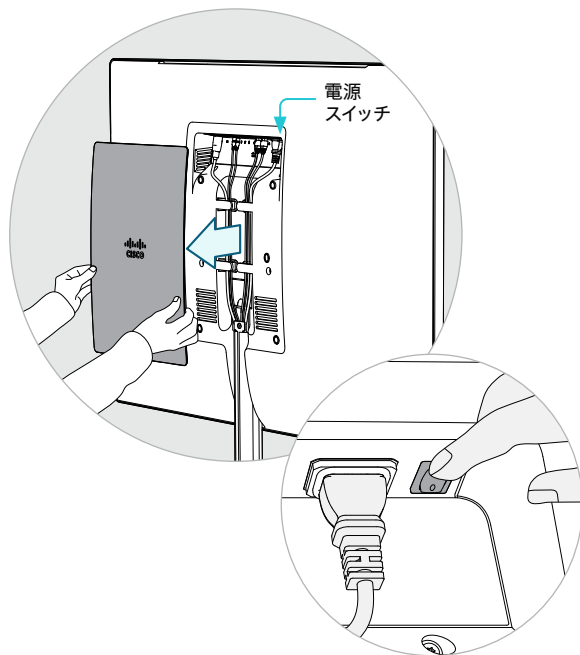
Room 55

Room 55 を壁面に取り付けた場合は、電源スイッチにアクセスすることができません。Room 55 が取り付けられたら、自動的に電源がオンになるように、電源スイッチがオンの位置で Room 55 が取り付けられていることを確認します。

デバイスを取り外す前に、Web インターフェイス経由でシャットダウンします:[メンテナンス (Maintenance)] > [再起動 (Restart)] > [デバイスのシャットダウン (Shutdown device)]。

デバイスを正しくシャットダウンする前にデバイスを取り外すと、問題が発生する場合があります。この問題が発生した場合は、Web インターフェイスを使用してビデオシステムを再起動し、正常な動作を復元してみてください。

フロアスタンドまたはホイールベースに取り付けられた Room 55 では、背面にあるカバーを外してコネクタにアクセスします。電源スイッチは、電源コネクタの横にあります。



LED の動作

システム LED

システム LED はカメラの右側にあります。LED の通常の色は白です。赤色のライトは、ハードウェア障害を示します。

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

カメラの LED はカメラのレンズのすぐ上にあります。

コールの着信時:

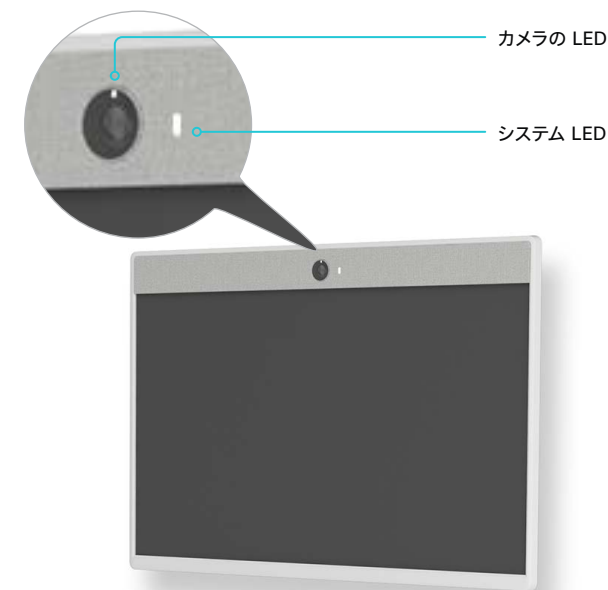
LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビュー オン時:

点灯状態になります。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

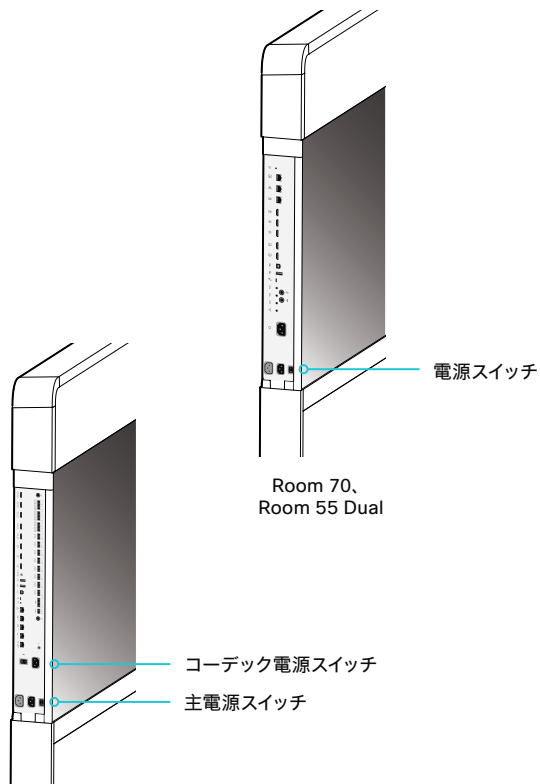
電源オン/オフ (4/8 ページ)

Room 70 Single/Dual G2, Room 70 Single/Dual, Room 55 Dual, Room 70 Panorama

電源スイッチは左側のカバーの後ろにあります (すべての取り付けオプションで同じ場所です)。

スイッチにアクセスするには、左側のカバーを外します。マグネットに取り付けまたは取り外します。電源スイッチはコーデック下の主電源コネクタの横にあります。

(Room 70 G2 Single/Dual, Room 70 Panorama) コーデックの電源スイッチがオンになっていることも確認してください。



Room 70,
Room 55 Dual

Room 70 G2, Room
70 Panorama

LED の動作

システム LED

システム LED はカメラの右側のファブリックの後ろにあります。LED の通常の色は白です。赤色のライトは、ハードウェア障害を示します。

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

カメラの LED はカメラのレンズのすぐ上にあります。

コールの着信時:

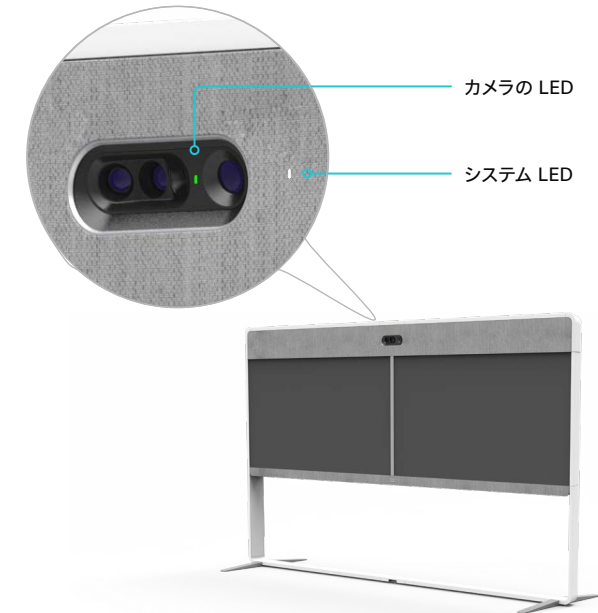
LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビュー オン時:

点灯状態になります。



カメラの LED

システム LED

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源オン/オフ (5/8 ページ)

Room Panorama (1/2 ページ)

壁面ソケットに接続された複数のコンポーネント

Room Panorama は多くのコンポーネントで構成されています。各コンポーネントには、壁面ソケットに直接接続される電源コードが付いています。*

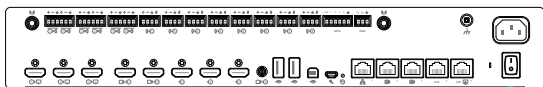
システムの両側にソケットのコンセントがあります。デコグリルの下部にある持ち手を使用し、左右の画面を引き下げてすべてのコンセントにアクセスします。

電源スイッチを備えるコンポーネントは一部のみです。完全なシステムの電源を完全にオフにするには、壁掛けソケットのコンセントからプラグを抜きます。

コーデックの電源スイッチ

コーデックは左画面の後ろにあります。デコグリルの下部にある持ち手を使用して、左側の画面を引き下げてコーデックにアクセスします。

- 電源スイッチは、設置の一部としてオンに設定されています。



電源スイッチ

カメラの電源スイッチ

カメラには、設置の一部としてオンに設定された電源スイッチがあります。

システムを組み立てたときには、このスイッチに簡単にアクセスすることはできません。

24 V の PSU 電源スイッチ

この PSU は、左側の画面の後ろの左のキャビティにあります。

- デコグリルの下部にある持ち手を使用して、左側の画面を引き下げて PSU にアクセスします。
- 電源スイッチは、設置の一部としてオンに設定されています。

画面の電源ボタン

画面は、電源に接続されたときに自動的に電源が入る必要があります。電源が入らない場合は、リモート制御または電源ボタンを使用して電源を入れます。

- メイン画面: ログの下 (右下) の電源ボタン
- コンテンツ画面: 電源ボタン (中央下)

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

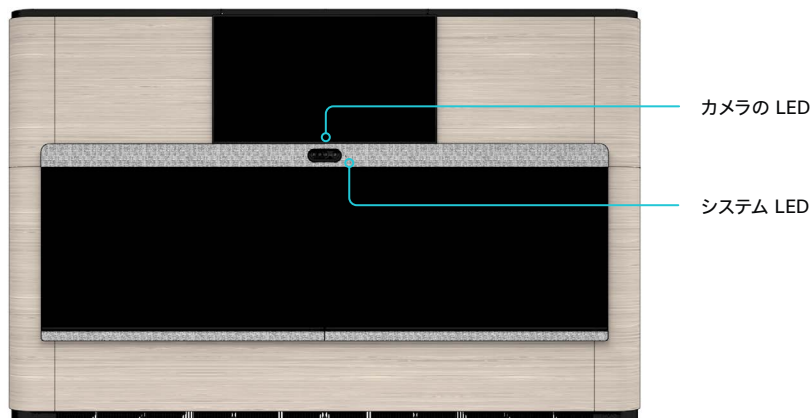
Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

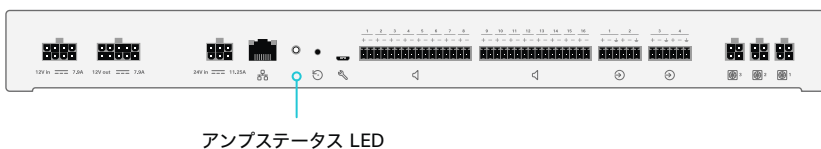
電源オン/オフ (6/8 ページ)

Room Panorama (2/2 ページ)

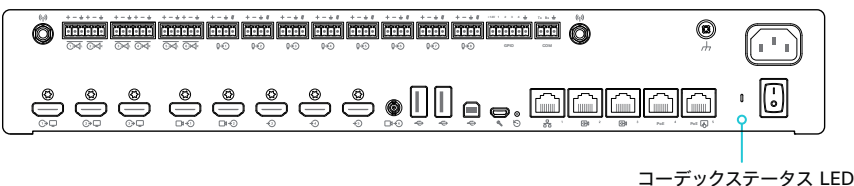


左側の画面を引き下げて、アンプとコーデックを確認します。どちらのユニットも、コネクタパネルが上向きになった状態で取り付けられます。

アンプ: Cisco Natural Audio Module IV



コーデック: Cisco Webex Codec Pro



システム LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。コーデックが使用可能になると点灯状態になります。

システム全体 (すべての周辺機器) が使用可能になると、LED がオフになります。

カメラの LED

コールの着信時:

LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビュー オン時:

点灯状態になります。

アンプステータス LED

スタートアップ (起動) 時:

点灯状態になります。

デバイスがコーデックに接続されていません (ペアリングされていません):

すばやく点滅します。

デバイスがコーデックに接続されています。

点灯状態になります。

コーデックはスタンバイモードです。

ゆっくりと点滅します。

コーデックステータス LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

電源オン/オフ (7/8 ページ)

Desk Pro および Desk Limited Edition

次の図のように、LED インジケータ付き電源ボタンは背面にあります。

Desk Pro をオンに切り替える場合は、電源ボタンを 1 回押します。オフにするには、電源ボタンを 1 回押します。デバイスがオフになるまで、少なくとも 10 秒かかります。



LED の動作

システム LED

アイドルモード (画面はアクティブ) :

LED は消灯しています。

スタンバイモード (画面はオフ) :

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など) :

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。

カメラの LED

カメラの LED は、カメラのレンズの上の画面の上部にあります。

コールの着信時:

LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビューオン:

点灯状態になります。

スタートアップ (起動) 時:

LED が短い間点灯します。

マイク LED

コール中にマイクがオン:

緑で点灯します。

コール中にマイクがオフ:

赤で点灯します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源オン/オフ (8/8 ページ)

ユーザインターフェイスを使用した再起動とスタンバイ

デバイスの再起動

1. ユーザインターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [\[設定 \(Settings\)\]](#)、[\[再起動 \(Restart\)\]](#) の順に選択します。
3. 再び [\[再起動 \(Restart\)\]](#) を選択して確定します。

スタンバイモードの開始と終了

1. ユーザインターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスを選択します。
2. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) を選択します。

スタンバイモードを終了するには、タッチコントローラをタップします。

または、画面をタップします ([Desk Pro](#)、[Desk Limited Edition](#)、および [Board](#))。

ハーフウェイクモードと次のユーザーに備えたクリーンアップ

適用対象: [Board](#)

- ハーフウェイクモードを開始するには、ボードの [ホーム (Home)] ボタンを数秒間押し続けます
- ハーフウェイクモードを終了するには、[ホーム (Home)] ボタン、タッチコントローラ画面、またはボード自体をタップします。

リモートからのデバイスの電源オフまたは再起動

Web インターフェイスにサインインして、[\[メンテナンス \(Maintenance\)\]](#) > [\[再起動 \(Restart\)\]](#) に移動します。

デバイスの再起動

[\[デバイスの再起動... \(Restart device...\)\]](#) をクリックして、選択を確定します。

デバイスが使用可能になるまでに数分かかります。

デバイスの電源オフ

[\[デバイスのシャットダウン... \(Shutdown device...\)\]](#) をクリックして、選択を確定します。



デバイスの電源をリモートから再びオンにすることはできません。

リモートシャットダウン後にデバイスの電源を入れるには、次の操作を実行します。

- 電源プラグを抜いて、もう一度接続します。 ([Room Kit](#)、[Room Kit Mini](#)、[Board](#))
- 電源スイッチをオフしてからオンにします。 ([Codec Pro](#)、[Room 70 G2](#)、[Room 70](#)、[Room 55 Dual](#)、[Room Panorama](#)、[Room 70 Panorama](#)、[Desk Pro](#)、および [Desk Limited Edition](#))
- 電源スイッチをオフしてからオンにするか、電源プラグを抜いて、再度接続します。 ([Room 55](#))

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

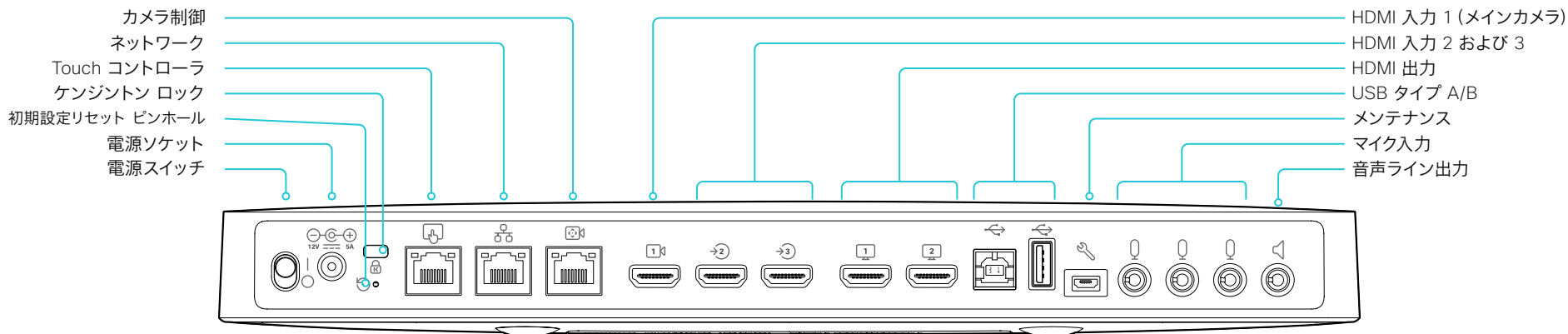
Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

コネクタパネル: Codec Plus



電源

必ず付属の電源を使用してください。

- ・ DC 出力: 5A, 12 V
- ・ AC 入力: 100 ~ 240 V, 50 ~ 60 Hz, 最大 1.2 A

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、Touch ユーザ インターフェイスまたはウェブ インターフェイスから実行することをお勧めします。

ケンジントン ロック

デバイスの移動と盗難を防止するために、ケンジントンロックを使用できます。

Touch コントローラ

タッチコントローラは Power over Ethernet (PoE) であり、このソケットを介して電源を供給します。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

HDMI 入力

HDMI 1: HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 1920 × 1080 (60 fps)。ほとんどの場合、メインカメラに使用されます。Quad Camera には常に HDMI 1 を使用する必要があります。

HDMI 2 および 3: HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 3840 × 2160 (30 fps) / 1920 × 1080 (60 fps)。コンピュータ、カメラ、外部再生デバイス (オーディオおよびビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI コネクタ入力では、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。メイン モニタには出力 1 を使用し、出力 2 はオプションの 2 番目のモニタに使用します。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。それ以外の場合、音声はコネクタ 1 で出力されます。

カメラ制御

カメラのカメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続する場合は、両方のカメラを制御できるようにするため、イーサネット スイッチが必要です。

USB

USB 2.0 タイプ A/B。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

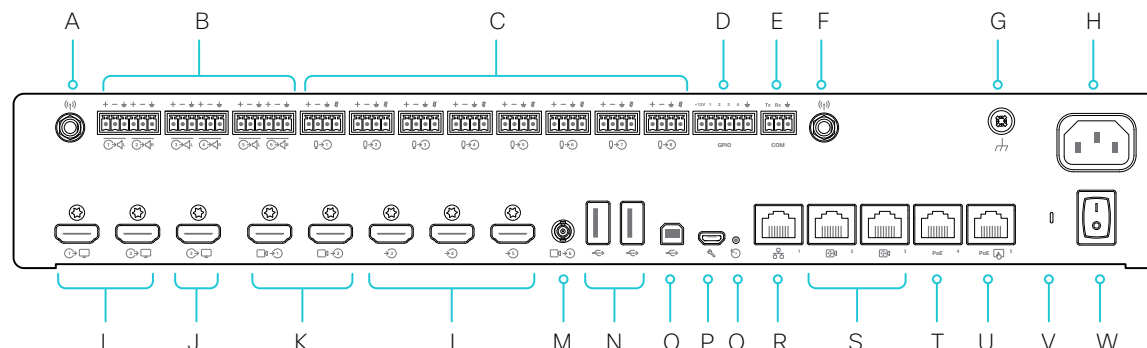
マイク

3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ (Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone)。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブ スピーカー (増幅器内蔵) と共に使用します。

コネクタパネル: Codec Pro および Room Panorama



A. アンテナコネクタ (2)

ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth 接続で使用する 2.4GHz および 5GHz のアンテナ。

B. ライン出力 (6)

バランスの取れたラインレベル出力。3 または 6 ピンのユーロブロックコネクタ。

C. マイク/ライン入力 (8)

マイク X 8、48 V ファントム電源 (それぞれ個別のエコーキャンセラおよびノイズリダクション付き)。すべてのマイクをバランスラインレベルに設定可能。4 ピンのユーロブロックコネクタ。

D. プログラム可能な GPIO ポート。6 ピンのユーロブロックコネクタ。

E. COM ポート。3 ピンのユーロブロックコネクタ。

F. アンテナコネクタ、A を参照

G. アース。保護アース。

H. 主電源入力

必ず付属の電源を使用してください。AC 入力: 100 ~ 240 V、50 ~ 60 Hz、最大 1.3 ~ 0.6 A

I. HDMI 出力 (3)

音声とビデオ。HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60 fps で 3840 × 2160。高解像度とフレームレートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルを使用します。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力で

は音声は出力されません。そうでない場合は、このコネクタから音声が出力されます。

HDMI 1: メインモニター

HDMI 2 および HDMI 3: オプションの 2 番目および 3 番目のモニター

J. HDMI 出力 (I を参照)

K. HDMI 入力 (5)

音声とビデオ。HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30 fps で 3840 × 2160 / 60 fps で 1920 × 1080。高解像度とフレームレートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルを使用します。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

HDMI 1 および HDMI 2: メインカメラ入力として使用します。Quad Camera は常に HDMI 1 に接続します。

HDMI 3 から HDMI 5: コンピュータ、カメラ、外部再生デバイス (オーディオおよびビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用します。HDMI 5 入力コネクタでは、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

L. HDMI 入力 (K を参照)

M. 3G-SDI/HD-SDI 入力

ビデオ。最大解像度は 60 fps で 1920 × 1080 です。HD-BNC: 1080p60、レベル A 10 ビットデータネイティブカラーエンコーディング 4:2:2 YCbCr、75 Ω。

N. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A

O. USB コネクタ、2.0 タイプ B

P. メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

Q. 初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。タッチコントローラまたは Web インターフェイスから工場出荷時の状態にリセットします。

R. Network

RJ-45: イーサネットインターフェイス、1Gb イーサネットインターフェイス。

S. カメラ制御 (2)

RJ-45: カメラ操作 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続するには、両方のカメラを制御するためのイーサネットスイッチが必要です。

T. イーサネット PoE

RJ-45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。

U. Touch コントローラ

RJ-45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

V. ステータス LED

前面ステータスの LED をミラーリングします。

W. 電源オン/オフ

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

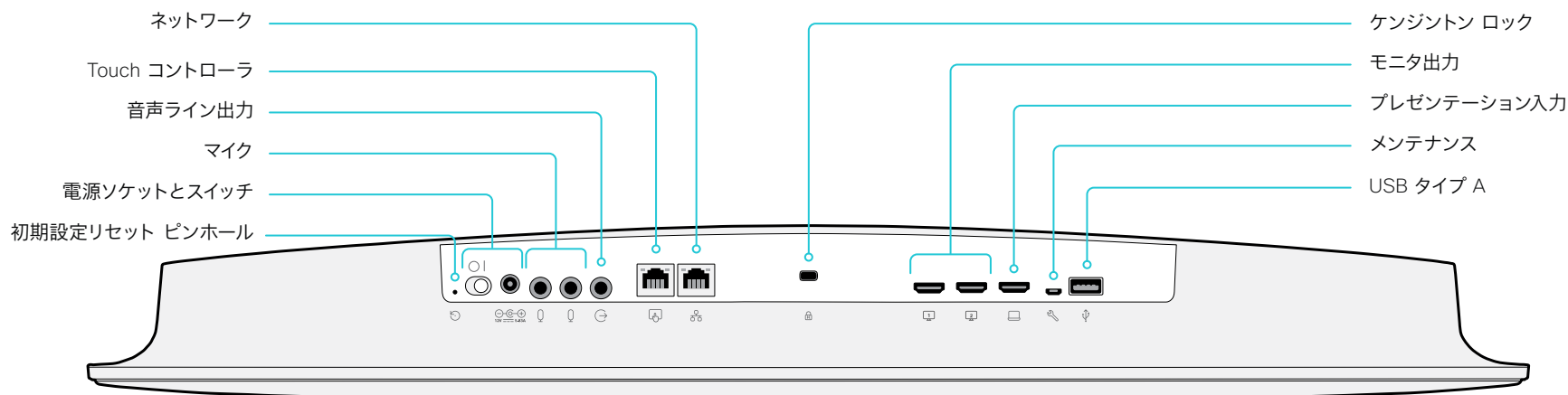
Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コネクタパネル: Room Kit



ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

Touch コントローラ

タッチコントローラは、このソケットでは提供されていないイーサネット経由で電源供給されています。したがって、タッチコントローラとビデオ会議デバイスの間にはミッドスパンパワーインジェクタが必要です。▶ 「タッチコントローラの接続」の章を参照してください。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブ スピーカー（増幅器内蔵）またはセルフパワー型サブウーファーと共に使用します（オーディオ出力ライン [n] 出力タイプの設定を参照）。

マイク

2 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ: Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone。

電源

必ず付属の電源を使用してください。

- ・ DC 出力: 5.83A, 12 V
- ・ AC 入力: 100 ~ 240 V, 50 ~ 60 Hz, 最大 1.2 A

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、タッチコントローラまたは Web インターフェイスから実行することを推奨します。

モニタ出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。メイン モニタには出力 1 を使用し、出力 2 はオプションの 2 番目のモニタに使用します。これらの出力には音声がありません。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

プレゼンテーション入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30fps で 3840 × 2160。コンピュータや外部再生デバイス（オーディオおよびビデオ）など、異なるタイプの入力ソースに使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

USB

USB 2.0 タイプ A。

ケンジントン ロック

デバイスの移動と盗難を防止するために、ケンジントンロックを使用できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

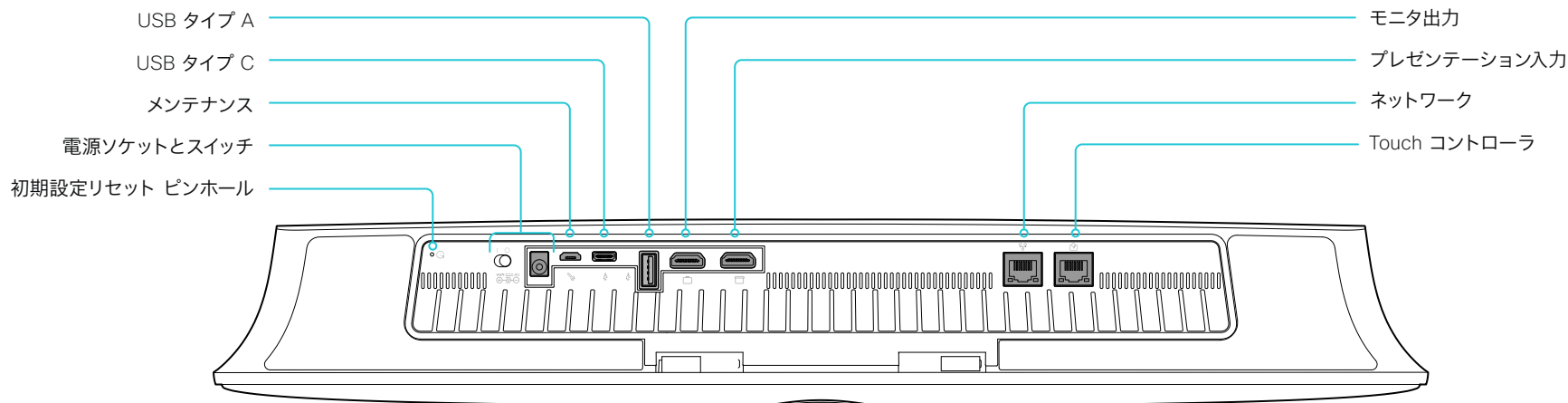
Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コネクタパネル: Room Kit Mini



初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、Touch ユーザ インターフェイスまたはウェブ インターフェイスから実行することをお勧めします。

電源

必ず付属の電源を使用してください。電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

USB

- ・ USB: 2.0 タイプ A
- ・ USB 2.0 タイプ C

モニタ出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。これらの出力には音声がありません。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

プレゼンテーション入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度はコンピューターでは 30fps で 3840 × 2160。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

Touch コントローラ

タッチコントローラは、このソケットで提供されるイーサネット経由で電源供給されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

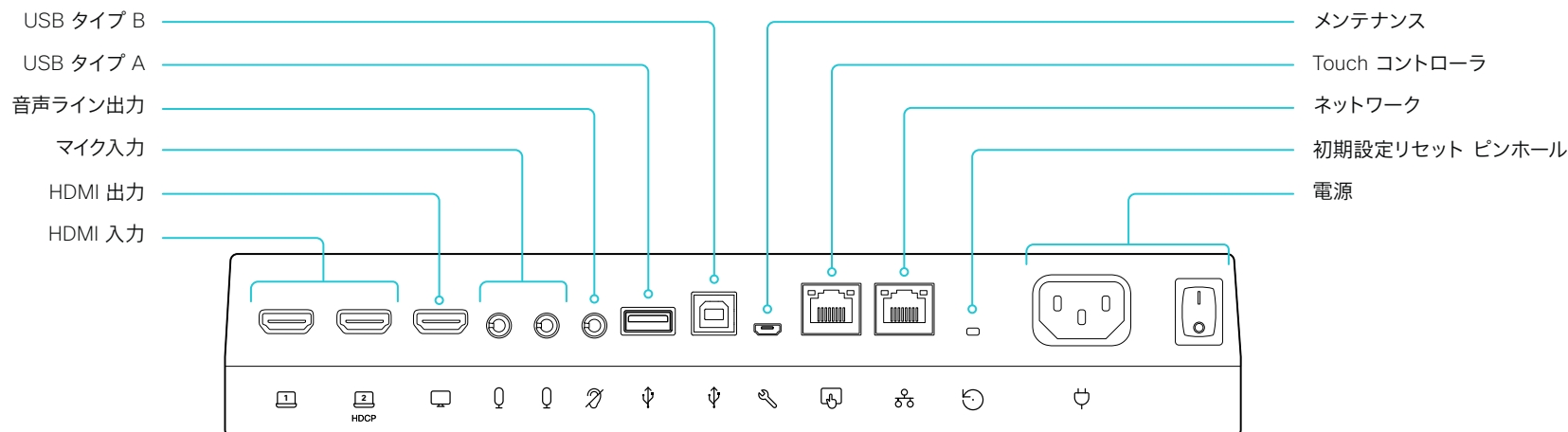
Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コネクタパネル: Room 55



HDMI 入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30fps で 3840 × 2160。コンピュータや外部再生デバイス (オーディオおよびビデオ) など、異なるタイプの入力ソースに使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

2 つ目の HDMI 入力では、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ 保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。オプションの 2 台目のディスプレイ (ビデオのみ) に使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

マイク

2 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ: Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。例えば、オーディオの誘導ループ用システムを使用する際に使用します。

USB

- ・ USB: 2.0 タイプ A
- ・ USB 2.0 タイプ B

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

Touch コントローラ

タッチコントローラは、このソケットで提供されるイーサネット経由で電源供給されます。詳細については、▶ 「[タッチコントローラの接続](#)」の章を参照してください。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

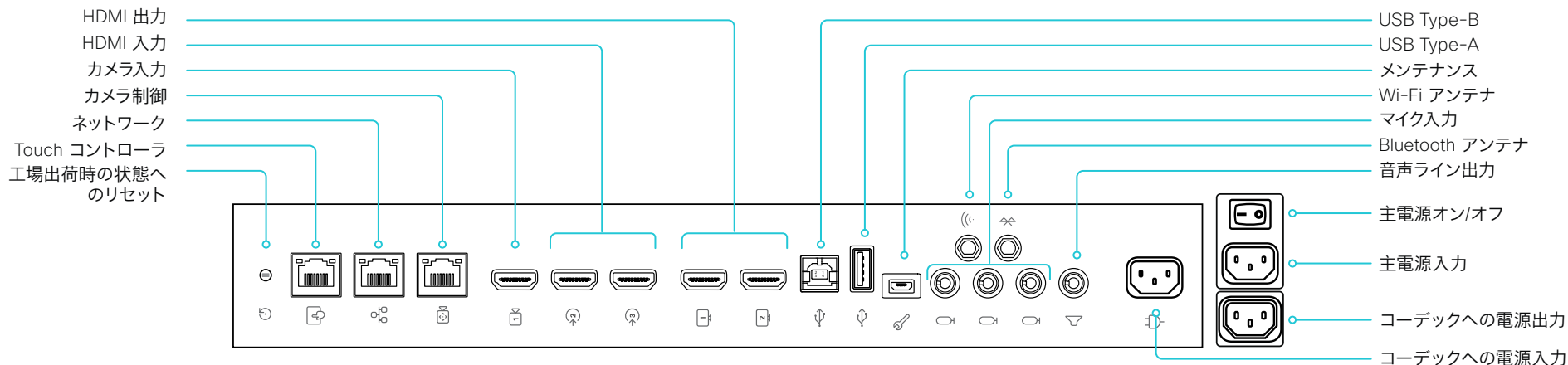
初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、タッチコントローラまたは Web インターフェイスから実行することを推奨します。

電源

100-240 VAC、1.8-0.8 A、50/60 Hz
電源スイッチがオンの位置にある限り、デバイスの電源は自動的にオンになります。

コネクタパネル: Room 55 Dual および Room 70



工場出荷時の状態へのリセット

工場出荷時設定へのリセット用ピンホール。初期設定へのリセットは、Touch ユーザ インターフェイスまたはウェブ インターフェイスから実行することをお勧めします。

Touch コントローラ

タッチコントローラは Power over Ethernet (PoE) であり、このソケットを介して電源を供給します。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

カメラ制御

内蔵カメラのカメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。

カメラ入力

この HDMI 入力は、内蔵カメラ用です。

HDMI 入力 (音声)

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30fps で 3840 × 2160。コンピュータ、追加カメラ、または外部再生用のデバイス向け。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI コネクタ入力では、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

HDMI 出力 (4K 解像度)

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。出力 1 は、単一画面デバイスの内蔵画面用です。両方の出力は、デュアル画面デバイスの内蔵画面用です。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。単一画面デバイスの HDMI 出力コネクタ 2 にはオーディオがありません。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。

マイク

3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ (Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone)。

USB コネクタ

- USB 2.0 Type-B
- USB 2.0 タイプ A、内部用
- メンテナンス用 Micro USB ソケット

アンテナコネクタ

- ワイヤレス ネットワーク接続用の Wi-Fi アンテナ
- Bluetooth アンテナ (将来使用予定)

電力

- コーデックへの電源入力用です
- コーデックへの電源供給用です
- 主電源入力 (100 ~ 240 VAC、3.5 ~ 2.0 A、50/60 Hz)
- 主電源オン/オフ

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コネクタパネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama

A. アンテナコネクタ (2)

ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth 接続で使用する 2.4GHz および 5GHz のアンテナ。

B. ライン出力 (6)

バランスの取れたラインレベル出力。ユーロブロック、3.5 mm。

C. マイク/ライン入力 (8)

マイク X 8、48 V ファントム電源 (それぞれ個別のエコーキャンセラおよびノイズリダクション付き)。すべてのマイクをバランスラインレベルに設定可能。ユーロブロック、3.5 mm。

D. プログラム可能な GPIO ポート。3.5 mm ユーロブロックコネクタ。

E. COM ポート。3.5 mm ユーロブロックコネクタ。

F. アンテナコネクタ、A を参照

G. アース。保護アース。

H. 電源入力

コーデックへの電源入力と電源のオン/オフスイッチ。

I. 主電源入力

主電源入力 (100 ~ 240 VAC、5.5 ~ 2.5 A、50/60 Hz) と電源のオン/オフスイッチ。

J. HDMI 出力 (2)。

音声とビデオ。コネクタ 1 および 2、4Kp60。

K. HDMI 出力 (1)

音声とビデオ。コネクタ 3、4Kp30。

L. カメラ入力 (2)

HDMI、コネクタ 1 ~ 2、1080p60。

M. HDMI 入力 (3)

音声とビデオ。コネクタ 3 ~ 5、4Kp30。コネクタ 5 は HDCP をサポートします。

N. カメラ入力

3G-SDI/HD-SDI。コネクタ 6、1080p60、レベル A のみ、HD-BNC、75 Ω。

O. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A。

P. USB コネクタ、2.0 タイプ B。

Q. メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

R. 初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。タッチコントローラまたは Web インターフェイスから工場出荷時の状態にリセットします。

S. Network

RJ-45: イーサネットインターフェイス、1Gb イーサネットインターフェイス。

T. カメラ制御 (2)

RJ-45: カメラ操作 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続するには、両方のカメラを制御するためのイーサネットスイッチが必要です。

U. イーサネット PoE

RJ-45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。

V. Touch コントローラ

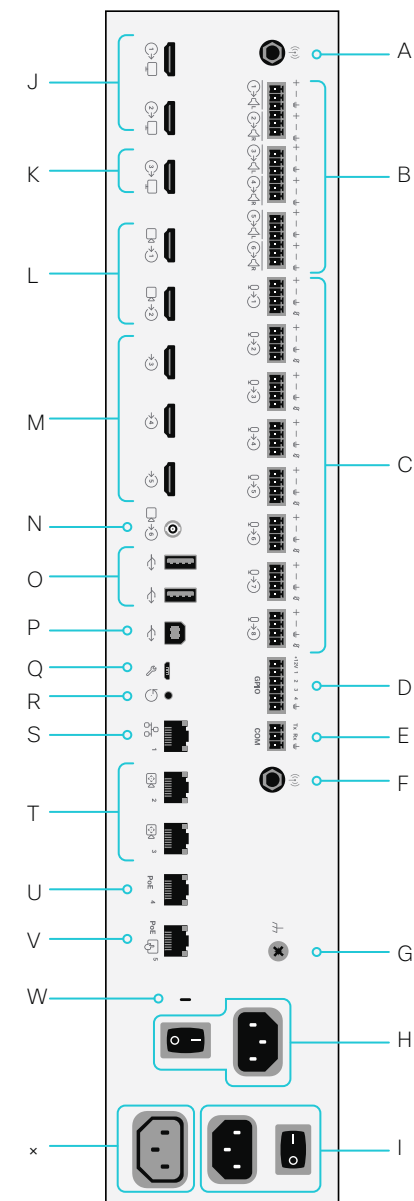
RJ-45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

W. ステータス LED

前面ステータスの LED をミラーリングします。

X. 電源出力

コーデックの電源出力。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

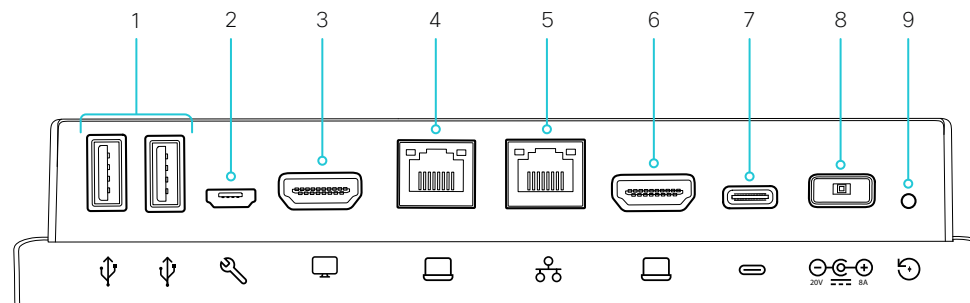
Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

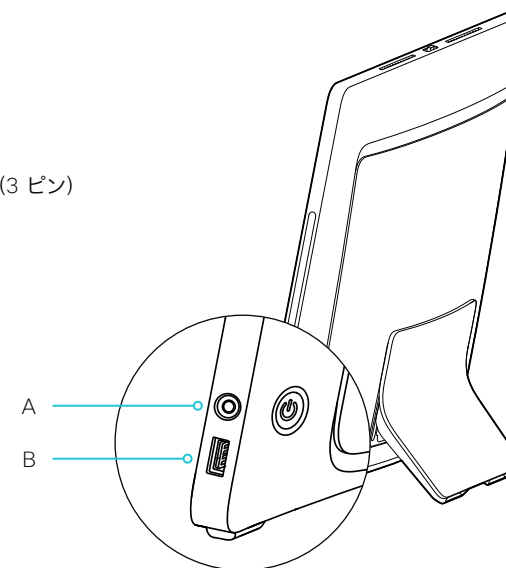
コネクタパネル: Desk Pro および Desk Limited Edition

- USB
 - USB: 2.0 タイプ A
- メンテナンス (マイクロ USB)
 - デバイスとのシリアル通信用
- HDMI 出力: 将来使用
- PC 用ネットワーク
 - イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)
- Network
 - イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)
- HDMI 入力
 - HDMI 2.0 タイプ A の入力。最大以下のフォーマットに対応:
 - 60 fps で 3840 × 2160 (4kp60) (*Desk Pro*)
 - 60 fps で 1920 × 1080 (1080p60) (*Desk Limited Edition*)
 - 画面拡張とコンテンツ共有
- USB-C
 - 代替モードディスプレイポートを使用して、最大で以下のフォーマットをサポート:
 - 60 fps で 3840 × 2160 (4kp60) (*Desk Pro*)
 - 60 fps で 1920 × 1080 (1080p60) (*Desk Limited Edition*)
 - 画面拡張とコンテンツ共有
 - サポートされているオペレーティングシステムでのタッチフォーワーディング機能
 - 任意のソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、およびスピーカーを使用 (USB カメラモード)
 - ラップトップ充電 (60 W 最大) (*Desk Pro のみ*)
- 電源
 - 定格: 最大 200 W
 - スタンバイ時消費電力: 15 W
- 初期設定リセット ピンホール
 - ピンホールは最後の手段として使用してください。デバイスのリセットは、可能であればユーザインターフェイスまたは Web インターフェイスから行うことをお勧めします。



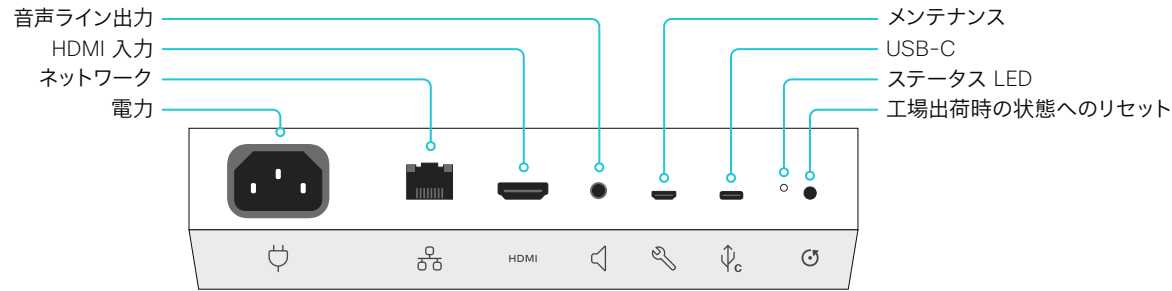
メインコネクタパネル (背面)

- アナログオーディオ出力
 - 3.5 mm ステレオミニジャック (3 ピン)
 - ヘッドフォン用
- USB、オーディオ入力および出力
 - USB: 2.0 タイプ A
 - USB ヘッドセット用

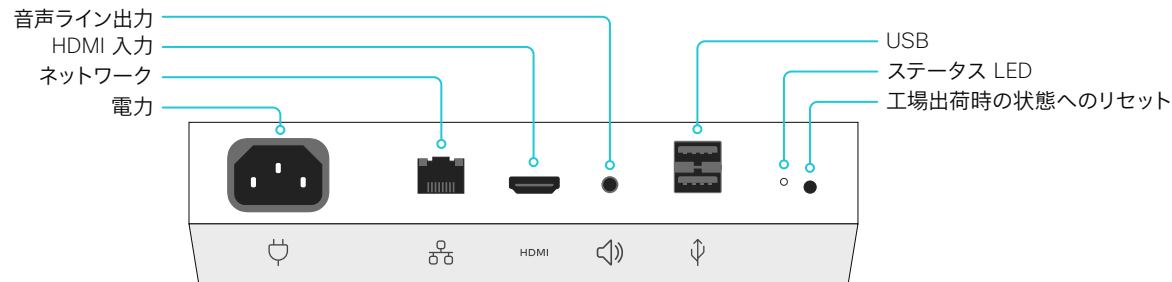


オーディオコネクタ (右側)

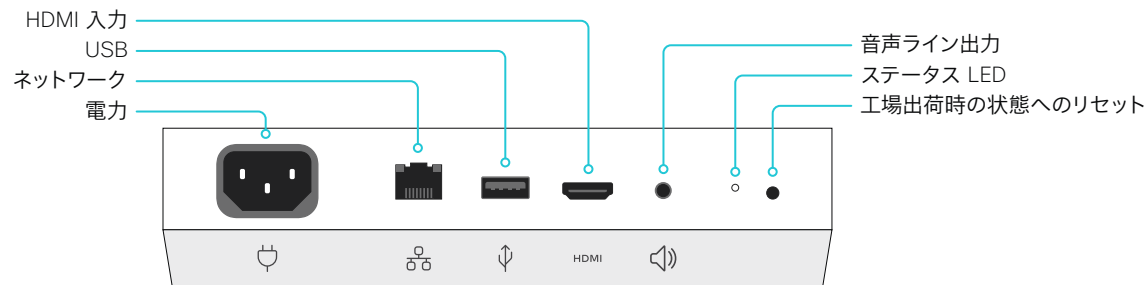
コネクタパネル: Board



Board 55S、70S、および 85S¹



Board 55



Board 70

電源

- Board 55S: 100 ~ 240VAC、3.0 ~ 1.5A、50/60Hz
- Board 70S: 100 ~ 240VAC、3.5 ~ 2.0A、50/60Hz
- Board 85S: 100 ~ 240VAC、4.6 ~ 2.0A、50/60Hz
- Board 55、70: 100 ~ 240VAC、最大 3.5A、50/60Hz

ネットワーク

- イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。²

HDMI 入力

- HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30fps で 3840 × 2160。コンピュータまたは外部再生デバイス用。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

音声ライン出力

- 3.5mm ミニジャック、3 ピンコネクタ。

USB

- Board 55: メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A X 2
- Board 70: メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A X 1
- Board 55S、70S、および 85S: メンテナンス用マイクロUSB
- Board 55S、70S、および 85S: USB-C

工場出荷時の状態へのリセット

- 工場出荷時設定へのリセット用ピンホール。工場出荷時設定へのリセットは、可能であればタッチユーザインターフェイスまたは Web インターフェイスから行うことをお勧めします。

¹ 第 2 世代の Webex Board ファミリー (S シリーズ) では、ハードウェアプラットフォームにマイナーな最適化が施されています。

² すべてのモデルで Wi-Fi もサポートされます。

コネクタパネル: Room Panorama アンプ

Cisco Natural Audio Module IV は、Room Panorama の必須コンポーネントです。これは、イーサネットおよびアナログ入力を備えた 16 チャンルのオーディオパワーアンプです。

12V の電源入力および電源出力。

これは、Cisco Room Panorama システム内の Cisco Quad Camera 用のバススルー電流制限電源接続です。

初期設定へのリセット

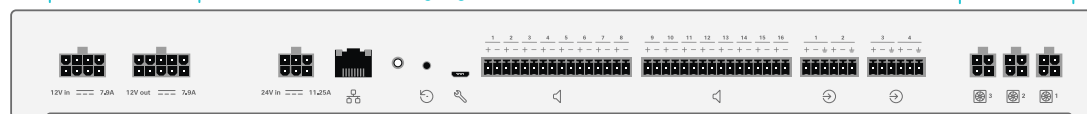
- ・ ピンホール

メンテナンス

- ・ マイクロ USB

ファンの出力

Cisco Room Panorama システムには、ファンを制御する 3 つのファン出力ポートがあります。



アンプの電源入力

これはアンプの DC 電源入力です。

- ・ 24VDC、11.25A

イーサネット

イーサネットポートは、Cisco Codec Pro からのオーディオストリームや、制御およびソフトウェアアップグレードに使用されます。

- ・ 1000BASE-T

スピーカー出力

各スピーカー出力チャンネルはブリッジ/差動アンプ出力です。+ および - 接続は 1 台のスピーカーにのみ接続し、別のスピーカー出力やアースには接続しません。

3.5 mm のユーロブロックコネクタのブリッジ差動出力。

- ・ 最大 25 W / 0.1% THD で 8 ohm (チャンネルあたり)。
- ・ クリッピングより低いすべてのレベルで 0.1% THD 未満。
- ・ 106 dB SNR。
- ・ 最大 200 W の合計出力電力。

アナログ入力 / ライン入力

各アナログ入力は、差動アナログライン入力です。最適なパフォーマンスを得るには、バランスのとれたアナログライン出力信号に接続する必要があります。ただし、バランス調整されていないソースで使用することができます。その場合、- 端末はアースに接続する必要があります。

3.5 mm ユーロブロックコネクタでの差動入力。

- ・ 最大 24 dBu の入力レベル。
- ・ 106 dB SNR。

Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 7 章 付録

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex Board の使用方法

Webex Board とその使用方法の詳細については、ユーザガイドを参照してください。

通話中やビデオプレゼンテーションの音量は変えることができます。画面の下部をタップし、スライダーを使用して音量を調節します。

ボードにタッチコントローラが接続されている場合は、タッチコントローラで追加機能が利用できます。

デバイス名またはアドレスをタップすると、**[設定 (Settings)]** にアクセスできます。ここでは、**[デバイス情報 (Device Information)]**、**[詳細設定 (Advanced Settings)]**、**[ネットワーク設定 (Network settings)]**、**[デバイスのアクティベーション (Device activation)]**、**[着信音 (Ringtone)]**、**[再起動 (Restart)]**、および **[工場出荷時設定へのリセット (Factory reset)]** の設定があります。

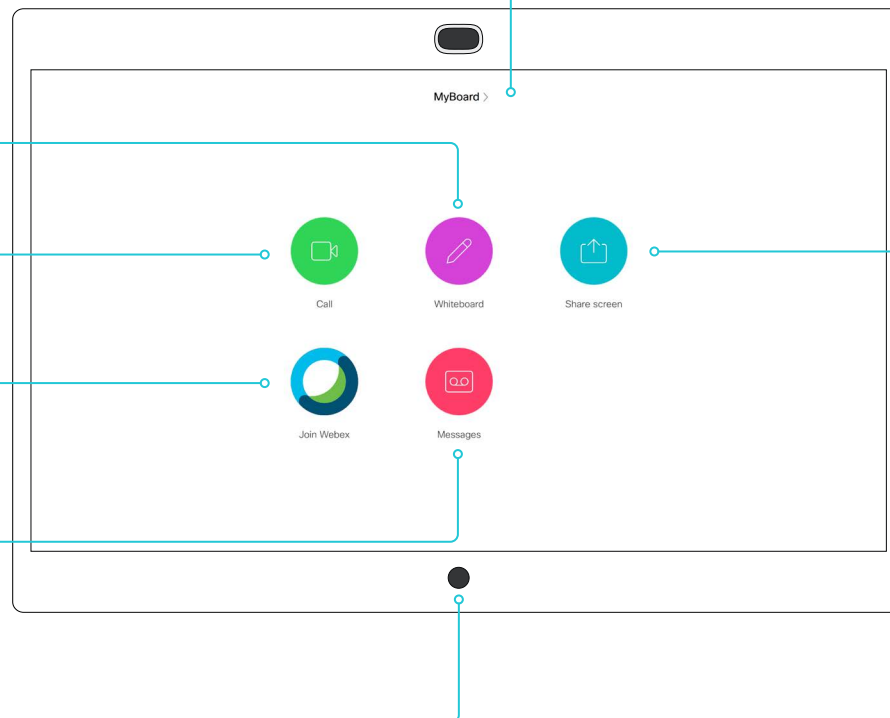
[ホワイトボード (Whiteboard)] をタップすると、新しいホワイトボードを開始するか、既存のホワイトボードのリストにアクセスすることができます。

[コール (Call)] をタップすると、コールを発信できます。

[Webexに参加 (Join Webex)] をタップして、Webex ミーティングに参加します。

[メッセージ (Messages)] をタップして、ボイスメールを呼び出します (該当する場合)。

[ホーム (Home)] ボタンをタップすると、ホーム画面に戻ります。ボタンを押し続けると、ボードがスタンバイモードになります。



[画面の共有 (Share screen)] をタップすると、共有オプションが表示されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

Desk Pro および Desk Limited Edition の使用方法

ビデオ会議デバイスとその使用方法の詳細については、デバイスのユーザーガイドを参照してください。

すべての機能がすべての製品で利用できるとは限りません。そのため、ここに示されているタッチボタンは、お使いのデバイスでは表示されない場合があります。

この部分に次の情報が表示されます。

- ・ サイレント
- ・ コールを転送する
- ・ [設定 (Settings)] メニュー
- ・ スタンバイ

時刻

11:28

ディレクトリ、通話履歴、またはダイヤルパッドからの発信

ホワイトボード機能

コール内およびコール外でコンピュータ画面を共有する

音声出力を選択する (ヘッドセットが接続されている場合)

ノイズ除去や音楽モードなどのオーディオ機能をオンにする

セルフビュー

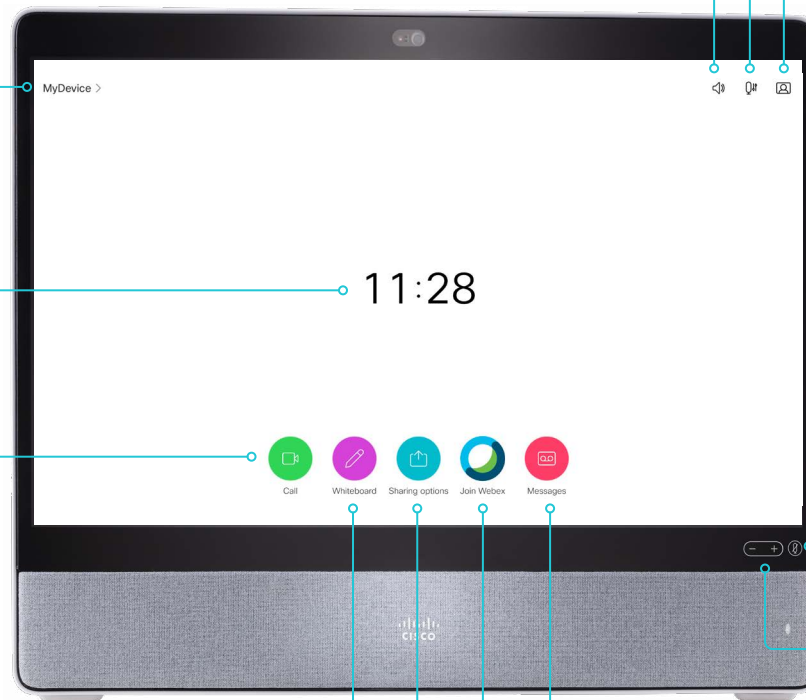
スタイラス

マイクをミュートにする

音量の調節

ボイスメールを呼び出します (該当する場合は)。

Webex Meetings に参加する



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラの使用法

タッチコントローラとその使用方法の詳細については、ビデオ会議デバイスのユーザーガイドを参照してください。

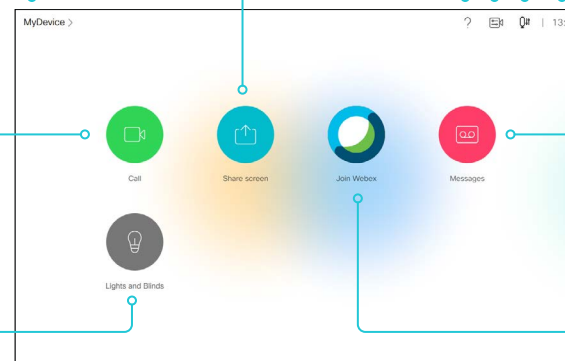
すべての機能がすべての製品で利用できるとは限りません。そのため、ここに示されているタッチボタンは、お使いのデバイスでは表示されない場合があります。

[画面の共有 (Share screen)] をタップして、コンテンツの共有を開始したり、プレゼンテーションを実行したりします。

デバイス名またはアドレスをタップすると、[システム情報 (System Information)]、[設定 (Settings)]、[再起動 (Restart)] および [初期設定へのリセット (Factory Reset)] にアクセスできます。また、[コール転送 (Call forwarding)]、[スタンバイ (Standby)] および [着信拒否 (Do not disturb)] モードを有効にすることもできます。

[コール (Call)] をタップして発信します。また、[お気に入り (Favorites)]、[ディレクトリ (Directory)]、および [履歴 (Recents)] の連絡先リストを呼び出します。

ユーザ インターフェイス拡張機能のエントリ ポイント (お使いのデバイスでは、これと異なる色、テキスト、アイコンのボタンがある場合があります)。



? をタップして、ヘルプ デスクまたはその他のファシリティ サービスに問い合わせます (有効な場合)。

[カメラ (Camera)] アイコンをタップして、セルフビューとカメラ制御をアクティブにします。

[オーディオ設定 (Audio settings)] アイコンをタップして、ノイズ除去や音楽モードなどのオーディオ機能をオンにします。

時刻を指定します。

[メッセージ (Messages)] をタップして、ボイスメールを呼び出します (該当する場合)。

[Webexに参加 (Join Webex)] をタップして、Webex ミーティングに参加します。

音量コントロール およびミュート

スピーカの音量を下げるには音量ボタンの左側を押し続け、音量を上げるには右側を押し続けます。

[ミュート (Mute)] ボタンを押して、マイクをミュート/ミュート解除します。

Room Navigator :

- 音量コントロールはタッチスクリーンにあります。
- ミュートボタンはコール中のみ表示されます。

Touch 10 :

- 音量コントロールとミュートボタンはタッチスクリーンの下にあります

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

USB カメラとしてのデバイスの使用

このデバイスは USB カメラとして使用することができます。このモードでは次のコンポーネントが使用されます。

- デバイスのカメラ
- デバイスのマイク
- デバイスのスピーカー
- デバイスの画面 (*Desk Pro および Desk Limited Edition*) ある場合は、デバイスに接続されている画面 (*Room Kit Mini*)
- サードパーティクライアント*を使用しているコンピュータ

デバイスがコールサービス (クラウドまたはオンプレミス) に登録されている場合は、デバイスを通常のビデオ会議デバイスとして使用することも、USB カメラとして使用することもできます。どちらのモードになるかはデバイス自体が決定します。デバイスは、USB-C ポートに接続されたコンピュータにメディアをストリーミングしている場合にのみ USB カメラモードになります。

デバイスがコールサービスに登録されていない場合でも、デバイスを USB カメラとして使用できます。

セットアップと構成

適用対象: *Room Kit Mini*

管理者は、特別な設定を行ってデバイスを USB カメラとしてセットアップする必要はありません。

ただし、次のように一部のカスタマイズと USB カメラのみのセットアップに対する適用を行うことができます。

- 初回のセットアップウィザードには、デバイスを USB デバイスとしてのみ使用するオプションが用意されています。このオプションを選択するときは、コールサービス (クラウドまたはオンプレミス) の登録を省略します。
- デバイスがコールサービスに登録されていない場合は、[\[ユーザインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[Webcam のみモード \(WebcamOnlyMode\)\]](#) 設定を使用して、ユーザインターフェイスを USB カメラのみのシナリオに適応させることができます。

タッチコントローラに対して完全なユーザインターフェイスを保持するか、またはコールサービスに登録されていない場合に不適切な要素を削除するかを選択できます。

ビデオ解像度

サポートされるビデオ解像度:

- 720p
- 1080p

最小要件

最小 USB バージョン:

- USB 2.0

最小のコンピュータオペレーティングシステム:

- Windows 7
- OS X 10.6

D15473.01

RoomOS

10.3

04-2021



* たとえば、Microsoft Teams、Skype for Business、Slack、Zoom などがあります。Cisco は製品の発売前にこれらのクライアントを正常にテストしています。異なるソフトウェアバージョン間の互換性は、定期的にはテストされません。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

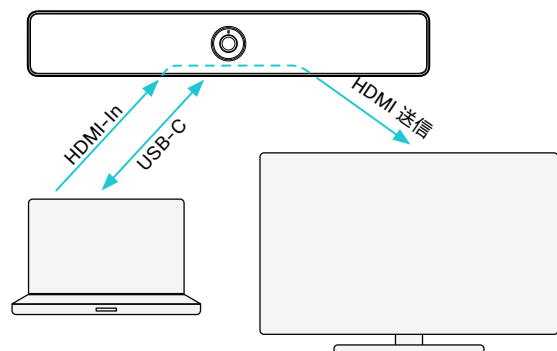
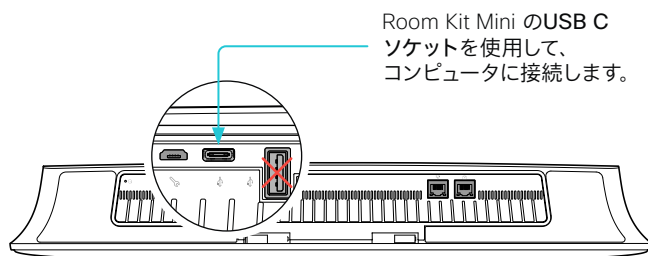
Room Panorama

USB カメラとしてのデバイスの使用 (2/2 ページ)

USB-C に接続する

USB カメラとして使用するには、次に示すようにデバイスがコンピュータに接続されていて、接続がアクティブになっている必要があります (コンピュータがスリープモードになっていないことが必要です)。

Room Kit Mini



USB-C

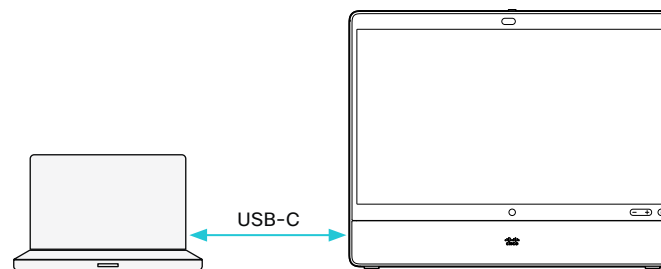
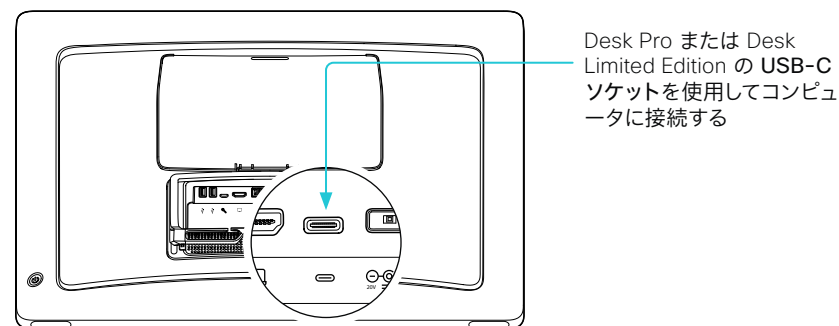
- ビデオ会議デバイスのカメラおよびマイクからのビデオとオーディオを、コンピュータクライアントに出力
- コンピュータクライアントからのオーディオを、ビデオ会議デバイスのスピーカーに出力

HDMI インおよび HDMI 送信:

- コンピュータクライアント (相手先) からのビデオを、ビデオ会議デバイスを通じて画面に出力

デバイスのユーザインターフェイスからカメラと音量を制御できます。その他の機能は、使用しているコンピュータ上のサードパーティクライアントによって制御されます。

Desk Pro および Desk Limited Edition



USB-C

- ビデオデバイスのカメラおよびマイクからのビデオとオーディオを、コンピュータクライアントに出力
- コンピュータクライアント (相手先) からのビデオとオーディオをビデオデバイスのスピーカーと画面に出力。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

パノラマ表示ビデオ

パノラマ表示ビデオでは、2 台のカメラの望遠レンズを同時に使用して広角なカメラビューを作成しています。

パノラマ表示ビデオはサポートされるシナリオで常に使用されます。永続的にも一時的にもオフにできる機能ではありません。

サポートされるシナリオ

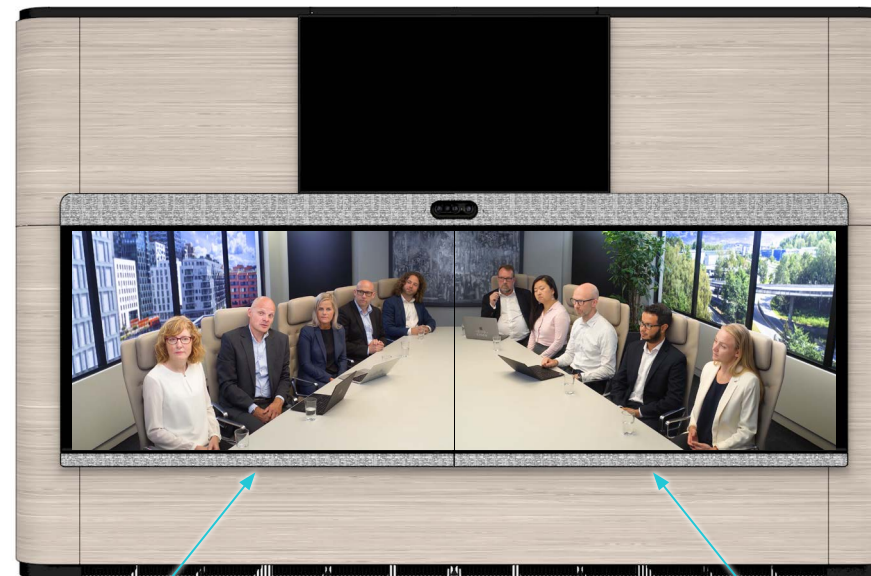
パノラマ表示ビデオは、次のシナリオで使用されます。

- ・ パノラマ表示ビデオをサポートする 2 台のデバイス間のポイントツーポイントコール
- ・ パノラマ表示ビデオをサポートする 2 台のデバイス間の CMS ミーティング

その他のシナリオは、今後のソフトウェアリリースで利用できます。

パノラマ表示ビデオをサポートするデバイス

- ・ Cisco Webex Room Panorama
- ・ Cisco Webex Room 70 Panorama



右の望遠レンズでキャプチャされた
ビデオ



左の望遠レンズでキャプチャされた
ビデオ

カメラの左右の望遠レンズからのビデオはステッチングされ、広角なパノラマビューが作成されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

リモート モニタリングのセットアップ

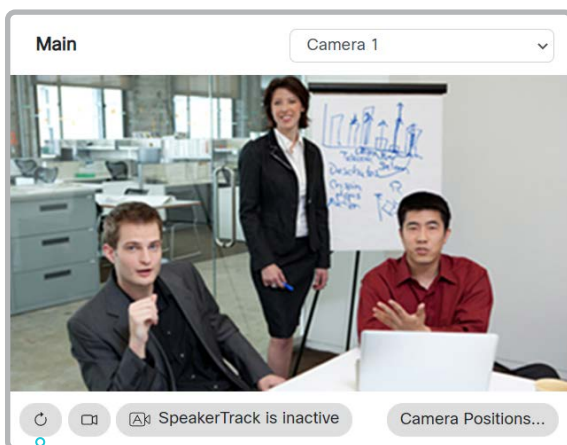
要件:

- ・ [リモート モニタリング (RemoteMonitoring)] オプション

リモート モニタリングは別の場所からデバイスを制御する場合に便利です。

入力ソースからのスナップショットが Web インターフェイスに表示されるため、部屋にいなくてもカメラ ビューをチェックしてカメラを制御できます。

有効にすると、スナップショットは約 5 秒おきに自動的に更新されます。



スナップショットを自動更新する

デバイスでリモート モニタリング オプションを設定するかどうかの確認

1. Web インターフェイスにサインインして、[ソフトウェア (Software)] に移動し、[オプションキー (Option Keys)] を選択します。
2. [RemoteMonitoring] が [インストールされたオプションキー (Installed Option Keys)] のリストにあるかどうかを確認します。
リストにない場合、リモート モニタリングは使用できません。

リモート モニタリングを有効にする

RemoteMonitoring オプション キーをインストールします。オプションキーのインストール方法については、▶ 「オプションキーの追加」の章を参照してください。

リモート モニタリング オプションを有効にする場合は、プライバシーに関する地域の法律および規制を遵守する必要があります。また、システム管理者がカメラや画面を監視および制御する必要があることを、デバイスのユーザに適切な方法で通知してください。デバイスの使用時にプライバシー規制を遵守するのはお客様の責任であり、シスコはこの機能の違法な使用について一切の責任を追わないものとします。

スナップショットについて

ローカル入力ソース

デバイスのローカル入力ソースのスナップショットは [コール制御 (Call Control)] ページに表示されます。

スナップショットは、デバイスがアイドル状態のときおよびコール中に表示されます。

遠端のスナップショット

通話中の場合、遠端カメラからのスナップショットも表示できます。これは、相手先デバイスでリモート モニタリング オプションが設定されているかどうかとは関係がありません。

遠端スナップショットは、コールが暗号化されていると表示されません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

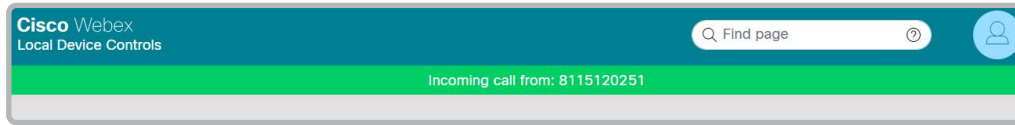
Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web インターフェイスを使用したコール情報へのアクセスとコール応答

Web ページの上部にある緑のバナーは、着信コールについて通知するため、またデバイスがコール中であることを表示するためにあります。

デバイスがアイドル状態の場合、緑のバナーはありません。







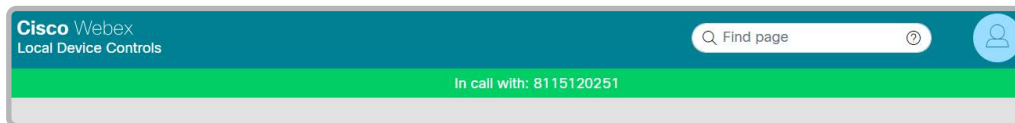
着信通知

緑のバナーをクリックして [コール (Call)] ページを開きます。ここで、コールの応答または拒否を行うことができます。

コールの操作

[コール (Call)] ページでは、コール操作に関する操作ボタンが表示されます。各ボタンを使用して次のことを実行します。

-  コールの詳細を表示する
-  コールを保留にする
-  通話に応答する
-  コールを切断する



デバイスがコール中

デバイスがコール中である場合は、緑のバナーが表示されます。また、デバイスに複数のアクティブコールがある場合にも表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web インターフェイスを使用したコールの発信 (1/2 ページ)

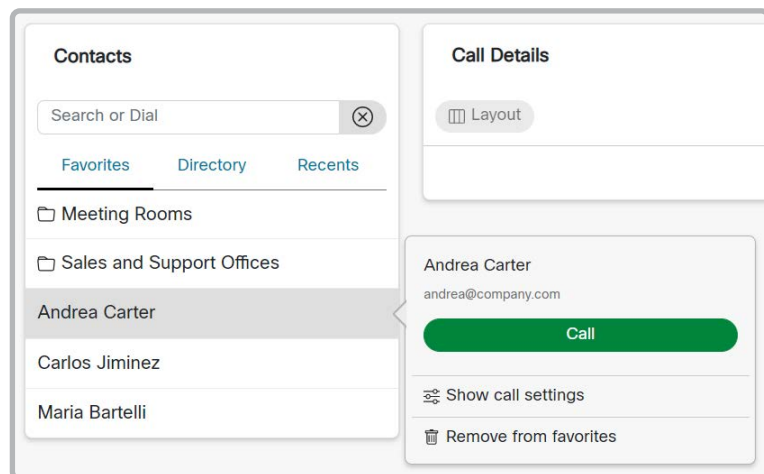
Web インターフェイスにサインインして、[\[コール \(Call\)\]](#) に移動します。

コールの発信

i Web インターフェイスを使ってコールを開始した場合でも、コールに使用されるのはビデオ会議デバイス (ディスプレイ、マイク、およびスピーカー) であり、Web インターフェイスを実行している PC ではありません。

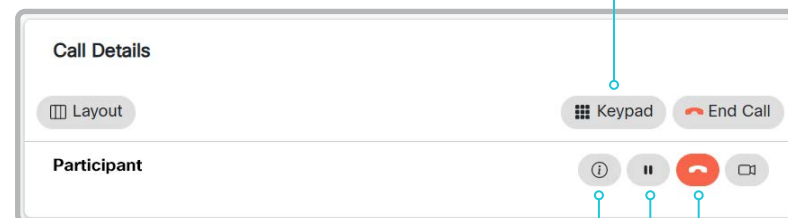
- 正しいエントリを見つけるには、[\[お気に入り \(Favorites\)\]](#) リスト、[\[ディレクトリ \(Directory\)\]](#) リスト、または [\[発着信履歴 \(Recents\)\]](#) リストに移動するか、あるいは [\[検索またはダイヤル \(Search or Dial\)\]](#) フィールドに 1 文字以上を入力します。該当する連絡先名をクリックします。
- 連絡先カードで [\[コール \(Call\)\]](#) をクリックします。

または、[\[検索して発信 \(Search and Dial\)\]](#) フィールドに完全な URI または番号を入力します。次に、URI または番号の横に表示される [\[コール \(Call\)\]](#) ボタンをクリックします。



DTMF トーンの送信

アプリケーションが DTMF (デュアルトーン多重周波数) シグナリングを必要とする場合は、クリックしてキーパッドを開きます。



コールの詳細の表示/非表示

情報ボタンをクリックすると、コールの詳細情報が表示されます。

もう一度ボタンをクリックすると情報が非表示になります。

コールの保留および復帰

参加者を保留にするには、その名前の横にある **||** ボタンを使用します。

コールを再開するには、保留中の参加者に表示される **▶** ボタンを使用します。

コールの終了

コールまたは会議を終了する場合は、[\[コールの終了 \(End Call\)\]](#) をクリックします。表示されるダイアログで選択内容を確認します。

1 人の参加者のみコールを終了するには、その参加者の **▶** ボタンをクリックします。

* 検索時には、入力内容に応じて、[\[お気に入り \(Favorites\)\]](#)、[\[ディレクトリ \(Directory\)\]](#)、および [\[履歴 \(Recents\)\]](#) リストの一致するエントリが表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web インターフェイスを使用したコールの発信 (2/2 ページ)

Web インターフェイスにサインインして、[\[コール \(Call\)\]](#) に移動します。

複数の相手に発信

ポイントツーポイントのビデオ コール (2 者間限定のコール) を拡張して、音声専用でもう 1 人の参加者を含めることができます。

オプションで搭載される MultiSite 機能をデバイスで使用している場合は、自身を含めて最大 4 人または 5 人までビデオコール (会議) に参加できます (表を参照)。

TV会議本体	MultiSite コールの参加者の最大数
Board, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70	4
Codec Pro, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama	5

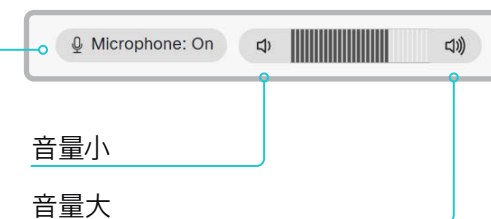
最初の参加者を呼び出したときと同じ手順で、次の会議参加者を呼び出してください。

音量の調整

マイクをミュートにする

[\[マイク: オン \(Microphone: On\)\]](#) をクリックして、マイクをミュートにします。すると、テキストが [\[マイク: オフ \(Microphone: Off\)\]](#) に変わります。

ミュートを解除するには、[\[マイク: オフ \(Microphone: Off\)\]](#) をクリックします。



音量小

音量大

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web インターフェイスを使用したコンテンツの共有

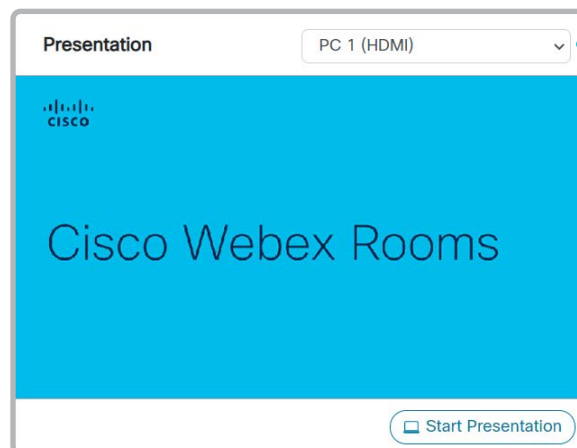
Web インターフェイスにサインインして、[コール (Call)] に移動します。

コンテンツの共有

1. プレゼンテーション ソース ドロップダウンリストで、共有するコンテンツ ソースを選択します。
1 つの入力ソースのみをサポートする製品には、ドロップダウンリストに 1 つのエントリのみがあります。
2. [プレゼンテーションの開始 (Start Presentation)] をクリックします。すると、テキストが [プレゼンテーションの停止 (Stop Presentation)] に変わります。

コンテンツ共有の停止：

共有している間に表示される [プレゼンテーションの停止 (Stop Presentation)] ボタンをクリックします。



プレゼンテーション ソース ドロップダウン リスト

ドロップダウン リストから、共有する入力ソースを選択します。

スナップショット領域

選択されたプレゼンテーション ソースのスナップショットが表示されます。

リモート モニタリングオプションが設定されているデバイスでのみ利用できます。

コンテンツ シェアリング (共有) について

デバイスのビデオ入力にプレゼンテーションソースを接続できます。ほとんどの場合は PC がプレゼンテーション ソースとして使用されますが、デバイスの設定によっては他のオプションを使用できる場合があります。

コールの間、コールの他の参加者 (相手先) とコンテンツを共有できます。

コール (通話) 中でない場合は、コンテンツはローカルに表示されます。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

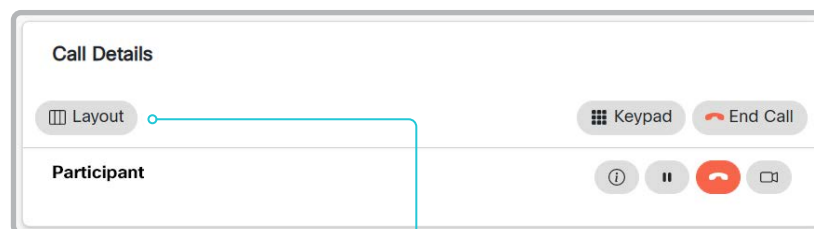
Room 70 Panorama

Room Panorama

ローカル レイアウトの制御

Web インターフェイスにサインインして、[\[コール \(Call\)\]](#) に移動します。

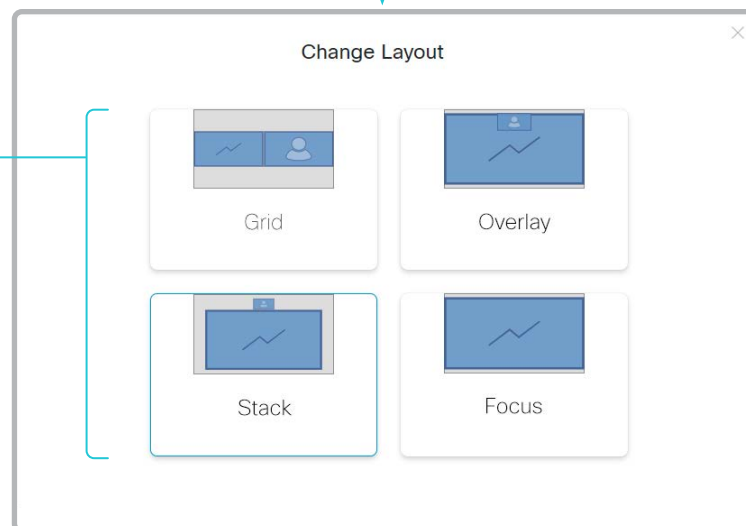
注: ローカルレイアウトの制御はパノラマ表示ビデオのシナリオでは使用できません。



レイアウトの変更

[\[レイアウト \(Layout\)\]](#) をクリックし、表示されるウィンドウで望ましいレイアウトを選択します。^{*}

選択するレイアウトのセットは、デバイスの設定によって異なります。



レイアウトについて

ここでいうレイアウトとは、プレゼンテーションとビデオを画面に表示するさまざまな方法のことです。会議の種類によって、レイアウトを変える必要があります。

通話や会議の参加者の数は、選択肢に反映されます。

注: レイアウトのセットは、現在名前が変更されています。短い期間、古い名前と新しい名前の両方が混在して使用されている場合があります。

古い名前	新しい名前
等分	グリッド
オーバーレイ	オーバーレイ
対象拡大表示	スタック
シングル	重点

^{*} 会議ブリッジにコールしている場合、参加者レイアウトの変更は、ビデオ会議デバイスでサポートされていても、Web インターフェイスではサポートされません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ローカル カメラの制御

Web インターフェイスにサインインして、**[コール (Call)]** に移動します。

手動カメラ制御の前提条件

- ・ **[ビデオ (Video)]** > **[入力 (Input)]** > **[コネクタ n (Connector n)]** > **[カメラ制御 (CameraControl)]** > **[モード (Mode)]** 設定が **[オン (On)]** になっている。
- ・ カメラにパン、チルト、またはズーム機能が付いている。
- ・ ベストオーバービュー / スピーカートラッキングがオフである。
- ・ パノラマ表示ビデオが使用されていない。

スナップショット領域

選択したカメラ (メイン入力ソース) のスナップショットが表示されます。

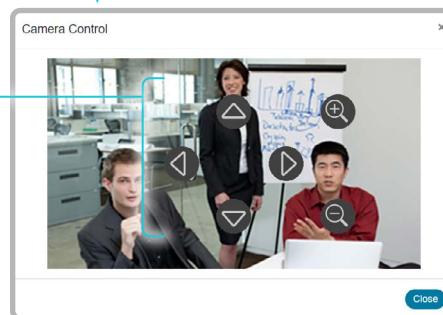
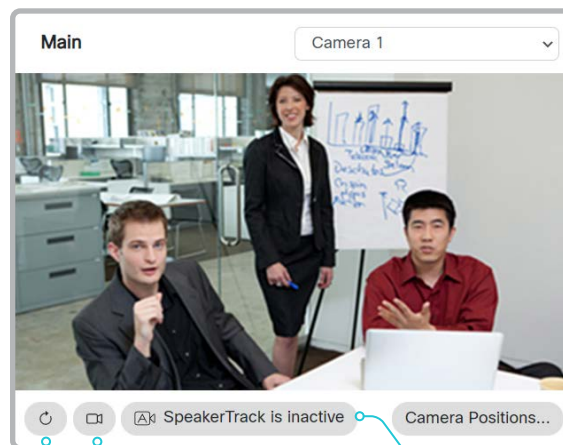
リモート モニタリングオプションが設定されているデバイスでのみ利用できます。

スナップショットを自動更新する

パン/チルト/ズーム コントロールを使用したカメラの移動

スピーカートラッキング / ベストオーバービューがオンの場合、カメラ制御は使用できません。

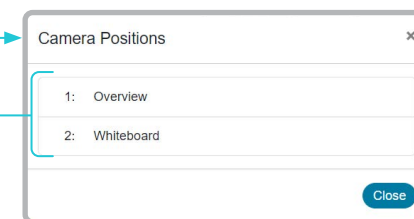
1. 該当する場合は、**[メイン (Main)]** ソースドロップダウンリストで、制御するカメラを選択します。
2. カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
室内からのビデオ スナップショットは、リモート モニタリングオプションが設定されているデバイスにのみ表示されます。
3. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには **+** および **-** を使用します。
関連するコントロールのみがウィンドウに表示されます。
4. **[閉じる (Close)]** をクリックして、ウィンドウを閉じます。



[メイン (Main)] ソース ドロップダウン リスト

このドロップダウン リストから、制御するカメラを選択します。

1つのカメラのみをサポートする製品には、ドロップダウンリストが含まれていません。



カメラのプリセット位置への移動

1. 該当する場合は、**[メイン (Main)]** ソースドロップダウンリストで、制御するカメラを選択します。
2. **[カメラの位置... (Camera Positions...)]** をクリックして、使用可能なプリセットのリストを開きます。
プリセットが定義されていない場合は、ボタンが無効になり、**[プリセットなし (No presets)]** と表記されます。
3. プリセットの名前をクリックすると、カメラがそのプリセット位置に移動します。
4. **[閉じる (Close)]** をクリックして、ウィンドウを閉じます。

- i** Web インターフェイスを使用してプリセットを定義することはできません。デバイスのユーザーインターフェイスを使用する必要があります。
プリセットを選択すると、スピーカートラッキング / ベストオーバービューは自動的にオフになります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

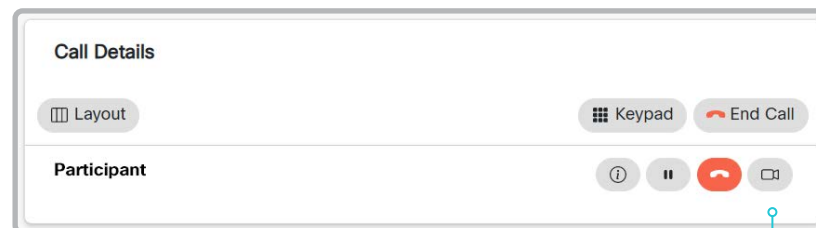
相手先カメラの制御

Web インターフェイスにサインインして、[\[コール \(Call\)\]](#) に移動します。

前提条件

以下の条件において、通話中にリモート参加者のカメラ（相手先）を制御できます。

- ・ パノラマ表示ビデオが使用されていない。
- ・ 相手先デバイスで [\[会議 \(Conference\)\]](#) > [\[相手先制御 \(FarEndControl\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定が [オン (On)] になっている。
- ・ 遠端カメラにパン、チルト、ズーム機能がある。関連する制御のみ表示される。
- ・ 相手先カメラでスピーカートラッキングがオンになっていない。
- ・ ローカル デバイスでリモート モニタリング オプションが設定されている。

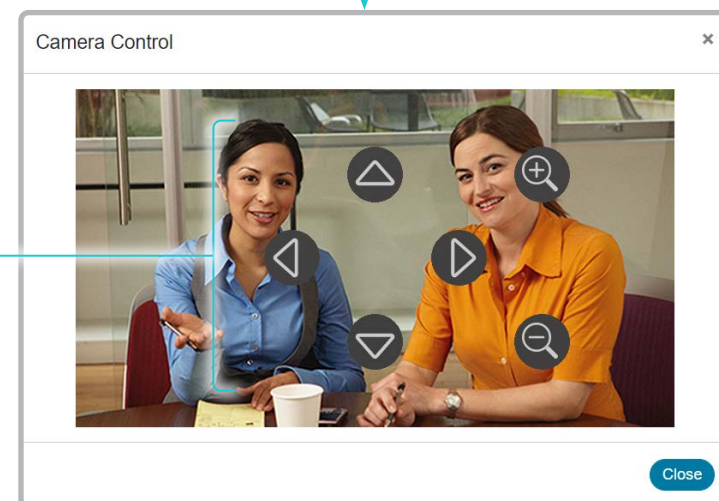


リモート参加者のカメラを制御

1. リモート カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
2. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには + および - を使用します。

遠端カメラの制御が許可されていない場合は、画面にコントロールが表示されません。

コールが暗号化されている場合、制御の背後の遠端スナップショットは表示されません。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルーム分析

ルーム分析機能は、会議室からのいくつかの変数を使用します。また、それらの変数を再利用して、時間経過やコールのたびに部屋の使用率を分析します。

以下に示す設定を見つけるには、Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。

ステータスを確認するには、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ステータス \(Statuses\)\]](#) を選択します。

環境ノイズ レポート

このデバイスでは、室内の定常環境雑音レベルをレポートできます。レポートされた値はA荷重デシベル値(dBA)で、人間の耳の応答に反響します。この機能に関連するすべてのシグナリング処理はローカルで、転送されるデータは算出されたノイズレベルだけです。

この値はノイズレベルの異常な変化の検出に使用できます。このような変化は、室内で仕事をしている人にとっては不快なノイズを引き起こす場合があります。施設管理はこの問題をトラブルシューティングするために迅速に介入できます。

Web インターフェイスから周囲ノイズの検出をオンまたはオフにできます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) > [\[環境雑音の予測 \(AmbientNoiseEstimation\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定を使用します。

人の存在の検出

このデバイスは、人が室内にいるかどうかを見つける機能を備えています。室内に人がいるかどうかを検知するには最低 2 分かかります。部屋が空室になった後、ステータスを変更するまで最大 2 分かかることがあります。

この機能は、超音波に基づいています。室内にいた人物の記録を保持することではなく、人が部屋にいたかどうかだけを検知します。

Web インターフェイスから人の存在の検出をオンまたはオフにできます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) > [\[人の存在の検出 \(PeoplePresenceDetector\)\]](#) 設定を使用します。

人数のカウント

顔検出を使用して、デバイスで室内の人数を特定できます。室内にいた人物の記録を保持することではなく、顔の平均数だけを検知します。カメラに顔を向けていない人はカウントされません。室内に物体や写真がある場合、これらも顔として検知され、カウントされる可能性があります。

信頼性の高い平均数を得るために、コール時間の長さは最低 2 分必要です。2 分未満のコールと人数のカウントが無効にされたコールでは、通話履歴を取得すると「N/A」が表示されます。

デフォルトでは、デバイスはコール中またはセルフビュー画像を表示しているときにのみ人数をカウントします。

非通話中の人をカウントするように選択できます。オンにすると、デバイスは、デバイスがスタンバイ モードでない場合に人数をカウントします。セルフ ビューがオフであっても、これは非通話中の人数を含みます。

[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) > [\[非通話中の人をカウント \(PeopleCountOutOfCall\)\]](#) 設定を使用します。

Codec Pro および Codec Plus の場合

- コール中の人数カウントでは、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラを使用する必要があります。
- 非通話中の人数カウントでは、Quad Camera が必要です。

ステータス

人の存在および人のカウントに関する特定の瞬間のステータスを確認することができます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) のステータスを確認します。

診断

ユーザインターフェイスからスピーカートラックの診断モードを有効にすると、リアルタイムの人数のカウントが画面面上に表示されます。セルフビューをオンにし、ユーザ インターフェイスの最上部にあるデバイス名またはアドレスをタップして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) メニューを開きます。[\[問題と診断 \(Issues & diagnostics\)\]](#) をタップし、[\[SpeakerTrack の診断 \(SpeakerTrack diagnostics\)\]](#) をオンにします。

Board の場合:

タッチコントローラが接続されている場合は、前述の手順を使用できます。

別の方法として、ボード自体のテクニカルサポート画面を開くこともできます (ボードの画面に 1 本の指を置いたままホームボタンを 3 回押します)。次に、[デバイス (Device)] タブの [\[ハードウェア診断 \(Hardware diagnostics\)\]](#) をクリックし、[\[ベストオーバービューのデバッグ \(BestOverview debug\)\]](#) をオンにします。

通話履歴コマンド

コール後に、通話履歴コマンドから人々の平均数の値を抽出できます。

- xCommand CallHistory Get DetailLevel: Full

通話履歴コマンドは、API (Application Programming Interface) から使用できます。詳細については、すべての製品を対象にした API リファレンスガイドを参照してください。次のリンクからアクセスできます。

- ▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

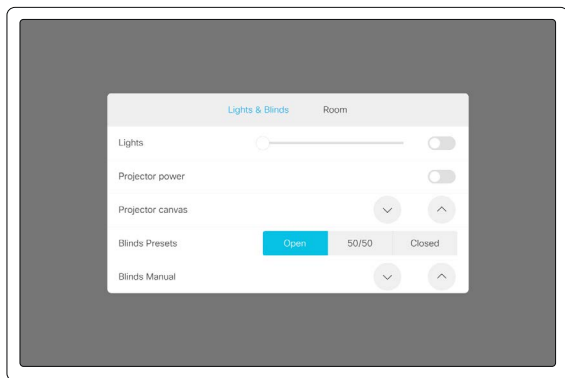
Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスのカスタマイズ

ユーザ インターフェイスをカスタマイズして、照明やブラインドなど、会議室内の周辺機器を制御したり、マクロをトリガーしてビデオ会議デバイスの動作を変更したりできます。

これにより、制御システムの機能と、ビデオ会議デバイスの使いやすいタッチユーザインターフェイスを強力に組み合わせることができます。



室内制御パネルの例

UI 拡張エディタを使用してカスタムのユーザインターフェイスパネル、アクションボタン、Web アプリを設計する方法、およびビデオ会議デバイスの API を使用してコントロールとアクションをプログラミングする方法の詳細については、[カスタマイズガイド](https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs)をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

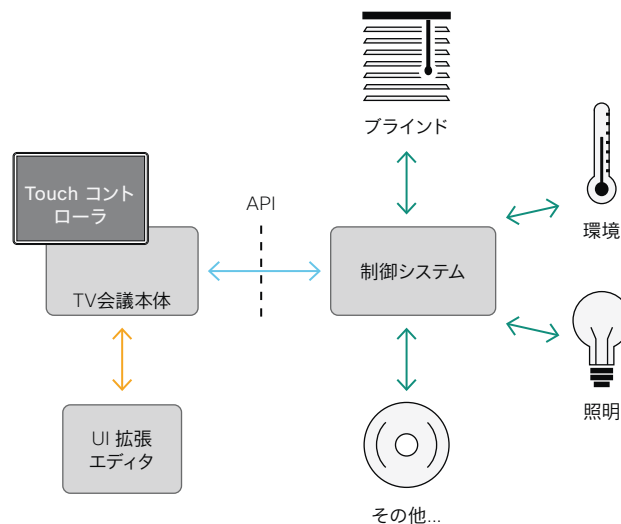
▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

室内制御アーキテクチャ

タッチインターフェイス (タッチコントローラまたは統合タッチスクリーン)、およびコントロールシステムを備えた Cisco ビデオ会議デバイスが必要です。制御システムは、ハードウェア ドライブや周辺機器を備えた Crestron や AMX などの他社製システムである場合もあります。これはビデオ会議デバイスではなく、周辺機器を制御するコントロール システムです。

コントロール システムをプログラミングするときは、ビデオ会議デバイスのユーザ インターフェイス上のコントロールに接続するために、ビデオ会議デバイスの API (イベントとコマンド) を使用する必要があります。

ビデオ会議デバイスのマクロ フレームワークは、コントロール システムとしても使用できます。この場合、コントロール システムはデバイスの API を使用して、短縮ダイヤル、言語の選択、カスタマイズされたシステムのリセットなど、あらゆる種類のローカル機能をトリガーすることができます。



室内制御の概略図

製品サポート

これらのデバイスでは、カスタムユーザインターフェイスパネルおよびアクションボタンをサポートします。

- ・ タッチコントローラを備えるデバイス。
- ・ タッチスクリーンが統合されたデバイス。

これらの製品は、Web アプリをサポートします。

- ・ タッチスクリーンが統合されたデバイス。

Board の場合:

- ・ タッチコントローラをボードに接続していない場合、カスタムパネルとアクションボタンはボード自体にあります。
- ・ タッチコントローラをボードに接続している場合は、すべてのカスタムパネルとアクションボタンがタッチコントローラ上にあります。
- ・ Web アプリは常にボードに表示されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスのカスタマイズ (ページ 2/2)

UI 拡張エディタ

無料のエディタ

ビデオ会議デバイスのソフトウェアには、ドラッグアンドドロップ方式の使いやすいエディタが無償で付属しています。カスタムユーザーインターフェイス拡張機能 (アクションボタン、Web アプリ、および室内制御などのカスタムパネル) を作成するには、このエディタを使用します。

Web インターフェイスにサインインして、[\[UI 拡張エディタ \(UI Extensions Editor\)\]](#) に移動します。

- デバイスの Web インターフェイスでエディタが直接開きます。新しいパネル、アクションボタン、または Web アプリを作成してデバイスにプッシュし、その結果をすぐにユーザーインターフェイスで確認することができます。

プレビュー機能

エディタは、カスタム インターフェイスがどのようにユーザ インターフェイスに表示されるか確認するためのプレビュー機能も提供します。

-  をクリックしてプレビューを開始します。

プレビュー機能ではカスタム パネルがソフトウェア的に完全に再現されるため、コントロールをクリックすると、実際のユーザ インターフェイスでコントロールを選択した場合と同じアクションが実行されます。

したがって、実際の ユーザ インターフェイスを有効にすることなく、プレビュー機能を使用してお使いの統合をテストできます。リモートの場所からデバイスのカスタム パネルを使用することもできます。

* UI 拡張エディタおよびプログラミングに必要な API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN ユーザ ロールを持つユーザが必要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

マクロを使用したビデオ会議デバイスの動作のカスタマイズ

マクロにより、デバイスで実行するコードの独自のスニペットを作成できます。言語は、アロー関数、promise および class などの機能をサポートする JavaScript/ECMAScript 6 です。

インテグレータは、マクロ フレームワークを利用して、個別の顧客要件に応じてデバイスの動作を調整するスクリプトを作成できます。インテグレータが行える作業には、独自の機能または機能のバリエーションの実装、特定の設定または再設定の自動化、機能のカスタム テストやモニタリングの作成などがあります。

マクロの使用とカスタム ユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張機能) の作成を組み合わせることで、カスタマイズされたローカル機能をトリガーするようにユーザ インターフェイスを変更できます。以下に例を示します。

- 短縮ダイヤル ボタンの追加
- すべての設定を好みのデフォルト セットアップに戻すためのルームリセットボタンの追加

マクロの詳細およびデバイスに搭載されているマクロ エディタの使用方法については、[カスタマイズ ガイド](#)をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

デバイスでのマクロの使用許可

Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。

- [\[マクロ \(Macros\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定します。

この設定が [オフ (Off)] の場合にマクロ エディタを起動しようとすると、ポップアップ メッセージが表示されます。[\[マクロの有効化 \(Enable Macros\)\]](#) をタップして応答した場合は [\[マクロ \(Macros\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定が自動的に [オン (On)] に変更され、エディタが起動します。

マクロ エディタの起動

Web インターフェイスにサインインして、[\[マクロエディタ \(Macro Editor\)\]](#) に移動します。

これにより、デバイスの Web インターフェイスに組み込まれているマクロエディタが開きます。スタンドアロンのエディタは提供していません。

マクロ エディタ

マクロ エディタは、以下のことができる強力なツールです。

- 変更したり、そのまま使用したり、または自身のマクロを記述する際のヒントとして使用したりするコードの例をロードできます。
- 詳細なマクロ記述チュートリアルを用意しているため、参照してください。コードの例についても、より詳しく説明しています。
- 独自のマクロを記述して、デバイスにアップロードできます。
- マクロは、個別に有効または無効にできます。
- マクロを実行したときの動作は、組み込みのログ コンソールで確認できます。

* マクロ エディタにアクセスするには、ADMIN ユーザ ロールを保持しているユーザが必要です。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

ユーザインターフェイスからのデフォルトボタンの削除

通話 または 共有などのデフォルトボタンを使用しない使用例もあります。このような使用しないボタンは混乱を引き起こす場合があります。このような場合、使用しないボタンをユーザインターフェイスから削除できます。その場合もカスタム UI ボタンは表示できます。カスタムボタンの追加中にデフォルトボタンを削除すると、ユーザインターフェイスを完全にカスタマイズできるようになります。

たとえば、誰もこのデバイスからコンテンツや通話を共有しない場合は、[通話 (Call)] ボタンと [共有 (Share)] ボタンを削除できます。代わりに、実行する予定のタスク用のカスタム ボタンとパネルを追加します。

構成

以下の設定を使ってデフォルトボタンをユーザ インターフェイスから削除します。設定は、デバイスの Web インターフェイスと API の両方から利用できます。

- **ユーザーインターフェイス > 機能 > 通話 > 開始**: デフォルト 通話 ボタンを削除 (ディレクトリ、お気に入り、最近の通話リストを含む)。さらに、通話中に参加者ボタンを追加します。^{*}
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [Webex に参加 (JoinWebex)]**: Webex ミーティングに参加するためのデフォルトのボタンを削除します。
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [共有 (Share)] > [開始 (Start)]**: 通話中および通話中以外の両方で、コンテンツの共有およびプレビュー用のデフォルトユーザ インターフェイスを削除します。
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [ホワイトボード (Whiteboard)] > [開始 (Start)]**: ホワイトボードを開始するためのデフォルトのボタンを削除します。 (Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition)
- **ユーザーインターフェイス > 機能 > 通話 > ビデオミュート**: デフォルト ビデオをオフにする ボタンを削除します。 (Desk Pro および Desk Limited Edition ではサポートされません)
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [終了 (End)]**: 通話終了 ボタンを削除します。
- **ユーザーインターフェイス > 機能 > 通話 > MidCallControls**: 保留、再開、および 転送 通話中ボタンを削除します。^{*}
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [音楽モード (MusicMode)]**: デバイスの音楽モードを有効にするトグルボタンを削除します。音楽モードは、マイクが音楽をキャプチャする必要がある場合に便利です。
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [キーパッド (Keypad)]**: 通話中の [キーパッド (Keypad)] ボタンを削除します。このボタンは、DTMF 入力に使用できるキーパッドを開きます。
- **[ユーザインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [すべて非表示 (HideAll)]**: すべてのデフォルトボタンを削除します。カスタム ボタンは削除されません。

解説場所

ボタンの削除方法およびユーザインターフェイスのカスタマイズ方法については **カスタマイズガイド**を参照してください。 次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>



設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。共有 ボタンをユーザインターフェイスから削除しても、Proximity を使用してコンテンツを共有できます。

^{*} Board: 参加者の [追加 (Add)], [保留 (Hold)], [再開 (Resume)], [転送 (Transfer)] ボタンは Board 自体では使用できません。接続されたタッチコントロールのみ使用できます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

サードパーティ USB 入力デバイスの使用

サードパーティ製の USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能を制御できます。USB ドングルや USB キーボードでの Bluetooth リモート制御はこのような入力デバイスの一例です。

この機能は、利便性を高めるために、ビデオ会議デバイスのユーザインターフェイスの機能を補完することを目的としています。ユーザインターフェイスを置き換えるものではありません。

アプリケーションの例

- クラスルームや講義で、小型のリモコンを使用してビデオ会議デバイスをスタンバイ モードから復帰させることができます。また、表示する入力ソースを選択するためにリモート制御を使用するのも便利です。
- タッチインターフェイスを使用できない状況で、カメラビュー（パン、チルト、ズーム）を制御します。例えば、病院の手術室。

機能の概要

USB 入力デバイスのボタンを押すと、API でイベントが生成されます。マクロまたはサードパーティの制御デバイスは、こういったイベントをリッスンして応答することが可能です。この動作は、カスタム UI ボタン (UI 拡張機能) の動作と似ています。ウェーブフックを使って、直接SSH セッションでイベントをリッスンすることも可能です。

アクション選択からすぐに利用できるアクションのライブラリはありません。ご自身で、イベントに対する応答として行うアクションを定義して実装する必要があります。次に例を示します。

- [音量アップ (Volume Up)] キーが押されたら、ビデオ会議デバイスの音量を上げる。
- [スリープ (Sleep)] キーが押されたら、ビデオ会議デバイスをスタンバイモードにする。

設定、イベント、およびステータス

USB 入力デバイスのサポートはデフォルトで無効になっています。[周辺機器 > InputDevice > モード](#) を オン に設定することで明示的に有効にします。

ボタンを押してから離すと、押されたおよびリリースされたイベントが作成されます：

```
*e UserInterface InputDevice Key アクションキー: <キーの名前>
*e UserInterface InputDevice Key アクションコード: <キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: 押された
** end
*e UserInterface InputDevice Key アクションキー: <キーの名前>
*e UserInterface InputDevice Key アクションコード: <キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: リリースされた
** 終了
```

イベントをリッスンするには、InputDevice イベントからのフィードバックを登録する必要があります。

```
xFeedback Register /event/UserInterface/InputDevice
** end
```

ビデオ会議デバイスでサードパーティの入力デバイスが検出されると、その入力デバイスがビデオ会議デバイスの [\[ユーザインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[周辺機器 \(Peripherals\)\] > \[接続されているデバイス \(ConnectedDevice\)\]](#) ステータスに表示されます。入力デバイスは複数のデバイスとして報告される場合があります。

必要な工具

- Cisco Webex Room、Board、または Desk シリーズのデバイス。
- デバイス自体を USB キーボードとしてアダプタ化するサードパーティ入力デバイス。例えば、USB ドングル付きの Bluetooth リモート制御。

解説場所

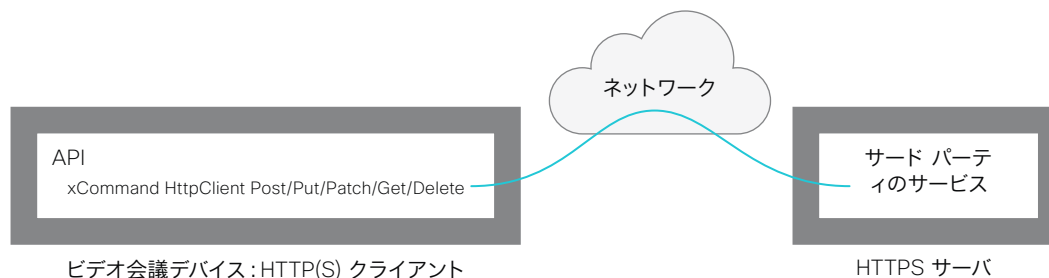
サードパーティ入力デバイスの利用についての詳細は、[カスタマイズガイド](#)をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Cisco support (TAC) はマクロを含む、サードパーティ コードのデバッグに対応していません。マクロやサードパーティコードについてのヘルプは、▶ [Cisco Collaboration Developer コミュニティ](#) を確認してください。

カスタマイゼーション

HTTP(S) 要求の送信



HTTP(S) 要求機能を使用すると、ビデオ会議デバイスから HTTP(S) サーバに任意の HTTP(S) 要求を送信できます。さらに、デバイスはサーバから送信された応答を受信します。このデバイスは、POST、PUT、PATCH、GET、および DELETE メソッドをサポートします。

マクロを使用すると、必要に応じて HTTPs サーバにデータを送信できます。送信するデータを選択して、必要に応じて構造化することができます。それにより、すでに確立されているサーバにデータを適合させることができます。

セキュリティ対策:

- HTTP(S) 要求機能は、デフォルトでは無効になっています。システム管理者は `HttpClient > モード` をオンに設定することでこの機能を明示的に有効にする必要があります。
- システム管理者は `HttpClient > AllowHTTP` を偽に設定することで HTTP の使用を防ぐことができます。
- システム管理者は、デバイスがデータを送信可能な先である HTTP(S) サーバのリストを指定することができます。
- 同時 HTTP(S) 要求の数は制限されています。

許可されている HTTP(S) サーバのリスト

システム管理者はコマンドを使用して最大 10 の許可されている HTTP(S) サーバ (ホスト) のリストを設定し維持できます:

- `xCommand HttpClient` はホスト名追加表現を許容します: `<HTTP(S) サーバのホスト名または IP アドレスに一致する正規表現>`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname Clear`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname List`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname Remove Id:` `<リスト内のエンタリーの ID>`

リストが空でない場合、HTTP(S) リクエストをリスト内のサーバにだけ送信できます。リストが空の場合、リクエストを任意の HTTP(S) サーバに送信できます。

許可されているサーバのリストに対するチェックは、非セキュア (HTTP) およびセキュア (HTTPS) なデータ転送の両方で実行されます。

証明書の検証なしの HTTPS の使用

HTTPS 経由で要求を送信する場合、ビデオ会議デバイスはデフォルトで HTTPS サーバの証明書を確認します。HTTPS サーバ証明書が有効でない場合、エラーメッセージが表示されます。デバイスはそのサーバにデータを送信しません。

証明書が検証される HTTPS の使用を推奨します。証明書の検証が不可能な場合、システム管理者は `[HTTP クライアント (HttpClient)] > [セキュアでない HTTPS を許可 (AllowInsecureHTTPS)]` を `[オン (On)]` に設定できます。これにより、サーバの証明書を検証せずに HTTPS を使用することができます。

HTTP(S) 要求の送信

HTTP(S) 要求機能が有効になったら、次のコマンドを使用して要求を HTTP(S) サーバに送信できます。

```
xCommand HttpClient <メソッド>
[AllowInsecureHTTPS: <True/False>]
[Header: <ヘッダー テキスト>]
[ResponseSizeLimit: <最大応答サイズ>]
[ResponseBody: <None/PlainText/Base64 >]
[Timeout: <タイムアウト時間>]
Url: <要求の送信先 URL>
```

<メソッド> は、Post、Put、Patch、Get、Delete のいずれかです。

Post、Put、および Patch コマンドは複数行コマンドです。複数行コマンドの使用方法和、コマンド パラメータの詳細な説明については、API ガイドをお読みください。

解説場所

HTTP(S) Post リクエストについての詳細情報は `カスタマイズガイド` にあります。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web ビュー ベースの機能

デジタル サイネージ

デジタル サイネージを使用すると、デバイスがハーフウェイク状態のときにカスタム コンテンツ (Web ページ) を表示できます。デジタル サイネージは、広告コンテンツを表示してブランドを宣伝するだけでなく、訪問者や社内の従業員情報、ダッシュボード、またはカレンダーを表示するのに最適な方法です。

カスタムコンテンツは、ハーフウェイク状態の従来の背景画像と情報を置き換え、常にフルスクリーンで表示されます。Web ウィンドウまたはタブ 1 つのみがサポートされます。Web ページが新しいウィンドウまたはタブでページを開こうとすると、現在のページは置き換えられます。

キャッシュ、Cookie、ローカル ストレージなどのデータは、デバイスの再起動時に自動的に消去されることはありません。データを削除するには、ストレージ削コマンドを使用する必要があります。

- xCommand WebEngine DeleteStorage [Type: Webengine]

Web ページがサポートされていない場合、デバイスはすぐに通常のハーフウェイク モードになります。

インタラクティブ モード

適用対象: Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition

ユーザーは、リンクのクリックやフォームへのテキスト入力など、画面上のコンテンツの操作を行うことができます。

デジタル サイネージのセットアップ

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定して、Web エンジンを有効にします。
3. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定して、デジタル サイネージを有効にします。
4. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[URL \(Url\)\]](#) に、表示する Web ページの URL を入力します。
5. Web ページは、デバイスがスタンバイ モードになる前に表示されます。Web ページの表示時間を決定するには、次の設定を使用します。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#): Off に設定すると、デバイスはスタンバイ モードになりません (非推奨)。On に設定すると、[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[遅延 \(Delay\)\]](#) がタイムアウトしたときにデバイスがスタンバイ モードになります。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[遅延 \(Delay\)\]](#): デバイスがスタンバイ モードになるまでに Web ページを表示する時間 (分単位) を定義します。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[モーション検知復帰 \(WakeUpOnMotionDetection\)\]](#): On に設定すると、人が室内に入ったときにデバイスが自動的にスタンバイから復帰して Web ページを表示します。Off に設定すると、人が室内に入ってもデバイスは影響を受けません。

その他のデジタル サイネージ設定:

- 音声が含まれる Web ページで音声を再生するかどうかを決定します。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[音声 \(Audio\)\]](#)
- サポートされている場合は、Web ページとの対話を許可するかどうかを決定します。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[対話モード \(InteractiveMode\)\]](#)
- Web ページを一定の間隔で強制的に更新する。これは、Web ページが自動更新されない場合に便利です。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[更新間隔 \(RefreshInterval\)\]](#)

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビューベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンには、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされていません。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[リモート デバッグ \(RemoteDebugging\)\]](#)

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

[\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[HTTP\]](#) > [\[プロキシ \(Proxy\)\]](#)

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[Httpプロキシの使用 \(UseHttpProxy\)\]](#)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web ビュー ベースの機能

Web アプリ

Web アプリは、ユーザーがデバイスのホーム画面からアクセスできる Web ページまたはアプリケーションです。Web アプリは通話中でない場合にのみ使用できます。

Web アプリはフルスクリーンで起動し、15 分間使用されないとタイムアウトします。Web アプリは対話型にすることもできます。

キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

Web アプリを作成するには、デバイスの Web インターフェイスから利用できる *UI 拡張エディタ*を使用する必要があります。エディタでは、ホーム画面で使用されるラベルとアイコンも設定できます。デフォルトでは Web ページのアイコンが使用されますが、代わりに別のアイコンを選択することもできます。

アイコンの詳細：

- 形式：.ico、.png、.jpg、svg、または .gif
- アイコンサイズ：最小 60 × 60 ピクセル、最大 1200 × 1200 ピクセル


代表的なアプリとして、Office 365、Trello、Wikipedia、YouTube のほか、社内の Web ページやツールがあります。

解説場所

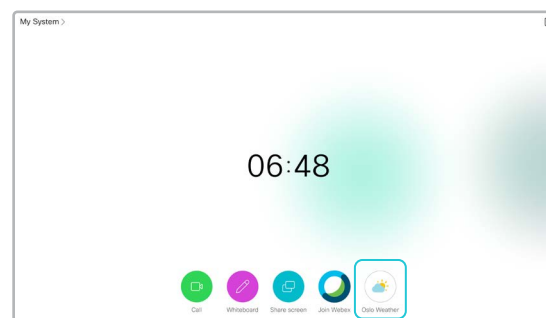
Web アプリの作成方法の詳細については、カスタマイズガイドを参照してください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Web アプリの作成

- Web インターフェイスにサインイン^{*}して、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#)を選択します。
- [Webエンジン (WebEngine)] > [モード (Mode)] を [オン (On)] に設定して、Web エンジンを有効にします。
- [\[UI 拡張エディタ \(UI Extensions Editor\)\]](#)に移動します。デバイスの Web インターフェイス上で直接エディタが開きます。
- [\[新規 \(New\)\]](#)をクリックし、Web アプリの [\[追加 \(Add\)\]](#) ボタンを選択します。
- 右側のバーに Web アプリのプロパティを入力します。
 - Id: アプリの一意識別子。
 - 名前 (Name) : ホーム画面に表示されるボタンのラベル。
 - Web アプリの URL : Web アプリの URL。
 - Web アプリアイコンの URL (オプション) : ホーム画面のボタンのアイコンです。
- 上部のバーにあるエクスポートボタン  をクリックして、設定をデバイスにアップロードします。

これで、新しい Web アプリのボタンがホーム画面に表示されます。



ラベルとアイコンを持つ Web アプリボタン

^{*} UI 拡張エディタおよびプログラミングに必要な API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN ユーザーロールを持つユーザーが必要です。

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビューベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンは、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされていません。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[リモート デバッグ \(RemoteDebugging\)\]](#)

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

[\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[HTTP\]](#) > [\[プロキシ \(Proxy\)\]](#)

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[Httpプロキシの使用 \(UseHttpProxy\)\]](#)

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web ビュー ベースの機能

API 駆動型の Web ビュー

Web ビューは、API コマンドを使用して開いたり閉じたりすることができます。インテグレータは、サードパーティ統合またはマクロを作成するときに、これらのコマンドを使用できます。インテグレータは、外部イベントに基づいて読み込む URL を決定します。たとえば、企業の重要な通知を表示できます。

Web ビューは全画面表示になっており、15 分後にタイムアウトになるか、または API コマンドをコールしてビューを閉じます。

Web ビューを開く：

- ・ `xCommand UserInterface WebView Display Url: <url>`

Web ビューを閉じる：

- ・ `xCommand UserInterface WebView Clear`

キャッシュ、Cookie、ローカル ストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

インテグレータは、API 駆動型 Web ビュー、マクロ、およびタッチコントローラのカスタムボタンを組み合わせることで、タッチスクリーンのないデバイス向けにも対話型のソリューションを作成できます。タッチコントローラのボタンをタップすると、メイン画面にさまざまな Web ビューが表示されます。たとえば、基本的なヘルプ ページを開いて参照したり、説明ビデオを表示したりできます。

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビューベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンは、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされています。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

```
[Webエンジン (WebEngine)] > [リモート  
デバッグ (RemoteDebugging)]
```

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニタされる可能性があることをユーザに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

```
[ネットワークサービス  
(NetworkServices)] > [HTTP] > [プロ  
キシ (Proxy)]
```

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

```
[Webエンジン (WebEngine)] > [Httpプロ  
キシの使用 (UseHttpProxy)]
```

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のメインのビデオ ストリームに最大 4 つの入力ソースを結合できます。

組み合わせることのできる入力ソースの最大数はデバイスによって異なります。

TV会議本体	組み合わせることができ 異なる入力ソースの 最大数
Room Kit, Room kit mini	2
Codec Plus, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Desk Pro, Desk Limited Edition	3
Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama*, Room 70 Panorama*	4

ソース構成

構成レイアウト

3 つのレイアウトから選択できます。

- ・ 同等 (Equal)
- ・ プロミネント (Prominent)
- ・ PIP (2 つの入力ソースを構成するときのみ使用可能)

PIP 位置をコーナーの一つに変更できます。PIP のサイズは通常でも大型でも可能です。

構成とレイアウトは、コールとコール外の両方でいつでも変更できます。

自画面

自画面は、遠端に送信されるのと同じ構成イメージを示します。

個別カメラ制御

API コマンド (xCommand Camera *) を使用して、個々のカメラを制御することができますが、ユーザ インターフェイス上の制御は使用できません。

ユーザ インターフェイスでカメラを選択すると、メインのビデオ ストリームが構成されたビデオ ストリームから、選択されたカメラからの単一のストリームに切り替えられます。

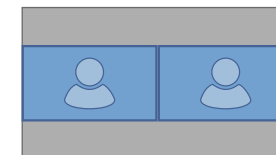
オン デマンドによる構成およびレイアウトの変更

入力ソース構成は API コマンドを使用してのみ利用可能です。専用のユーザ インターフェイスは提供されません。

構成とレイアウトをオン デマンドで簡単に変更できるようにするには、マクロを使用してカスタムのユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張機能) を作成することを推奨します。

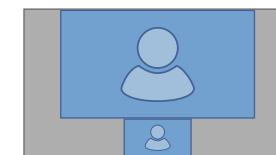
レイアウト

同等 (Equal)



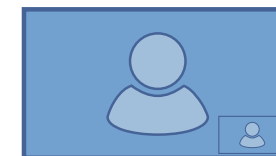
ソースの数: 2

プロミネント (Prominent)

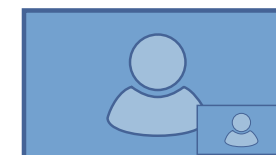


ソースの数: 2

ピクチャインピクチャ (PIP)



右下隅



右下隅、大型 PIP

* Room 70 Panorama および Room Panorama :これらのデバイスでは、メインカメラの 2 つの入力ソースを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの構成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Video Input SetMainVideoSource
ConnectorId: <1..n> SourceId: <1..m>
Layout: <Equal, PIP, Prominent>
PIPPosition <LowerLeft, LowerRight,
UpperLeft, UpperRight> PIPSize <Auto,
Large>
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、(ConnectorId) に接続されている物理コネクタか、論理ソース識別子 (SourceId) のいずれかによって識別できます。同じコマンド内で異なる識別子を混合することはできません。ConnectorId または SourceId のいずれかを使用してください。これらの識別子は、[ビデオ入力コネクタ (Video Input Connector)] および [ビデオ入力ソース (Video Input Source)] のステータスで見つけることができます。

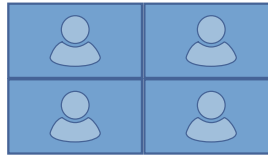
Equal と PIP、さらにプロミネント (レイアウト) の違いは、サイドバーに表示されます。

PIP 位置をコーナーの一つに変更できます。PIP のサイズは通常 (自動) でも大型でも可能です。

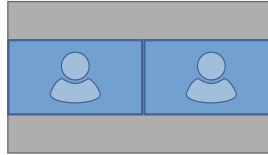
詳細については、API ガイドを参照してください。

例

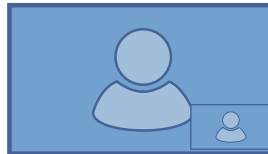
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 ConnectorId: 4 Layout: Equal
```



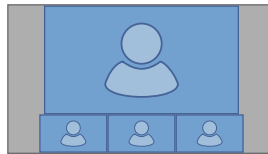
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Equal
```



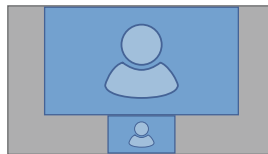
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: PIP PIPPosition: LowerRight PIPSize: Large
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 SourceId: 3 SourceId: 4 Layout: Prominent
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: Prominent
```



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プレゼンテーションソースの構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のビデオ ストリームに最大 4 つのプレゼンテーション ソースを結合できます。^{*}

組み合わせることのできるプレゼンテーション ソースの最大数はデバイスによって異なります。

TV会議本体	プレゼンテーションソースの最大組み合わせ可能数
Room Kit, Room Kit Mini, Board	2
Codec Plus, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Desk Pro, Desk Limited Edition	3
Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama [*] , Room 70 Panorama [*]	4

ケーブル (デバイスに応じて DVI、VGA、HDMI など) 経由で共有されているソースのみを共有できます。

ソース構成

構成レイアウト

2 つのレイアウトから選択できます。

- ・ 同等 (Equal)
- ・ プロミネント (Prominent)

ソースの数は、コール時と非コール時どちらであっても、いつでも変更できます。画像サイズは修正できません。

ソースが画面に表示される順序は、コマンド内の順番に従います。表示は左上から始まり、右下が最後になります。

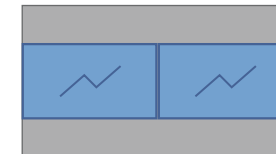
オン デマンドによる構成およびレイアウトの変更

プレゼンテーションソース構成は API コマンドを使用してのみ利用可能です。専用のユーザ インターフェイスは提供されません。

構成とレイアウトをオン デマンドで簡単に変更できるようにするには、マクロを使用してカスタムのユーザ インターフェイス パネル (UI 拡張機能) を作成することを推奨します。

レイアウト

同等 (Equal)



ソースの数: 2

プロミネント (Prominent)



ソースの数: 2

^{*} Room 70 Panorama および Room Panorama : これらのデバイスでは、メインカメラの 2 つの入力ソースを使用します。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プレゼンテーションソースの構成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Presentation Start
ConnectorId: <1..n>
PresentationSource: <None, 1..n>
Instance: <New, 1..n>
Layout: <Equal, Prominent>
SendingMode: <LocalRemote, LocalOnly>
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、接続されている物理コネクタ (ConnectorId)、または論理ソース識別子 (PresentationSource) のどちらかによって識別可能です。同じコマンド内で異なる識別子を使うことはできません。ConnectorId または PresentationSource のうち片方のみを使用してください。

これらの識別子は、[ビデオ入力コネクタ (Video Input Connector)] および [ビデオ入力ソース (Video Input Source)] のステータスで見つけることができます。

PresentationSource: None を選択すると、空のフレームが挿入されます。*

詳細については、API ガイドを参照してください。

例

```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 Layout: Equal
```



```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Prominent
```



```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 Layout: Equal
```



```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 PresentationSource: 3 Layout: Prominent
```



* Board:[なし (None)] は使用できません。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの XML ファイルへのアクセス

Web インターフェイスにサインインして、[\[開発者 API \(Developer API\)\]](#) に移動します。

XML ファイルはデバイスの API の一部です。デバイスに関する情報が階層で構成されています。

- *Configuration.xml* には現在のデバイス設定 (構成) が含まれます。これらの設定は、Web インターフェイスまたは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) から制御されます。
- *status.xml* 内の情報は、デバイスによって常に更新され、システムおよびプロセスの変更が反映されます。ステータス情報は、Web インターフェイスまたは API からモニタします。
- *Command.xml* には、デバイスにアクションの実行を指示するために使用できるコマンドの概要が含まれています。コマンドは、API から発行されます。
- *Valuespace.xml* には、デバイス設定、ステータス情報、およびコマンドのすべての値スペースの概要が含まれています。

XML ファイルを開く

XML ファイルを開くにはファイル名をクリックします。

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、デバイスの API ガイドで説明されています。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web インターフェイスからの API コマンドとコンフィギュレーションの実行

Web インターフェイスにサインインして、[\[開発者 API \(Developer API\)\]](#) に移動します。

コマンド (xCommand) および設定 (xConfiguration) は、Web インターフェイスから実行できます。構文とセマンティックの説明については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

API コマンドとコンフィギュレーションの実行

1. テキスト領域に、コマンド (xCommand または xConfiguration) またはコマンド シーケンスを入力します。
2. **[実行 (Execute)]** をクリックしてコマンドを発行します。

Execute Commands and Configurations

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

Example command:

```
xCommand Dial Number: "person@example.com" Protocol: Sip
```

Execute

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、デバイスの API ガイドで説明されています。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオの高度なカスタマイズ

Web インターフェイスにサインインして、[\[オーディオ コンソール \(Audio Console\)\]](#) に移動します。

これにより、オーディオ コンソール ユーティリティが開きます。これはデバイスの Web インターフェイスに埋め込まれています。

オーディオ コンソールは、高度にカスタマイズ可能なオーディオ機能へのグラフィカル インターフェイスを提供します。これは、簡単なドラッグアンド ドロップを使用して、オーディオの入力と出力をどのように接続するかを定義できます。

オーディオ コンソールの主な機能は次のとおりです。

- ・ コーデックの音声システムを設定
- ・ デフォルトのミキシング、ルーティング、イコライザを変更する。
- ・ さまざまな入出力コネクタのプロパティを設定する。
- ・ ローカル補強などの高度な機能を設定する。

オーディオ コンソールについて詳しくは、[カスタマイズ ガイド](#)を参照してください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

優れた聴覚動作の詳細については、▶ [「補助スピーカーと音響補正の使用」](#)の章を読むこともお勧めします。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

イーサネットポートについて

メインネットワークポート

メイン ネットワーク ポート - ネットワーク ポート 1 - は常に LAN 接続用に予約されています。これは、すべてのビデオ会議デバイスに適用されます。

ネットワーク ポート 1 は、デバイスに応じて、番号 1、ネットワーク記号 (°)、またはその両方でマークされます。

補助ポート

ビデオ会議デバイスによっては、ネットワーク ポートが複数あります。追加のポートは、カメラ、タッチコントローラ、サードパーティー製制御システムなどの周辺機器に使用できます。








このようなネットワークポートに接続されているデバイスはコーデックからローカル IP アドレスを取得するため、企業ネットワークには接続されていません。パケットは、メインネットワークポート (LAN) と補助ネットワークポート (リンク-ローカル) の間の移動はできません。

- Cisco の周辺機器には、169.254.1.41 から 169.254.1.240 の範囲 (DHCP) でのダイナミック IP アドレスが割り当てられます。
- Cisco 以外のデバイスには、ダイナミック IP アドレス (DHCP) : 169.254.1.30 を割り当てることができます。
注: Cisco 以外のデバイスでダイナミック IP アドレスを取得できるのは、一度に 1 つだけです。
- さらに、Cisco 以外のデバイスには、169.254.1.241 ~ 169.254.1.254 の範囲の静的 IP アドレスを割り当てることができます。

この方法は、SSH を使用してコーデックに接続する場合にも使用できます。このケースでは、IP アドレス 169.254.1.1 を使用できます。

パワーオーバーイーサネット (PoE)

補助ネットワークポートには Power over Ethernet (PoE) を提供するものもあります。これらのポートは、タッチコントローラなどの周辺機器に電力を供給できます。

製品	補助ネットワークポートの数	PoE 付きの補助ネットワークポートの数
Room Kit	1	0
Room Kit Mini	1	1 ()
Room 55	1	1 ()
Room 70 ¹ / Room 55 Dual ¹	2	1 ()
Room 70 G2 ¹	4	2 ( , PoE)
Room 70 Panorama ¹ / Room Panorama ¹	4	2 ( , PoE)
Codec Plus	2	1 ()
Codec Pro	4	2 ( , PoE)
Board	0	0
Desk Pro / Desk Limited Edition ²	1	0

¹ この製品の 1 つ以上の補助ポートは内部使用のために予約されています。

² この製品の補助ポートはネットワーク拡張ポートです。コンピュータやその他のデバイスをこのポートに接続して、ビデオ会議デバイスと同じネットワーク/LAN にアクセスできます。このポートは周辺機器には使用されず、コーデックからローカル IP アドレスが割り当てられることはありません。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

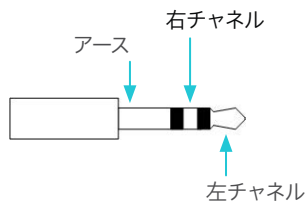
Room 70 G2

Room 70 Panorama

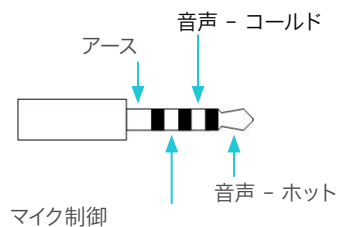
Room Panorama

ミニ端子コネクタのピン配列方法

3.5 mm ミニ端子、3 極 (ライン出力)



3.5 mm ミニ ジャック、4 極 (マイク)



オーディオコネクタ (ミニジャック) *

	マイク	出力回線
コネクタのピン配列	チップ = ホット リング 1 = コールド リング 2 = マイク制御 シールド = GND	チップ = 左チャンネル リング = 右チャンネル シールド = GND
信号タイプ	バランス	アンバランス
コネクタ (コーデック)	3.5 mm ミニジャック、4 コンダクタ	3.5 mm ミニジャック、3 コンダクタ
入力インピーダンス	900 Ohm/leg	なし
出力インピーダンス	なし	470 Ohm
最大入力レベル	-18.3 dBu ±2 dB	なし
最大出力レベル	なし	8.2 dBu ±2 dB
ファントム電源	10V ± 0.5V	なし
ファントム電源抵抗のピン「tip」	1.0 kOhm	なし
ファントム電源抵抗のピン「ring 1」	1.0 kOhm	なし
周波数応答	20Hz ~ 20kHz ±1 dB	20Hz ~ 20kHz ±1 dB
信号対雑音比	-95 dB	-100 dB

* Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition : これらのデバイスには、ライン出力専用のミニジャックソケットがあります。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

オーディオ入力と出力 (1/2 ページ)

音声入力

オーディオ入力は、各入力のゲインと出力スイッチのオン/オフを個別に調整できるため、マイクロフォンとライン入力の両方として使用できます。次の設定を使用します。

- ・ **[オーディオ (Audio)] > [入力 (Input)] > [マイク[n] (Microphone [n])] > [レベル (Level)]**: 接続されているオーディオソースに合わせて入力コネクタのゲインを調整します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。0 dB のゲインの最大入力レベルは、24 dBu です。
- ・ **[オーディオ (Audio)] > [入力 (Input)] > [マイク[n] (Microphone [n])] > [ファントム電源 (PhantomPower)]**: デフォルト設定では、入力にファントム電源 (48 V ± 1 V) が発生します。これは、Cisco table や天井マイクなど、一部のマイクに必要です。ファントム電源を必要としない機器 (外部ミキサーなど) に接続する場合は、ファントム電源をオフにできます。



オーディオ入力は、最大 4 つのポートを備えた Euroblock コネクタを使用するように設定されます。



3 つのポートを持つ Euroblock を使用する場合は、可能な限り左端の位置に挿入されていることを確認してください。つまり、ポート 4 (マイクミュート) は使用されません。

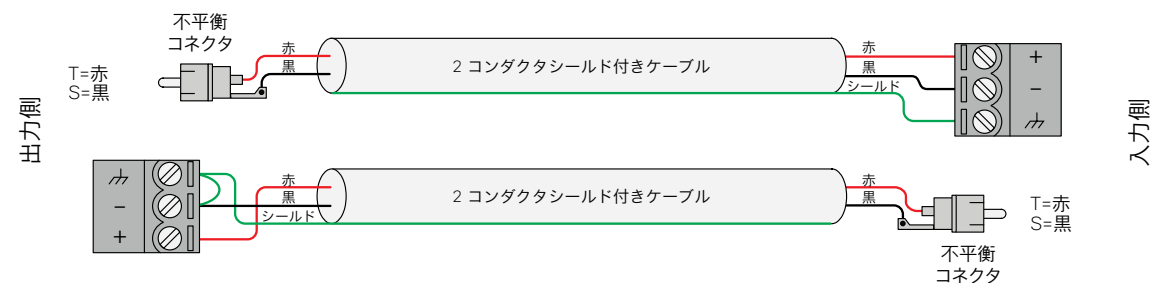
音声出力



オーディオ出力は、3 つのポートを持つ Euroblock コネクタを使用するように設定されます。

不平衡コネクタへの接続

次の図は、不平衡コネクタにビデオ会議デバイスを接続する場合のベストプラクティスを示しています。



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ入力と出力 (2/2 ページ)

オーディオ入力/出力仕様		
	マイク/回線入力	回線出力
コネクタ タイプ	<ul style="list-style-type: none"> バランス入力 3.5 mm ピッチフェニックス/Euroblock type オスヘッダー 	<ul style="list-style-type: none"> インピーダンスバランス出力 3.5 mm ピッチフェニックス/Euroblock type オスヘッダー
ファントム電源	<ul style="list-style-type: none"> 48 V, 6.8 kohm インピーダンス/7 mA 最大電流 (各脚)。 個別に切り替え可能です。 	なし
入力インピーダンス	<ul style="list-style-type: none"> 2.5 kohm (区間あたり) 	なし
出力インピーダンス	なし	<ul style="list-style-type: none"> 200 ohm (区間あたり)
推奨されるロードインピーダンス	なし	<ul style="list-style-type: none"> > 600 ohm
信号レベル。	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 入力ゲイン:24 dBu 最大値。(1 kHz, +/-1 dB) 入力ゲインは、1 dB ステップの 0 dB から + 70dB へと個別に調整可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 出力ゲイン:18 dBu max。(1 kHz, +/-1 dB) 出力ゲインは、1 dB ステップの 0 dB から + 70dB へと個別に調整可能です。
周波数応答	<ul style="list-style-type: none"> 20Hz-20kHz: +0/-1 dB 	<ul style="list-style-type: none"> 20Hz-20kHz: +0/-0.5 dB
・全高調波歪みと雑音の和 (THD+N) :	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 入力ゲイン, 22 dBu シグナルレベル: < 0.005% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz) 46 dB 入力ゲイン, -24 dBu 信号レベル: < 0.01% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz) 	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 出力ゲイン, 17 d dBu シグナルレベル: < 0.005% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz)
対応入力ノイズ (中)	<ul style="list-style-type: none"> 46 dB 入力ゲイン, Rs = 150 ohm: <-124 dBu (20 Hz-20 kHz A-重み付け) 	なし
ダイナミック レンジ	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 入力ゲイン, Rs = 150 ohm: > 107 dB (20 Hz ~ 20 kHz, 22 kHz BW) 46 dB 入力ゲイン, Rs = 150 ohm: > 102 dB (20 Hz ~ 20 kHz, 22 kHz BW) 	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 出力ゲイン: > 109 dB (20 Hz-20 kHz: 重み付けあり)
クロストーク	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 入力ゲイン, 23 dBu シグナルレベル, 10 kHz: < -110 dB 46 dB 入力ゲイン, -23 dBu 信号レベル, 10 kHz: < -110 dB 	<ul style="list-style-type: none"> 0 dB 出力ゲイン, 17 dBu シグナルレベル 10 kHz: 100 dB

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

GPIO および 3G-SDI コネクタ

GPIO コネクタ

デバイスには、GND、+12 V、および 4 GPIO ピンを備えた 6 ピンのユーロブロック GPIO (General Purpose Input/Output) ポートが 1 つあります。



4 つの GPIO のピンのモードは個別に設定できます。アクションのトリガー (入力) またはデバイスのステータスのレポート (出力) を行うようにピンを設定できます。例:

- ・ マイクをミュートする (入力)、またはマイクがミュートされているかどうかをレポートする (出力)。
- ・ コールを受け入れるか拒否する (入力)、またはデバイスがコール中かどうかをレポートする (出力)。

動作の原則

+12 V ピンは +12 V_{DC} を供給し、最大 500 mA を供給することができます。

GND ピンは、GPIO コネクタのすべてのピンにアースを提供します。

入力として使用する場合、GPIO ピンは次のように状態を検出します。

- ・ 電圧 0-1 V_{DC} を低信号
- ・ 電圧 2-12 V_{DC} を高信号

出力として使用する場合は、GPIO ピンが次のように設定されます。

- ・ 低信号ではピンは低 (GND) に設定されます
- ・ 高信号では、内部のプルアップでピンがオープンドレンに設定されます。つまり、外部接続で低くならない限り、ピンは 12 V に設定されます。

コマンドと設定

ピンのモードを設定するには:

事前定義された入力モードと出力モードの詳細については、設定の説明を参照してください。

- ・ `[GPIO] > [ピン [n] (Pin [n])] > [モード (Mode)]`
(xConfiguration GPIO Pin [n] Mode)

ピンの状態を取得するには:

- ・ `[GPIO] > [ピン [n] (Pin [n])] > [状態 (State)]`
(xStatus GPIO Pin [n] State)

手動モードのピンの状態を設定するには:

- ・ `xCommand GPIO ManualState Set`

API コマンドの詳細については、RoomOS ソフトウェアの API ガイドを参照してください。▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>

3G-SDI コネクタ

Codec Pro には、次の 1 つの 3G-SDI 入力コネクタがありません。

最大解像度は 60 fps で 1920 × 1080 です。HD-BNC: 1080p60、レベル A 10 ビットデータネイティブカラーエンコーディング 4:2:2 YCbCr、75 Ω。

コーデックから遠く離れた場所にカメラを配置する場合は、3G-SDI コネクタを使用しません (たとえば、大きな部屋で後ろにカメラを設置したい場合)。

同軸ケーブルの合計長は最大 100m であるため、ビデオ会議室の構築または設定時に柔軟性を持たせることができます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk
LE, Desk
Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

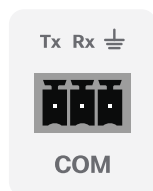
Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

COM ポートを使用した API アクセス

このデバイスには COM ポートが 1 つあり、シリアル接続を介してデバイスの API にアクセスできます。*

これは 3 ピンのユーロブロックであり、それぞれ Tx (送信)、Rx (受信)、および GND ピンとなっています。



シリアル通信はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]

セキュリティ上の理由から、シリアル インターフェイスを使用する前にサインインするように求められます。サインインプロンプトをオフにするには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)]

デバイスは大量のフィードバックを送信する可能性があるため、接続のボーレートはできるだけ高い値に保つことを推奨します。長いケーブルを使用している場合など、状況によっては、ビットエラーを回避するために低いレートの使用が求められることがあります。ボーレートを調整するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)]

デバイスが CUCM によってプロビジョニングされている場合、シリアルポートの設定は CUCM から構成する必要があります。

シリアル接続のパラメータは次のとおりです。

- ・ ボーレート: 9600、19200、38400、57600、または 115200 bps
- ・ データ ビット: 8
- ・ パリティ: なし
- ・ ストップビット: 1
- ・ フロー制御: なし

マイクロ USB メンテナンスポートには、ボーレートを除いて同じ設定とパラメータのセットが使用されます。メンテナンスポートのボーレートは常に 115200 bps になります。

* COM ポートはメンテナンス用途に使用しないでください。代わりにマイクロ USB ポートを使用してください。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

メンテナンス用のシリアル インターフェイス (1/4 ページ)

デバイスとの直接通信には、マイクロ USB コネクタを使用します¹。マイクロ USB to USB ケーブルが必要です。コンピュータにシリアル ポート ドライバが自動的にインストールされない場合は、手でシリアル ポート ドライバをインストールする必要があります²。

シリアルインターフェイスに接続するには、ターミナルエミュレータを使用します。最も一般的なコンピュータ タイプ (PC、MAC) およびオペレーティング システムでは、PuTTY または Tera Term は機能します。

パラメータ:

- ・ ボー レート: 115200 bps
- ・ データ ビット: 8
- ・ パリティ: なし
- ・ ストップ ビット: 1
- ・ ハードウェア フロー制御: オフ

デバイスの設定

シリアル通信はデフォルトでイネーブルになっています。動作を変更するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]

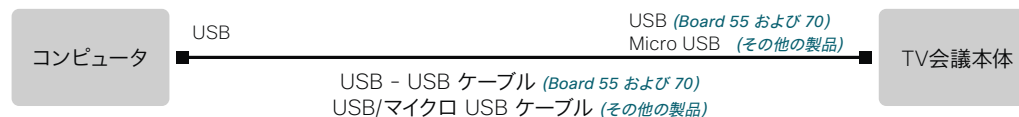
セキュリティ上の理由から、シリアル インターフェイスを使用する前にサインインするように求められます。動作を変更するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)]

デバイスが CUCM によってプロビジョニングされている場合、シリアルポートの設定は CUCM から構成する必要があります。

Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, および Room Panorama

- ・ [シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)] 設定は、メンテナンスポートには影響しません。メンテナンスポートでは、常にデフォルトのボーレートが使用されます。



i 次のページの図を参照して、異なる製品のマイクロ USB メンテナンスポートを確認してください。

Webex Board 55S, 70S, および 85S:

1. USB ケーブルをコンピュータからボードのマイクロ USB ポートに接続します。

コンピュータに USB - シリアルポートデバイスが 2 つ表示されます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では通常、カメラが /dev/ttyUSB0、メインが /dev/ttyUSB1 になります。

これらのポートは、2 つの CPU のネイティブシリアルインターフェイス (UART) に接続されています。ブートローダからのログを含む、システムからこのポートに印刷されたすべてのものを表示します。

2. 起動完了後にサインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報でログインします。カメラ CPU ではなく、メイン CPU にしかログインできません。

サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

ボードが工場出荷時設定にリセットされている場合は、admin と空のパスワードでサインインします。

Webex Board 55 および 70:

1. USB ケーブルをコンピュータからボードの USB-A ポートに接続します。Webex Board 55 では、パネルに最も近い USB ポートを使用してください。

2. ボードの電源を入れます。コンピュータに仮想シリアルポートが表示されます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では、通常は /dev/ttyACM0 になります。

注: コンピュータを接続する前にボードの電源を入れた場合、コンピュータでボードを認識することはできません。

3. サインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報を使用してログインします。サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

ボードが工場出荷時設定にリセットされている場合は、admin と空のパスワードでサインインします。

¹ マイクロ USB ポートはメンテナンス用途で使います。シリアル接続を通してデバイスの API にアクセスする場合は、詳細について API ガイドを参照してください。

² CP210x USB - UART ブリッジ仮想 COM ポート (VCP) ドライバが必要です。▶ <http://www.silabs.com/products/development-tools/software/usb-to-uart-bridge-vcp-drivers> を参照してください。

Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

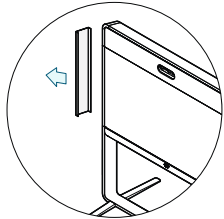
Room 70 G2

Room 70 Panorama

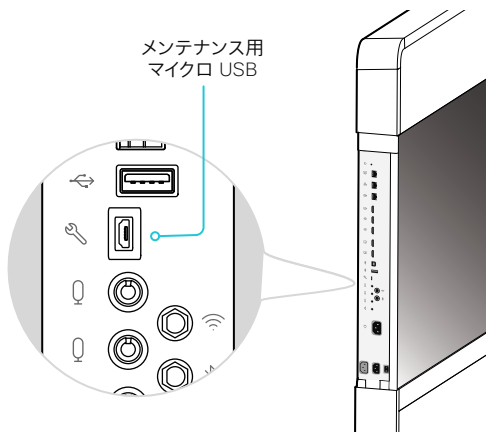
Room Panorama

メンテナンス用のシリアルインターフェイス (2/4 ページ)

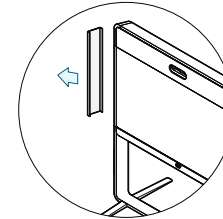
Room 55 Dual および Room 70



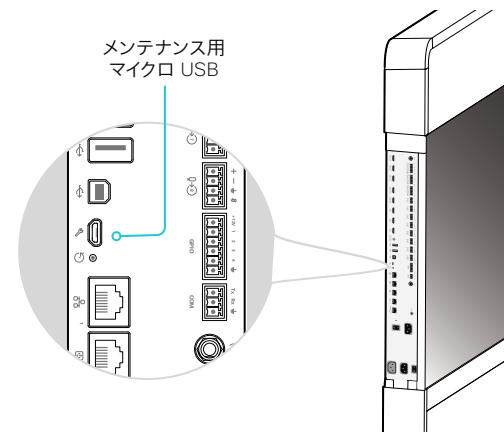
デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Board

Codec Plus

Codec Pro

Desk LE, Desk Pro

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual

Room 70

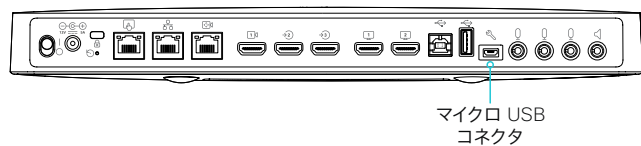
Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

メンテナンス用のシリアルインターフェイス (3/4 ページ)

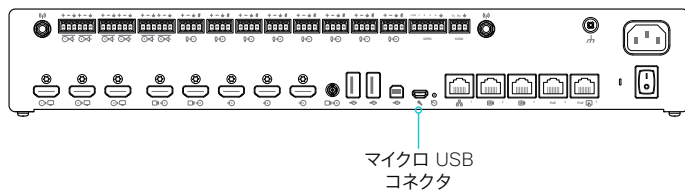
Codec Plus



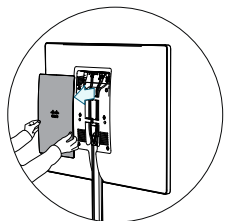
Codec Pro および Room Panorama

Room Panorama の場合:

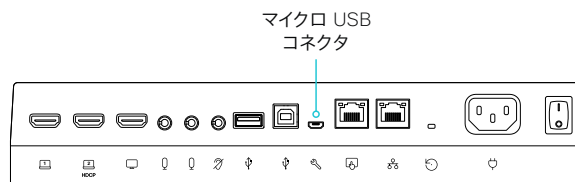
- デコグリルの下部にある持ち手を使用し、左側のモニタを引き下げてコーナーデッキにアクセスします。



Room 55

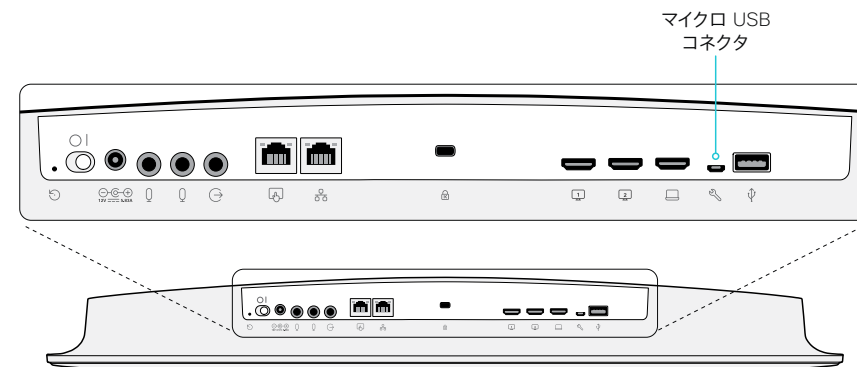


コネクタ パネルを利用するには、背面カバーを取り外します。



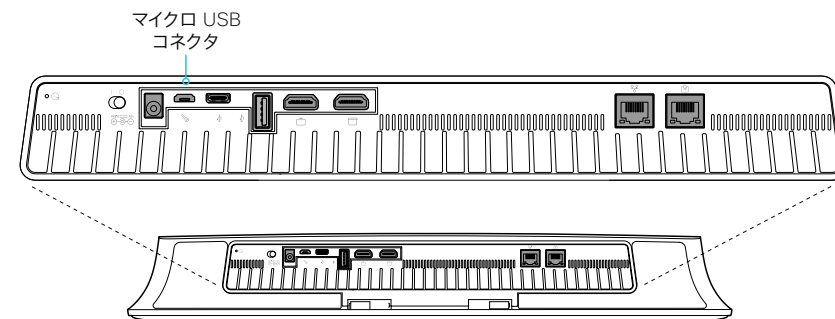
Room Kit

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



Room Kit Mini

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



Board

Codec
Plus

Codec
Pro

Desk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2

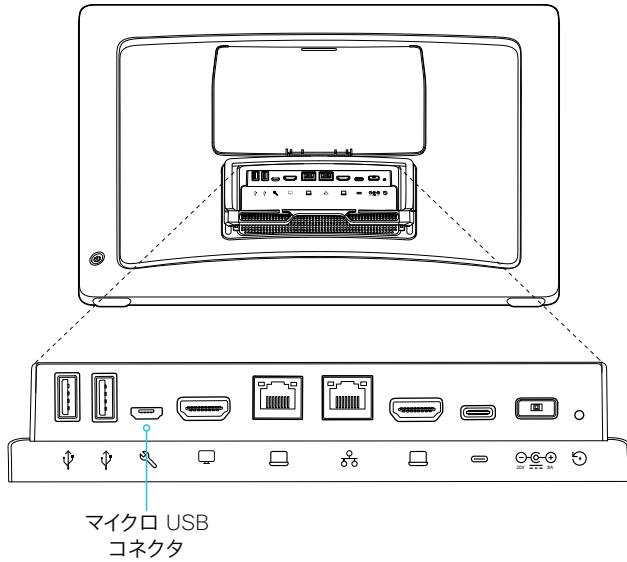
Room 70
Panorama

Room
Panorama

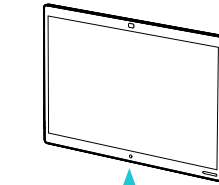
メンテナンス用のシリアルインターフェイス (4/4 ページ)

Desk Pro および Desk Limited Edition

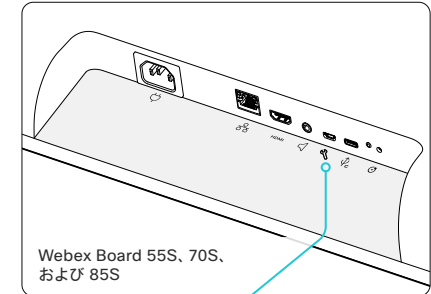
デバイスの背面のカバーをひっくり返して、コネクタパネルにアクセスします。



Webex Board

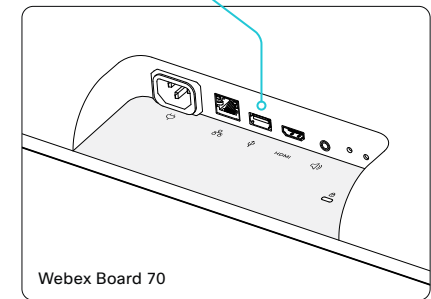
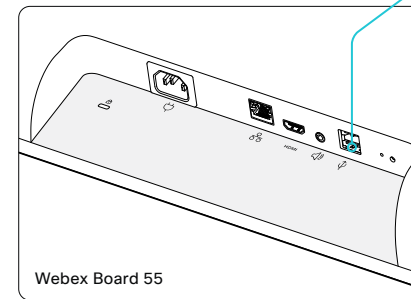


コネクタパネルは下部背面に
あります。



マイクロ USB コネクタ

USB コネクタ



Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

TCP ポートの開放

コーデック内の Web サーバでは、非セキュアまたは不必要なポート、プロトコル、モジュール、またはサービスの使用が禁止または制限されています。いくつかのポートはデフォルトで開放されています。

デバイスの Web インターフェイスからデバイスの設定を構成できます。Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力して、サインインします。[[設定 \(Settings\)](#)] に移動し、[[設定 \(Configurations\)](#)] を選択します。

TCP 22:SSH

SSH モード設定を [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

```
NetworkServices SSH Mode: Off/On
```

TCP 80:HTTP

HTTP モードを [オフ (Off)] にするか、[HTTPS (HTTPS)] にすることで、ポートを閉じることができます。

```
NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS/HTTPS/Off
```

TCP 443:HTTP

HTTP モード設定を [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

```
NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS/HTTPS/Off
```

TCP 4043:リモート ペアリング ソフトウェアのダウンロード

適用対象: Desk Pro および Desk Limited Edition を除くすべての製品

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On
```

TCP 4045:リモート ペアリング バージョン情報

適用対象: Desk Pro および Desk Limited Edition を除くすべての製品

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On
```

TCP 4047:リモート ペアリング セッション接続

適用対象: Desk Pro および Desk Limited Edition を除くすべての製品

このポートは、Touch パネルがビデオ会議デバイスとリモート ペアリングされている場合にのみ使用可能 (オープン) です。タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On
```

TCP 4051:リモートペアリングポート (廃止)

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On
```

TCP 4062:リモートペアリングポート

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

```
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On
```

TCP 4190:UPnP ポート

SIP リッスン ポートを [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

```
NetworkServices UPnP Mode: Off
```

TCP 5060/5061:SIP リッスン ポート

SIP リッスンポートはデフォルトで開放されています。SIP リッスン ポートは、Cisco UCM (Unified Communication Manager) によって無効にされています。SIP リッスン ポートを [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

```
SIP ListenPort: Off/On
```

TCP 65533:プロキシミティ接続用代替ポート

このポートはデフォルトで閉じられています。プロキシミティで代替ポートを有効にする設定を True にすると、このポートがプロキシミティ接続用に開放されます。

```
Proximity AlternatePort Enabled: False/True
```

エフェメラル IP ポート

エフェメラル IP ポート範囲: 32768 ~ 60999

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

TMS からの HTTPFeedback アドレス

デバイスが Cisco TelePresence Management Suite (TMS) に追加されると、TMS に情報 (イベント) を送り返すように自動的に設定されます。デバイスは、TMS からそれらのイベントに送信されるアドレス (HTTPFeedback アドレス) を受けとります。このアドレスが存在しないか、または正しく設定されていない場合、デバイスは TMS にイベントを送信できません。

失われたイベントへの応答

イベントへの応答がデバイスで受信されない場合、デバイスは最大 6 回、間隔を増やしながらか HTTPFeedback アドレスに送信を再試行します。

再試行してもデバイスで応答が受信されない場合、エンドポイントは 10 分ごとに HTTPFeedback アドレスにメッセージの送信を試行します。HTTPFeedback ステータスには失敗したことが示され、障害のタイプを示す診断メッセージが表示されます。

メッセージの再送を試みる際、TMS での通話詳細記録 (CDR) の紛失が生じます。

TMS からの新しい HTTPFeedback アドレスの取得

イベントを送信するための新しいアドレスを取得するには、デバイスを再起動して、TMS から (スケジュール設定または TMS 管理者によるトリガーで) 次の管理アドレスがプッシュされるのを待つ必要があります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オンプレミス登録デバイスの Cisco Webex Edge for Devices へのリンク

Webex Edge for Devices を使用すると、オンプレミス登録のデバイスを Webex クラウドサービスにリンクできます。これにより、登録、デバイスの設定管理、通話¹、メディアサービスはオンプレミスのままで、特定のクラウド機能にアクセスできるようになります。Webex Control Hub でクラウドサービスを管理したり、デバイスの診断を受けたりできます。

設定

最初にデバイスをオンプレミスサービスに登録してから、Webex Edge にリンクすることをお勧めします。デバイスを Webex Edge for Devices にリンクする方法については、Webex ヘルプセンターで ▶ [Webex Edge for Devices \(https://help.webex.com/cy2l2z/\)](https://help.webex.com/cy2l2z/) に関する記事を参照してください。

機能

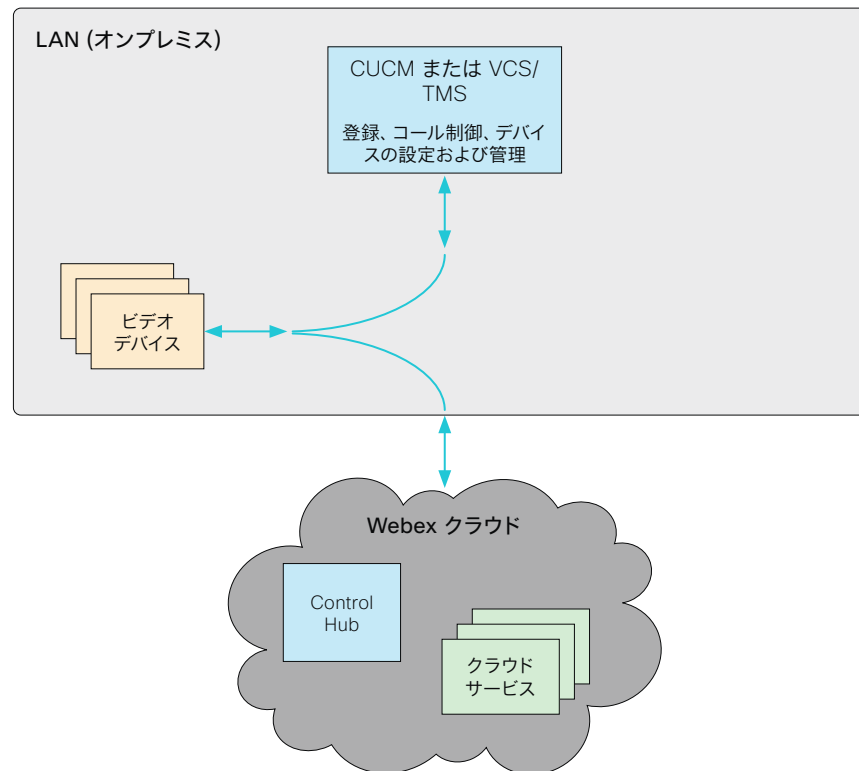
Webex Edge for Devices には次の機能があります。

- Control Hub でのオンライン/オフライン接続ステータス
- 管理者アラートの設定に対応したデバイス診断
- デバイスの履歴分析を Control Hub で直接使用可能
- Control Hub からのデバイス設定へのアクセス
- クラウド xAPI アクセス
- Webex コールに参加する場合のリアルタイムメディアメトリック
- Control Hub からのログの管理
- Control Hub によるハイブリッド予定表²
- Webex Assistant (音声駆動型の仮想アシスタント)

前述の Webex Edge for Devices の記事には、使用できる機能と制限事項の最新の一覧が含まれています。

前提条件

- RoomOS または CE ソフトウェアの暗号化バージョン
- CUCM バージョン 12.5su1、または最新のデバイスパックを適用した 11.5.x
- Control Hub の管理者アクセス権
- Cisco Webex Device Connector (Webex Edge へのリンクを設定するため)
- クラウド サービス ライセンス(シスコ コラボレーション フレックス プラン)



¹ Webex Meetings へのコールに Webex クラウドサービスを使用するようにデバイスを設定できます。詳細については、Webex ヘルプセンターで ▶ [Webex Edge for Devices 用のネイティブ Webex Meetings \(https://help.webex.com/c31fqg/\)](https://help.webex.com/c31fqg/) に関する記事を参照してください。

² TMS ベースの予約は無視されます。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Webex Cloud サービスへのデバイスの登録

画面上のセットアップ アシスタントを使用する代わりに、Web インターフェイスからリモートで Cisco Webex にデバイスを登録できます。

Web インターフェイスから登録できるのは、現在サービスに登録されていないデバイスのみです。

注: このデバイス用に作成されたローカル ユーザとカスタマイズは、すべて非アクティブ化されます。

アクティベーションコードの作成

Cisco Webex にデバイスを登録するには、アクティベーションコードが必要です。

共有モードのデバイス:

管理者は Control Hub 上でアクティベーションコードを作成する必要があります。

共有モードのデバイス用のアクティベーションコードを作成する方法については、▶[Cisco Webex ルームデバイスまたは Cisco Webex Board 用のワークスペースの作成とサービスの追加](#) (<https://help.webex.com/1mqb9cb/>) に関する記事を参照してください。

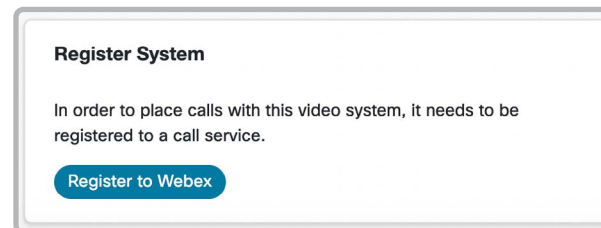
パーソナルモードのデバイス:

[Cisco Webex Settings \(https://settings.webex.com/\)](https://settings.webex.com/) から、管理者でなくてもアクティベーションコードを取得できます。

パーソナルモードでデバイス用のアクティベーションコードを作成する方法については、▶[Webex Board、Room または Desk Device のパーソナルデバイスとしての設定](#) (<https://help.webex.com/n3alqtv/>) に関する記事を参照してください。

1. Web インターフェイスにサインインして、[\[ホーム \(Home\)\]](#) に移動します。[\[システムの登録 \(Register System\)\]](#) カードを見つけます。

このカードは、デバイスがサービスにまだ登録されていない場合のみ使用できます。



2. [\[Webex に登録 \(Register to Webex\)\]](#) をクリックします。
3. ポップアップが表示され、アクティベーションコードを入力できます。
形式:
 - xxxx-xxxx-xxxx-xxxx、または
 - xxxxxxxxxxxxxxxxx
4. 登録後に、画面上のセットアップ アシスタントからタイム ゾーンと言語を設定する必要があります。ウィザードがタイムアウトした場合は、デフォルトの設定が適用されます。

制限

利用可能な設定の一部は、オンプレミスの登録済みデバイスにのみ適用されます。これらは、Webex に登録されているデバイスには適用されません。API ガイドの「サポートされているコマンド マトリックス」では、これらの項目は「オンプレミスのみ」とマークされています。

適用されない設定はすべて、H.323、H.320、SIP、NTP、CUCM、LDAP、Proximity、および相手先カメラ制御に関連するものです。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

サポートされている RFC

RFC (Request For Comments) シリーズには、Internet Engineering Task Force (IETF) によって作成される技術仕様およびポリシー文書など、インターネットに関する技術および組織のドキュメントが含まれます。

RoomOS ソフトウェアは、以下を含む RFC の範囲をサポートしていません。

- RFC 2782 『DNS RR for specifying the location of services (DNS SRV)』
- RFC 3261 SIP 『Session Initiation Protocol』
- RFC 3263 『Locating SIP Servers』
- RFC 3361 『DHCP Option for SIP Servers』
- RFC 3550 RTP 『RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications』
- RFC 3711 『The Secure Real-time Transport Protocol (SRTP)』
- RFC 4091 『The Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics for the Session Description Protocol (SDP) Grouping Framework』
- RFC 4092 『Usage of the Session Description Protocol (SDP) Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4582 『The Binary Floor Control Protocol』
draft-ietf-bfcpbis-rfc4582bis-00 『Revision of the Binary Floor Control Protocol (BFCP) for use over an unreliable transport』
- RFC 4733 『RTP Payload for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals』
- RFC 5245 『Interactive Connectivity Establishment (ICE)』 : A Protocol for Network Address Translator (NAT) Traversal for Offer/Answer Protocols
- RFC 5321 Simple Mail Transfer Protocol (*Board, Desk Pro, および Desk Limited Edition*)
- RFC 5589 『SIP Call Control Transfer』
- RFC 5766 『Traversal Using Relays around NAT (TURN)』
: Relay Extensions to Session Traversal Utilities for NAT (STUN)
- RFC 5905 『Network Time Protocol Version 4: Protocol and Algorithms Specification』

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最小帯域幅の計算

最小帯域幅の要件は、技術仕様で指定されています。デュアルストリームを使用する場合、使用可能な帯域幅は 2 つのストリームに分割されます。

デュアルストリームで希望の解像度の最小帯域幅を計算するには、その解像度の最小ビットレート (bps) を 2 倍します (720p30 など)。

たとえば、解像度 720p30 に対して最低 768 kbps の帯域幅がある場合、デュアルストリームの最小帯域幅は 768×2 、または 1536 kbps になります。

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

シスコ Web サイト内のユーザ マニュアル

次の短いリンクを使用して、RoomOS ソフトウェアを実行する製品シリーズのマニュアルを検索します。

Room シリーズ:

▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>

Desk シリーズ:

▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>

Board:

▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>

通常、すべてのシスココラボレーションエンドポイントのユーザマニュアルは ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints> で参照できます。

マニュアルは以下のカテゴリに整理されています。一部のマニュアルはすべての製品で利用できません。

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド

- ・ *インストール ガイド*: 製品のインストール方法
- ・ *スタートアップ ガイド*: デバイスを動作させるために必要な初期設定
- ・ *RCSI ガイド*: 法規制の遵守および安全に関する情報

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

- ・ *スタートアップ ガイド*: デバイスを動作させるために必要な初期設定
- ・ *管理者ガイド*: 製品の管理に必要な情報
- ・ *スペア部品の概要、スペア部品の交換ガイド、ケーブル スキーマ*: スペア部品を交換するときに役立つ情報

保守と運用 > エンドユーザ ガイド

- ・ *ユーザ ガイド*: 製品の使用方法
- ・ *クイック リファレンス ガイド*: 製品の使用方法

リファレンス ガイド > コマンド リファレンス

- ・ *API リファレンス ガイド*: Application Programmer Interface (API) のリファレンス ガイド

リファレンス ガイド > テクニカル リファレンス

- ・ *CAD 図面*: 測定値付き 2D CAD 図面

設定 > 設定ガイド

- ・ *カスタマイズガイド*: ユーザインターフェイスのカスタマイズ方法、デバイスの API を使用した室内制御のプログラミング方法、マクロの作成方法、オーディオコンソールを使用した高度な音声セットアップの設定方法などのカスタマイズ。機能によっては、一部のタイプの製品で使用できない場合があります。

設計 > 設計ガイド

- ・ *ビデオ会議室に関するガイドライン*: 会議室の設計とベストプラクティスに関する一般的なガイドライン
- ・ *ビデオ会議室のガイドライン*: 音質を向上させるための対策

ソフトウェア ダウンロード、リリースと一般情報 > リリース ノート

- ・ *ソフトウェア リリース ノート*

Board

Codec
PlusCodec
ProDesk LE,
Desk Pro

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual

Room 70

Room 70
G2Room 70
PanoramaRoom
Panorama

シスコのお問い合わせ先

シスコの Web サイトでは、シスコの世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

参照先: ▶ <https://www.cisco.com/go/offices>

本社
Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Dr.
San Jose, CA 95134 USA

知的財産

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、この参照により本書に組み込まれるものとします。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。全著作権所有。著作権©1981、カリフォルニア大学理事會。

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (https://www.cisco.com/c/ja_jp/about/contact-cisco.html) をご覧ください。

Cisco および Cisco のロゴは、米国およびその他の国における Cisco およびその関連会社の商標を示します。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。本書に記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)

Cisco 製品のセキュリティの概要

この製品には、輸入、輸出、譲渡、使用を規制する米国またはその他の国の法律の対象となる暗号化機能が含まれています。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザーは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意したものとみなされます。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、<http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm> で参照できます。